全国の"道の駅"完全制覇の旅
[北陸編]



よしだやすお

シリーズの紹介

★☆★　シリーズのご紹介　★☆★

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [東北編]　2011/01/23出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [四国編]　2011/02/07出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北海道編]　2011/03/03出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [中国編]　2011/03/25出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [近畿編]　2011/06/14出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北陸編]　2011/11/29出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [九州編]　2011/9/27出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・前編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・後編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東前編］　2014/1/7出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東後編］　2014/8/26出版

※中部と関東は、アップできる容量を越えた為、前編、後編の２冊に分割しました。

【ブログ】

「全国の“道の駅”完全制覇の夢！」　http://ameblo.jp/rs-trip/

【ホームページ】

～新しい旅のスタイル～

「全国の“道の駅”完全制覇を目指す旅！」　http://www.rs-trip.com

勧進帳のまち！“こまつ木場潟”

今日から新しいシリーズ “石川・富山の旅” を開始します。
３６か所の道の駅を回り、その間に少しだけ観光もしたので、このシリーズ長くなりそうです！
飽きずにお付き合い下さい！(^_^;)

小松空港に到着して最初に向かうのは
道の駅こまつ木場潟　です。



今回４泊５日の旅ですが、初日のコースはご覧の通り能登半島をひたすら北上し、１０か所の道の駅をまわって輪島に宿泊します。
一部、ぐにゅっとコースが外れているのは、曜日により店休日がある為です。

福岡空港を８時ちょうどに飛び立ち、小松空港にはほぼ定刻通り９時１０分には到着しました。
トヨタレンタカーで車を借りる時、「５日間って随分長いですね！山ですか？」と尋ねられたので、「いや、道の駅です」と答えたら、怪訝な顔をされてしまいました。(;^_^A



今回の相棒も “ヴィッツ” です。
最初に向かう “道の駅こまつ木場潟（きばがた）” は、昨年（2010年）４月２２日にオープンしたばかりの新しい道の駅で、小松空港から距離にしてわずか８km、１５分で到着しました。




道の駅
MICHINO-EKI
KOMATSU
KIBAGATA
こまつ木場潟



６月下旬の梅雨の真っただ中ですから、（速報）でもお伝えしたとおり５日間とも予報は “雨”
ただ、初日だけは “曇りのち雨” だったのですが、この青空、ご覧ください！

福岡を飛び立つときは雨が降っていましたから、小松空港で青空を見たときには驚きました。
しかも、暑い！
強い日差しと熱気で汗が流れ落ちます。
後で知ったのですが、この日は全国的に異常に気温が上がったのですね。



道の駅は純和風で、この大屋根は “小松瓦” を使っているのだそうです。
この道の駅の所在地は勿論 “小松市” ですが、このすぐ近くに “木場潟公園” があり、そこから道の駅の名前はついています。

“潟” というのは、沿岸州などによって海と切り離されてできた湖や沼のことをいいます。
石川県には元々５つの潟があったのですが、ほとんど干拓され、自然のままで残っているのはこの “木場潟” だけだそうです。
アシやガマなど水辺の植物が群生する湿地の中を自然と触れ合える散策コースがここには整備されています。





そしてもうひとつ “ショライ山” というのがあり、この道の駅の裏がその散策路の昇り口になっていました。



道の駅はこのような配置になっています。


道の駅
こまつ木場潟



正面を入るとすぐにスタンプ台がありました。
まだ１年しか経たないのに、いろんなところにスタンプを押している不届き者がいますね。
こういうマナーが悪いから嫌われてしまうんです！ヽ(`Д´)ノ



スタンプ台の横にはこんな、のどかな農村風景が作ってありました。



入って右側が “味処四季彩”
左が “旬菜市場じのもんや” です。





ここは “JA小松市” が指定管理者として運営していますから、生鮮野菜など商品が豊富です。



ところで、小松市は “歌舞伎のまち” ともいわれ、市のマスコットがこれです。

実は小松市には、勧進帳で有名な “安宅の関” があるのです。
その関係で古くから歌舞伎が盛んなまちなのです。

“勧進帳” ってなんだっけ、といわれる方もおられると思うのでちょっと解説！
知っている人は読み飛ばしてね！

源平壇ノ浦の合戦で平家を滅ぼした源義経は、生来の猜疑心からこれを退けようとする兄頼朝に追われ奥州平泉の藤原氏の元へ落ちのびようとしました。頼朝はこれを捕らえようと各地に関所を設けます。
当、安宅の関守は冨樫左右衛門泰家。そして文治３年（１１８７年）３月頃、山伏姿に変装した義経弁慶以下主従が安宅の関にさしかかります。一行の山伏姿を関守冨樫に疑われると、東大寺復興勧進のため諸国を廻る役僧と称し、何もか書かれていない勧進

帳（寄付帳）を読み上げ、難を逃れようとしました。
しかし再び強力姿（荷人夫）の義経が疑いをかけられると、弁慶はすかさず金剛杖を持って主義経を打ち据えます。冨樫は弁慶の忠誠心に心をうたれ、義経一行だと気付きながらも関の通行を許したのでした。

この道の駅、小松空港に最も近いので、最終日の日曜にも時間調整の為に立ち寄りました。
やはり平日と休日の違いでしょうか、家族連れなどのすごい人出に驚きました。



恋人の聖地！“内灘サンセットパーク”

初日の２か所目は
道の駅内灘サンセットパーク　へ向かいました。



こまつ木場潟の道の駅から国道８号に乗り、金沢市街をちょっと過ぎたあたりに内灘はあります。
でもここへ到着するまで、道の駅の標識を一度も見かけませんでした。





結局、道の駅の目の前にあったのは、普通の道路標識の横に間借りしている小さな 「道の駅前」 という文字だけ！
もしかすると、他の道路を通っていればあったかもしれませんね！

これでは証拠にならないので、バス停（？）の看板を写しておきますね！(;^_^A





ここはとても景色の良いところです。
右手に大きな斜張橋が見えますが、これが “サンセットブリッジ内灘” です。

道の駅の裏側に回ると、この橋が目の前で素晴らしい眺望です。







上の地図でお分かりかと思いますが、ここ “河北郡内灘町” には “河北潟” があります。
写真で川のように見えるのは、この河北潟と日本海を結ぶ “河北潟放水路” で、これは河北潟の干拓によって作られた幅１１０ｍの人工の河川です。

干拓によって河北潟の面積が３分の１になったので、その水を日本海に直接流すために作られたのだそうです。

この放水路によって南北に分断された内灘町をつなぐのが、この “サンセットブリッジ内灘” なのです。
そしてこの橋は、夜になるとライトアップされ、時刻や季節によってその色が変わります。



日本海と河北潟を望む高台にあるこの場所は、県内１、２を争う景勝地といわれ、２００９年４月には “恋人の聖地” としての認定を受けました。

元々この場所は“サンセットブリッジ内灘” の展望駐車場として作られ、お店などもできてきたのですが、これが２００７年７月に道の駅として登録されたものです。







玄関をはいると、そこには物産販売とテイクアウトコーナーがありました。
スタンプが見当たらないので尋ねてみると、裏の建物ですよ！と教えてくれました。

裏にもう一つ入り口があり、そこは軽食コーナーになっています。



軽食コーナーの一番奥に、スタンプは置いてありました。



外のテラスにこのようなテーブルとイスが並んでいますから、ここでサンセットブリッジの雄大な姿を眺めながら食事をするのも良いかもしれません。

ちなみに、空が澄んでいればここから立山連峰と白山連峰が見えます。
“立山連峰” は男性的で “トトの山” といわれ、これが “富山” の語源になり、“白山連峰” は女性的で “カカの山” と呼ばれたため、“加賀のくに” の語源になったのだそうです。


道の駅
Uchinada Town
Sunset Park
内灘サンセットパーク

火牛の計！“倶利伽羅 源平の郷”

日本海沿いにあった内灘の道の駅を出て、一旦内陸部に向かい
道の駅倶利伽羅 源平の郷（くりから げんぺいのさと）　へ到着しました。



一旦海岸線を外れるのは後半のルートを考えて、今日行っておいた方が効率的だったからです。





歴史国道に指定されているここ “北陸道” は、古代から都に通じる道であり、また江戸時代には加賀藩１００万石の参勤交代の道として整備されてきました。

この道筋にある石川と富山の県境の “倶利伽羅峠（くりからとうげ）” が当駅の名前の由来なのですが、平安末期に源氏と平家が歴史的な合戦をした古戦場でもあります。

１１８３年に木曽義仲率いる源氏軍と平維盛率いる平家軍の戦いは、“火牛の計” を用いた木曽義仲軍の圧勝に終わり、これが平家の衰退に繋がってゆきます。

この “火牛の計” とは、数百頭の牛の角に松明（たいまつ）を括りつけ、平家の陣営に放ち、大混乱を起こさせて戦いを有利に導いた、というものです。



これにちなみ、道の駅の正面ロビーには、こんなでっかい、松明を括りつけた牛の像があります。

でも、“火牛の計” というのは元々中国戦国時代の斉国の武将・田単が用いた古事であり、中国の場合は角には刀を括りつけ、松明は尻尾に結び付けたのだそうです。
そうすると牛は尻尾の火に驚いて敵方に突進し、角に括りつけた刀で敵の将兵を死傷させるという結果になります。

牛の角に火があれば、牛はその場で暴れだし、敵方に突進するはずがない、というのが合理的な判断だそうで、木曽義仲の “火牛の計” は本当に行われたか怪しい、という説があります。

歴史はロマンですから、そんなことはどうでも良いですね！(^▽^)





ここ “河北郡津幡町” では、この木曽義仲の火牛の計を大河ドラマに採用してもらおうと、誘致推進を行っているのだそうです。（＾ー＾）

さて、話が前後しましたが、道の駅の全景はこのようになっています。







ここはとにかく広いのです。
大きな芝生の広場の周りにたくさんの建物があって、一体どうなっているのか最初は把握できませんでした。



大きく分けると、地域振興施設である “倶利伽羅塾” と、国道沿いにある “情報棟・休憩棟” に分かれています。

最初に私たちが行ったのは “倶利伽羅塾” の方です。





手前に食事処の “源平茶屋” があり、その先に倶利伽羅塾の正面玄関があります。



ここが物産館になっており、道の駅スタンプもありました。
そして更にここには、研修施設、宿泊施設があります。



お分かりでしょうか？フロントがあって、その先が研修室、会議室、浴場、宿泊施設になっています。
ですから、むしろ宿泊・研修施設がメインとなった道の駅といえると思います。

そしてもうひとつ、国道８号に面した方が “情報棟・休憩棟” です。







情報棟の方へは、この “回廊” を通ってゆきますが、途中にステージがあり、この広い芝生広場でいろんなイベントが行われるのだろうと思います。



情報棟・休憩棟はこのように広い空間があり、歴史を紹介するさまざまなものがありました。


奉納
木曾義仲
ゆかり
お手をふれないで
ください。


休
だんご
源平だんご


戦略のみち
上映時間 3分

いつか大河ドラマに採用されれば、この地域、一気に脚光を浴びることになりそうですね！



能登有料道路のＳＡ！“高松”

次は再び日本海側に出て
道の駅高松　に向かいました。



“能登有料道路” は金沢を起点として能登半島を北上し、能登空港近くの “穴水ＩＣ” までを結ぶ、全長８２．９ｋｍの有料道路です。
石川県道路公社が管理しており、地方道路公社が運営する有料道路としては日本最長なのだそうです。

そしてこの道の駅高松は、その有料道路沿いにあるのです。





そしてここも道の駅の案内看板がありません。
だから今度も別の “証拠写真” を置いておきます。(^_^;)





この道の駅、元々能登有料道路のサービスエリアとして、昭和６０年（１９８５年）にオープンしました。
それが平成５年になって、石川県の２番目の道の駅として認定されたのですが、案内看板がないのは、元々道の駅として作られたのではないからかもしれませんね！



サービスエリアですから、このように細長い敷地になっています。
そして、道の駅の真裏は日本海です。



道の駅の裏には、海辺に沿ってこのような遊歩道も整備されています。



入り口にも “高松レストハウス” って書いてありますね。



店内もこじんまりしていますが、この裏側がレストランです。



レストランからは日本海の海原が一望できますから、特に天気の良いときであれば、ドライバーの休憩、食事には最適のオアシスなのでしょう。

私たちは、テイクアウトのコーナーで気になるのがあったので、これを買って海の見えるテーブルで頂きました。



“究極のかれいぱん” なのです！
それに、定番のポテトスティックも！



でも正直な感想を言わせて貰うと、この “かれいぱん” ちょっと油っこすぎます。
まあ、人それぞれの好みかな？

この日、予想外の青空が続いていたのですが、この頃から空模様が怪しくなってきました。
そして食事を済ませて外に出ると、それを待っていたかのように激しく降り出しました。

びしょ濡れになって車に走り込んだのですが、走り出してしばらくすると嘘のように雨はあがって・・・。

ちょっとだけ待てばよかったと後悔しました。(´__｀。)



アクアパーク！“ころ柿の里 しか”

能登半島を更に北上し、
道の駅ころ柿の里 しか へやってきました。







この道の駅の名前の通り、“羽咋郡志賀町（はくいぐん しかまち）”の特産は“ころ柿”です。
“ころ柿”とは、干し柿のことですが、むかし農家の庭先で皮を剥いた渋柿を、全体に日に当たるようにころころと転がして干したことが語源だそうです。

干し柿を“あんぽ柿”という地方もありますね。
一般的には白い粉をふいたものがころ柿、粉をふかず柔らかく干したものがあんぽ柿というそうです。



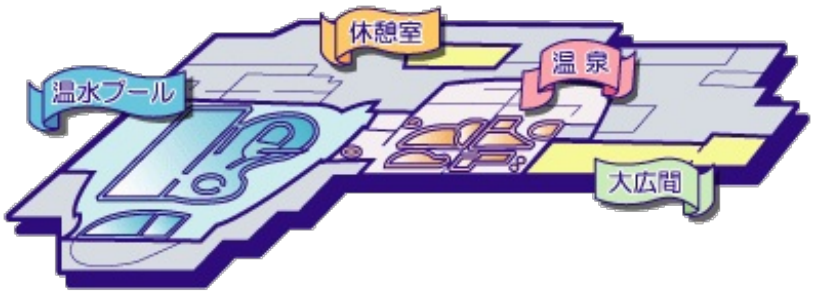
この道の駅も全体としてはかなり大きく感じます。



全体の配置を確認しましょう。
左上に “農産物直売所「旬菜館」” があり、その隣が “地域の文化館” そして一番広い部分は “アクアパーク　シ・オン” と言います。



“アクアパーク　シ・オン” は温泉、レストラン、休憩所、それに温水プールまでを備えた地域の総合交流施設です。

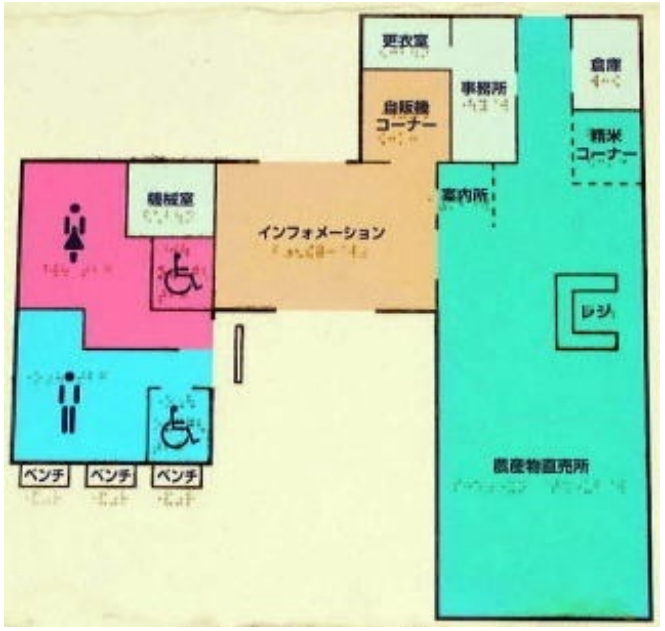


（HPより借用）

上の写真は、図面の右側から写したもので、奥にぐんと長いわけですね。



こちらが、“農産物直売所「旬菜館」” です。





休憩所（インフォメーション）の方には、何もありません。
“旬菜館” へはいってみます。





もちろん“ころ柿”もあったし、ころ柿を使ったこんな加工食品も並んでいました。
私たちはここでは買わなかったけど、他の道の駅で干し柿を加工したお菓子を土産に買いました。

ここでちょっと珍しいものを発見！



“豆すいか” と書いてある！
直径数センチのスイカと、ミニトマトの寄せ植えです！

でも、、説明に “スイカは観賞用です” って書いてあるから、これ以上大きくはならないのかな？



そしてその隣にある丸い屋根が “地域の文化館” です。



でもここは玄関が閉まっていました。
第３火曜日でもないのにな～？？

玄関は閉まっていましたが、裏に回ってみると・・・・・・・



おお、足湯がある！



手で触ってみるとちょっとぬるめでした。
誰もいないので入ってゆきたいが、まだまだ沢山道の駅が残っていますからね・・・。（ｉДｉ）

諦めて次へ向かうことにしました。


能登半島 志賀町
道の駅 ころ柿の里しか

漁師の波止場！“能登食祭市場”

ここから通常のコースを一旦大きく外れて
道の駅能登食祭市場　へ向かいました。



普通、能登半島を一周する場合、西側の海岸線に沿って北上し、輪島、珠洲を回って今度は東海岸線沿いを南下すると思います。

今回、大きくコースを外れるのは、東海岸線にある “道の駅いおり” が木曜休館の為です。
水曜日の今日行かないといけないので、途中にある “道の駅能登食祭市場” にも立ち寄ることにしたものです。




食彩市場





ここは実に大きな建物です。
元々 “七尾フィッシャーマンズ・ワーフ” という施設だったのですが、これを含むこの一帯を “七尾マリンパーク” といいます。



ご覧のように海岸線にそって広大な臨海公園になっており、道の駅のすぐ裏には、湾内をクルージングする遊覧船の船着場があります。





これが公園付近の写真です。
その広さと景色の良さがお分かりかと思います。

“フィッシャーマンズ・ワーフ” というのは、直訳すると “漁師の波止場” という意味です。
ここ “七尾市” には、天然の良港として古くから栄えてきた能登最大の漁港・七尾港があるのです。





さて、正面玄関に戻りましょう。
入り口で、まず目につくのがこれです。>



日本一の “七輪” です。（笑）

一般家庭で七輪を使うことはほとんどなくなりましたが、ここ能登半島は七輪の名産地でもあるのです。
材料となる質の良い珪藻土が無尽蔵にとれるのが理由の一つですが、他の道の駅にもあったので、その時にあらためてレポートしましょう。



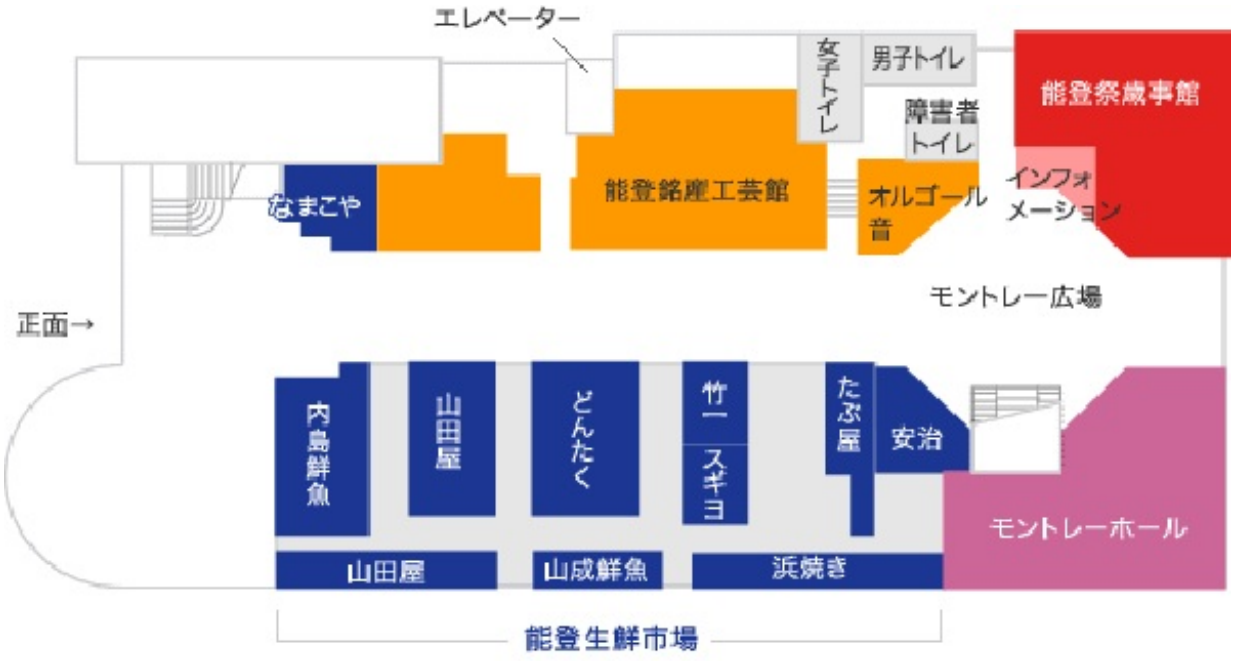

能登名産 自家製
もみいか
丸干しいか





この店内、私はつい興奮してしまいます。
正に、魚介類の宝庫です。

レンタカーで来ている私たちは生ものを買うわけにもゆきませんが、お魚さんたちを見て回るだけでも楽しいものです。



1階のフロアマップ（HPより借用）



２階のフロアマップ（HPより借用）

ご覧のようにここは２階建てで、１階がこのような生鮮市場、そして２階がレストラン街になっています。

１階のもう少し奥へ行くと 吹き抜けになった “モントレー広場” があります。
モントレーはアメリカ・カリフォルニア州にある港町ですが、１９９３年、モントレーフィッシャーマンズワーフと七尾フィッシャーマンズ・ワーフは姉妹提携をしています。





この広場に飾ってあるこれは、毎年８月第一土曜日に開催される石崎奉燈祭で練り歩く、キリコ（奉燈）という、能登に古くから伝わる独特のみこしです。
大きいのは高さが１５mにもなるそうです。

この横に “能登祭歳時館” という部屋がありました。





ここには、その勇壮な祭りが再現されていました。
ここは、今回の道の駅巡りの中でも、特に好きな場所の一つになりました。


能登
食祭市場
道の駅

海水浴場のある！“いおり”

能登食祭市場をでて、東側海岸沿いに氷見方面へ南下すると
道の駅いおり　があります。



ここは明日木曜日が店休日であり、その為に大きくコースを外れて遠回りしたのです。





標識にも “庵（いおり）海水浴場駐車場” と書いてある通り、道を挟んだ浜辺が海水浴場であり、夏場は特に賑わうことでしょう！
。



ここは、“いいＰＡＲK七尾” という広い公園の一角なのです。

そして天気の良い日であれば、ここから海の向こうに標高３０００ｍ級の立山連峰の姿を見渡すことができます。
海越しに３０００ｍ級の高峰を見渡せるのは世界に３か所だけなのだそうで、今日の曇り空が恨まれました。





駐車場にくるまを停めると、この建物がありました。



ここには食料品や土産物が並んでいましたが、道の駅スタンプは見当たりません。
店員さんに尋ねると、「ここは直売所ですよ！道の駅はあっちです」 と、別の建物を教えてくれました。

この建物は、“灘わくわく市場” という直売所だったのです。



実は駐車場の奥にもうひとつの建物があるのは気が付いていたのですが、てっきりトイレかと思っていました。（汗）



確かに横から見てみると、奥に長いんですね！


道の駅・いおり
サービスステーション
いおり



結構長いスロープを進んだ先に “レストラン” がありました。



建物の奥の円形の部分が、このようにレストランになっています。
入り口に入ったすぐのところに簡単なパンフレット類を並べたコーナーがあって、スタンプはそこに置いてありました。

ここは “海鮮レストラン「いおり」” といいます。
天気の良い日に、窓越しに海の向こうの立山連山を眺めながら食事ができれば、さぞ楽しいだろうと思いました。


能登半島国定公園
邏浦海岸
道の駅
いおり
石川県七尾市

世界一長いベンチ！“とぎ海街道”

明日が定休日の 「道の駅いおり」 を回ったので、再び能登半島西側海岸に戻って
道の駅とぎ海街道（うみかいどう） へやってきました。



ここが本日の８か所目の道の駅で、あと残りは２か所になりました。
ここへの到着時刻は１６時１６分ですから、何とか予定通り回れそうです。





ここの地名は “富来町” と書いて「とぎまち」 と読みます。
もっとも、これは旧町名で合併後は “志賀町富来領家町” に変わっています。

この地は奈良時代から平安時代にかけては “渤海国” との交流の玄関口であり、江戸時代には北前船の寄港地として栄えてきました。

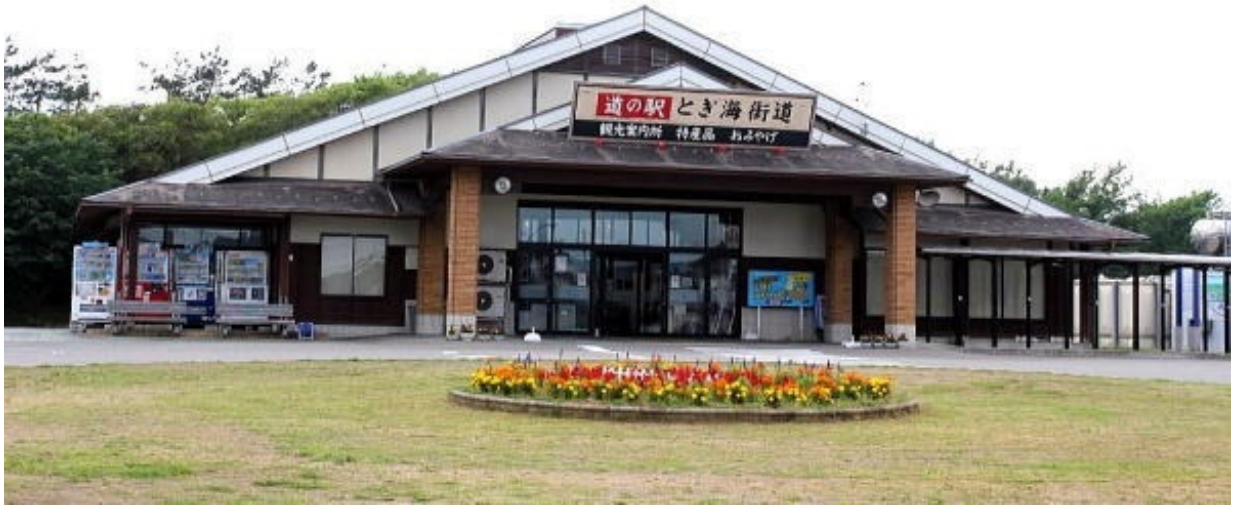
“渤海国” というのは、現在の朝鮮半島北部から満州、ロシアにかけての沿岸部にあった古代王朝国家で、高句麗の民族によって建国されました。



（ＨＰより借用）

渤海国は隣国である日本と交友を求め、お互いに使節を派遣しあうなど２００年に亘って親善を深めました。

このように海を介して人、物、情報が行き交い、海の恵みによって栄えてきた歴史があることから、“とぎ海街道” という名前が付けられたのだそうです。



これが道の駅の建物です。
でも、周りにもいろんな建物が見えます。



右側にピラミッド型の屋根が見えます。
これは “シーサイドヴィラ渤海” といって、温泉、宿泊、レストランなどの総合施設です。

ここにも “渤海” という名前が使われていますね。
そして、この付近一帯の配置はこのようになっています。



一帯を “なぎさ回遊公園” といいますが、道の駅はこの案内板の一番左にある、小さな部分でしかありません。

日本海に面した部分を “増穂浦海岸” といいます。
恵まれた自然が朝鮮半島の金剛海岸に匹敵することから、“能登金剛” とも呼ばれています。



さて、早速道の駅に入ってみましょう。





中はとても広いのですが、平日のこの時間、あまり人影がありません。
さて、ここにはもう一つ大きな見どころがあるのです。



それがギネスブックにも載った “世界一長いベンチ” なのです。
この道の駅の裏側に回ると、こんな石段があります。





この石段を上るとそこは土手になっていて、その先が“増穂浦海岸” になります。



土手の向こうに海岸が見えますね。
そしてその土手にあるのが、ベンチです。









なにせ４６０．９ｍですから、先端まで見えません！
座り心地は・・・・・まあまあですな～

そしてもうひとつ、石段を上ってきてベンチに差し掛かるところに建っているのが、これです。





若い人はあんまり知らないかな？
"岸壁の母" の舞台は京都の舞鶴港ですが、モデルになったお母さんの生家がここ富来町なのです！

これも戦争が生んだ悲劇のひとつですね。

色々見所のある道の駅だったけど、人影の少ないのはちょっと寂しい気がしました。



灯台のレンズ！“赤神”

世界一長いベンチを離れ、次に向かったのは
道の駅赤神　です。



能登半島のこの海岸線、荒々しい景色がちょうど北海道の積丹半島に似ています。







様々な形をした奇岩を見かけますが、日本海の荒波が造形したのでしょう。



この赤神海岸の岩石はいずれも赤みがかっていて、夕陽にあたると茜色に輝いて感動的な絶景になるのだそうです。
“赤神” という地名は、もしかするとここからついたのかもしれません。







ここは “輪島市門前町赤神” の地名の通り、約７００年前に開創された曹洞宗の大本山 「總持寺」 の門前町です。
そしてこの道の駅の建物は、その “總持寺祖院” をイメージしているのだそうです。



ご覧の通り、ここはシンプルな道の駅です。
最初の写真の建物が “特産物販売所” ですが、他にトイレと休憩所の建物があるだけです。



こちらが、休憩所とトイレの建物で、似た形をしていますが屋根瓦が違いますね。
珍しい屋根瓦なのでアップしてみました。



どういう種類の瓦なのか残念ながらわかりませんが、この瓦の突起物は冬場の豪雪が滑り落ちるのを防ぐのかな～？
ご存知の方があれば教えて下さい。





販売所の方に入ってみました。
まず目に飛び込んできたのは　・・・・・



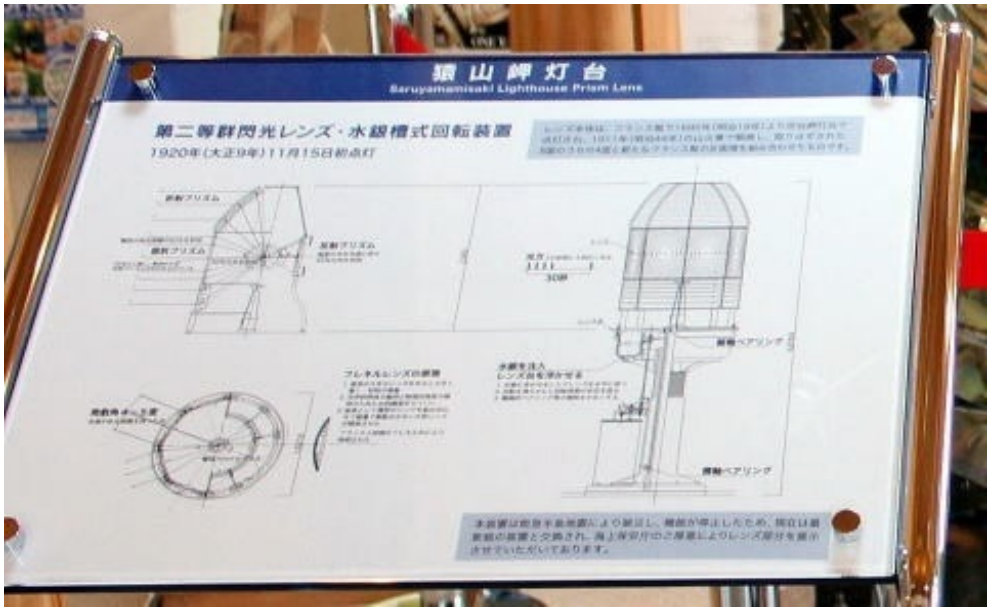
実はここ、あとで気がつきましたが、こんな看板もありました。



販売所の売り場の中心部にでんと備え付けてあったのは、この “猿山岬灯台のレンズ” だったのです。
店内にお客は誰もおらず、そろそろ閉店時間なので売上金の集計をしていたスタッフのおばさんが手を休めて説明してくれました。

それによると、猿山岬灯台で実際に使われていたレンズなのですが、２００７年３月の能登沖地震で破損した為に取り換えられて、海上保安庁の好意によりここに展示されているのだそうです。





初点灯は１９２０年（大正９年）と書いてあります。

おばさんの勧めでレンズの中を覗いてみると、発光部分はごく小さいのです。
それがこの巨大なレンズによって、はるか彼方を航海する船に光を送ってきたのですね。



“猿山岬” というのは、ここから海を隔てたこの部分です。
写真では分かりませんが、おばさんに教えられて目を凝らすと、この先端部分に白い灯台が見えました。
現在は最新鋭設備の無人灯台となって海の安全を守っています。



道の駅からの位置関係は地図で見るとこのようになります。
そしてこの “猿山岬” は、“奥能登最後の秘境” といわれる場所です。
現在は輪島市の花にも指定されている “雪割草” の日本有数の群生地でもあります。

おばさんは自嘲気味に 「ここは、寂れてしまってなんにも無いところだからね・・・」 とおっしゃっていました。
そして 「ヤセの断崖」 は見てきましたか？と尋ねられました。

そういえばここへ来る途中、そんな看板を見かけたような・・・・。
「ヤセの断崖」 は、まさに断崖絶壁らしいのですが、松本清張原作の映画 “ゼロの焦点” のロケ地にもなった場所です。
ちなみに断崖絶壁を覗くと、恐ろしくて痩せる思いがするのでこの名前がついたそうで・・・・。（笑）

引き返して見てみたい気はしましたが、この時点で既に１７時２０分、最後の輪島の道の駅までまだ３０ｋｍ弱あるので、先を急ぐことにしました。


道の駅
赤神
大木山
(経塚)
總持寺祖院

御陣乗太鼓のまち！“輪島”

初日の１０か所目、最後に訪れたのは
道の駅輪島　です。





最後の道の駅へ到着したのが、１８時ジャストです。
ここは１９時まで開いていますから、十分に間に合います。

このように到着時間や出発時間をきちんと書けるのは、嫁が時間と走行距離の記録係だからです。（笑）
ちなみにこういった旅行を計画する場合、私が大まかなコースを決めて、パソコンのソフトを使って道の駅間の距離と所要時間を

はじき出します。
それを厳重にチェックする役目が嫁です。（汗）

嫁は道の駅の滞在時間も想定して到着時間などをシミュレーションし、ここは１７時閉館だから間に合わない・・・・などと鋭い指摘があります。
そうすると私がまた、最初からルートを組みなおす羽目になるのです。(´__｀。)

二人とも “O型” なんだけど、何度も失敗したからこの時だけは 「几帳面」 に変身するのです。（笑）







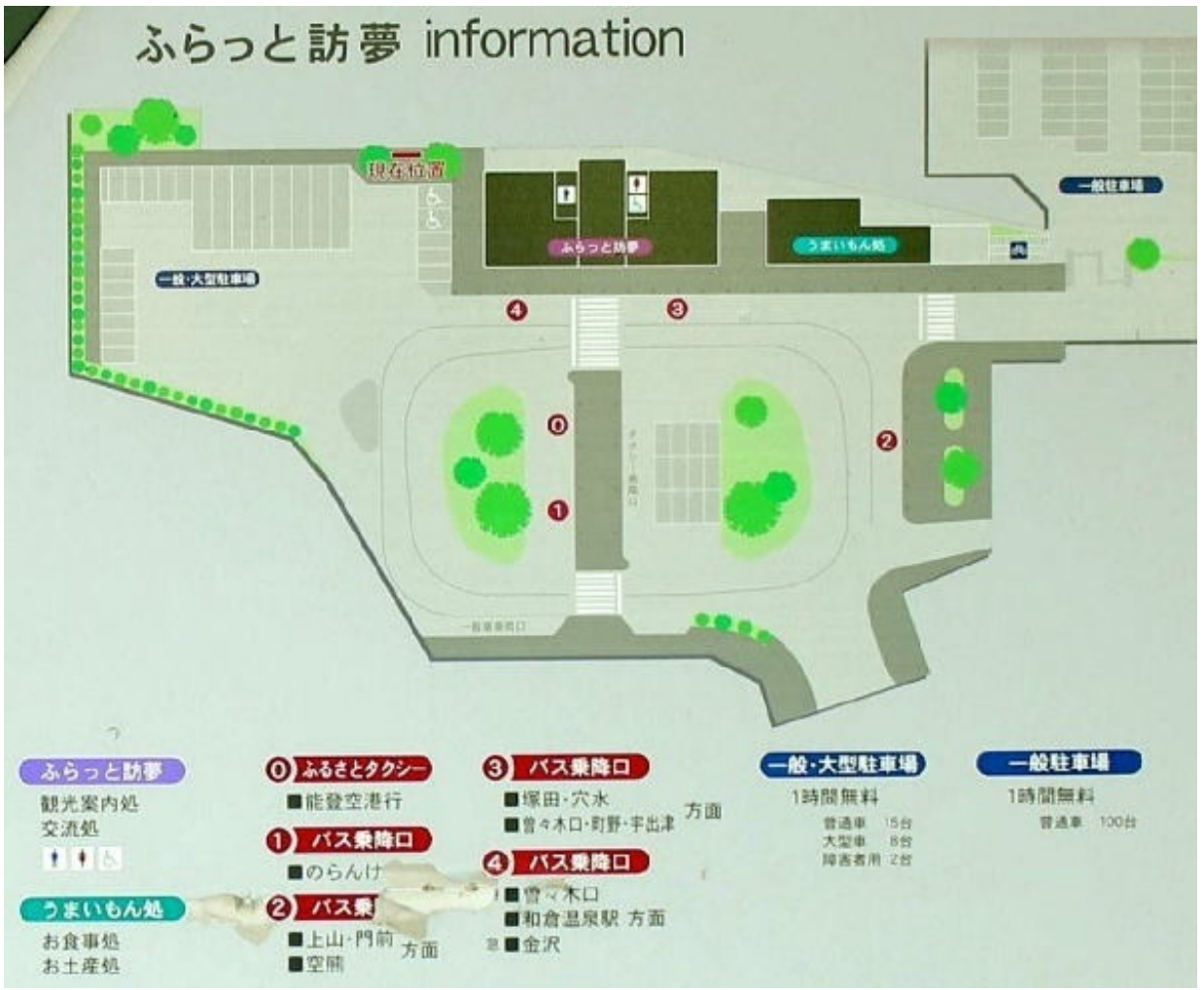


ここは平成１３年に「穴水　-　輪島間」の鉄道が廃止されたのに伴い、その跡地を使って作られた施設です。
鉄道駅に代わる輪島の玄関口としての交通ターミナル“ふらっと訪夢”を中心として、翌平成１４年に道の駅に登録されました。

“ふらっと訪夢”とはもちろん鉄道の「プラットホーム」を意味するもので、「ふらりと訪れて夢を見つける」という願いが込められています。



そしてここには、元の鉄道のホームが一部残してあるのですが、その駅名標識がこれ！
なるほど、能登半島の先端からまっすぐ進んだらシベリアですよね！
これは、現役時代の “終着駅” の時からの表示だそうです。



全体の配置はこのようになりますが、左の建物が “ふらっと訪夢” で、右側は “うまいもん処” です。





“ふらっと訪夢” は、バスの切符売り場、待合所、そして観光案内処からなっています。





この “観光案内処（輪島駅観光センター）” が道の駅なのですが、全然道の駅のイメージはありません。

中にはいると観光パンフレットがたくさん並んでいて、観光案内のカウンターの中では、男性の職員の方が何やら電話の対応に追われていました。

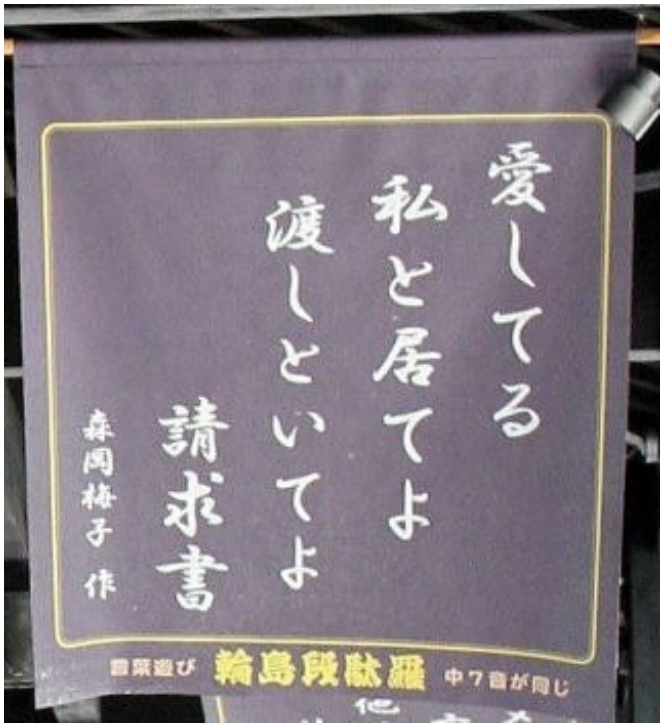




道の駅の登録証があって、道の駅マグネットを売っていたから道の駅とわかる程度です。
でも、ここのマグネットはなにかデザインが違うような・・・・。

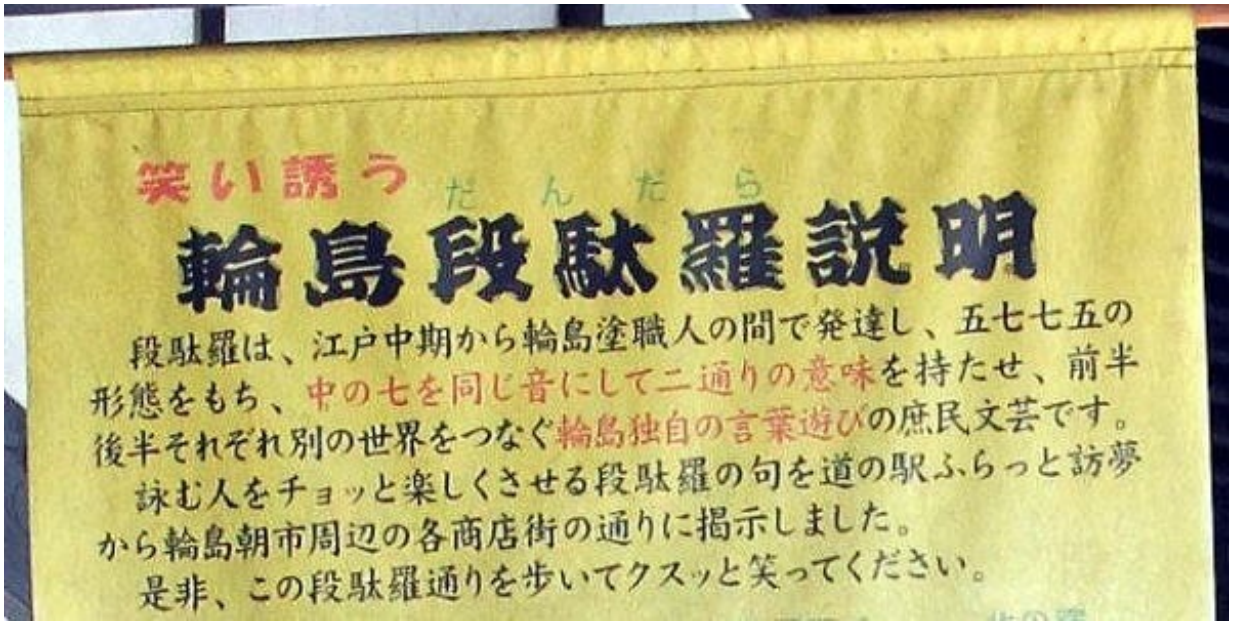


となりの “うまいもん処” へは、こんな通路を通ってゆきます。
上から垂れ幕のようなのがいくつも下がっていますね。





これはこの輪島に昔から伝わる “段駄羅” という言葉遊びだそうで、普通の俳句や川柳と違って “五・七・七・五” で作られます。まん中の 七・七 の部分が、ワープロの変換間違いのように、同じ読みの違う意味の言葉が入れられ、思わず笑いを誘います。





“うまかもん処” はレストラン街なのですが、この時間、ほとんど閉まっていました。

さて、輪島といえば思い浮かべるのは “輪島塗” “輪島の朝市” などですね。



輪島の朝市はここから車で３分ほどの “朝市通り” がメイン会場ですが、この翌朝はかなりの雨だったので開かれていたのかどうかわかりません。

そしてもう一つ有名なのがこれです。



この “御陣乗太鼓” は、１５７６年に上杉謙信が能登を攻めに来た時に、武器を持たない村の人々が、木の皮の面、海草の髪をつけて夜陰に乗じて陣太鼓を打ち鳴らして敵を追い返したというのが始まりだそうです。

そして “御陣乗太鼓” の実演は、このふらっと訪夢で無料で行われます。
ただ、６月の場合は土日の夜8：30～8：50だけです。

私は和太鼓の演奏を聞くのがことのほか好きなので、実物を見れず残念に思いました。

こうして初日最後の道の駅を離れ、今夜の宿泊ホテルに向かいます。



道の駅からわずか３kmしか離れていない 「輪島温泉 八汐」 が今夜の宿です。
老舗のホテルのようですが、私たちには普段のビジネスホテルのほうがかえって落ち着くような気がしました。



日本の原風景！“千枚田ポケットパーク”

２日目になりました。

輪島のホテルを出て最初に向かったのが
道の駅千枚田ポケットパーク　です。



２日目のルートはご覧のように、能登半島の先端をぐるっと回り、今度は半島の東海岸を南下して、富山市内で宿泊する計画です。

千枚田ポケットパークの位置をもう少し詳しく見てみましょう。





輪島のホテルを出たのが朝８時１０分、わずか２０分で到着です。

この日ホテルを出るときは小雨程度だったのですが、途中から激しく降ってきました。
それも、道の駅へ到着した途端に降りやみ、うっすらと明るくなってきました。

でも、少し高い位置にある為かすごい強風で、あやうく帽子が飛ばされそうになりました。



到着時間は８：３０、ここの開店時間も８：３０なのですが、この通りしっかり閉まっています。
しばらく付近を散策することにしました。





付近はちょっとした公園になっていて端が展望台になっています。
右端に小さな小屋があるのがわかりますか？

誰もいないと思っていたら、この小屋の中に座っていたおばあさんに声をかけられ、びっくりしました。



おばあさんはここで、手作りの土産を売っていました。
その素朴さに惹かれて、つい買ってしまいました。





左は背負子ですね。
右は、おばあさんがおまけにくれたものです。

そして、公園の先端の展望台に行って驚きました。
その眼下に見えたのがこの絶景です。







先程までの激しい雨が嘘のように、この時お日様がこの棚田を照らしてくれました。

これこそが能登を代表する絶景ポイントの一つである“白米（しろよね）千枚田”なのです。
平成１３年に「国指定文化財名勝」に指定されたこの棚田は、日本海に落ち込む高洲山山裾の急斜面に作られています。

この棚田、全部で“１００４枚”あるのですが、１枚当たりの面積が全国一小さく、平均面積でわずか５．４坪しかありません。
従って機械を使うことが困難なために、いまだにほとんどが手作業なのです。
そしてこの地域もやはり高齢化と後継者不足で、地元農家だけでの維持が困難になってきました。

そこで、この美しい日本の原風景とも言うべき棚田を後世に残すために取り組んでいるのが、ボランティアによる“白米千枚田オーナー制度”です。

年会費２万円を支払ってオーナーになって頂いた方と、地元の有志（白米千枚田愛耕会）、JAや市役所のボランティアなど多くの方々の力で、この棚田での米作りが続けられています。

四季折々に表情を変えるこの見事な景観を、いつまでも守っていって欲しいと心から思います。



道の駅へ戻ると、ちょうどスタッフの方たちが開店の準備をされている最中でした。
自販機の前に、大きな木製の棚のようなのが見えると思いますが、この裏側に道の駅スタンプは置いてありました。

お店の中にもちょっと入ってみましたが、準備の邪魔になりそうだったので写真は撮っていません。





なんとか開店準備が終わったようです。
道の駅自体は小さいですが、実に見ごたえのある絶景に出会いました。



塩造りの伝承！“すず塩田村”

千枚田の棚田をあとにして次に向かったのは
道の駅すず塩田村　です。



この付近、もう少し詳しく見てみましょう。



この能登半島の先端部分が “珠洲市（すずし）” です。
珠洲市には、ここ 「すず塩田村」 の他に、これから行く 「狼煙」 「すずなり」 という３か所の道の駅があります。
三方を海に囲まれ、いくつもの観光スポットに恵まれた場所でもあります。

千枚田ポケットパークから海岸線沿いに１４ｋｍの距離ですが、途中こんなものがありました。





岩のまん中にぽっかりと穴が開いていますね。
これを “窓岩” といいます。



先程の道の駅も “ポケットパーク” でしたが、この能登の先端付近、他にもいくつものポケットパークが点在していました。





この “すず塩田村” も海沿いにあり、駐車場から “仁江（にえ）海岸・千畳敷” へ下りてゆくことができます。



この看板のとおり、ごつごつとした岩で足を怪我しそうな気がしますね。





まだ新しいきれいな建物です。
「塩の資料館」 と書いてあります。

能登では江戸時代以前から “揚げ浜式” による製塩が行われ、今日に至るまで４００年以上営々と続けられてきました。

“揚げ浜式” というのは、塩田まで海水を汲み上げることからそう呼ばれます。
汲み上げた海水を塩田の砂にふりまいて太陽と風の力で乾かし、次に塩分を含んだ砂を集めて、海水をかけて塩分の濃い 「かん水」 を作ります。
それを釜で長時間煮詰めることで柔らかい風味のお塩ができるのです。

揚げ浜塩を作りあげる職人を浜士と呼びますが、浜士には 「潮撒き１０年」 「旨味の追求は永遠」という言葉があるように、熟練した職人の技が伝統として受け継がれてきたのです。



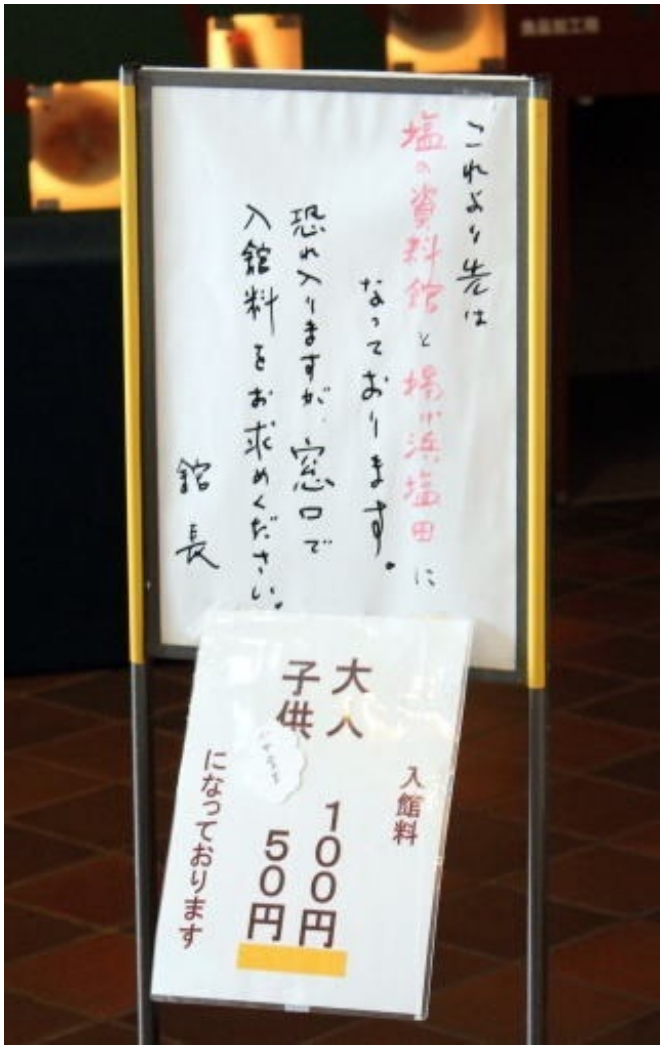
ご覧の通り道の駅の横には “体験塩田” があり、初めての人でも自分だけのオリジナルな塩づくりに挑戦することができます。







道の駅の中はさすがに塩製品が大半です。
そして入り口から右手は、その歴史や文化を紹介する 「塩の資料館」 で、ここは有料でした。



この道の駅にいる間は青空も見えていたのですが、この日はとにかく風が強かったのです。
どのくらい強かったかというと　・・・・・・・・・



道の駅と道路の間にガードレールがあり、そこに一定の間隔で黄色い 「塩田村」 と書いた金属製の看板が取り付けられています。（右端に見えますね！）

その一つが　・・・・・・・



風で折れて吹き飛ばされ、道路の向こう側に転がっていました！（笑）



能登半島最先端！“狼煙”

次は能登半島の最先端にある
道の駅狼煙（のろし）　です。







道の駅狼煙は昨年（２０１０年）４月にオープンしました。

地図でお分かりかと思いますが、能登半島の最先端に位置します。
道の駅から遊歩道を１０分ほど歩くと芝生広場があり、その先端に “禄剛埼(ろっこうざき)灯台” があります。

海抜４６ｍの断崖の上からは１８０度のパノラマで、遠く佐渡から立山連峰までの眺望が楽しめるそうですが、この日はあいにくの天気なので、断念しました。





この標識も灯台をイメージしているのでしょうね！
ここが半島の先端ですから、国道はここからぐるりと右にカーブしています。





建物は新しく、外のテラスにも椅子やテーブルが並んで休憩できます。
まわりの集落は素朴な漁村のイメージがあります。



平日の朝早い時間だからでしょうが、私たちの他にお客は無く、広い駐車場はがらんとしていました。

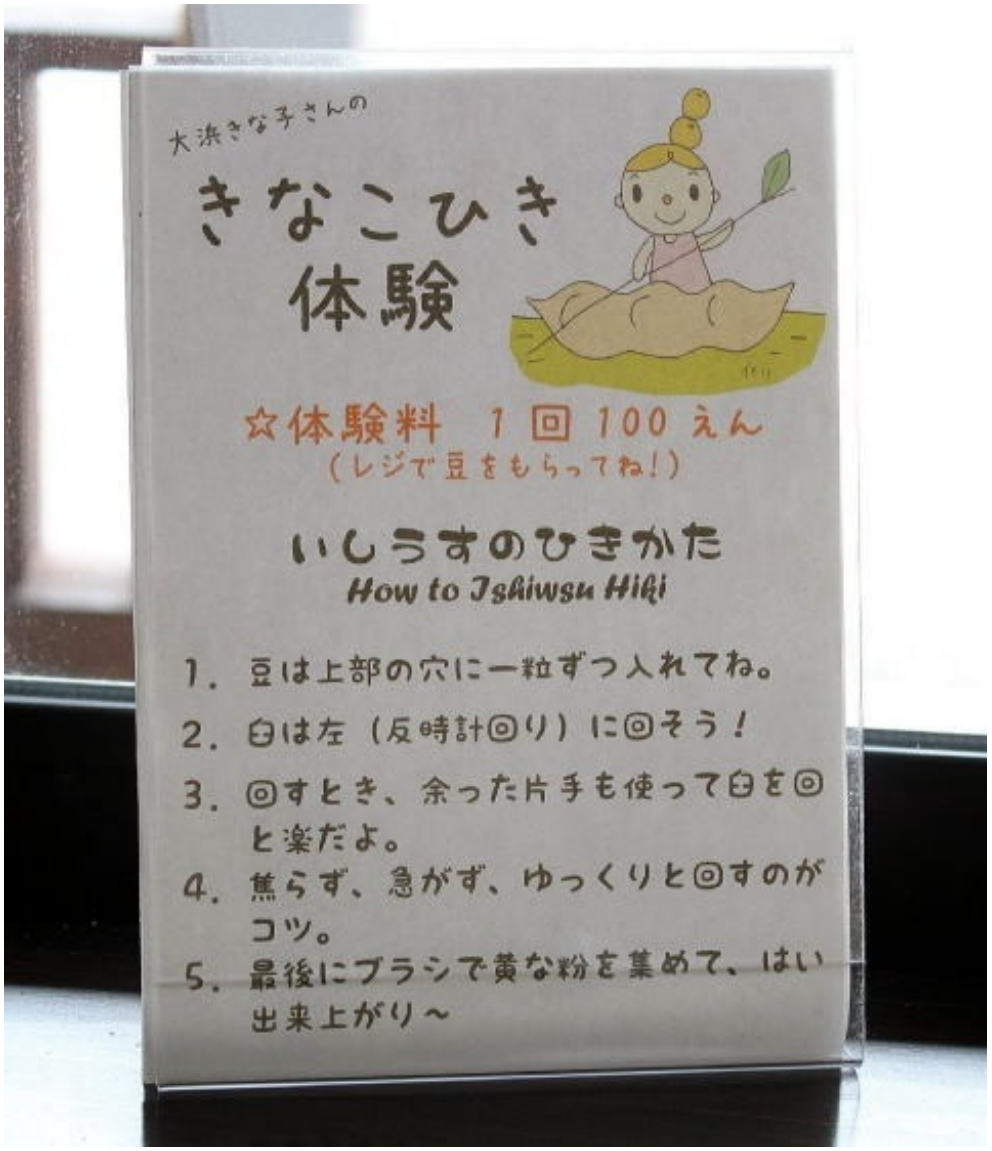


店内には “珠洲市” の名産であるお塩を使った商品がやはり多いようです。
漁村らしく、海産物も並んでいます。

無事にスタンプを押して奥へ行くと、こんなものもありました。



これは昔懐かしい “石臼” ですね！



ここではきなこひきの体験ができるのです。
何故きなこひきかというと・・・・・・

ここ狼煙町には、“まぼろしの大浜大豆”というのがあります。

通常の大豆より２カ月遅く収穫する“大浜大豆”は甘みとコクがあるのですが、収穫が１１月中旬から下旬にかけてなので天候が不安定で、非常に手間がかかります。
昭和３０年以降生産が徐々に減って、“まぼろし”といわれてきたのですが、地元の振興会の皆さんによって、これを復活させてきました。

珠洲には塩の生産によって良質の天然にがりが取れますから、大浜大豆の素材を生かした“地豆腐”が全国宅配で販売されています。



さて、喉がかわいたので、これを買ってみました。
珠洲のお塩を使った “しおサイダー” です。

ほんのり塩の風味のあるサイダーです。
味はなかなかなのですが、欠点がひとつ・・・・・・・

飲み終わったら、かえって喉が渇いた！（笑）
しおサイダーを飲むときは、別にお茶も買っておいた方がよいかも！

でも、これから夏場の熱中症を防ぐには、塩分も一緒に補える意味でお勧めかもしれませんね！


能登半島　最北端
道の駅
狼煙
WELCOME TO NOROSHI

こだわりの七輪！“すずなり”

能登半島最先端 “珠洲市” の３つ目の道の駅が
道の駅すずなり です。



道の駅狼煙と道の駅すずなりの位置関係は次のようになります。



海岸線の２８号と内陸を走る５２号のどちらが良いか道の駅狼煙のおねえさんに尋ねたところ、海岸線の方が走り易いでしょう、と教えてくれました。

結局上の地図のようなルートを辿ったのですが、道路は快適でした。





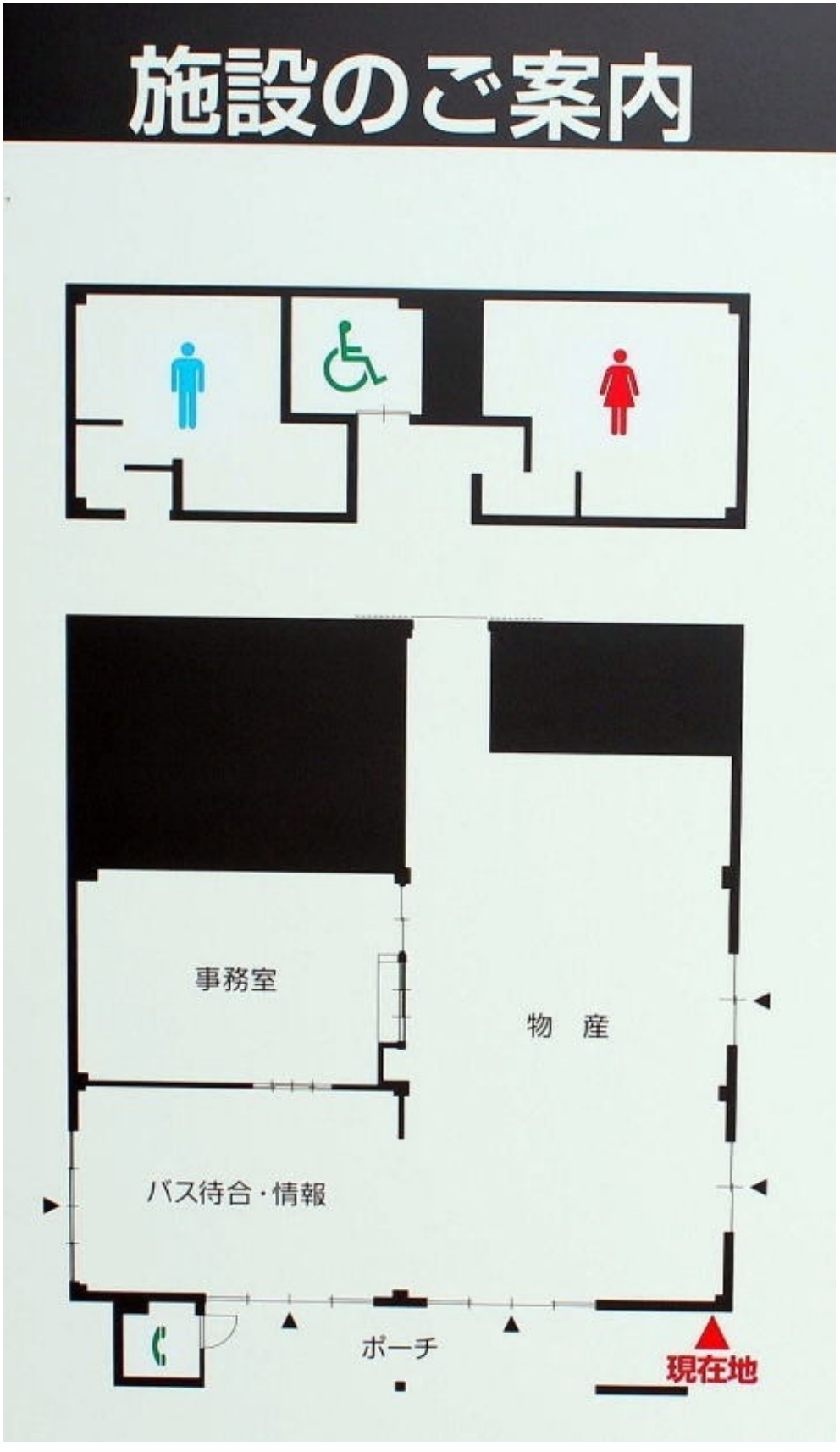
道の駅すずなりは市街地にあります。
ここも、道の駅狼煙と同じ時期、昨年（２０１０年）４月にオープンしました。



建物の右側になにやら屋根のようなのが見えますね。



実はここ、旧のと鉄道の珠洲駅が廃線となり、その跡地をリニューアルしたものです。
ですからそのホームが残されており、“のと鉄道記念広場”となっています。



昨日行った “輪島” の道の駅と同じくバスの待合室を兼ねています。



入り口は左がバスの待合室、右が道の駅です。
配置図のとおり、実にシンプルな造りです。



これがバスの待合室兼、観光案内所です。
そしてこちらが　・・・・・





道の駅の店内です。
ここで我が家が買ったのは　・・・・・



“いしる” “よしる” といって、能登の郷土料理に使う特産の調味料です。
魚を原料としたお醤油ですが、“いしる” の方はイカの内臓を使います。

実は昨夜の輪島のホテルで、ホタテの貝殻を器にした “いしるの貝焼き” なる料理が出て、仲居さんが丁寧に教えてくれたのです。
それを気に入った嫁が買い求めたのですが、旅行から戻って１カ月ほど経つのに一度も食卓にのぼったことはありません。(^▽^;)



この “珠洲焼” は、平安時代から室町時代に盛んに製造されたものを、昭和５３年に復活させたもので、灰黒色の落ち着いた美しさが特徴です。

そして、珠洲といえば特に有名なのがこれです。



一般家庭ではほとんど使わなくなった “七輪” です。
この七輪の原料は “珪藻土” ですが、能登半島の珪藻土の埋蔵量は日本一で、特にこの珠洲市周辺には無尽蔵にあると言われています。

ここの七輪の特徴は、天然の岩を切り出し、丁寧に手彫りで作り上げてゆくことです。
風口を電動のみでくり抜く以外はすべて職人による手彫りだそうで、正に彫刻家のようなこだわりのある製品になります。

七輪を使って炭火で焼く、というのは、遠赤外線効果もあり、食材本来の旨みが出せるらしく、再び見直されてきているようです。

さて、珪藻土は無尽蔵にある、という話をしましたが、全体がその珪藻土でできた有名な “島” をこれから見に行きます。
おっと、下のスタンプにその絵がありますね！(^▽^)


道の駅　すずなり

“軍艦島”へ立ち寄り！

次の道の駅は “桜峠” なのですが、その前に１か所立ち寄る場所があります。
それが、
見附島（通称：軍艦島）　です。



場所は道の駅すずなりのすぐ近くですね。
桜峠への通り道だと思っていたら新しい自動車道ができており、うっかり通り過ぎるところでした。

「見附島 左折１ｋｍ」（２ｋｍだったかな？）の案内看板が目に入り、一旦通り過ぎた自動車道をＵターンして目的地に向かいました。





“見附島” は、遠浅の海岸に浮かぶ高さ２８ｍの珪藻土でできた島です。
その形が軍艦に似ていることから、“軍艦島” とも言われます。

島へは石を敷き詰めた散策路が作られており、渡ることができます。

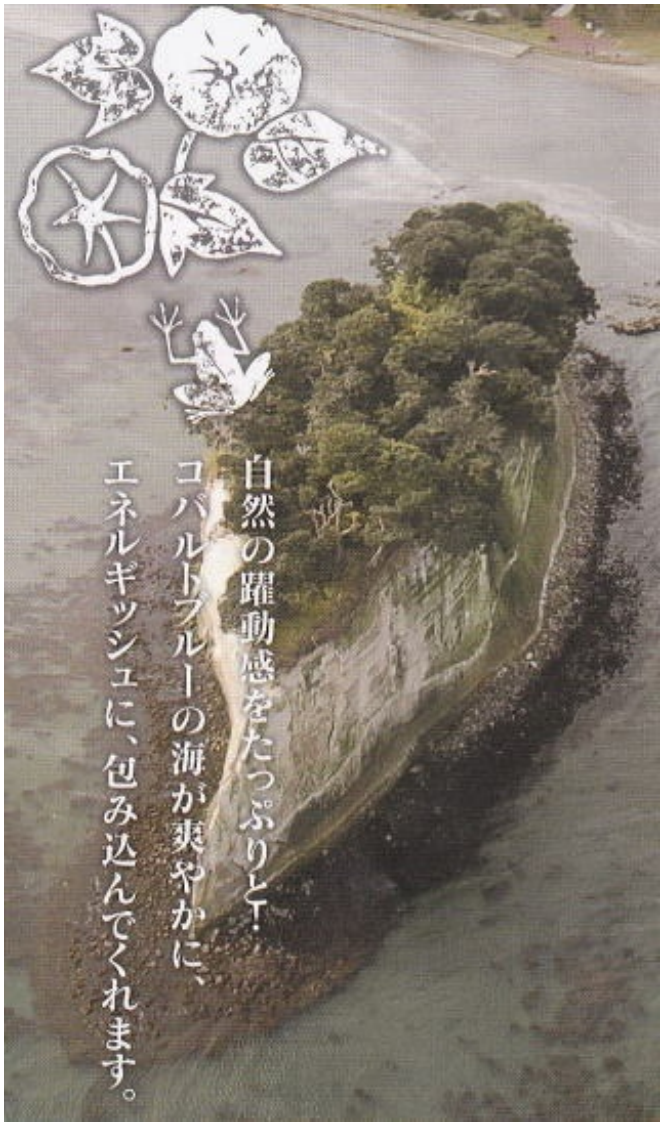


実はこの写真、大雨の中を傘を差したまま撮ったものです。
それまで道の駅の中では傘をさすような雨には遭わなかったのですが、ここの駐車場に着いた途端激しく降り出しました。

どうやら私の 「晴れ男システム」 は、道の駅にいるときだけ雨が上がってくれる仕組みで、ここは道の駅ではない、と正確に判断したようです。(^▽^;)



パンフレットに、この島を上空から写したものが載っていました。



なるほど、これは海に浮かぶ巨大な “軍艦” そのものですね。



天気が良ければ、もっと美しい写真が撮れたと思うけど、残念です。
ご覧のように、ここには “縁結びの鐘” があります。



文字が読めないと思いますが、“見附～恋路” “えんむすびーち” と書いてあります。
この海岸には悲恋物語の伝説が残っていて、今ではカップルの絶好のデートスポットになっています。

この海岸をもう少し先まで行くと “恋路海岸” があり、そこにもこのような “縁結びの鐘” があるのだそうです。



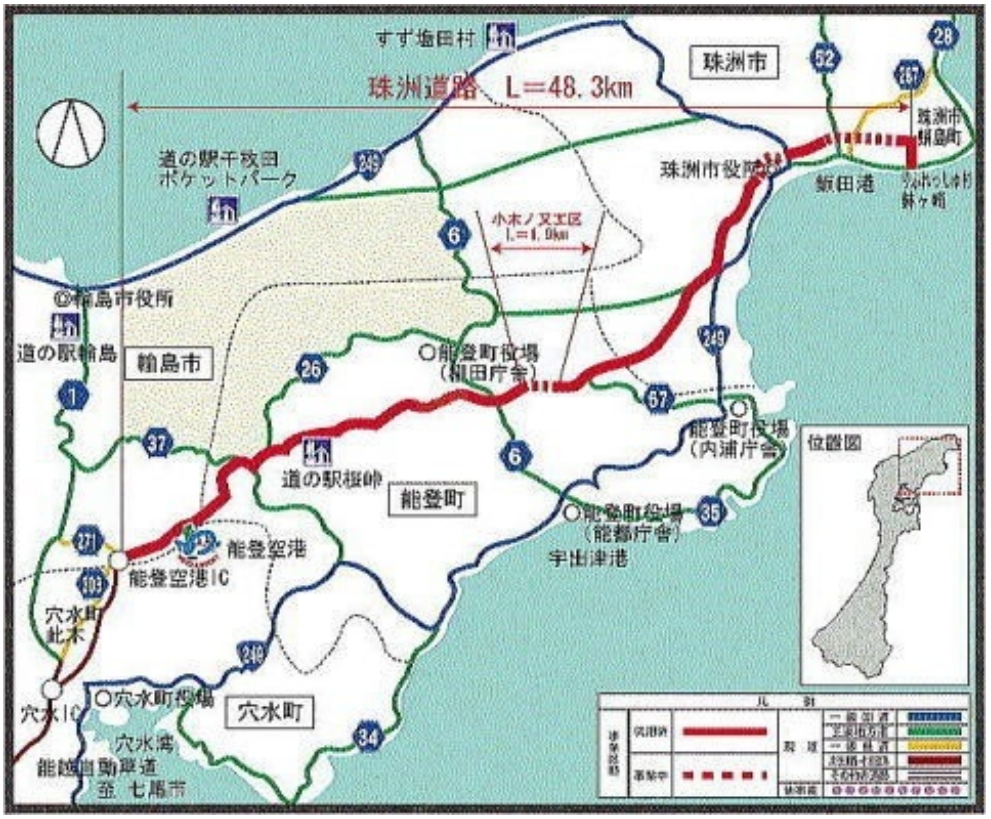
この周辺の略図ですが、ご覧のように海水浴場やキャンプ地があります。
“見附茶屋” は、食事処や土産物店のあるレストハウスです。
“弘法の湯” は、国民宿舎内にあって、立ち寄り露天風呂からは見附島が目の前に見えます。

夜はライトアップもされるそうですから、能登半島の代表的な観光スポットの一つだと思います。

珠洲道路の休憩地！“桜峠”

次に向かうのは
道の駅桜峠　です。





ご覧のように “能越自動車道” 終点の “能登空港ＩＣ” から能登半島先端 “りふれっしゅ村鉢ヶ崎” までを、全長４８．３ｋｍの “珠洲道路” が結んでいます。

「のとスターライン」 の愛称を持つこの道路は、元々金沢から珠洲までを２時間以内で結ぶ、という構想でつくられましたが、とても走り易い自動車道路です。



その途中に、道の駅桜峠はあります。







“桜峠” という名前の通り、たくさんの山桜の樹が植えられています。





建物は二つですが、左がトイレで、右が物産店です。



物産店の裏側には、日本庭園があります。





この庭園、それほど大きくはないですが、落ち着いた雰囲気があります。





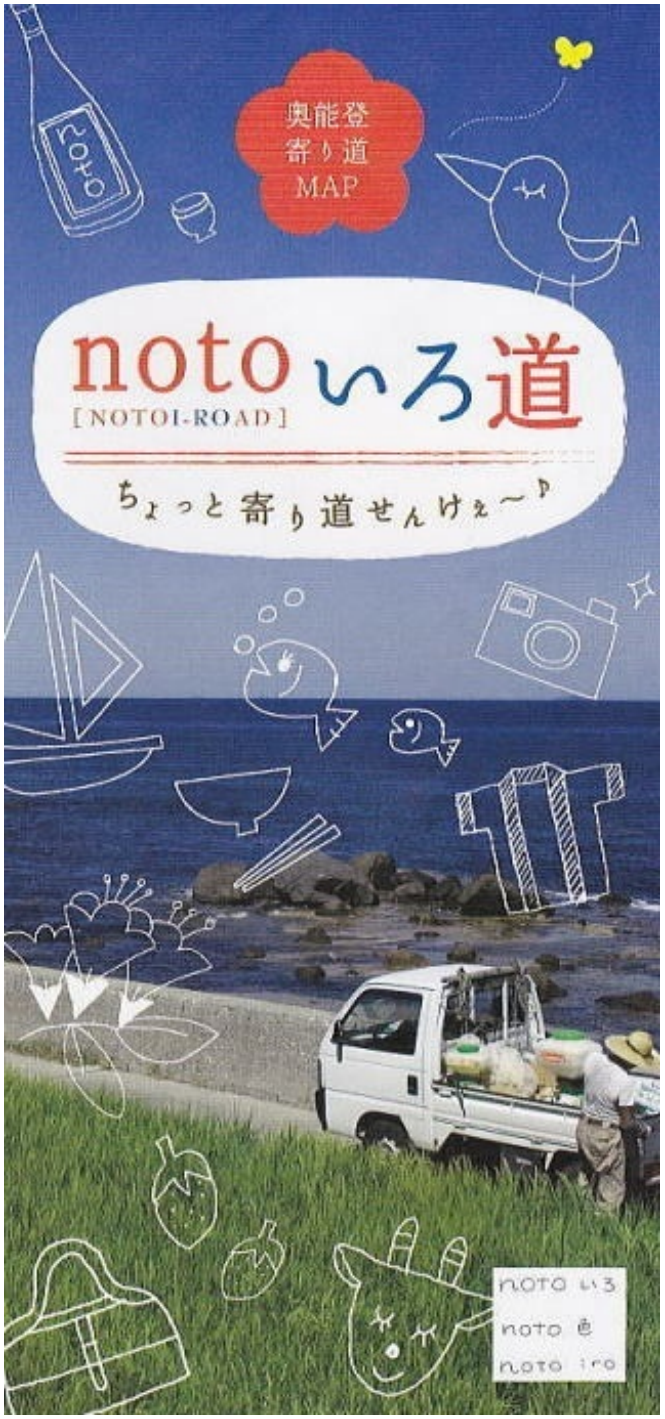
そして、物産店に入ってみました。



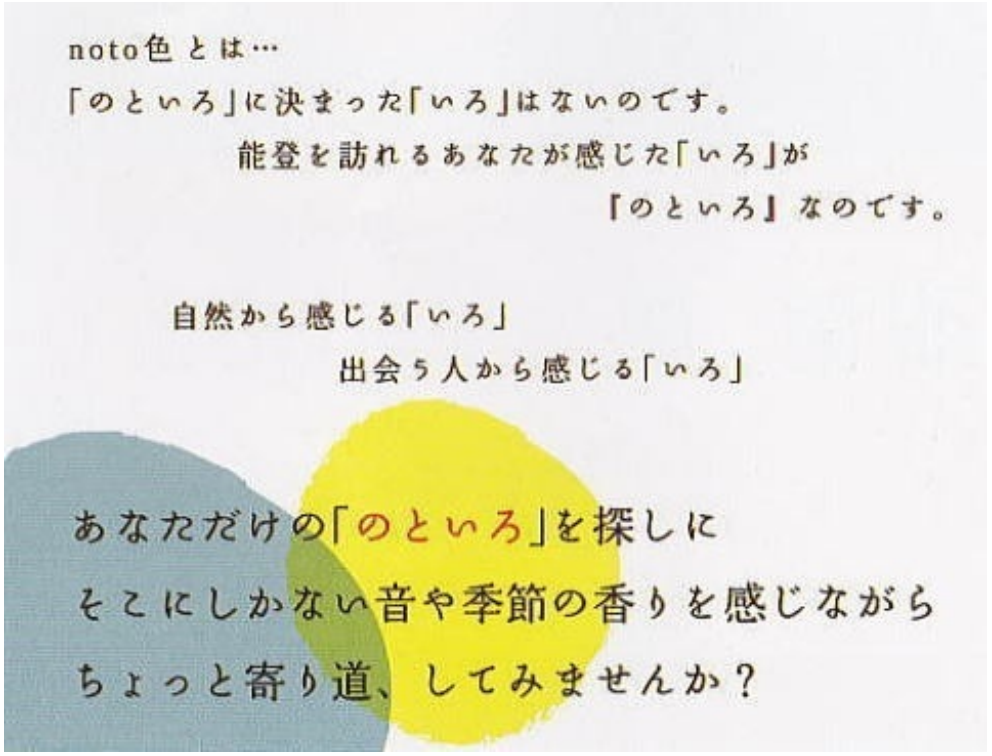
奥にはテーブルがあって食事ができますが、あまり広くないので商品はぎっしり並べられていました。
ここでは、近くにある「能登青翔高校」の生徒たちが作ったジャム、クッキーなど手作り食品も販売しており、人気があります。

ところで、この道の駅の駅長さんは松木さんという女性の方で、通称は “マッキーさん”（リンクあり）と呼ばれています。

独自の道の駅切符を作って売ったり、他の地域の道の駅と連携してお互いの商品を販売するなど、様々な工夫をして常に新しいことにチャレンジされています。



道の駅で貰ったこの冊子の編集にも、松木さんは携わっておられます。



お店の規模はあまり大きくないですが、他の地域の道の駅とも交流を持ち、チャレンジ精神旺盛な道の駅に出会ったことは頼もしく思えました。



空港ターミナルが道の駅？“能登空港”

次に向かったのは、珠洲道路の終点近くにある
道の駅能登空港　です。



ナビで道の駅能登空港を入力すると、能登空港と同じ場所を示します。
空港と隣接して道の駅が作られているのかな・・・・・と思いました。





空港と道の駅、同じ３００mの距離にあります。



案内に従って進むと、どんどん空港の中にはいってゆきます。



空港ターミナルに到着。
良く分からないけど、空港の無料駐車場に車を停めて出てみました。



確かに “道の駅” って書いてあるけど、空港ビル以外になにも建物は見当たらない・・・・・。



どうやら空港ビルの中に道の駅があるようなので、行ってみることに・・・。



ターミナルの正面にあったモニュメント！
ひらがなの “の” って書いてあるのかな？



完全に空港ですね！（笑）
この “能登空港” は２００３年７月に開港して、まだ８年ほどしか経ちません。
就航しているのはANAの羽田空港便だけで、出発２便、到着２便の合計４便だけです。

航空ダイヤ(7月1日~8月31日)

羽田空港発 ▸ 能登空港着		能登空港発 ▸ 羽田空港着	
ANA747便	10:05発 ▸ 11:05着	ANA748便	11:40発 ▸ 12:45着
ANA749便	14:55発 ▸ 15:55着	ANA750便	16:50発 ▸ 17:55着

どうりで人影がなく、がらんとしているはずです。
そして、運航案内ディスプレーの下にこれを発見！


12:22
到着 Arrival
749 15:55
ANA
東京
Tokyo
登録証
道の駅
能登空港


登録証
道の駅
能登空港
石川県鳳珠郡三井町洲衝
国土交通省 道路局長

やっぱりここが道の駅なんですね！
周りを見回すと　・・・・・・・・・





奥に “能登の旅　情報センター” というのがあります。
右手奥のカウンターに座っていたおねえさんに尋ねてみました。

「え～と～、道の駅ってここなんですか？」

おねえさんはにっこり笑って　・・・・
「そうです、この空港自体が道の駅なんです。

全国で秋田とここと２か所しかないんですよ！」

もう一か所というのは、秋田県の “大館能代空港” のことですね。
私が秋田県を回り終えて、数ヵ月後にオープンしたので、東北日本海側３県で唯一行ってない道の駅なのです。

道の駅スタンプも、そのおねえさんの手元にありました。
２種類あって、「こっちは日付もはいりますよ！」 と勧められて、２つとも押してきました。





このコーナーには、能登を紹介する様々なパンフレットやパネルがありました。
１階がこのような情報コーナー、２階が売店、３階がレストラン、そして最上階の４階には生涯学習センターがあります。

このターミナルビルは空港関係だけでなく、石川県奥能登総合事務所・奥能登行政センターといった各種行政機関も入居していて、奥能登地域の広域行政の拠点にもなっています。

この空港が開港する前に、少しでも便数を増やして利便性を高めたい地元と、とりあえず１便だけで利用状況を見極めたいANAとの間で争いがありました。

結局、全国初の“搭乗率保証制度”で決着がつき、搭乗率が「70％」を切ったら地元がANAに対し損失補償をし、逆に搭乗率が伸びて目標以上の利益があがれば、ANAが地元に還元する取り決めになっています。

この搭乗率、ホームページで公開されていますが、今年、昨年とも７０％を大きく割り込んでいます！
東京のみなさ～ん！なるべく能登空港経由で観光に来て、応援してやりましょう！(*^▽^*)



玄関にあったモニュメントと同じデザインのこのマスコット、かわいいですね！




能登空港
★'11.06.23★
NOTO AIRPORT
またお会いしましょう!

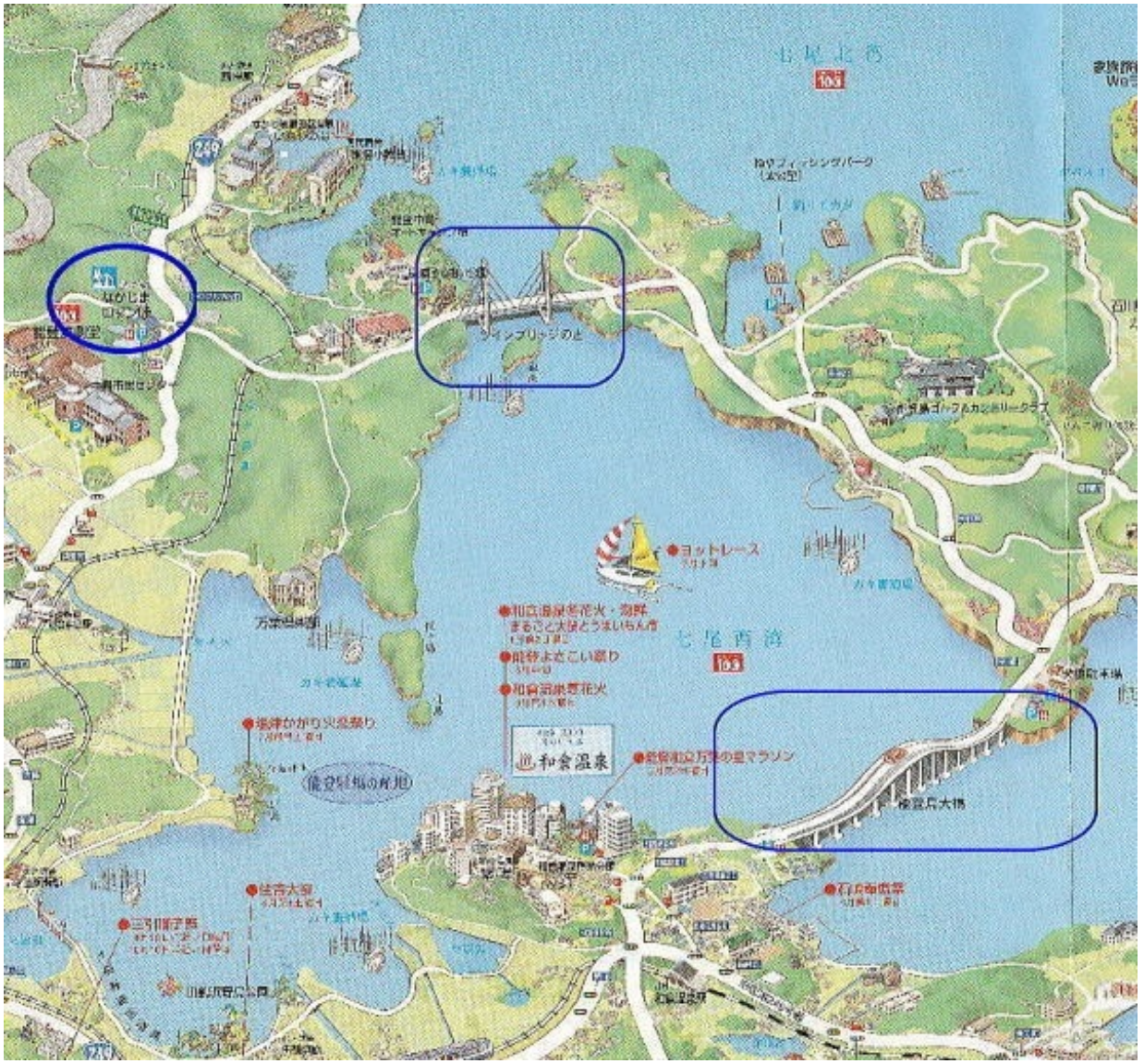
深紅の枠旗！“なかじまロマン峠”

次は能登半島のほぼ中心部に位置する
道の駅なかじまロマン峠　へやってきました。





能登空港から一般道を南下して２６km、３０分ちょっとの道のりです。
ここは“七尾市中島町”、七尾市は「和倉温泉」をかかえる能登半島屈指の観光拠点でもあります。



周辺の位置関係はこのようになります。

左側の丸で囲んだところが道の駅なかじまロマン峠、右側の島は “能登島” といいます。
能登島へは “ツインブリッジのと” と “能登島大橋” の二つの橋が架かっていて、この道の駅は、そのツインブリッジに向かう交差点にあります。

まん中の “七尾西湾” の南岸に有名な和倉温泉がありますね。




おがしま
ロマン紫休憩所
物産品
売店・食事



道の駅は駐車場もそれほど広くは無く、比較的シンプルなイメージです。
一番下の写真に “照明灯” が写っています。



この照明灯についている “深紅の枠旗” がありますが、これが実はこの地方のシンボルです。

国指定重要無形民俗文化財である 「お熊甲祭」（おくまかぶとまつり） というのがあり、その祭りで使われるのがこの深紅の枠旗なのです。

それを紹介する “祭り会館” が、ここから車で５分のところにあります。



ここの名前は “峠茶屋” といいますが、正に峠の茶屋のイメージです。







手前が売店、奥が食事処になっています。

この “七尾西湾” は波が穏やかで、日本海側最大のカキの養殖が営まれている場所です。
ですから売店ではカキの加工品、そして特産である中島菜の加工食品などが並んでいました。

さてこれから、先程紹介した “ツインブリッジのと” を渡って 「能登島」 へ向かいます。


能登中島

リゾートアイランド！“のとじま”

さて次は、七尾湾に浮かぶ能登島に渡って
道の駅のとじま　を目指します。





ご覧のように “能登島” は七尾湾に浮かぶ小さな島ですが、その形がNHKの人形劇 “ひょっこりひょうたん島” に似ていることから、“ひょっこり能登島” とも呼ばれます。

この島に渡るには西側の “ツインブリッジのと” と、南側の “能登島大橋” がありますが、なかじまロマン峠からですから、ツインブリッジのとを通ります。



狭い島かと思ったら結構広くて、２０分ほどかかりました。
途中、道の駅への案内板とともに、“のとじま水族館” の案内板がやたらと目につきます。

のとじま水族館は途中から道が分かれ北側の海岸沿いにあるのですが、道の駅とは５分ほどの距離です。



参考までに添付しましたが、巨大なジンベエザメの水槽や、回遊水槽を泳ぐ魚たち、イルカやアシカショー、そしてペンギンのお散歩など、なかなか面白そうです。
この水族館を目当てに能登島を訪れる家族連れも多いと思います。



さて、道の駅に到着しました。
途中、工事中の区間があり、車が泥だらけになってしまいました。





どっしりとして、なかなか立派な建物です。
駐車場から道路を挟んだ反対側に、すごく目立つ建物がありました。







特にこの左端の構造物はまるで宇宙船が舞い降りてきたように見えます。



これは、“石川県能登島ガラス美術館” といいます。



周辺はこのようになっており、先程宇宙船に見えたのは、“GLASS　SILICA” というミュージアムショップでした。



さて道の駅ですが、駐車場から階段を少し下りると売店コーナーの入り口があります。
階段を２階にあがると、“交流広場” で、ここには休憩室とレストランがあります。

そしてこの隣にあるのが、“能登島ガラス工房” です。



ガラス工房は見学できるだけでなく、ジュエリー・とんぼ玉の体験、サンドプラスト体験、吹きガラス体験など、自分の手でオリジナルの作品を作ることができます。



この交流広場、ガラス工房、そして先程のガラス美術館の３つの施設をまとめて “道の駅のとじま” になっているのです。

能登島へは１９８２年にガラス工房が誘致され、１９９１年にガラス工芸の情報発信基地としてガラス美術館がオープンし、名実ともに “新しいガラス工芸が息づく島” として脚光を浴びています。





売店コーナーには能登の土産品がなんでも揃っています。



能登島には紹介した以外にもひょっこり温泉とか、海水浴場、海釣り、ゴルフ場などさまざまな楽しみがあり、年間１００万人の観光客が訪れるリゾートアイランドです。

今回は駆け足でしたが、もう一度ゆっくり回ってみたいと思いました。



このスタンプの橋は、“能登島大橋” です。

全国屈指の寒ブリ！“氷見”

能登半島を南下し、いよいよ富山に入ります。
道の駅氷見（ひみ）　が富山県最初の目的地です。



能登島からは、今度は南側にある “能登島大橋” を渡ります。



橋を渡ったすぐのところが有名な “和倉温泉” です。

この付近にある２つの道の駅は、既に昨日回ったので、一気に南下し富山県へ向かいます。
道の駅氷見まで４７kmなのですが、１時間以上かかってしまいました。

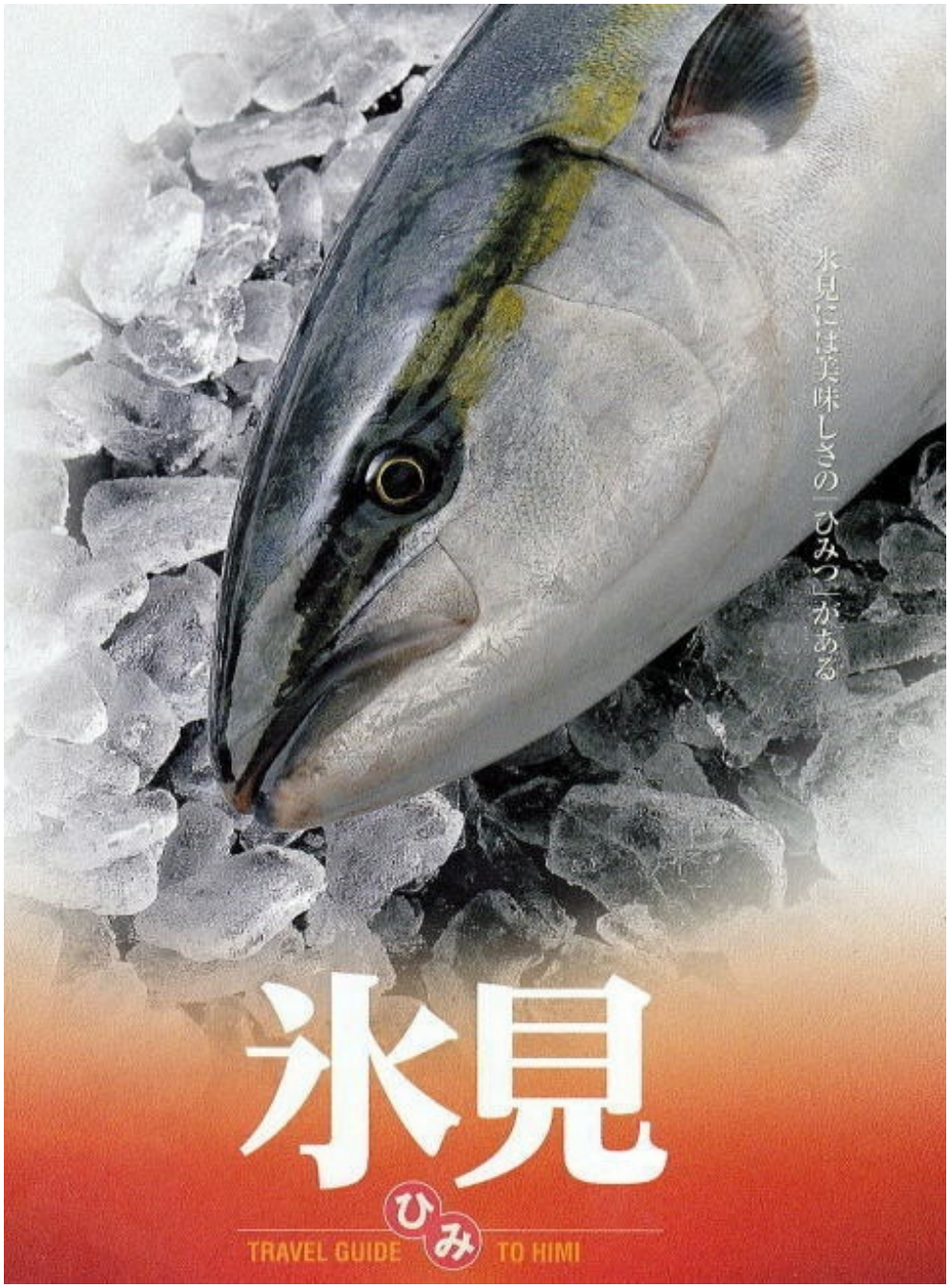




道の駅に近付くと建物の壁面に描かれた、大きなブリの絵が目に飛び込んできます。



ご存知かと思いますが、能登半島のつけ根に位置する氷見市は、全国屈指の知名度を誇る “氷見寒ブリ” の産地です。



富山湾は、湾そのものが “天然の定置網” といわれます。

ブリの故郷は九州西部の温かい海ですが、春から夏にかけ対馬海流にのって日本海を北上し、北の海の豊富な餌を食べながら北海道周辺で夏、秋を過ごします。
水温が下がる晩秋になってブリは再び故郷を目指して南下するのですが、一部のブリは能登半島に阻まれ、富山湾に入り込みます。

富山湾は沿岸部まで深い海底谷が続くため、天然の地形に導かれて富山湾の奥深くまで入り込んできます。
そこにこの地で発達した “越中式定置網” と呼ばれる、ブリの習性を研究し尽くした大小百張り以上の定置網が仕掛けられ、巧みに回遊する魚群を待ち受けるのです。

“雷鳴が轟くと浜が沸く！” とここでは昔からいわれていますが、地元で “鰤興し” と呼ばれる雷鳴が鉛色の空に鳴り響くと、それを合図のように漁師たちは一斉に海に出ます。

氷見の寒ブリは産卵に備えて栄養と脂身をたっぷりと蓄えた満二歳の成魚で、それを網から揚げた直後に “沖じめ” と呼ばれる独特の方法で仮死状態にすることで鮮度と旨みを保持し、氷見の寒ブリのブランド価値を高めているのです。



さて道の駅ですが、ここは氷見漁港の中にあり、旧魚市場の跡地に建てられました。



ですから、道の駅の裏に回るとそこには氷見漁港の漁船群が停泊しています。





道の駅の前には “観光遊覧船” の乗り場があり、船上からこの定置網などを見学することができます。





これは “ひみぼうずくん” といって、頭を撫でると幸せになれるのだそうです。



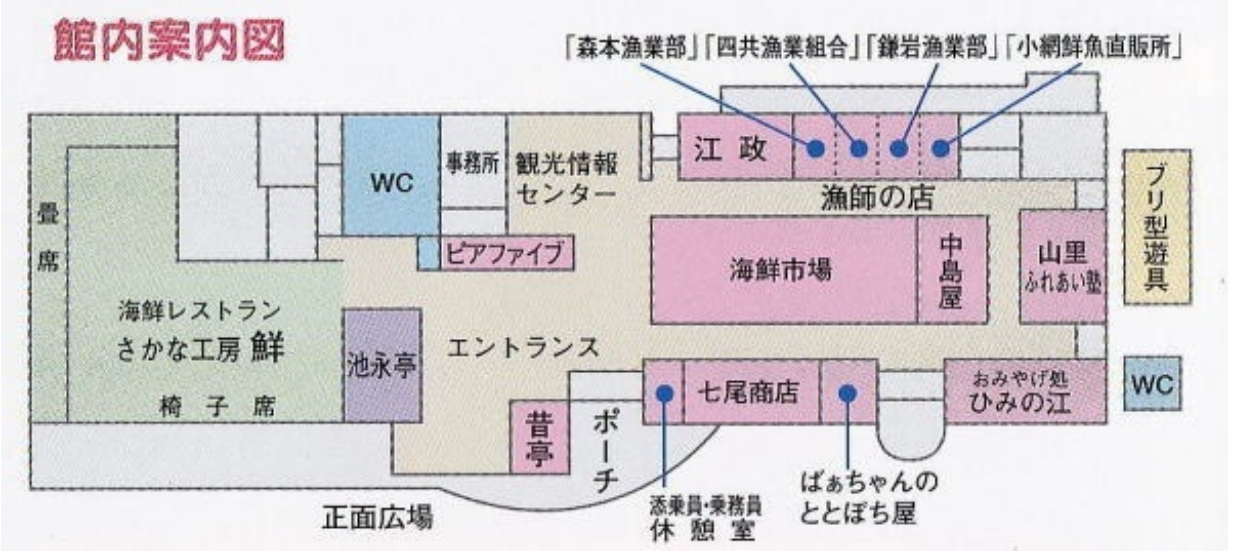
さて道の駅にはいってみましょう。
ここは“氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館” と呼ばれる水産物等直販施設です。
フィッシャーマンズワーフというのは直訳すると “漁師の波止場” でしたね！







ここは、私の血が騒ぎます！（笑）
既に夕方に近いので生の魚介類はあまり残っていませんでしたが、水産加工品も含めさまざまなお店が並んでいます。



道の駅スタンプは、観光情報センターに置いてありました。



ここでちょっと残念に思ったのがこれです・・・・・。



やはりマナーが良くないのですね！
子供さんかもしれないけれど、大人がきちんと教えないといけないですね。



ここがエントランスで休憩や軽食ができ、その奥に見えるのが “海鮮レストラン 「さかな工房 鮮」” です。



私たちはこのお店でこれを買いました。



さて、再び外にでると、漁港とのあいだに広い公園があります。



そこにいたのがこれ・・・・！



う〜ん！あまり可愛らしくはないけど・・・・・・・！
そして、・・・・・・





ブリ型の遊具です！（笑）



空を見上げると、獲物を狙ったトンビが人間どもをなめたように、悠々と舞っていました。


道の駅 氷見
フィッシャーマンズワーフ
海鮮館
Himi Fisherman's Wharf
www.kaisenkan.com

歴史を伝える！“万葉の里 高岡”

本日の１０か所目、そして富山県の２か所目は、
道の駅万葉の里高岡　です。







氷見からは２０kmほどの距離で、能越自動車道の高岡IC付近になります。



“高岡市” といえば “高岡大仏” が有名で、奈良の大仏、鎌倉の大仏と並ぶ “日本三大仏” の一つです。



高岡は奈良時代に “越中のくに” の国府が置かれ、「万葉集」 の代表的歌人である “大伴家持” が国守として在任しました。
５年間の在任中に２２０首もの歌を詠んだといわれています。

この道の駅が “万葉の里” なのは、それが由来です。





この建物の特徴は、この壁にあります。



加賀藩二代目前田利長が開いた高岡の町には “伝統的建造物群保存地域” があり、土蔵造りの町並みや千本格子の家並みなど古い文化が残されています。
その “千本格子” を再現したものがこの壁面です。

建物自体は洋風なのに、ここだけは純和風という風情あるものになっています。
そして高岡には道の駅ならぬ “まちの駅” が２２か所も作られていて、伝統の保存に一役買っています。

この長い千本格子の内側がどうなっているのかというと　・・・・・　これです。





レストランなんです。
外側は古い伝統の和風建築、内側は近代的な設備のレストラン、というわけですね。


トイレ
氷



レストランの先に、土産物売り場と情報コーナーがありました。
なかなか規模の大きなお店で、富山の土産はなんでも揃う感じです。



富山を代表するものの一つがこの “ほたるいか” ですね！
我が家も土産にまとめ買いしました。

さて、いよいよ本日もあと１か所になりました。
今の時間が１７時、あと１か所の道の駅を回って、今夜の宿泊地富山駅前に向かいます。





スタンプが２種類あったので、両方押しました。(^▽^)

白エビの街！“カモンパーク新湊”

２日目の最後の目的地は、再び富山湾近くに戻り
道の駅カモンパーク新湊　です。







この道の駅に到着する少し前に叩きつけるような激しい雨に遭ったのですが、駐車場に停めて３～４分車内で待っていたら、きれいにあがりました。



地面は濡れているけど、青空が見えていますね。

“富山県射水市（いみずし）” は2005年11月に射水郡の全町村と新湊市が合併して発足した、日本海側最大級の港湾工業都市です。新湊漁港は特に、富山湾の宝石と形容される “シロエビ” が有名です。



シロエビは体長が６～７ｃｍほどで透明な淡いピンク色をしており、透き通った体が光を浴びてキラキラ光る美しい姿が、“富山湾の宝石” とたとえられています。

シロエビは、駿河湾、相模湾、糸魚川沖にも生息しますが、漁業が成り立つほどの漁獲があるのはここ富山湾が世界でただ１か所なのだそうです。

富山湾は日本で最も深い湾の一つで、水深が１２００ｍに達する場所もあります。
そして海底谷が発達し、Ｖ字型にえぐられた深い谷が沖合へと伸びています。

シロエビはこの海底谷の、太陽の光が届かない水深１５０ｍ～３００ｍに生息します。
富山湾のシロエビ漁は、この海底の複雑な地形に合わせた “かけまわし漁法” という独特の方法で行われてきました。



ですからここには、シロエビを使った食べ物がたくさんあります。
まずこの、全国ご当地どんぶり選手権で優勝した “白エビかき揚丼” ですね！



そして “白エビバーガー” も人気です。

更に、私が最も楽しみにしていたのは、ブロ友さんが紹介していた “白エビソフトクリーム” なのです。
でも　・・・・・・・！



注文しようとしたけど、開かない！(￣□￣;)!!
それに、誰もいない！

良く見たら「１７時まで」って書いてある。
既に１７半過ぎてる・・・・！(Ｔ▽Ｔ;)
無念！（涙）



諦めて中にはいると、やはり海産物が多いようです。
そして　・・・・・・　。

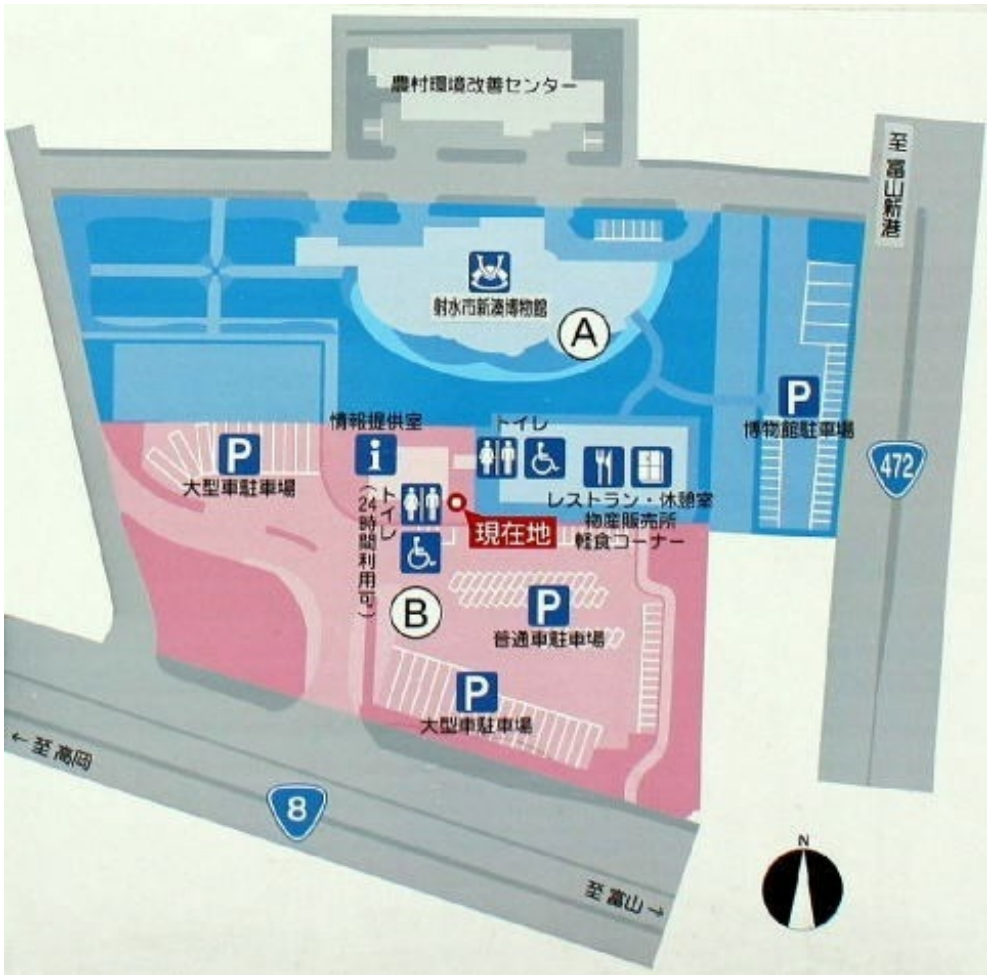

¥945


甘えびからし明太
¥630円
かに からし明太
630円
ほたるいか生姜煮





これでもか、というくらい白エビの加工食品が並んでいました。(^▽^)



最後に道の駅の全体図です。
裏側に博物館があったのですね！
知らなかった！<

こうやって、無事に１１か所を回って２日目を終了！
この日は富山駅近くの “名鉄トヤマホテル” に宿泊！

近くの居酒屋で、念願の “白エビのかき揚げ” を頂きました。
おいしかった～！:*:・(￣∀￣)・:*:


ROUTE
道の駅
ク モンパーク
新　湊
SHINMINATO


SHIROEBI
全国1位 白エビかき揚げ丼
道の駅新湊
MICHINOEKI SHINMINATO

濃霧に閉ざされたアルペンルート！

いよいよ３日目です。
この日は、道の駅はわずか３か所しか予定に入れていません。
なぜなら、折角富山に来たのだから、“立山黒部アルペンルート” と “黒部渓谷トロッコ電車” は観光しなければと思ったからです。
（この計画が無謀だったことはあとで思い知らされますが・・・・。）

この日の天気予報は午前中曇りで午後は雨！
ならば、雨が降る前にまずアルペンルートだ、と考え、当初の予定を変更して真っ先に
立山黒部アルペンルート　へ向かいました。



宿泊している富山市内のホテルを7：45に出発し、アルペンルートの入り口である “立山駅” に到着したのが8：40、１時間弱かかりました。

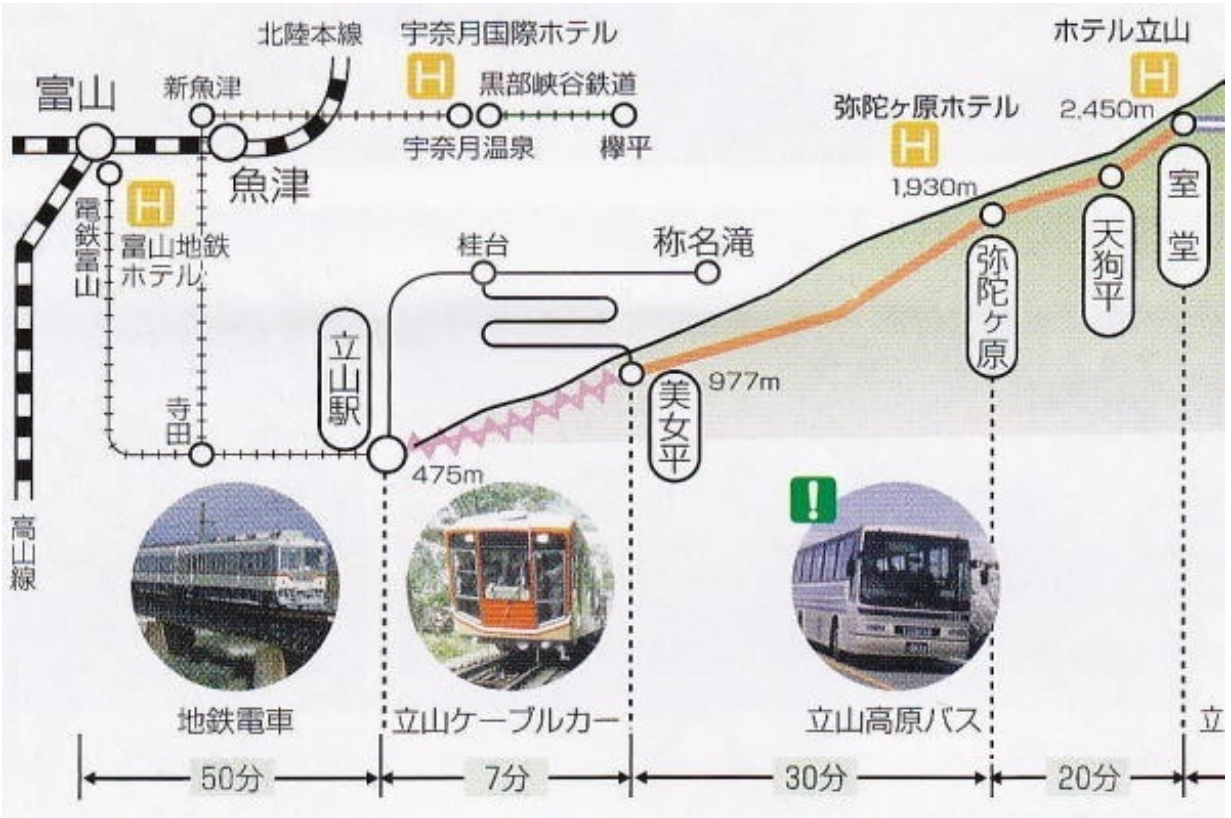




ご存知と思いますが、立山黒部アルペンルートは、全行程がこのようになっています。



立山駅から入ってケーブルカー、バス、トロリー等を乗り継いで信濃大町へ出る、あるいはその逆のコースですね。
全ルート辿れば当然丸一日かかりますから、私たちは途中の “室堂” まで行って引き返します。



ですから、これが私たちが辿るコースです。



私たちは室堂までの往復切符を買いました。
乗り物は色々乗り換えるけど、切符はこのように１枚で良いのです。

一番最初に乗るのは “美女平” までの 「立山ケーブルカー」 です。
どんな乗り物かというと　・・・・・



すみません、これ帰りに撮ったので、実際の乗り口は左側のホームです。
ご覧のように、急勾配に合わせた急勾配のケーブルカーです。



中はこんな具合になっています。
このケーブルカー、後ろに荷物を載せる貨車みたいなのがくっついていて、昔は黒部ダム建設の資材なんかも運んだのだそうです。

山肌やトンネルを急勾配で上り、わずか７分で “美女平” に到着！





ここからは、立山高原バスに乗り換えます。



それにしても随分たくさんのバスが停まっていました。
ここは自家用車は乗り入れ禁止ですから、バスしか一般の交通手段はありません。



バス車内ではアルペンルートを紹介するビデオが流れており、途中の “見所” では徐行したり一時停車をしてくれます。



途中なんとか眺望は開けていたのですが　・・・・・・
最大の見どころである “雪の大谷” あたりへ差し掛かると途端に深い霧の中に　・・・・。





真横の雪の壁はかろうじて見えますが　・・・・・・・
５月に開通した直後なら最大２０ｍの雪の壁になりますが、この日は６月下旬、それでもバスの屋根よりは高く雪が残っていました。

悔しいので、最盛期の写真をパンフレットからお借りしますね！



まあ、こんなコンディションの時にもう一度こなきゃ！

約４０分で室堂に到着したものの、一寸先が見えない、という表現がぴったりでそれにとにかく寒い！
あわてて建物に飛び込み、持ってきた長袖やパーカーを全部重ね着しました。





室堂へ来たという証拠写真をまずパチリ！(^▽^;)
スタンプもあったので、これも証拠だ！





そして、階段を使ってまずこの建物の屋上に上がってみました。



これは、まずまず見える時の写真です。
霧が濃くなると、この目の前の建物が見えなくなる　・・・・・　！Σ(゜Д゜)
そして、風が強くて飛ばされそう！



この屋上から階段を下りると地表に出られます。
普通はここから周辺を散策をするのでしょうが、皆さんちょっとだけ下りて引き返しています。

私たちもちょっとだけ下りることに！





ここで元気にはしゃいでいる皆さん、すべて中国語です。



時々霧が薄くなると、目の前にこんなものがあるのに気がついたりします。
これは “立山玉殿湧水” といい、全国名水百選のひとつです。
飲んでみたけど、違いはよくわからない　・・・・。(^_^;)

とにかく風が強くて寒いので、建物の中に逃げ帰りました。



土産物店やレストランがあって、この先の大観峰や黒部平へ行く立山トンネルトロリーバスを待っている人たちもいました。



お菓子の袋はこんなにパンパンに膨れています。
室堂は標高が２４５０ｍだから、気圧が低いのでしょう。

結局室堂には１時間もおらず、再び高原バス、ケーブルカーを乗り継いで立山駅に戻りました。



この黒い雲の中に先程までいたということですね。



雨は降らなかったものの、折角室堂まで行って、周りの景色は何も見れずに帰るのは実に残念です。
いつか季節の良い時に、再チャレンジしましょう。

アルペンルートの往復に結局４時間ほど費やし、無料駐車場を出たのは１２時４０分になっていました。

ノーベル街道！“細入”

深い霧で期待した眺望を楽しめなかった立山・黒部アルペンルートをあとにし、
道の駅細入　に向かいました。





立山駅と道の駅細入の位置関係は、この地図のようになります。
直線距離だと近いのでしょうが、一旦ずっと戻ってから西へ進路を取り、国道４１号を再び南下しますから、５０分ほどの時間がかかりました。

地図でお分かりの通り、細入からほんの少し先に進むと岐阜県との県境です。
この国道４１号は、昔から飛騨と越中を繋ぐ交通の要所で、“ブリ街道”とも呼ばれました。
越中からは塩漬けのブリ、そして飛騨からは木材などが運ばれ、この場所に置かれた「猪谷関所」で税を徴収し、とても潤っていたのだそうです。




飛越ふれあい物産センター
林
りん
林
りん
富山県
富山市
道の駅
細入





国道４１号を県境を越えてしばらく南下したところが岐阜県神岡町で、ここは小柴昌俊さんがニュートリノを検出した “スーパーカミオカンデ” があります。

“小柴昌俊さん” はご存知の通りノーベル物理学賞の受賞者ですが、実はこの国道４１号のもう一つの別名は “ノーベル街道” と呼ばれているのです。



ご覧のとおり、国道４１号は５人のノーベル賞受賞者と関係があります。

右端は富山市で生まれ育った “田中耕一さん”
二人目は富山県大沢野町で小中学校時代を暮した “利根川進さん”
三人目が先程の “小柴昌俊さん” で、
四人目は岐阜県高山市で高校までを過ごした “白川英樹さん”
最後は名古屋大学で研究をしている “野依良治さん” です。

日本人のノーベル賞受賞者は確か１８人だったと思いますが、その内の５人がこの国道４１号沿線に関係している、というのも面白いですね。



“飛越ふれあい物産センター 林林（りんりん）” というのが、ここの正式な名称です。
物産館と食事処がここにはあります。





店内は意外と広く、中心部にレジがあります。
自然豊かな山の中なので、物珍しいものが並んでいました。



“山うど” や “わらび” の缶詰！？



“山うど” を味噌みたなものに漬けている！？



“えごま” って何だ！？

でも、結局買ったのはお寿司で、それを昼食代わりにしました。
さて、あまり時間がありません。
次は一気に富山湾沿岸まで走ります。



ホタルイカの海！“ウェーブパークなめりかわ”

岐阜県との県境の 「細入」 から一気に富山湾まで北上して向かったのは
道の駅ウェーブパークなめりかわ です。

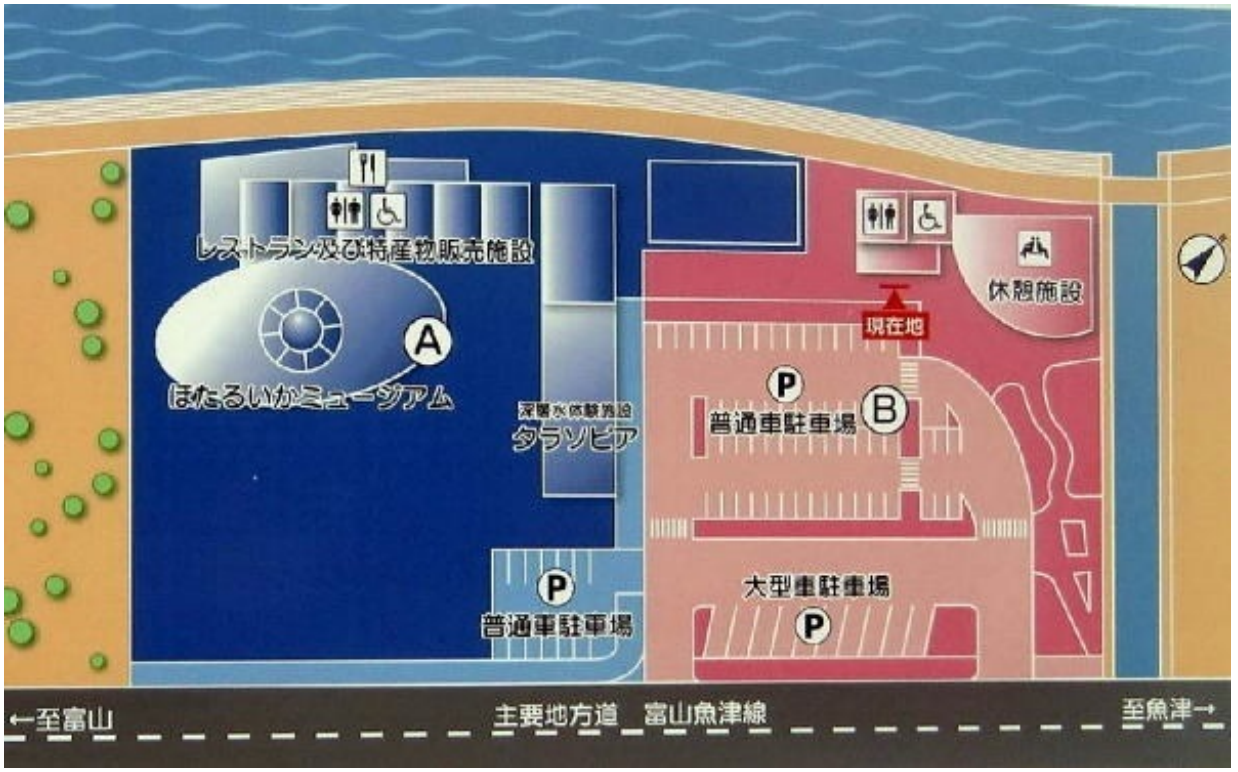



富山湾
富山ジャンボスイカ
ブリ・フクラギ
シラエビ
ますの寿し
ウェーブパーク
なめりかわ
新湊市
下村
岩瀬浜駅
魚津駅
魚津IC
黒部駅
黒部IC
朝日IC
入善町
うなづき
富山地鉄本線
黒部市
魚津市
滑川IC
立山IC
富山IC
富山市
舟橋村
北陸自動車道
上市町
立山町
富山空港
下熊野
大沢野
八尾
天湖森
神通峡
大山
有峰ダム
立山黒部アルバンルート
称名滝
細入
飛越ふれあい物産センター
林林


道の駅
ウェーブパークなめりかわ
Wave Park Namerikawa



細入からは１時間弱の距離でした。
道の駅のすぐ背後には富山湾の海岸があります。

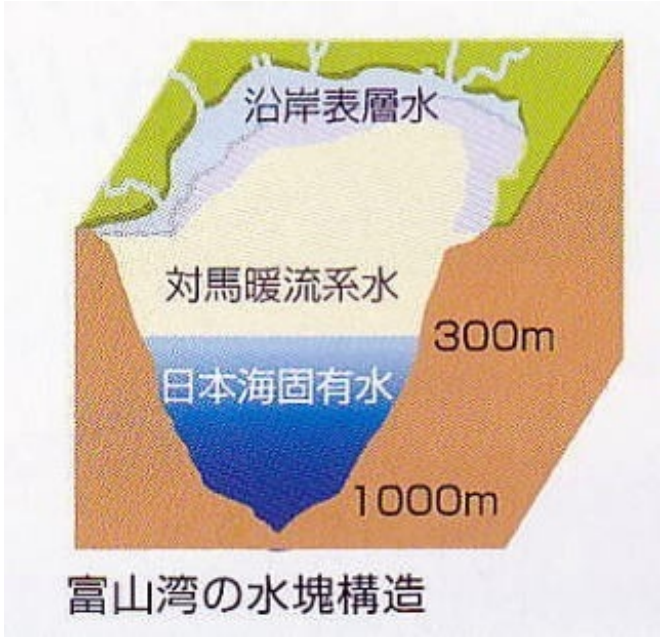


最初に全体図をお見せすると、このように “ほたるいかミュージアム” “レストランおよび特産物販売施設” “タラソピア” それに “休憩施設” からなっています。





まず中央にある建物が、“深層水体験施設「タラソピア」”です。
以前にも触れましたが、富山湾は全国でも最も水深の深い湾の一つです。



水深２００ｍ以上の海水を“深層水”といいますが、海水の比重が重いので表層の海水と混じることはありません。
そして、私たち「ヒト」に必要なマグネシウム、カルシウム、カリウムなどのミネラル成分を豊富に含んでいるため近年特に注目されています。

ここタラソピアでは、水深３３３ｍから汲み上げた深層水を使って、様々なリラクゼーションが行われます。



この案内に従って進むと、そこが “ほたるいかミュージアム” です。



右手が先程の “タラソピア”、正面が“レストランおよび特産物販売施設” そして左手に “ほたるいかミュージアム” があります。



最初に特産物販売施設に入ってみました。







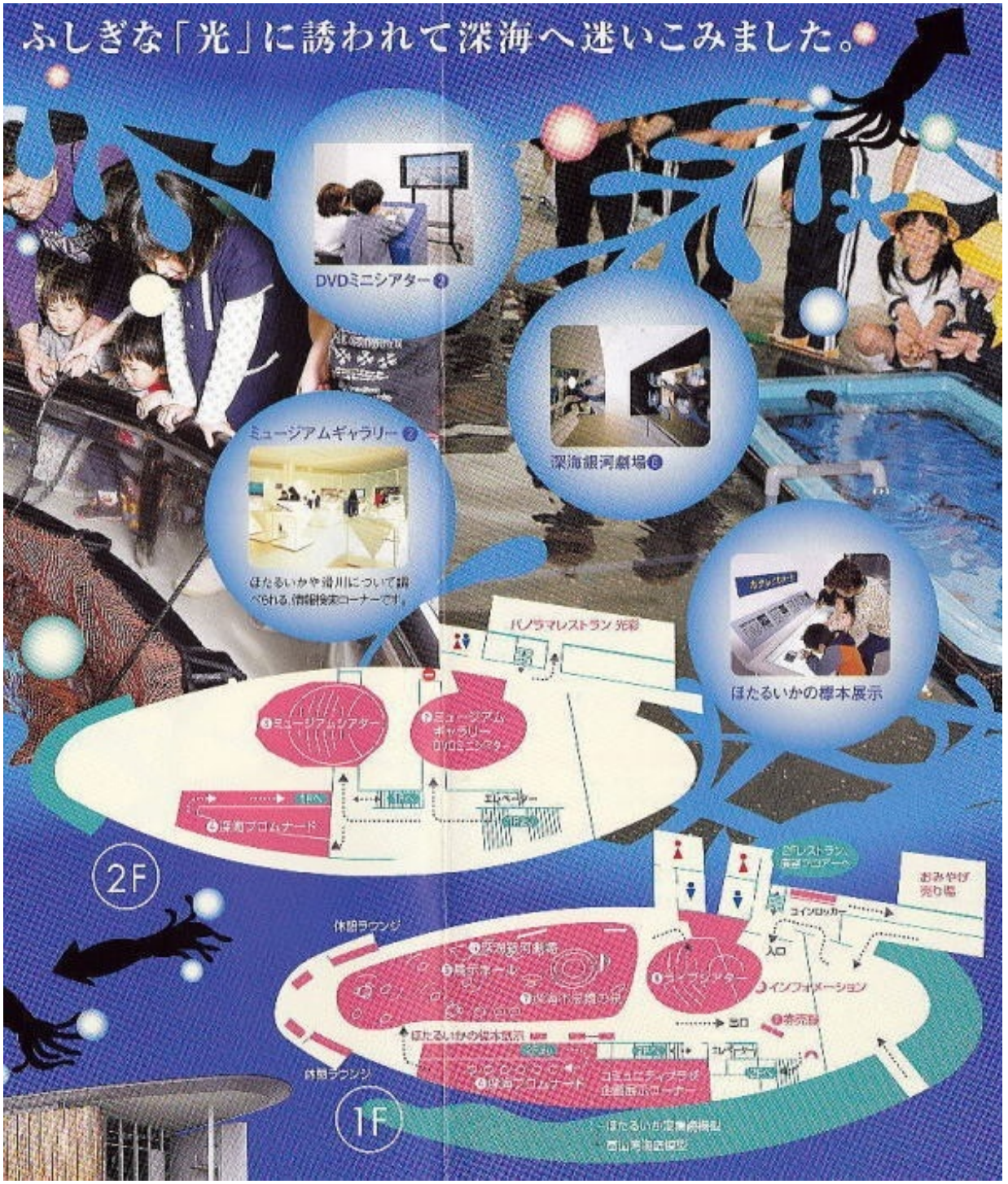
ここには、ホタルイカの加工品をはじめとする様々な水産加工品が販売されています。
でも、ホタルイカの土産は、他の道の駅で買ってしまったしな～

更に進むと、“ほたるいかミュージアム” の入り口があります。





受付カウンターに３～４人のお嬢さんがいましたが、誰もお客がいなくて、手持無沙汰にしていました。



富山湾はホタルイカで有名です。
ホタルイカは通常水深が２００ｍ～６００ｍの光が届かない深海に棲んでいますが、春になり産卵の季節になると群れをなして富山湾沿岸に集まってきて、接岸と離岸を繰り返します。

ですから富山湾で獲れるホタルイカの９９パーセントは産卵期を迎えてまるまると太った雌で、深夜に深海から浮上して産卵し、明け方沖へ戻るときに待ち受けた定置網で捕獲します。

目や皮膚に多数の発光器をもつホタルイカは外敵に襲われたり、網に触れると青白い光を発します。
相手を威嚇する為なのか、自分の影を消して敵を欺く為なのか、詳しいことはわかっていません。

このミュージアムでは、ホタルの発光ショーがあります。
ただ、３月から５月は本物のホタルイカですが、それ以外の季節は実物がいないために、本物そっくりのレプリカと光ファイバーでホタルイカの発光を再現するのだそうです。

さて、ここにスタンプがあったので早速押しました。

残念ながらミュージアムを見学する時間まではありません。

駐車場へ戻る途中に、嫁が思い出したように「さっきのスタンプだけど、道の駅って書いてあった？」
そういえば、と思ってみてみると　・・・・・・。





「ほたるいかミュージアム」とは書いてあるけど、道の駅とはどこにも書いてない！(ﾉﾟoﾟ)ﾉ

じゃあ、どこにあるの？ってことで、最後に残った「休憩所」へ行ってみると　・・・・・・。





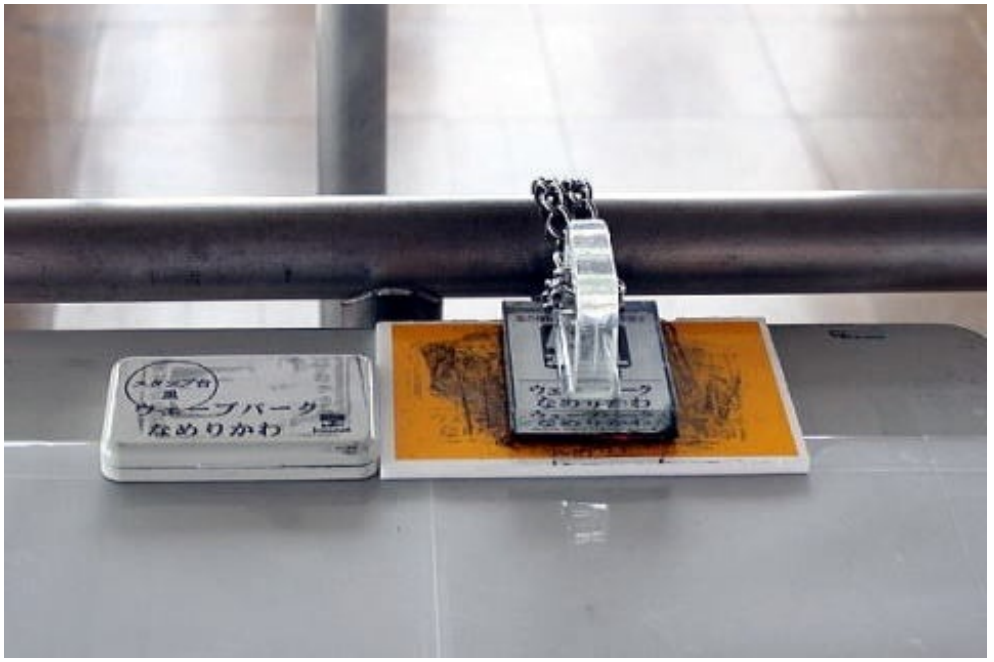
ここに道の駅って書いてあるよ！



ここはまさしく “休憩所” で、がらんとして何にも無い！
でも　・・・・・



道の駅の登録証があり　・・・・・・



道の駅の、本物のスタンプがありました　・・・　。ヽ(゜◇゜)ﾉ

でも、多分みんなミュージアムや特産品発売所の方に先に行くんじゃないかな～



トロッコ電車の起点！“うなづき”

３日目の最後の目的地は、宇奈月温泉で有名な
道の駅うなづき　です。





“黒部市宇奈月町” は、黒部渓谷の雪解け水が流れる黒部川扇状地の根元にあり、温泉と観光の町です。

宇奈月温泉は “黒部渓谷トロッコ電車” の起点でもあり、私の計画は道の駅うなづきのあと、このトロッコ電車に乗って、全線は無理だけど１駅だけでも往復してみよう、ということでした。



（イメージ写真）

道の駅うなづきは、北陸自動車道黒部ＩＣから６ｋｍ程の距離ですが、私は一般道を走ったので滑川から４０分ほどかかり、到着したのが１６時をちょっとだけ過ぎていました。





この道の駅は黒部ＩＣから宇奈月温泉に向かう途中にありましが、周囲は田園風景です。
ここの特徴は、地ビールの製造工場があることです。





この大きな建物が、ビール醸造工場併設のレストランで、“ブルワリーレストラン「宇奈月麦酒館」”といいます。



ここは喫茶部で奥にレストランがありますが、さすがにこの時間はがらんとしていました。

宇奈月のビールは、「十字架」「トロッコ」「カモシカ」という３種類の銘柄があります。
３０００m級の山々から流れ落ちる黒部の名水と、地元宇奈月の大地が育む“黒部産二条麦”を原料とした宇奈月ビールは、数々の賞を連続して受賞しています。



でも、残念ながらここで味わうわけにはいきません。



ビール工場の向かい側にあるのが、土産品などを扱っている “うなづき食菜館” です。


お会計

ここの商品は　・・・・　というと　・・・・。


宇奈月ビール
黒部の月
麦芽100%ビール（ピルスナー）
黒部の月
350ml・1本
390円
3種
宇奈月ビール
390円
1,150円
추천





缶ビールが欲しかったけど、荷物になるしな～(´__｀。)

ここではあまりゆっくりできないので、トロッコ電車の乗り場に急ぐことにしました。
道の駅から宇奈月温泉までは８ｋｍほどの道のりです。
旅館の立ち並ぶ温泉街を抜けると、宇奈月駅の駅舎が見えてきました。



この黒部渓谷鉄道は、元々電力会社が黒部渓谷の電源開発の為の工事用資材運搬の為に作ったものです。
大正１５年にまず “宇奈月～猫又間” が開通し、現在の “欅平” までの総延長２０．１ｋｍが完成したのは昭和１２年です。

世紀の大工事といわれた “黒部川第四発電所（クロヨン）” が完成したのも、この鉄道があったからです。

かつて住民の希望によりヒトを乗せるときは、「生命の保障はしません」 という一筆を切符の裏に書き、了承のうえ乗車させたのだそうです。
昭和４６年に関西電力から独立し、黒部渓谷鉄道として富山県を代表する観光スポットのひとつになっています。

さて、駐車場に向かったのですが、何か様子が変です。



広い駐車場にほとんど車は無く、管理人もいません。
入り口の案内をよく見てみると　・・・・・。



最終が１５時４０分だ～　(￣□￣;)!!

そして今の時間は、１６時半！
あちゃ～　((>д<))

もっとも、最終便に間に合ったとしても帰りの電車があったかどうか分かりませんね！

一日で “立山黒部アルペンルート” と “黒部渓谷トロッコ電車” の両方を制覇しようというのは、元々無謀過ぎたことに、今頃やっと気がつきました。


道の駅
うなづき
UNAZUKI
宇奈月麦酒館

全国一のチューリップの町！“砺波”

富山市内の 「名鉄トヤマホテル」 に連泊し、４日目の朝を迎えました。
この日は朝から激しい雨！
ホテルから駐車場まで少し距離がありますが、傘を差してもかなり濡れてしまいました。

４日目は１０か所の道の駅を回りますが、その最初は
道の駅砺波（となみ）　へ向かいます。



このように富山県内陸部を主に回り、最後は “白山スーパー林道” を通って石川に抜け、金沢市内に宿泊する予定です。


道の駅
砺波
Tonami
フラワーランドとなみ
Flower Land Tonami


道の駅
フラワーランドとなみ
文化会館・美術館
チューリップ公園
チューリップ四季彩館
散居とチューリップのまち となみ
砺波I.C



道の駅は国道１５６号沿いの大きな交差点の角にあるのですが、ちょうど駐車場に停めると、何か付近が騒がしいのです。
信号を挟んだ向かい側の工場らしいところに、たくさんの消防車や救急車が集まってきて、消防隊員があわただしく走り回っています。





大型水槽車なる見慣れないものもかけつけてきています。

信号のところで眺めていたら、道の駅のトイレの掃除をしていたおばさんが出てきて、「カミナリだろう！？ものすごい音がしたもの！」と声をかけてきました。

しばらく見ていましたが、救急車も結局誰も乗せずに走り去ったし、少しづつ解散していましたから、結果的には大した被害は無かったのだろうと思います。



おばさんが掃除をしていたトイレの横を通って、建物にはいってみました。



ここは情報コーナーの雰囲気で、パンフレットなどは並んでいますが、スタンプが見当たりません。
カウンターにいたおねえさんに尋ねると、道の駅は信号を渡った向こう側です、と教えてくれました。

元々はここだったのが、新しい施設ができてメインが移ったのだそうです。



先程の火事騒ぎの工場と反対方向に、立派な建物が建っています。



ここは農協の直売所がメインのようです。


となみ野の郎


となみ野の郎





中は新しくてとてもきれいです。
土産物の中に、こんなものを見つけました。



すごく可愛かったので、親戚の子供の土産に買って帰ったのですが、ここ “富山県砺波市” は、全国に誇る “チューリップ” のふるさとなのです。



富山県は、全国一のチューリップ球根生産県なのですが、そのルーツは９０年ほど前にこの地で、わずか１０個の球根からチューリップ生産に挑んだ「水野豊造」という若者です。

富山はご存知の通り豪雪地帯ですが、この雪が地中の温度と湿度を一定に保ち、球根栽培には恵みになるのです。
球根は水田の裏作として秋に植えられ、翌年春に芽を出すまで雪の下でじっと耐えます。
そして根を伸ばし、萌芽して肥り始める４～５月は水をたっぷり必要とし、収穫期の６月は逆に水を嫌います。

雪解け水による灌漑用水が豊富で、水はけのよいこの富山の地は球根栽培に最適の土壌なのだそうです。

球根の出荷量のみならず、その品質の良さ、オリジナル性から、砺波のチューリップは全国一の地位を保っています。



道の駅のすぐ近くには “チューリップ公園” や “チューリップ四季彩館” “花総合センター” などがあります。

立山連峰を背景に、一面に咲き誇るチューリップの畑を一度見てみたいものです。




ROUTE 156 TONAMI
道の駅 フラワーランドとなみ

歴史と遺跡の町！“メルヘンおやべ”

相変わらずの雨の中を、本日２か所目の、
道の駅メルヘンおやべ へ向かいました。







まず “富山県小矢部市” の位置ですが、この地図が分かりやすいと思います。



富山県の一番西になりますが、どこへ行くにも便利な場所にありますね！
この地図は小矢部市が作った冊子をコピーしたのですが、この小矢部市、市内に住む人を増やす目的で、いろんな優遇施策を行っています。

例えば市外から転入して家を新築・購入した人には１００万円を贈呈したり、市外から転入して民間の借家に住めば１年間毎月１万円を提供（新婚さんの場合は２年間）、すべての家庭の中学３年生までの医療費が無料、といった具合です。

全国どこの地方都市も人口の減少が悩みの種のようですが、このような積極的な施策を行っている都市もあるのですね。







メルヘンおやべは、２００９年１０月にオープンした、富山県では一番新しい道の駅です。
平成５年に完成した国道８号バイパス沿いにあるのですが、このバイパスの工事中に、縄文時代から奈良・平安時代に至る数々の遺跡や史跡が発見されました。

今回のシリーズの３番目に紹介した“道の駅倶利伽羅源平の郷”は距離的にここから近いのですが、その中にでてきた「木曽義仲」の火牛の計で平家を打ち破った古戦場もそのひとつです。

ですから小矢部には木曽義仲の史跡を巡る観光コースがあり、“源平火牛祭り”などの祭りも行われます。

■木曾義仲（源義仲） きそよしなか（みなもとのよしなか）

平安時代末期の信濃国(今の長野県)の武将。源頼朝・義経とは従兄弟にあたる。27歳で挙兵。倶利伽羅峠で平家の大軍を破って上洛し、平家を都落ちさせ無血入京を果たす。その後、頼朝が派遣した義経らの軍に敗れ、31歳で討ち死にした。



■巴御前 ともえごぜん

その生涯は謎に包まれており、「平家物語」によれば「色白く髪長く、容顔まことに優れたり」という美人で、「強弓精兵、一人当千の兵者（つわもの）」であったという。幼い頃から義仲とともに育ち、義仲挙兵後も女武将として付き従った。
最後の戦いでは、義仲とともに死ぬことを願ったが、義仲に諭され泣く泣く落ち延びていったという。



木曽義仲って、源頼朝や義経のいとこだったのですね！
いとこである源義経に打ち果たされたとは知りませんでした。



さて、話を道の駅に戻し、全体の配置はこのようになっていて、ドッグランや交流広場まであります。



これが交流広場で、直径３０ｍの円形になっています。
いろんなイベントがここで行われるのでしょう。
その周囲には無料の足湯もあり、小矢部の特産のバラの花びらが浮かべられているそうです。

建物に入ると、広いロビーがあります。





そこにいたのが小矢部のマスコットである “メルギューくん” です。
“火牛の計” の故事にならって、ちゃんと角に松明（たいまつ）がくっついていますね！

そしてこちらが物産のコーナーです。





更に奥へ行くと、“フードコート” があり、その向かい側は “展示コーナー” があって、この日はなにやら絵画の展示がされていました。





ここは、販売所は８時半までですが、フードコートやテイクアウトコーナーは夜９時まで、そして情報コーナーや自販機、トイレなどは２４時間営業ですから、国道８号を走るドライバーにとっては有り難い施設だと思います。



日中友好の町！“福光”

さて、今日の３か所目は
道の駅福光　へやってきました。



今日のコースはごちゃごちゃしていて、この地図では分かりにくいですね。





この看板 “なんと一福茶屋” と書いてあって、この道の駅の愛称です。
“なんと” は、ここの住所 「南砺市」 のことです。



相変わらずの雨の中ですが、この建物、豪農の館をイメージしたものだそうで、左の方に見える２棟の白い土蔵のようなものはレストランなのです。

そしてこの駐車場の右側には、こんな建物があります。





先ほどとは全く違う中国風の建物です。
これは、“福光紹興友好物産館” といいます。
“紹興” は、紹興酒の紹興ですね。

これは中国から資材を取り寄せ、中国人の手で平成１６年に建設されました。

なぜここにこんなものがあるのでしょうか？
実はここ旧福光町（合併して現在の地名は南砺市）は、日中友好の立役者であった政治家の松村謙三氏（故人）の出身地です。

旧福光町が中国へ友好都市を打診し、中国側は「偉大な松村先生の出身地にふさわしい都市」 として、周恩来元首相の出身地である “紹興市” を斡旋し、友好都市の提携をしたのです。

ですからこの物産館は、中国唐宋時代の建築様式で建てられ、中国伝統の美術品、書画、工芸品、物産品などが展示、販売されています。





最初に紹介したこちらが “農産物直売場 いっぷく市” です。





ちゃんとここにも “中国紹興市” のコーナーがあって、中国の物産が販売されています。

道の駅スタンプは、パンフレットなどが並べてある情報コーナーにありました。
その情報コーナーには公衆電話があり、若い女性が電話をかけていました。
スタンプはその電話機の真横にあるので、電話が終わるのを待つことにしました。

ところが、その女性は１０円玉をテーブルに山のように置いて、次々に投げ入れ、一旦切れたかと思うと又かけ直しています。
そして、話しているのは　・・・・　中国語！
多分中国の実家にでも電話をしているのでしょう。

終わりそうにないので、「すみません・・・」といって避けてもらい、ようやくスタンプをゲットすることができました。



この中国人のお姐さんも友好都市の関係で来日しているのでしょうか？

Skype でも使えば、あんなに大量のコインを用意せずとも、無料で世界中話ができるのに・・・。
教えてやりたい衝動に駆られました。(;^_^A


なんと一福茶屋
道の駅
福光
FUKUMITSU

大ホールを持つ！“庄川”

相変わらずの雨の中を
道の駅庄川　に到着しました。



この付近、これから行くところも含めて、道の駅が結構集中しています。



ご覧の通り、比較的近い距離で道の駅がありますから、回る者にとっては好都合です。
この地図の「赤マル」 が、目的の道の駅庄川です。





ここは世界遺産登録の五箇山、岐阜、金沢への分岐点となる交差点の角にあります。





激しく雨が降っているのが見えますでしょうか？
しばらく車から出るのもためらわれた程です。



こちら側の入口は “団体様入口” と書いてあります。
観光バスなどが停まるのでしょうね！



入口には、七福神がいます！

団体様入口は遠慮して、正面の入口から入ってみました。





ここの配置図が見当たらなかったのですが、この物産館があって、その隣がレストランです。



そしてこの情報コーナーがあり、その先は “ホール” になっています。
この多目的ホールは何と、240名も収容できる大ホールです。

道の駅というだけでなく、地域のイベントなどがここで行われるのでしょう。



ここで土産に買ったのが、この ”やま柿” です。
干し柿を加工したお菓子ですね。

能登半島は以前紹介したとおり “ころ柿” という干し柿の産地ですが、前の道の駅で買わなかったのが少し気にかかっており、この幟につられて衝動買いしました。

この日は、この大雨のせいでしょうか、ほとんど他にお客を見かけません。
大ホールがあるほかは、普通のドライブインのイメージだし、ちょっと特徴に乏しい気がしました。



木彫りの里！“井波”

次は庄川からわずか２ｋｍしか離れていない
道の駅井波　へやってきました。





車でわずか5分の距離に２つの道の駅があるのも珍しいです。


道の駅
井波
Inami
いなみ 木彫りの里
Inami Kibori no Sato
井波彫刻総合会館
Inami Wood Carving Composite Hall


井波
彫刻会館



ここはかなり大きな施設のようです。
建物がいくつもあって、どれが道の駅本体なのか見ただけではわかりません。



そして駐車場で出迎えたのがこの巨大な 七福神の彫刻です。
人がいないので分かりにくいかもしれませんが、高さは４ｍあります。

手前の腰掛けで、団体さんが記念写真を撮るらしいです。

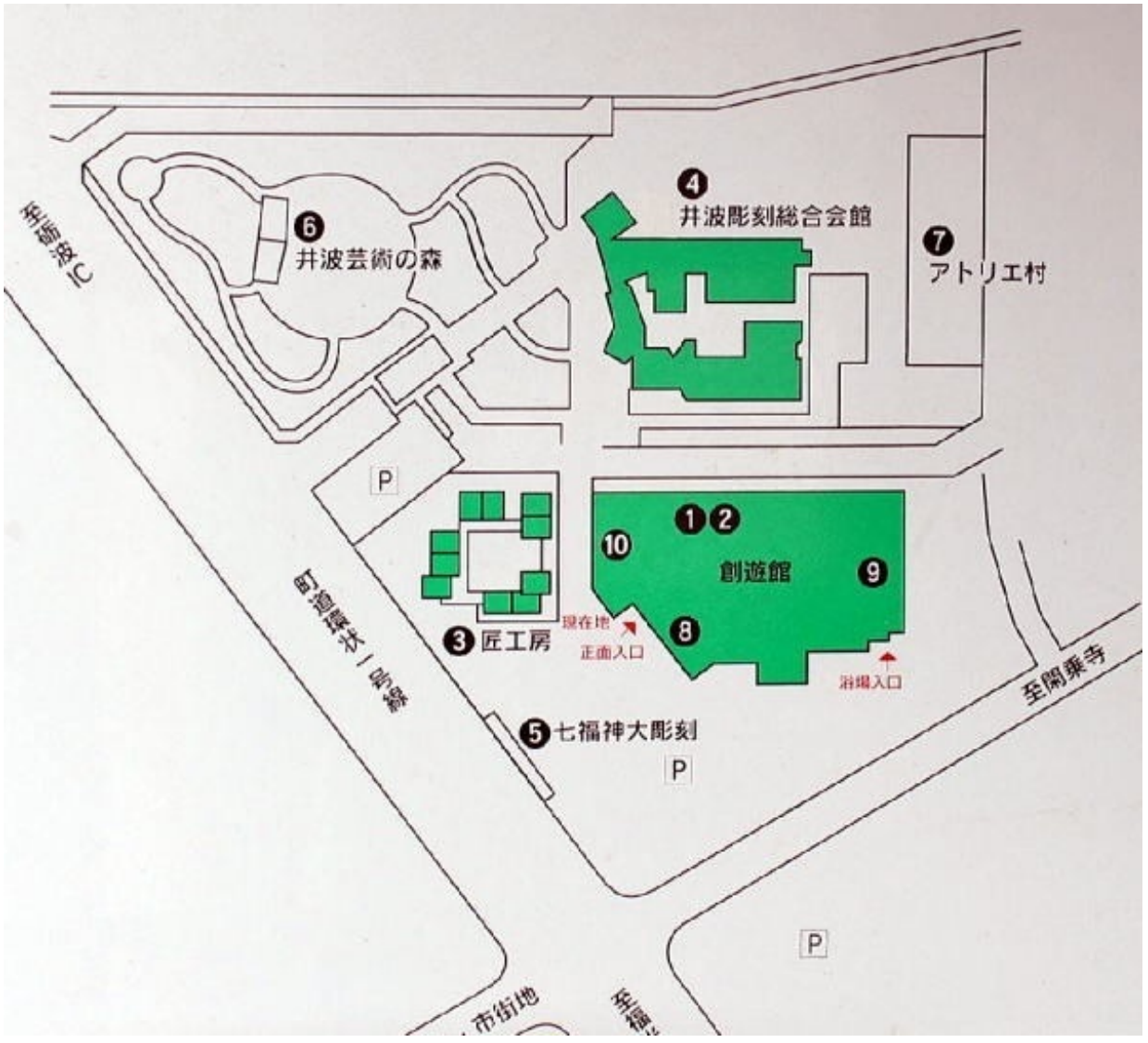


私たちがくるまを停めた右端の方は、温泉の入り口になっていました。





ここはちょっとした町のようにいくつもの建物があって、それぞれお店やら工房やらが入っています。



略図がわかったので、とりあえず奥の方に歩いてみました。





ここは “井波彫刻総合会館” という建物です。
井波は彫刻の町で、この施設全体を “木彫りの里” といいます。
伝統工芸品である 「井波彫刻」 がここの特産品なのです。

井波は北陸最大の木造建築を誇る “瑞泉寺” の門前町として栄えた信仰と木彫りの町です。

“瑞泉寺” はこの道の駅から歩いて１０分ほどの距離なのですが、この “井波彫刻総合会館” は、その瑞泉寺の伽藍配置をモデルにして、イギリスの建築家のデザイン設計により建てられました。

中までは入らなかったのですが、建物の周りにもたくさんの彫刻があります。





そしてそこからちょっと下ったところに “井波芸術の森” という公園がありました。





雨上がりで、特に樹木がきれいです。
そしてこの公園にもたくさんの前衛的な彫刻が配置されています。



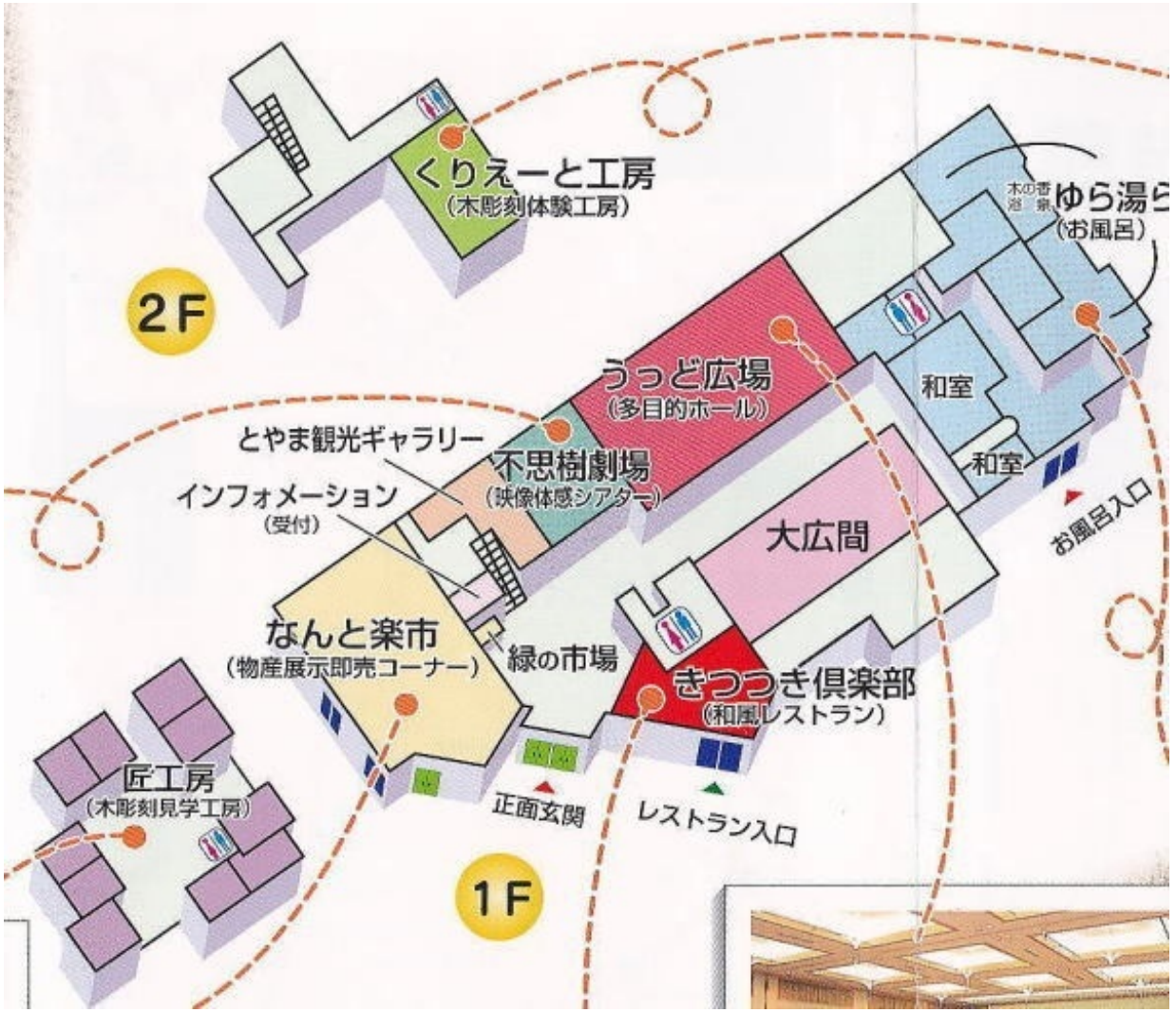




さて、建物の方に戻ってみましょう。



ここは “創遊館” といって、木彫りの里の中心となる建物です。
その中はこのようになっています。



最初見た温泉も、この建物の一部だったのですね！







かなり大きな施設で、まん中のロビーにはこんなものもあります。



井波の伝統工芸を後世に伝えるための総合施設、素晴らしいと思いました。


いなみ
木彫りの里 創遊館
七福神
道の駅
井波
Inami


道の駅
井波
Inami
いなみ
木彫りの里
創遊館


越中いなみ 木彫りの里

スタンプが3種類もあったので、全部押しました。（笑）

辺境の山里！“利賀”

再び降り出した雨の中を、次に向かったのは
道の駅利賀（とが）　です。





ご覧の通り井波の道の駅から距離的には１１km程しか離れていないのですが、メインの国道１５６号を離れ、山の中に分け入らなければなりません。

この山の中の国道４７１号、途中から冬季は通行止めになってしまいますが、ほとんど “スノーシェルター” の連続です。



道路は２車線なので危ない箇所はありませんが、かなり曲がりくねった山道を進みます。



道の駅はその中腹、利賀村の中心まではまだ１１ｋｍの位置にありました。



この先にもまだスノーシェルターが続いているのがわかりますね。
そしてここの海抜は“５３３ｍ”という表示があります。



この道の駅に着いた時、再び雨脚が強くなってきました。
駐車場はかなり広いのですが、停まっているのは私たちのレンタカーだけ！

そして建物もこの二つだけで、右側の小さいのはトイレです。





雨の中を傘をさして撮っているので、写りの悪いのはご勘弁を！
とりあえず中に入ってみました。





ちょっとした売店と食堂があるだけですね。
おじさんがひとりでおられたけど、一言もしゃべらず！



商品も雑然と並んでいる感じ！
そしてこんな辺境の道の駅にもこれが・・・！



マグネットって、結構浸透してきているのかな？

なにか居ずらい雰囲気で、スタンプを押したらさっさと退散しました。



豊かな自然と人情がお出迎え

道の駅「利賀」

Toga



まあ、すごくシンプルだけどこの山道を通るドライバーにとっては唯一のオアシスでしょう。
それに、この日はあいにくの雨で何も見れなかったけど、この場所は落差３５０ｍの谷を見下ろす絶景ポイントであり、近くには名水 「脇谷の水」 が湧き出る癒しのスポットもあるそうです。

天気が良ければこの海抜５３３ｍからの眺めは素晴らしかっただろうと思います。



和紙のふるさと！“たいら”

利賀の道の駅から今来たスノーシェルターの山道を引き返し、再び１５６号に戻って
道の駅たいら　に向かいました。





日本屈指の豪雪地帯である、世界遺産“五箇山（ごかやま）”の山中にいよいよ入ってきました。





雨は相変わらず降ったり止んだりの状態ですが、この雨上がりの山の景色というのはことのほか奇麗です。

道の駅の裏側にでると大きな橋がかかっていて、これまた絵になる風景が広がります。



日本の原風景を見るようで、このような景色がとても好きです。

さて、道の駅ですがここもとても大きいので、まず配置図を最初にお見せしましょう。



このように物産館、情報交流センター、和紙工芸研究館、和紙創作体験館、とあり、ちょっと離れた高台には、五箇山を象徴する合掌造りの郷土館があります。



まずこれが、“物産館 「朝あけ」” と “レストラン「ふるさと」” の建物です。



このように物産館とレストランの入り口が並んでいますね！
物産館へ入ってみます。



ここは五箇山の特産品を扱っていますから、珍しいのが色々あります。





こうやって並んでいるとどうしても欲しくなります。
私たちは豆腐の燻製と赤かぶらを買い求めました。

さて、その隣にあるのがこちらの建物です。



もう一度配置図を見てみましょう。





道の駅の本体である “情報コーナー” がまずあります。



スタンプもここにありましたが、五箇山の観光情報がここに集約されています。
五箇山といえば、世界遺産である合掌造りの山村が有名です。

世界遺産といえば “相倉合掌造り集落” と “菅沼合掌造り集落” がありますが、ここの情報によると、今から行く次の道の駅までの途中にあるようです。
今回の旅行の大きな目的の一つがこの集落を訪れることなので、位置関係がわかり安心しました。



そして情報コーナーをそのまま進むと “和紙の里” に続きます。
五箇山の和紙は、「越中和紙」 と総称し、国の伝統工芸品に指定されています。

古くは１２００年程前の平安時代に正倉院宝物として朝廷に献上され、江戸時代は加賀藩でも重用されています。
そして京都・桂離宮の解体修理の際、特に指名されるなど、特に品質の高い和紙として五箇山の和紙は歴史を刻んできました。

ここ和紙の里の展示・販売コーナーには実に様々な和紙を使った工芸品があります。
そのいくつかをご覧いただきたいと思います。









写真ではうまく伝わらないかもしれませんが、普段和紙などには縁も関心も無い私でも本当に美しいと思いました。

さて、最後に一番奥にあるのが “体験コーナー” です。



ここでは実際に自分で紙すきを行い、はがきやしおり、うちわ等を作ることができます。

この道の駅、景色もさることながら、一度は来てみる価値があると思いました。
さて、これから念願の世界遺産の合掌造り集落を見に行きます。

日本の原風景！“菅沼合掌造り集落”

五箇山といえば合掌造りですね！
次の道の駅へ行く前に、
菅沼合掌造り集落　に立ち寄りました。



ここは先程行った “道の駅たいら” と、次に行く “道の駅上平” の間にありますが、その位置関係は次の通りです。



１９９５年１２月にユネスコの世界文化遺産に登録されたのは、ここ五箇山にある “相倉合掌造り集落”　“菅沼合掌造り集落” それに岐阜県の “白川郷” の３ヶ所です。

道の駅たいらから国道１５６号を南下すると、最初に “相倉集落” への案内看板があります。
ただ、ここは１５６号から２ｋｍ（だったと思う）入ってゆかねばならないので、今回はパスしました。

相倉の場合は、集落の全３２戸のうちの２０戸が合掌造りで、約６０名の地域住民がそこで生活されているそうです。

国道１５６号を更に進むと、その国道沿いに “菅沼合掌造り集落” はあります。



案内看板に従って坂道を斜めに下ってゆくと駐車場があります。
駐車場のおじさんに 「保存協力金」 という名目の５００円を支払うと、案内のリーフレットを渡され、こんなふうに回ったがいいよ、と親切に教えてくれました。

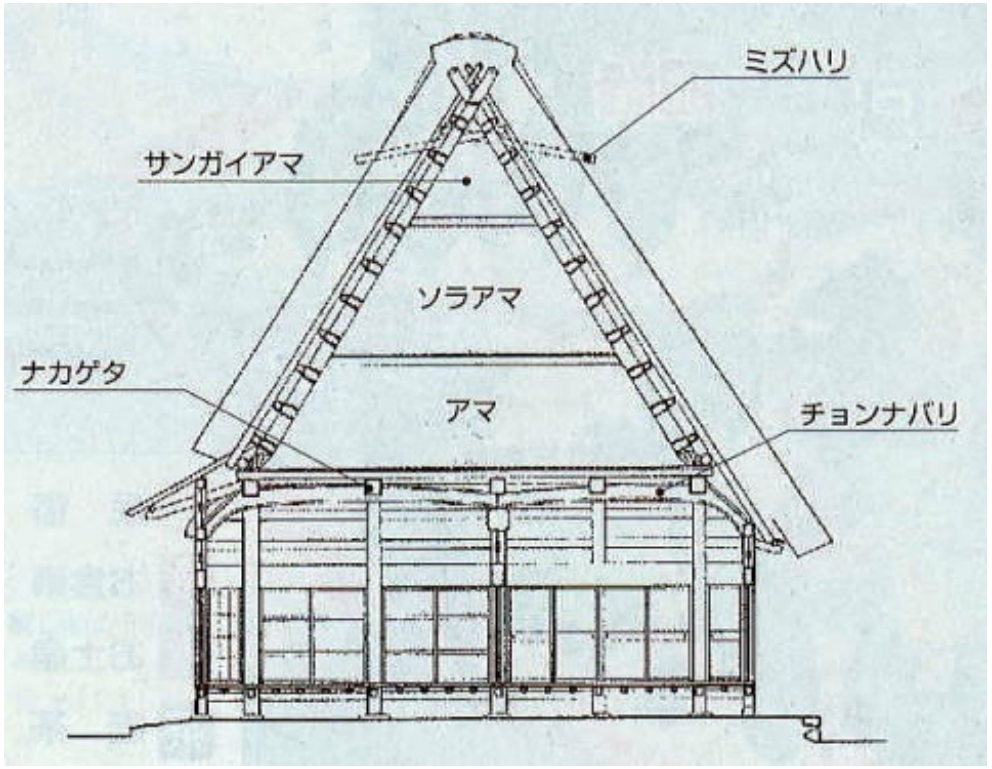






菅沼集落には、９棟の合掌造りが現存するそうですが、数えてみるとどうもそれ以上あります。
１００年から２００年前のものが多く、最も古いのは４００年前に建てられたのだそうです。

ご覧の通り屋根の勾配が急で、６０度あります。
断面が正三角形に近く、雪が滑りやすい構造になっています。



この図に“チョンナバリ”というのがありますね。
これは根元の曲がった太い築で、自然に曲がったナラ材を用います。
これが、この大きな屋根を支えているのです。

合掌造りの組み立てには一切釘を使わず、縄とネソと呼ばれるマンサクの木を使います。



こうやってみると縛ってあるのが分かりますね。

雪深い、厳しい環境の中に暮らす人たちの、合理的で安全に平穏に暮らすための知恵が凝縮されており、日本人の偉大な発明といえると思います。





こんな風景もあり、ちょっぴり癒されます。

さて、こんなお店がありました。



ここには様々な民芸品があり、地域のおばあちゃんたちが手作りで作るのだそうです。
私が一番気に入ったのがこれです。



このカエルくん、黄色はお金が貯まり、グリーンは交通安全にご利益があるのだそうです。
私は、お金が欲しいので (^_^;) 黄色を買い、我が家のリビングで大きな顔をして座っております。

さて、この集落、全体はこのような配置になっています。



合掌造りが９棟以上あるのが不思議なんですが・・・・・。

実は私が停めた駐車場とは別にもう一つ大きな駐車場があり、そこへはエレベーターで行けます。

案内版に従って進み、トンネルに入ると、そのトンネルの途中にエレベーターの乗り場がありました。



それを上がったところが展望広場と駐車場があります。



ここからは国道を先程停めた駐車場まで歩くのですが、ここからの眺望が実は最高なのです。







先程黄色いカエルを買ったお店も見えます。





この集落、季節ごとにまた違った顔を見せます。

冬の深い雪に埋もれた集落、田植え前の田んぼに張った水面に映る逆さ合掌造り、紅葉の季節、まさに日本の原風景そのものの山里の集落、いつかまた違う顔を見に来たいものです。

五箇山の休憩地！“上平”

世界遺産 「菅沼集落」 から、ほんの５分ほど南下すると
道の駅上平 があります。





ここは富山県最南端の道の駅になります。
現在は南砺市になっていますが、旧 “上平村” は周りを１５００ｍ級の山々に囲まれた自然豊かな村です。
そして前回ご紹介した “菅沼合掌造り集落” をはじめとする世界遺産の村でもあります。


総合案内
お食事とおみやげ
さくら館
上平村自然環境活用センター


道の駅
上平
Kamitaira
さ さ ら 館
Sasarakan
タカンボースキー場

ご覧の通り、道の駅のすぐ前を上ってゆくとスキー場があります。
冬場は深い雪に閉ざされるのだろうと思います。



道の駅は、ちょっと見ると小学校の校舎のようにも見えます。



その左奥には、合掌造りをイメージした “珍品堂” という土産物やさんがありました。



このメインの建物を “ささら館” といいますが、土産物や飲食店が入っており、２階には団体用のレストランもあります。





う〜ん！　それにしてもお客さんがいないな〜！
手前が土産物店で、その先に飲食店が並ぶ通路があります。



通路の両側に４店のお店がありますが、珍しい岩魚（いわな）のにぎり鮨や、五箇山豆腐などの郷土料理を味わうことができます。

五箇山豆腐は道の駅たいらでも売っていましたが、ずしりと重くて堅い豆腐のことです。



このように縄で縛っても崩れないので、昔は枕の代わりにした、とか、つまづいて生爪をはがした・・・などの話が残っているそうですが、これは信じられませんね！（笑）

かつて、文明から隔絶し秘境と呼ばれた五箇山の伝統を代々受け継いできた技により、大豆本来の旨みがぎゅっと詰まっています。



道の駅のすぐ裏を流れる川は “庄川” といいますが、その先にはダムらしきものが見えました。

これだけの施設ですから、普段はもっとお客さんは多いのだろうと思います。
ただ、これまでの道の駅がすごく良かったので、ちょっとインパクトに欠ける気がしました。


道の駅 上平
五箇山
こきりこ
ささら踊り
ささら館

初めての岐阜県！“白川郷”

さて、富山県はすべて制覇できたのですが、折角ここまできたら、もう一つの世界遺産、白川郷の合掌造り集落を見ないわけにはいきません。

その前に、初めての岐阜県である
道の駅白川郷　に立ち寄りました。



菅沼集落などとの位置関係は次のようになります。



道の駅上平からは距離にしてわずか１３ｋｍ、１５分ほどで着きますが、途中岐阜県にはいったかと思うと、しばらくすると富山県に戻り、何度か県境を越えるのを繰り返しました。





“白川郷” って響き、すごく良いですね！
ここから白川郷の合掌造り集落までは車で５分程度の距離です。





ここも合掌造りのイメージの建物です。
でも、道の駅の本体はここではなく、その右隣に情報コーナーと販売所があります。





ここには、白川郷ならではのお土産品が揃っています。



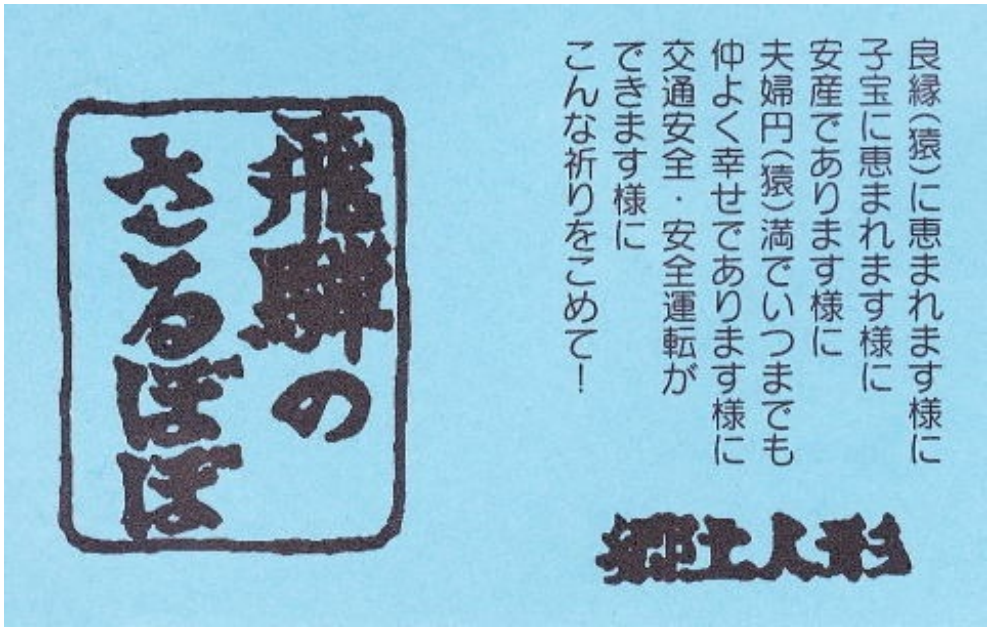

合掌みそ

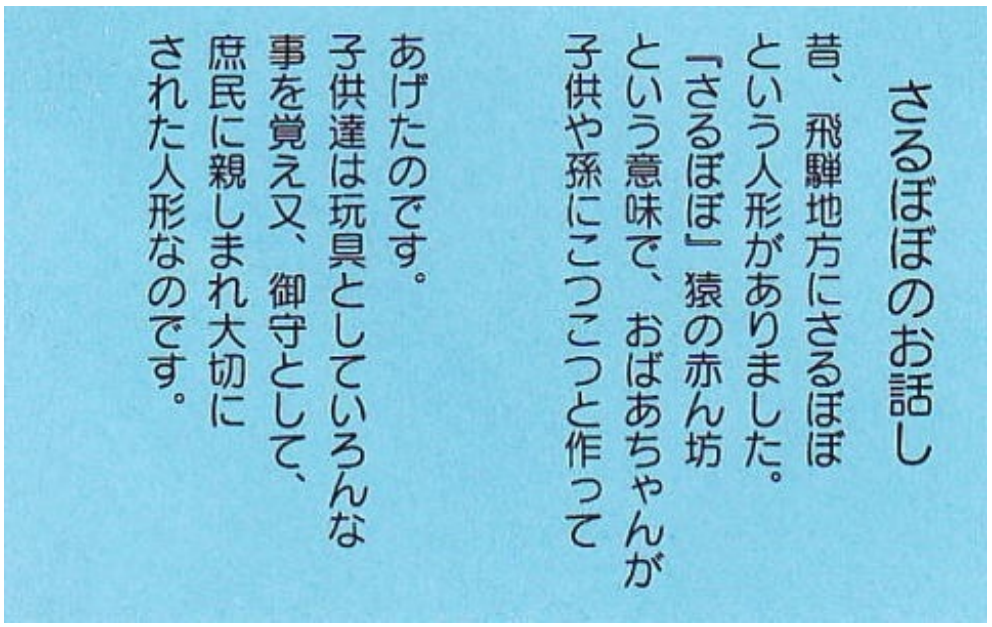


そしてここには、私が一番欲しかったものがありました。
「俺です」 さんのブログで知った、飛騨の民芸品 “さるぼぼ” です。



ここには、大小様々なさるぼぼがいっぱい！
“さるぼぼ” の説明は、手抜きでこちらをご覧ください。





まあ、素朴ですごく親しみがあります。
ということで２個お買い上げ！

その１個は、私のスマホのストラップに！



鈴がちゃらちゃら云って、すこしうるさいんだけど・・・・。

もう１個は、例のごとく冷蔵庫の側面にマグネットで張り付いています。



隣は、五島列島の “バラモン凧” です。
友達になれたかな？

そしてこの道の駅、初めての岐阜県であると同時に、初めての中部エリアなのです。
そこで、・・・・　これを手に入れました。



中部の道の駅スタンプブックです！
これを見ると、他のエリアみたいに「期限」が無いようですね。

この中部エリアを制覇すれば、これを貰えます。



これは見本のようですが、ヒノキで作られた道の駅全駅走破認定証です。

欲しいな～！
特に岐阜県、長野県は私の好きな地域ですから、早く回りたくなりました。

北陸を今年終わらせるとして、来年は中部かな～
それとも本来なら今年回るはずだった東北の太平洋側３県か？

う～ん！迷うな～！
まあ、それは北陸が済んでから考えることにして、次はいよいよ白川郷合掌造り集落へ向かいます。



世界遺産！“白川郷合掌造り集落”

道の駅白川郷で道順を聞き、わずか５分で
白川郷合掌造り集落　へやってきました。



ここは正式には、“飛騨白川郷　萩町合掌造り集落” といいます。

“相倉合掌造り集落”　“菅沼合掌造り集落” と並んで、１９９５年１２月にユネスコの世界文化遺産に登録されました。
“相倉” は２０棟、“菅沼” は９棟に対し、“白川郷” には１１３棟の合掌造りがありますから、規模としては圧倒的に大きいと言えます。



国道１５６号は途中右折してバイパスになっていますが、そのバイパスから斜めに下りる道があり、その先にいくつかの有料駐車場がありました。
その駐車場で渡された地図を頼りに散策開始！





確かにここには随分とたくさんの合掌造りがありますが、先に菅沼集落を見てきたので、少し感激が薄れていました。(^_^;)

ここは貸し切りバスも停まっていますが、一般のバス停もあります。



私が停めた駐車場からは、庄川にかかる “であい橋” を渡ってメインの集落に向かいます。



あちゃ！ボケてる！Σ(゜Д゜)

橋を渡ると、旧１５６号沿いにたくさんの集落がありますが、合掌造りとそうでない建物が入り組んだ感じです。









山裾にたくさんの民家があり、お寺もやはり独特の屋根をしています。
この白川郷集落の特徴は、宿泊施設、食事処、土産物店が実にたくさんあることです。
そして、勿論観光客も多いです。

言いかえれば、相倉、菅沼の集落と比べると観光地化し過ぎているように私には思えました。





ここが “明善寺庫裏” といって、この集落で一番大きな合掌造りだそうです。



いたるところで、写真を撮り合う観光客があふれています。

一番最初にここを訪れたら印象はまた違っていたかも知れませんが、菅沼の集落で見た “日本の原風景” の素朴さがやや失われつつあるように感じました。
あまりにも有名になり過ぎたのかもしれません。

さて、白川郷の観光もこれで終わりました。
これから、“白山スーパー林道” を走って、再び石川県を目指します。

白山スーパー林道をゆく！“瀬女”

岐阜県の白川郷集落をあとにして、これから白山スーパー林道を走って
道の駅瀬女（せな）　へ向かいます。



岐阜県の白川郷から石川県へ向かうとすれば、通常なら東海北陸自動車道を富山県の砺波まで戻り、そこから北陸自動車道に進路をとらなければなりません。

これを一気に短縮できるのが “白山スーパー林道” です。



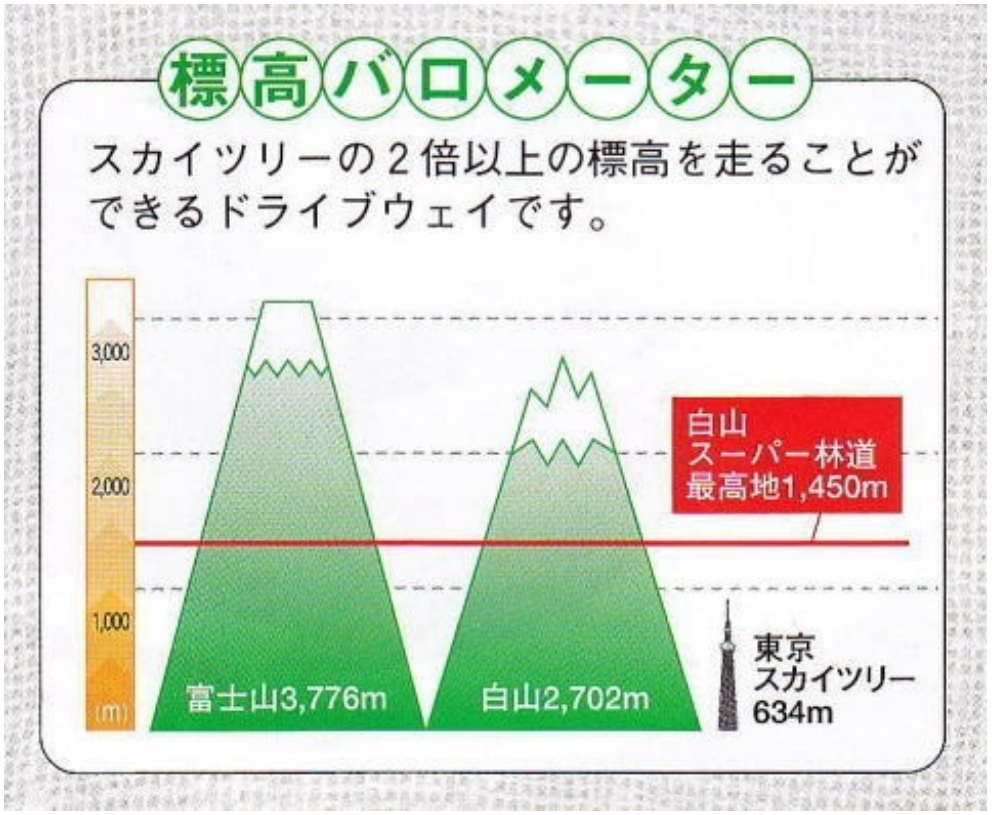
このスーパー林道のルートをまず説明しましょう。



白川郷から、一気に目的地である石川県の “道の駅瀬女” に繋がっていますね。
もっと詳しく見るとこうなります。



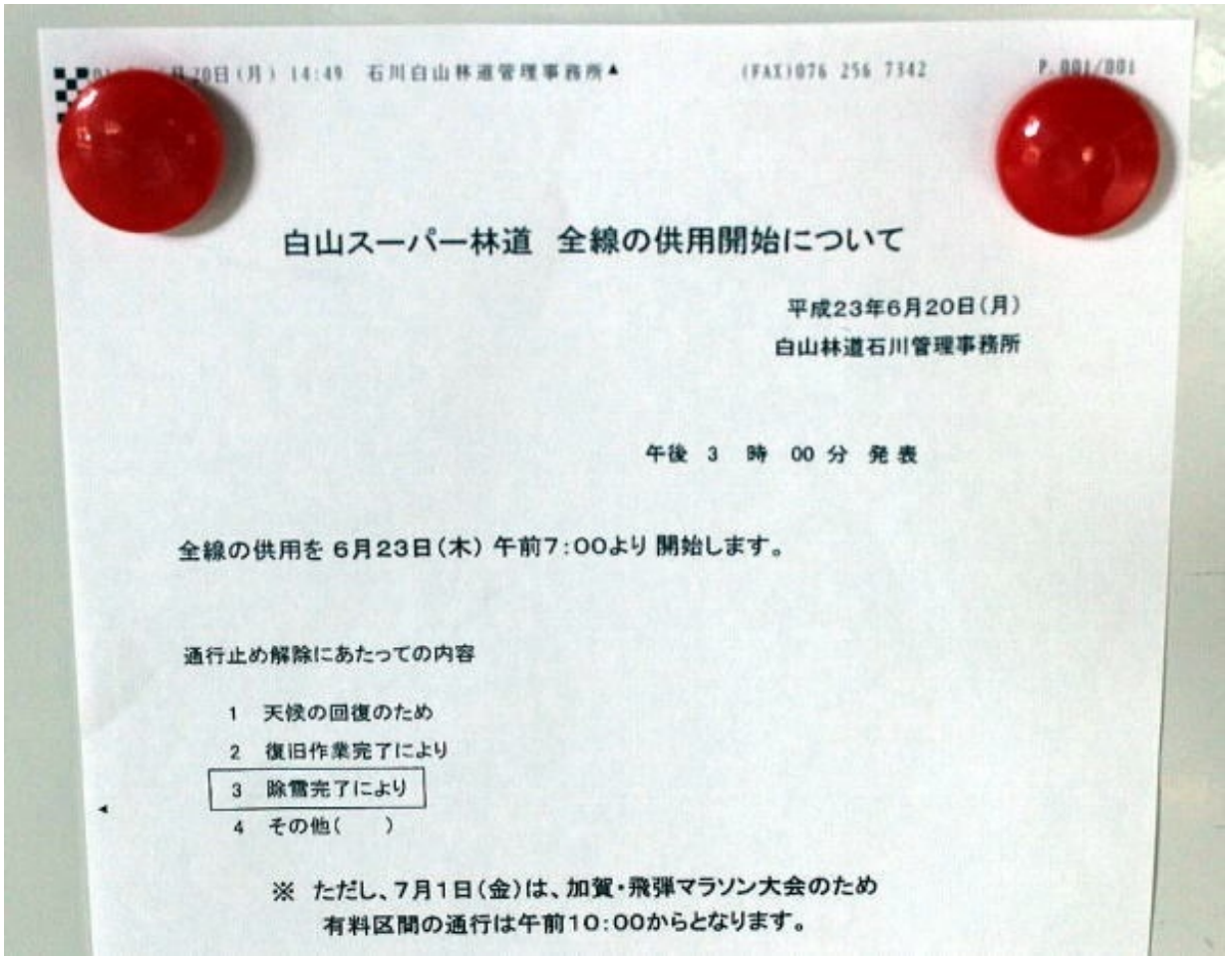
要するに、深い山岳地帯を縫うように走るルートなのです。
海抜がどの位のところを走るかというと・・・・・。



ご覧の通りです。(^▽^)

これだけの高いところを走るわけですから、勿論冬場は閉鎖されていて、通常は「６月１日～１１月１０日」が供用期間なのですが、今年はオープンが遅かったらしく、６月２３日からの開通だったことを後から知りました。

この日は６月２５日ですから、何と２日前に通れるようになったわけで、数日遅れていたらとんでもない遠回りを強いられたことになります。



20日(月) 14:49 石川白山林道管理事務所▲ (FAX)076 256 7342 P.001/001

白山スーパー林道　全線の供用開始について

平成23年6月20日(月)
白山林道石川管理事務所

午後 3 時 00 分 発表

全線の供用を 6月23日(木) 午前7:00より 開始します。

通行止め解除にあたっての内容

1 天候の回復のため
2 復旧作業完了により
3 除雪完了により
4 その他(　　)

※ ただし、7月1日(金)は、加賀・飛弾マラソン大会のため
有料区間の通行は午前10:00からとなります。

この全長３３．３ｋｍの白山スーパー林道ですが、岐阜県側の入り口は白川郷集落のすぐそばにあります。
案内に従って林道に入ってゆきますが、出口での料金精算ですから、どこにも通行料金は書いてありません。

私たちは、「もし、値段が高かったらどうする？２千円とか言われたら引き返そうか！」 などと冗談を言いながら走っていました。

結局、出口で見た普通車の料金は、「３，１５０円」！ヽ((◎д◎　))ゝ
知らなかった私たちがバカでしたけど、まあ、高速で遠回りをしてもそれ以上かかるだろうから、仕方がありませんね。


ここは 標高1200m
白川郷展望台
駐車場
このあたりは、白川郷が眼下に広がり公園に
登れば立山連峰・穂高連峰など中部山岳や
東洋一を誇るロックフィル御母衣ダム、椿原
ダム、天生峠、富山県利賀村を結ぶ牛首峠を
望むことができます。また、ブナの原生林を
直接肌に感じることができ、そのブナの幹を
見るとコケの生えていない所まで積雪します。





このスーパー林道、かなりの傾斜で上ってゆきますが、制限速度は 「３０ｋｍ」
でも、レンタカーのヴィッツにはかなりの負担で、アクセルをいっぱい踏み込んでもこの３０ｋｍが出ないほどです。

途中数か所にこのような展望台兼休憩所があります。
走っている途中の写真があまりないのですが、この高度からの眺望は素晴らしいものです。

そして、まだまだ万年雪が至る所に残っているし、雪解け水が滝になって流れているところもあります。

ごくわずかな車両としか出会いませんでしたから、この景色を独り占めした気分でした。





さて、３３．３ｋｍの天空のルートを走り終え、３１５０円の通行料金を渋々払うと、まもなく目的の道の駅瀬女が近付きます。



いつもの道の駅標識がなく、これしか証拠（？）がありません。



“瀬女（せな）”というのは地名ではなく、当駅にある集落名の「瀬戸（せと）」と隣接する集落「女原（おなはら）」の名を合わせているのだそうです。

ここは国道３６０号と国道１５７号が合流し、金沢はもとより、岐阜県、福井県に繋がる交通の要所です。

この道の駅は１７時半までですが、到着したのが１７時１３分、ぎりぎりでした。





もう完全に夕方の日差しです。
閉店までにはもう少し時間があるはずなのに、外の幟をかたずけたり、閉める準備をされていました。


とちもち
700円







なんとなく店内におりづらく、スタンプを押すと急いで写真を撮って、そそくさと外にでました。

ここは日本三名山のひとつ “白山” の麓であり、高原や温泉など自然環境に恵まれています。
日本三名山は、“富士山” “白山” 立山” の３つを指しますから、そのうちの二つを今回の旅で訪れたことになります。

さて、これで本日のすべての予定を終えました。
ここから金沢まで約１時間走り、金沢市内の “金沢スカイホテル” に宿泊しました。

明日の最終日は、金沢市内を少し観光し、残り２か所の道の駅を巡って、今回の旅を締めくくることにします。


道の駅 瀬女
白山
石川県・尾口

日本三名園！“兼六園”

再び石川県に戻ってきて、最終日5日目を迎えました。
今日は2か所しか道の駅は残っていないので、午前中は金沢市内の観光で、
兼六園　にやってきました。



宿泊しているホテルからは５分程しかかからず、県営の兼六駐車場に車を停めました。

兼六園は江戸時代の代表的な “林泉回遊式大庭園” で、日本三名園の一つです。
後の二つは、岡山市の後楽園と水戸市の偕楽園ですね。



道路を挟んで、金沢城公園と隣同士にあります。

元々兼六園は金沢城の外郭として城に属した庭であったものを、代々の加賀藩藩主によって今の形に完成されたもので、文化財保護法により “特別名勝” に指定されています。



駐車場から少し坂道を登ると、“桂坂口” があります。



ここには、土産物や食堂などのお店が並んでいます。



思い思いに休憩ができるようになっていて、なかなか趣があります。

この “桂坂口” で入場料300円を払って入ってみます。



この右の建物が料金所ですね。



中はこのようにべらぼうに広いので、歩きまわると結構疲れます。







この辺が、観光ポスターなどによく出てくる“霞ヶ池”あたりです。
一番下の右手にあるのが“徽軫灯籠（ことじとうろう）”といいます。









色々撮ったので、とりあえずランダムで！（汗）

噴水の写真がありますが、これは最初お見せした“霞ヶ池”が水源で、自然の水圧で３．５ｍほどあがる、日本最古の噴水といわれています。

歩き疲れて一休みして、次は金沢城公園の方へ行ってみました。







こういった門や、櫓、そして五十間長屋といった建物は残っていますが、天守閣はありません。
落雷による火災で焼失したのだそうです。

この日は結構日差しが強かったので汗だくになり、疲れました。
お昼前に切り上げ、金沢を離れ残る２か所の道の駅を目指しました。

お互前に勇ア工代一並沢を離利残るとカ所の速め駅を目指しました。

白山麓の玄関口！“しらやまさん”

最終日は２か所だけ残っていますが、まず
道の駅しらやまさん　にやってきました。





前日の最後に訪れた “道の駅瀬女” に近いここは、同じく日本三名山のひとつ “白山” の麓です。
その白山を、地元の人は親しみを込めて “しらやまさん” と呼ぶのだと思います。


道の駅
しらやまさん
道路情報案内所
公園
御食事・おみやげ館
お手洗
公衆電話
1000回記念例会植樹





ここは大きく分けると二つの建物があります。
まず向かって左端にあるのが 「地域振興施設」 と書いてありますが、売店を兼ねた食堂である “ちゃーしゅー一番” です。



ここは、食堂がメインのようで売店としてはあまり大きくはありません。





そしてその隣の、最も大きい建物がこちらの “情報棟・休憩棟” です。



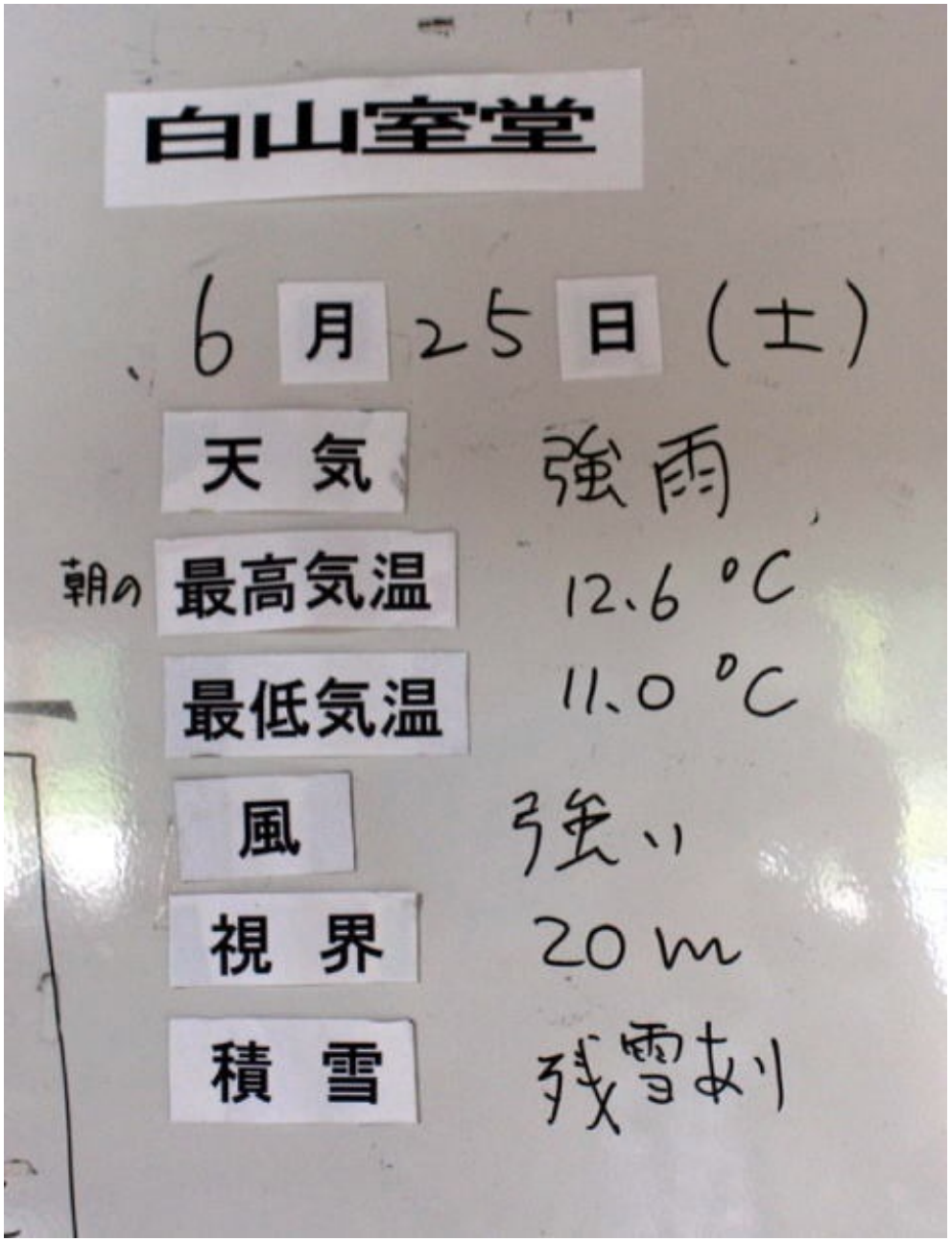


ここは、まさに情報棟であり、地域の色々な紹介や情報が掲示されていました。

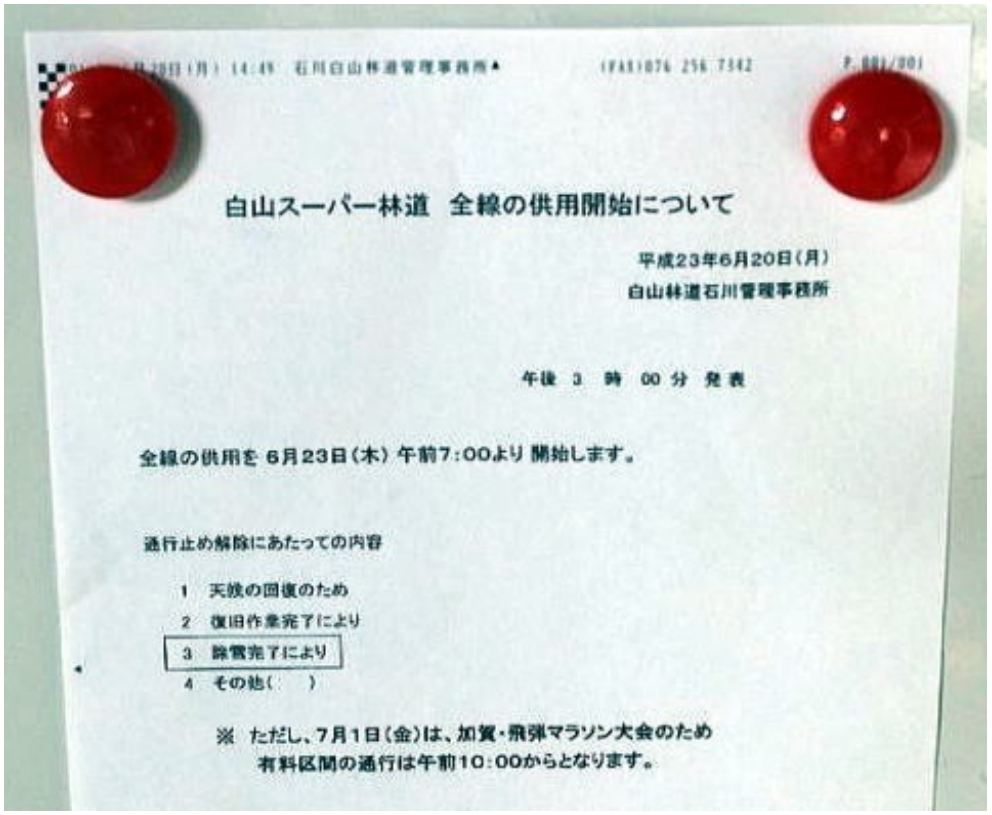




いくつものパネルが並んでいて、いろんな張り紙が貼ってありますが、雑然とした感じです。
ここは、“白山” への玄関口にあたりますので、こんな情報もあります。



立山にも “室堂” ってあったけど、“白山室堂” っていうのがあるのですね。
強雨で視界２０m、数日前上ったは立山・黒部アルペンルートと同じような条件ですね。



白山スーパー林道　全線の供用開始について

平成23年6月20日(月)
白山林道石川管理事務所

午後 3 時 00 分 発表

全線の供用を 6月23日(木) 午前7:00より 開始します。

通行止め解除にあたっての内容

1 天候の回復のため
2 復旧作業完了により
3 除雪完了により
4 その他(　)

※ ただし、7月1日(金)は、加賀・飛弾マラソン大会のため
有料区間の通行は午前10:00からとなります。

前回ご紹介したとおり、“白山スーパー林道” が、わずか２日前に全面開通したことを知ったのも、この情報館にあった張り紙なのです。

雑然とした情報棟だけど、これから白山方面に向かう人にとっては、貴重な情報を提供してくれているようです。

さて、残すところあと一か所になりました。
このシリーズ、長くなりましたがいよいよ次回で終了です。



最終回！“一向一揆の里”

さて、今回の旅の最後に訪れたのは
道の駅一向一揆の里　です。









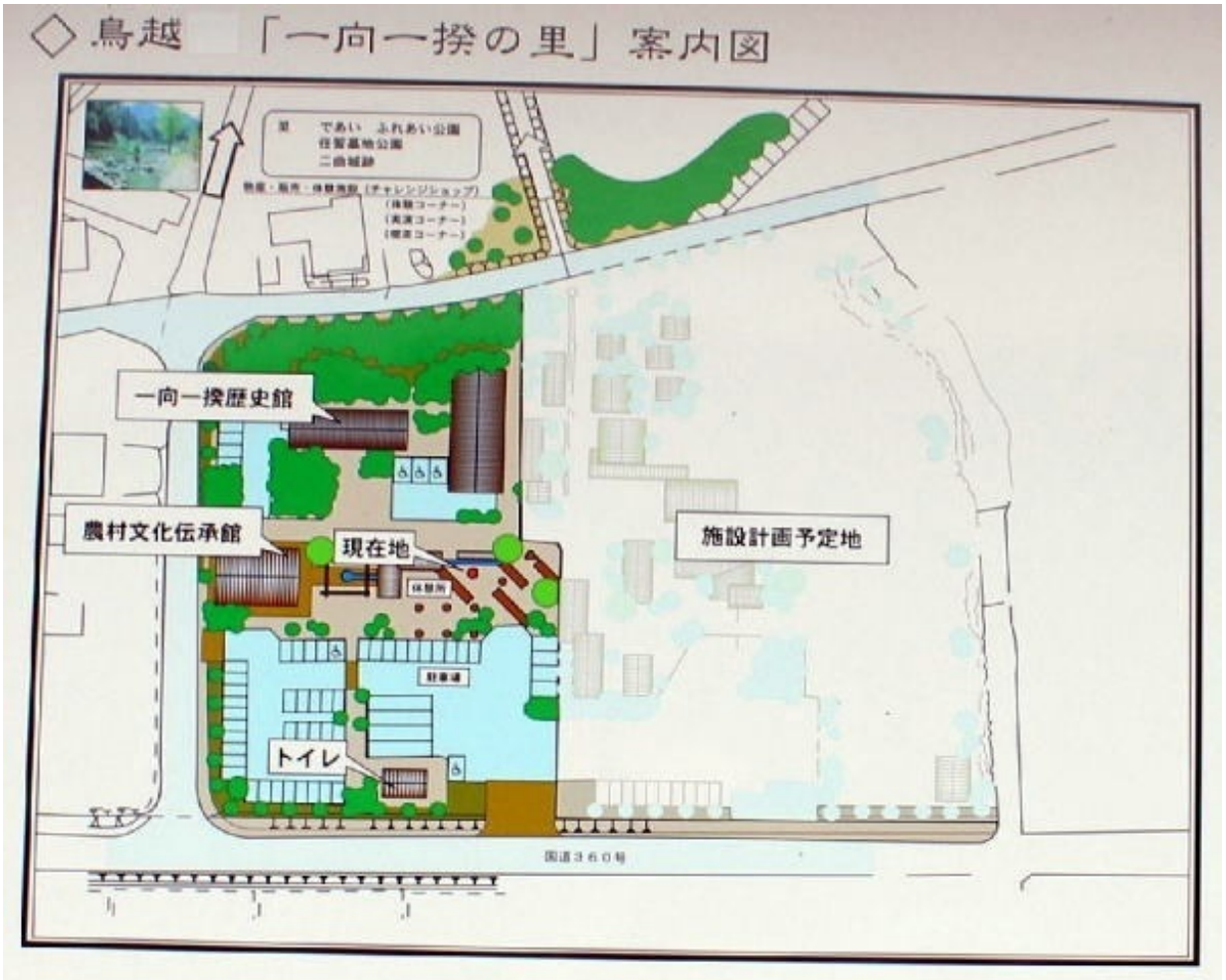
この住所は “石川県白山市” になりますが、旧地名は “鳥越村” です。

鳥越地区は約５００年前の戦国時代に、加賀の一向宗徒（現在の浄土真宗）により、ほぼ１世紀に亘り自治がおこなわれ、“百姓ノ持チタル国” と呼ばれた地域です。

“一向一揆” って、学校の歴史の時間に教わったはずだけど、覚えていませんね。
簡単に復習すると、つぎのようなことです。

室町・戦国時代、北陸・近畿・東海などの各地に起こった宗教一揆。真宗本願寺派の一向宗の僧侶や門徒の農民たちが連合して守護大名・戦国大名などの領国支配に反抗した。特に約90年間一国を支配した加賀の一向一揆が有名。（三省堂大辞林より）

各地で起こった民衆の反乱も、織田信長の手によって次々に鎮圧され、最後まで抵抗し続けた “鳥越城” も、１５８０年、柴田勝家によって、ついに落城したのです。



この道の駅には、“一向一揆歴史館” が併設されており、その歴史や資料が展示されています。



この写真の左手にあるのが “農村文化伝承館” そして右手前に屋根だけの “休憩所” があり、その奥に “一向一揆歴史館” が見えます。



これが歴史館ですが、今回私たちは入りませんでした。

そして、最初にお見せした案内図の “施設計画予定地” と書いてある場所に建っていたのがこちらです。



これが道の駅のメインとなる “食彩館せせらぎ” という施設で、そば処とみやげ店がはいっています。


W.C
W.C
W.C
手打ちそば処
エントランス
ホール
地域特産品販売所


直売所



そば処の方は、結構評判が良いらしく、「４０分待ち」の張り紙がありました。

私たちはここでの食事は諦め、ソフトクリームをいただきました。
確か２００円だったと思います。
すごく安いのに驚いた！





この花、あちこちで見かけたんだけど、なんという花なんだろう？
知ってる方は教えてね。

こうして、石川県、富山県のすべての道の駅を回り終えました。
このあと、旅の最初に訪れた “道の駅こまつ木場潟” にもう一度立ち寄って時間調整し、小松空港から無事に福岡へ戻ってきました。

●今回の訪問道の駅：　３６か所

●全走行距離：　９６３km
　意外に短かった。やはり道の駅が集中していて効率が良かったのでしょう。

●使用ガソリン：　６０．９リッター
　リッター当たり１５．８ｋｍだから、いつものヴィッツより短い気がします。
　山道が多かったからかな？

.

さて、次回からは８月に行った宮崎県の３ヶ所をレポートします。

そのあと、９月２１日（水）から、５日間かけて “新潟県” を回ります。
でも、台風の動きが微妙だし、予報はずっと雨なんです！（涙）


道の駅 一向一揆の里

台風の最中の出発！“漢学の里しただ”

出発が9月21日、この日は台風１５号がまさに日本に最接近している最中でした。
進路予測では近畿や中部に上陸しそうだったので、大阪伊丹空港乗り継ぎの新潟空港行きはまず難しいだろうと思っていました。

それでも、何らかの方法で今日中に新潟に辿りつければ、という半ば悲壮感で空港に到着したのですが、予想に反して中部空港など一部を除いて正常に運航しており、出発が３０分ほど遅れたものの、午前１１時には予定通り新潟空港に降り立つことができました。



新潟空港でレンタカーを借り、最初に向かったのは “新潟港” です。
実は最初の計画では、初日に佐渡に渡るつもりで “高速船「ジェットフォイル」” の予約をしていたのです。



この日、ジェットフォイルがすべて欠航なのは空港にいる間にネットで確認していたのですが、予約の変更の為に来てみたのです。

台風の影響で欠航になることは十分予測していたので、その場合は最終日と予定を入れ替えることにしていました。
窓口で、最終日の９月２５日にジェットフォイルの予約を変更してもらい、逆に２５日に予定していた行程をこの日は辿ることにしました。

最初に向かったのは、新潟港から５６kmほど離れた
道の駅漢学の里しただ　です。



新潟市内から北陸自動車道にのり、“三条燕IC”で下りて一般道を走り、１時間１５分で到着しました。
なぜこんな、ポツンと離れたところを最終日に予定していたかというと、閉店が１６時なので他の日の日程に組み込めなかったからです。





この日の新潟地方は、台風の進路からはやや離れていたので、風はそれ程強くはないものの、雨はずっと降り続けていました。





道の駅はこの建物のようですが、広い駐車場に車もほとんど停まっておらず、建物の中も何か寂しい雰囲気が漂ってきます。



最初の看板にもありましたが、ここは “庭月庵悟空” という食事処のようです。



薄暗い感じの建物の中に入ってみると、玄関から右半分が食事処になっているようです。
到着は２時前でしたが、中を覗いても人影はありません。

そして左半分は、“研修室” と書かれた和室がありますが、電気も消えていてがらんとしています。
写真では明るく写っていますが、実際は夕方のように薄暗いのです。



ここにはスタンプもパンフレットも無かったのですが、外へ出るともう一つ小さな建物がありました。



ここはトイレの建物なのですが、右側にちょっとした休憩スペースがあり、ここにスタンプは置いてありました。



この道の駅の全体図がこちらの略図です。
道路を挟んだ反対側に、“諸橋轍次記念館”という道の駅とは対照的な、大きな近代的な建物が建っています。



“諸橋　轍次” という人物は、漢学界の最高峰を極めた「大漢和辞典」の編纂者なのだそうで、ここ “旧下田村（しただむら）” の出身です。

この道の駅の名前、“漢学の里しただ” は、ここに由来します。



建物に入ってみると、正面にその “諸橋轍次博士” の胸像がありました。
更に入ってゆこうとすると、係の人に声をかけられ、正面の部屋だけは無料だが、その先は有料です、とのこと。

ここには、博士の遺品や遺墨などを集めた展示室や、博士を紹介する映写室があるようです。
残念ながらあんまり関心がないでの、有料のコーナーはパスしました。

建物の裏は広い庭園になっていて、その先に博士の生家が残っています。





窓越しなのであまり奇麗に写っていませんが、何故かここには孫悟空と三蔵法師の像が！？

先程の食事処の名前が “悟空” だったのはこの為だと思うけど、漢学と孫悟空がどんな結びつきがあるのか、謎ですね。

A 休憩所

道路・観光情報の提供及び屋内休憩所としてご利用ください。
（２４時間利用可能）
管理者　　庭月庵悟空維持管理運営組合（三条市観光課）

B 漢学の里（諸橋轍次記念館）

「大漢和辞典」の編纂者、諸橋轍次博士誕生の地であり、博士の生家や記念館、和庭園、漢庭園など日本の風土と中国の趣が調和した眺望豊かなふれあいと文化の里として親しまれています。記念館には、博士の遺品・遺墨など貴重な資料が展示・収蔵されています。また、図書室、多目的ホール、研修室、和室などがあり、幅広く利用することができます。

開　館　　午前９時～午後４時
休館日　　月曜日（祝日の場合は翌日）
　　１２月２９日～１月３日
入館料　　大人５００円　　小・中学生２００円
管理者　　漢学の里・諸橋轍次記念館
　　（三条市教育委員会生涯学習課）

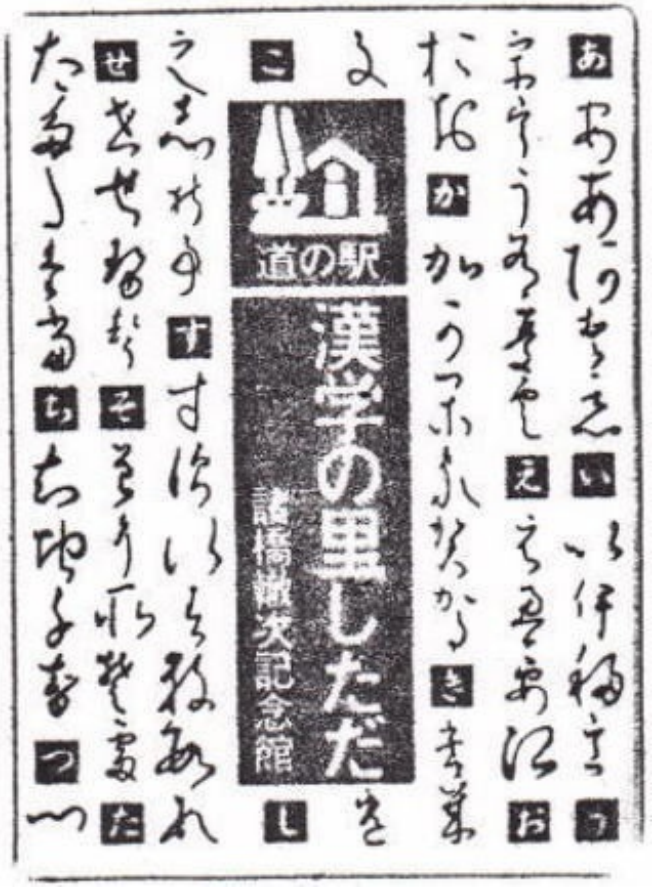
C 庭月庵悟空（交流促進センター）

歴史的かつ文化的な資源を活用した地域づくりと地域間交流の促進を図るため整備し、そば打ち体験や各種講習会などを開催しています。食堂では、季節に合わせ、地元で採れた新鮮な山菜・野菜をふんだんに使い「ふるさとの味」「おふくろの味」にこだわったメニューを提供しています。

営　業　　午前１０時～午後４時
休館日　　木曜日・１２月２９日～１月３日
管理者　　庭月庵悟空維持管理運営組合（三条市農林課）

新潟県の最初の道の駅は、何か寂しげな雰囲気でスタートしました。


八木ケ鼻
道の駅
諸橋轍次記念館
徑由不行
漢学の里しただ


道の駅
漢学の里しただ
諸橋轍次記念館

ライン舟下りの基地！“阿賀の里”

次に訪れたのは、一般道を４０ｋｍほど走った
道の駅阿賀の里　です。







国道４９号から道の駅の標識に従って入ってゆくと、“舟くだり乗船受付場”と看板のある建物がありました。
この道の駅は裏側に“阿賀野川”の大河が流れており、ここがその乗り場になっています。

元々は９ｋｍほど上流に乗り場があり、ここは下船場だったらしいのですが、水害の影響があり今年はここで乗船し、またここへ戻ってくる周遊コースになっているのです。



駐車場の端には、こんな看板もありました。



最初左奥の建物に行ってみましたが、これは燕・三条の刃物類を売っている専門店だったので、乗船場に戻ってきました。

ここもまたガランとしてひと気が無いので入るのを躊躇していると、ちょうど係員らしい若い男性が通りかかって、「すみません、今日はこの雨なので舟くだりが中止になっているのです。」と説明してくれました。

私たちが道の駅へ来たことを知ると男性は、「道の駅だったらここではありませんよ！、あちらです。」と指差した先に、確かに大きな建物がもうひとつあります。

敷地の中を車で移動すると、まずあったのがこの船の形の建物！



ここには “阿賀野川文化資料館” と書いています。
更に進むと、道の駅の本体がありました。



そしてこれも実はほんの一部であって、全体はこのようになっています。



（ホームページより拝借）

この右端が最初に入った乗船受付場ですね。

まん中に船の形の文化資料館があり、左端にある道の駅本体の建物は、このように “魚市場 魚匠” と “物産館 夢蔵” の二つの翼になっています。



まず、これが “魚市場 魚匠” で・・・・・。



こちらが “物産館 夢蔵” です。



“魚匠” は、日本海側有数の規模の魚市場といわれるだけあって、あらゆる種類の魚介類や加工品が並んでいます。



そして “夢蔵” の方も、すごく広いスペースに土産物が並び、大きな飲食コーナーもあります。





阿賀野川の川下りを楽しんだ人たちがここで一息入れ、土産物や海産物を買って帰るのだろうと思います。
ただこの日は台風が目の前に迫ったあいにくの悪天候で、どちらのお店もお客さんがまばらだったのは残念です。

これだけの規模で、これだけの品揃えですから、普段の天気の良い日であれば多くの人々で賑わっていることだと思います。



あちゃ！閉まっていた！“みかわ”

初日の３か所目は、阿賀の里からわずか６kmしか離れていない
道の駅みかわ　です。





そういえば道の駅みかわって、四国にもありました。
　　その記事　→　四国北部の旅：道の駅みかわ

それと山形にも似たような名前の道の駅が・・・。
　　その記事　→　山形の旅：米どころ！“庄内みかわ”

まあ、山形は “庄内” というのがついているけど、全く同じ名前の道の駅もあるんだね！



ここは阿賀の里と同じ国道４９号沿いなのだけど、道路の両側に道の駅の表示があります。
最初入ったところは、駐車場とトイレがあるだけ、それで向かい側にある建物の方に移動しました。



でもなぜか、ここもすごく寂しげなのです。
車を停めて近付いてみると・・・・・。

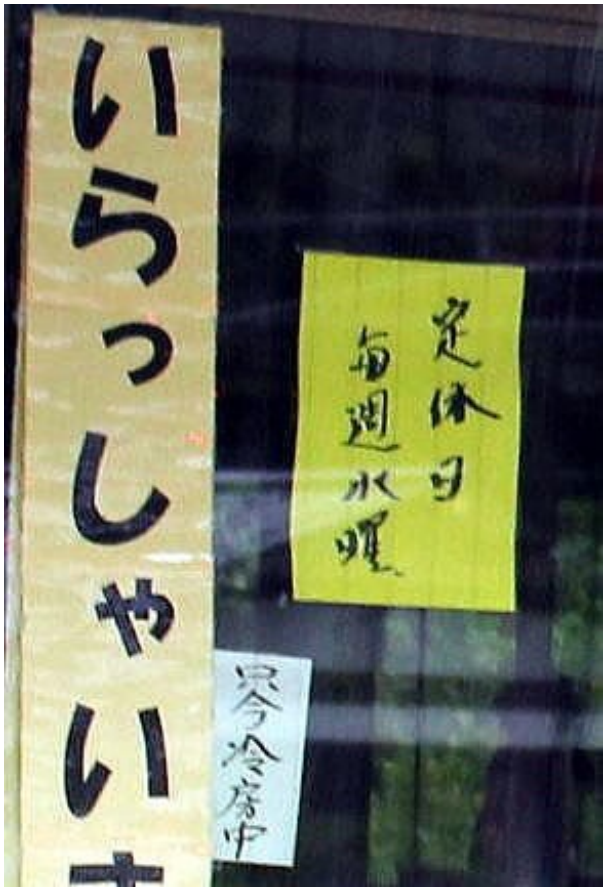


えっ！準備中！？(￣□￣;)!!
どうしたんだろう？閉まっているよ！



お店は閉まっていたけど、右の方にもうひとつ入口があり、ここの扉は開きます。
ここはインフォメーションらしく、スタンプが置いてあって若干のパンフレットも並んでいます。

とりあえず目的のスタンプは押したけど、どうも腑に落ちません。
納得ゆかないまま、ふと見ると・・・。



えっ！今日はそういえば水曜日！
当初最終日の日曜に訪問する予定だったのを、ジェットフォイルの欠航の為に急遽今日に振り替えたのでした！

まあ、スタンプだけでも押せたのは幸いでした！(^▽^)



もう一方の駐車場の方にこんなモニュメントが建っていました。
そういえばこの道の駅の看板にも “巨木の里” と書いてありましたね。



近いようなので行ってみることにしました。



ほんの少し車で上がったところにこの表示があり、数台停められる駐車スペースがあります。
どうやらここからは歩かないといけないようです。

でも、この雨の中を傘をさして歩いてゆくのも億劫だな・・・ということになり、あえなく断念！
根性がないな～と、しばし自己嫌悪！(TωT)

で、戻ってからネットで調べてみると・・・・。



（wikipediaから写真借用）

これは “将軍杉” といって、樹齢が推定で１４００年、幹が根元で４つに分かれた珍しい形をしています。
幹の周囲が１９．３１ｍあり、屋久島の縄文杉の１６．１ｍを抜き、日本一なのだそうです。

でも、写真だからよくわからないけど縄文杉の迫力からするとちょっと見劣りするような・・・。
それに、日本一の大杉といえば、四国の 「道の駅大杉」 のそばにあった “杉の大杉” が幹回り２０ｍで日本一のはず・・？

その記事　→　高知の旅：巨大な大杉に驚く！“大杉”

まあ、でっかいのは間違いないからどちらが日本一でも構いませんけどね！
それにしても、定休日に来たのは失敗だったけど、わずか６ｋｍ離れたところに阿賀の里というでっかい道の駅があるので、正直、かなり見劣りしました。



花き園芸発祥の地！“花夢里にいつ”

次は磐越自動車道を一気に “新津ＩＣ” まで走り、
道の駅花夢里にいつ　へやってきました。





ここ “旧新津市”（現在は新潟市に合併） は、花き園芸の発祥の地として知られ、栽培の歴史は江戸時代に遡ります。
日本で初めてチューリップの商業生産に成功したのもこの地区なのだそうです。

ですから、“花夢里”（かむり） とは、「花いっぱい夢いっぱいの里にいつ」 を意味しており、この道の駅自体 「ＪＡ新津さつき」 が運営しています。



全国有数の花の里として知られる新津ですから、元々花き花木の展示販売場としてあったＪＡの施設が、平成１５年に道の駅に認定されたものです。

中央の入口を挟んで、Ｌ字状に広々としたガラス温室があり、鉢花、花木、花苗、観葉植物、果樹苗といったものが、屋外売り場まで含めると４万鉢も並んでいます。





食事処 たぬき小屋

■営業時間／AM10:00～PM4:00

皆様の御休憩場所として、たぬき団子を始め、そば、うどん、各種定食等いろいろとメニューを取り揃えて皆様のお起しをお待ちしております。


花夢里
かおりにいつ


たぬき小屋



中央入口をはいると、そこはイベントホールになっていますが、この日は “球根まつり” だそうで、ぎっしり色んなお花の球根が並んでいました。

入口を入って右側が “Ａ館” です。



ご覧の通り、広いガラス温室にぎっしり草花が並んでいますね。
そして、反対側が “Ｂ館” です。



ここには、５１名の生産者が直接花を搬入し、それをＪＡが管理して販売します。
１日に３～４回も商品を搬入することもあるそうで、まさに生産者と消費者が直結した花市場と言えます。

農産物は併設された直売所がありますが、それ以外の一般的な土産物などはありません。
ですから、一般的な道の駅とはちょっと毛色が違うようですが、“花の里” としての新津の特徴は出ていると思います。

今日回った他の道の駅と同様、この大雨の中ですからほとんどお客もおらず、我々も早々に引きあげました。

この後、この日の最後として “道の駅新潟ふるさと村” へ立ち寄ったのですが、閉店の１７時半間際であり、しかも台風がかなり接近してきたらしく、傘が飛ばされそうなくらい風雨が強くなってきました。

ちょっとだけ中を覗いてスタンプは押したのですが、あらためて出直すことにして４日目に再度訪問しました。
ですから、４日目にまとめてレポートすることにします。

そしてこの日は、新潟駅前の “新潟東急イン” に宿泊しました。



ホテルの部屋からの新潟駅です。
雨が強くて外に出る気にもならず、ホテルのレストランで新潟最初の夜を迎えました。



酒呑童子伝説の里！“国上”

新潟の旅２日目は、日本海側に沿って南下しますが、その最初の目的地は、
道の駅国上（くにがみ）　です。



北陸自動車道 “三条燕ＩＣ” から７ｋｍ程の位置に道の駅はあります。







朝のニュースによると台風１５号は北海道沖へ去ったようですが、新潟地方は残念ながらこの日も雨です。
レンタカー会社で借りたビニール傘が役に立ちます。





玄関を入るとまず入口で出迎えたのがこの鬼です。
ここ “新潟県燕市国上” は、酒呑童子が生まれ育った村という伝説があります。

“酒呑童子” はこの地に生まれ、幼少時 「外道丸」 という名前でしたが、国上寺に稚児として預けられていました。
絶世の美男子だった彼を一目見ようと近隣の娘たちが押し寄せ、多数の恋文が門番に託されたのですが、外道丸はそれを一切見ようとせず、仏道修行に励んでいたそうです。

ある時、娘たちの一人が手紙を読んでもらえないことを悲観して淵に身を投げてたことから、恋文を読まずに入れていた葛篭を開けたところ、煙が立ち上り、外道丸は鬼に変身してしまったのです。

その後、各地を経て丹波の国の大江山で暴れていたところを、源頼光や 「金太郎」 で有名な坂田金時らに成敗されてしまいます。

ただ、伝説は諸説あって、酒呑童子が本当に悪い鬼だったかは定かではありません。





店内にあったこの大凧には、美男子だった頃の酒呑童子が描かれていますね。
そして、その下にあるもの・・・・・。



こちらは “分水おいらん道中” といって毎年４月に行われるこの地の祭りです。
総勢７０名もの付き人を従えて、おいらん独特の外八文字という歩き方を披露し、江戸の昔を再現します。

この祭りに登場する４人のおいらんは、１００名を超す応募者から選ばれるのだそうです。



さて、“燕三条” といえば、日本一の金物の産地です。
燕市と三条市は隣同士ですが、燕市は “燕の洋食器” そして三条市は “三条の刃物” として特に有名です。

燕の洋食器は現在全国の生産額の９５%を占め、世界各国に輸出される一大産地です。

元々江戸時代の初期に農村の副業として 「和釘」 の製造技術を取り入れ、それがヤスリ、煙管、各種の銅器の製造となり、大正時代になってからこの金属加工技術を生かして金属洋食器が生まれたものです。





“三条刃物” の方は、寛永２年河川の氾濫に苦しむ農民を救済するため、当時の代官だった大谷清兵衛が江戸から釘鍛冶職人を呼び、農家の副業として和釘の製造法を指導・奨励したのが「三条鍛冶」 の始まりです。

そして受け継がれた匠の高度な技により、包丁やナイフ、作業工具や理美容器具へと発展してゆきました。





燕三条には、日本の誇る 「ものつくり」 の歴史と伝統が残っています。

この道の駅は商品の販売というより、このような町の紹介や展示に重点をおかれた施設のようです。
建物の裏には “酒呑童子の湯” という足湯がありました。



大雨の最中ですから、中まではいっていませんが、このようになっているそうです。





（燕市ＨＰより借用）

温泉の噴き出し口が酒呑童子と大杯になっているのが面白いですね。



古民家を移設！“良寛の里わしま”

国上の道の駅を出て２０分ほどで、
道の駅良寛の里わしま　へやってきました。





え～すみません！
道の駅の標識、こんなのしか撮れなくて！（汗）



この建物が道の駅の本体で “地域交流センター もてなし家” といいます。

そして、もうひとつその右側にあるのが　・・・・・。



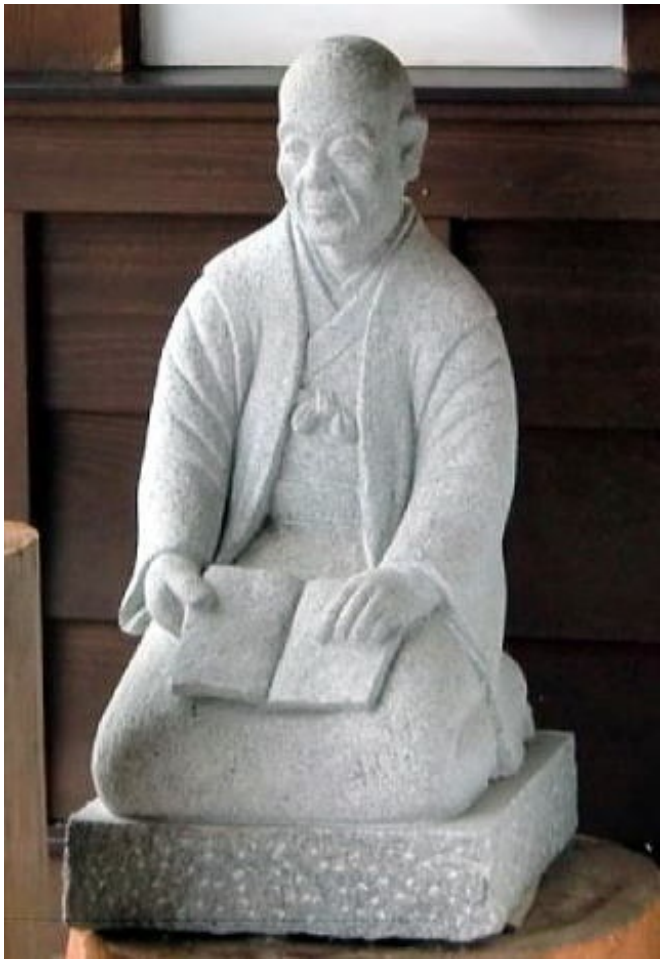
“道路情報ターミナル” です。
情報ターミナルの方は、観光情報などの資料があり、スクリーンで各地の道路情報がリアルタイムで表示されています。



ここにスタンプは無かったので、“もてなし家” の方へ行ってみました。



その玄関先に座っておられたのがこの方です。



良寛さまですね！
ここ“和島村（現：長岡市島崎）”は、良寛さんが晩年を過ごされた場所です。

聖僧“良寛”（１７５８～１８３１）は、江戸時代後期の禅僧・詩人・歌人・書家です。

生涯寺を構えず、無一物に徹し、清貧の思想を貫き、自然を愛し、子供を慈しみ、毬つきを楽しみ、多くの逸話を残された人物です。

その良寛の遺墨を展示する美術館や良寛に因んだ施設がここにはあります。



これが良寛の里の全体図で、その敷地面積は３万平方メートルにもなります。
そして私たちが今いるのが、右端の国道１１６号に面した場所です。



この“もてなし家”の建物ですが、これは良寛さんが亡くなられた翌年（天保３年）、今から約１８０年前に建てられたという古民家を移設して作られたのだそうです。

その中はこのようになっています。





建物の半分がこのような食事処ですが、実に趣があります。
もう一方は土産店になっています。



私たちはここで、地元コシヒカリで作った“良寛むすび”を買いましたが、さすが新潟のお米だけあって実に美味しいおにぎりでした。

お店のおばさんは、私たちが九州から来たことを知ると、この良寛の里のことを色々と教えてくれ、美術館の方も見て回ったが良いよ、とアドバイスしてくれました。

そして「ちょっと待ってね！」と奥に引っ込み、大きな“新潟県の道の駅ロードマップ２０１１”を持って来られ、これを頂きま

した。

美術館は時間の関係で見に行くことはできませんでしたが、この頂いた地図はとても見やすく、このあとの新潟の旅にとても役に立ったのは言うまでもありません。



幕府直轄の栄華！“越後出雲崎天領の里”

次は距離にして１０ｋｍ、わずか１４分で
道の駅越後出雲崎天領の里　へやってきました。

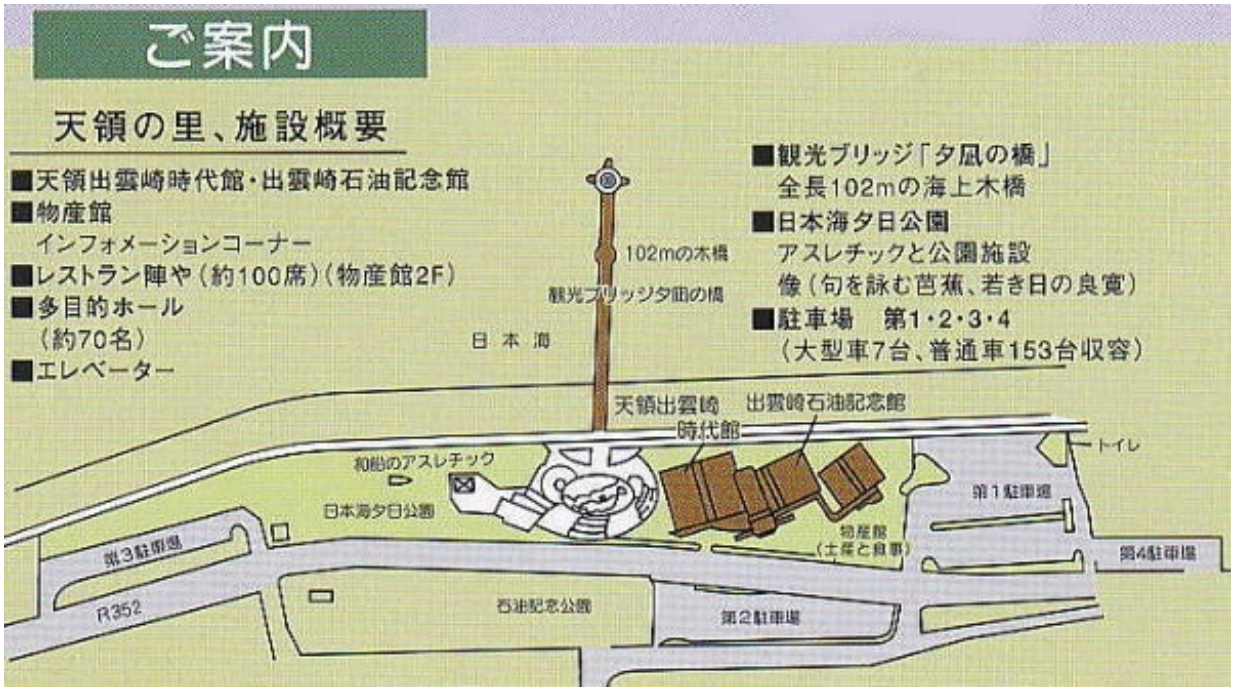





越後出雲崎
天領の里
歴史ロマンの体験
天領出雲崎時代館
道の駅
観光物産センター
お食事処 陣や
出雲崎石油記念館



海沿いにあるこの天領の里、ここも敷地面積２万１千平方メートルという広大な施設です。



全体の配置がこのようになっていますが、まず周りから見て行きましょう。
右端の第１駐車場に車を停め、ぐるっと回ってみます。





案内板のすぐ横にあったのが、錨のモニュメントと愛の鍵箱です。

あとで紹介する “観光ブリッジ夕凪の橋（別名：愛の橋）” には、恋人たちが愛を誓った “鍵” を取り付けます。
その鍵がそのままでは錆びてしますので、１年に一度回収してこの箱に納められるのです。





建物の裏手に回ると、海に突き出した長い橋があります。
これが “観光ブリッジ 「夕凪の橋」” で、全長１０２ｍの海上木橋です。

ロマンチックなデートスポットということですね。
そして、夕凪の橋のたもとに広がるのが “日本海夕日公園” です。







ここに座る子供の像は、若き日の 「良寛」 なのだそうです。
良寛はここ出雲崎の名主橘屋山本家に生まれており、ここが生誕地なのです。

さらにその先に行くと　・・・・・。



これは “汐風米” といって、日本海の汐風で乾燥させ、自然の恵みにあふれるこだわりのお米を作るのだそうです。
でも、この日は降り続く雨に打たれていました。



ここは、“ジェロ” のデビュー曲となった演歌 “海雪” の舞台です。
ジェロさんは、ここ出雲崎の観光大使でもあるのです。

そしてこの汐風米の中に、こんな人もいました。



こちらは良寛ではなく、“句を詠む芭蕉” の像です。
出雲崎は港町、宿場町として多くの文化人も往来しており、芭蕉もその一人だったのです。

さて、建物の方に戻ってみましょう。



この自販機の入った建物が味がありますね。
建物の全体はこのようになっています。



左の二つの屋根は、“天領出雲崎時代館”です。



“天領” というのは幕府の直轄地のことですが、ここ出雲崎は “佐渡金山” の金銀を船で運びこむ港であったため代官所が置かれ、幕府の財政を支える重要な地だったのです。

この時代館にはその頃の栄華を再現した町並みが築かれています。

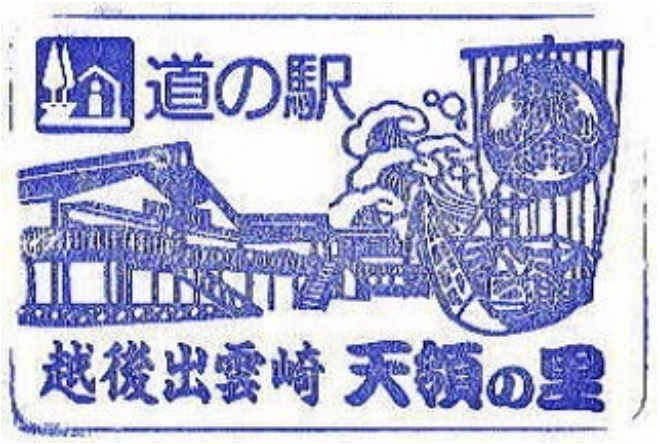


そして一番右端にあるのが、“出雲崎町観光物産センター” で、１階は物産館、２階がレストラン 「陣や」 になっています。





なかなか大きな売り場で、たくさんの海産物などが売られていました。
この雨の中とはいえ、観光バスで来たらしいお年寄りたちで賑わっていました。


道の駅
越後出雲崎 天領の里

田中角栄が生まれ育った！“西山ふるさと公苑”

本日の４か所目は、２０分ほどの距離にある
道の駅西山ふるさと公苑　です。







ここもかなり広い敷地ですが、駐車場に車を停めてまず目の前にあるのがこの建物です。



観光バスで来たらしい大勢の人が建物から出てくるところでした。
近くへ寄ってみると　・・・・・



おお、「田中角栄記念館」と書いてあります。

旧西山町（現在は新潟県柏崎市）は、田中角栄元内閣総理大臣の生まれ育った町です。
この記念館には故田中角栄の遺品、遺墨を中心に展示されているそうです。

この西山町は、中国 “淮安市” と姉妹都市です。
これは田中角栄が実現した日中国交回復に因み、故周恩来元首相の故郷である淮安市と姉妹都市の縁組をしたものです。
ここ「西山ふるさと公苑」は、その日中友好のシンボルとして作られた施設でもあるのです。



この田中角栄記念館の裏にも、いくつかの建物が見えます。



この全体図の左半分の部分は、中国の宮廷を再現しているのです。



これがその正門で、“三座門（さんざもん）”といいます。
ここを入ると広い庭があり、そこにはこの像が・・・・。



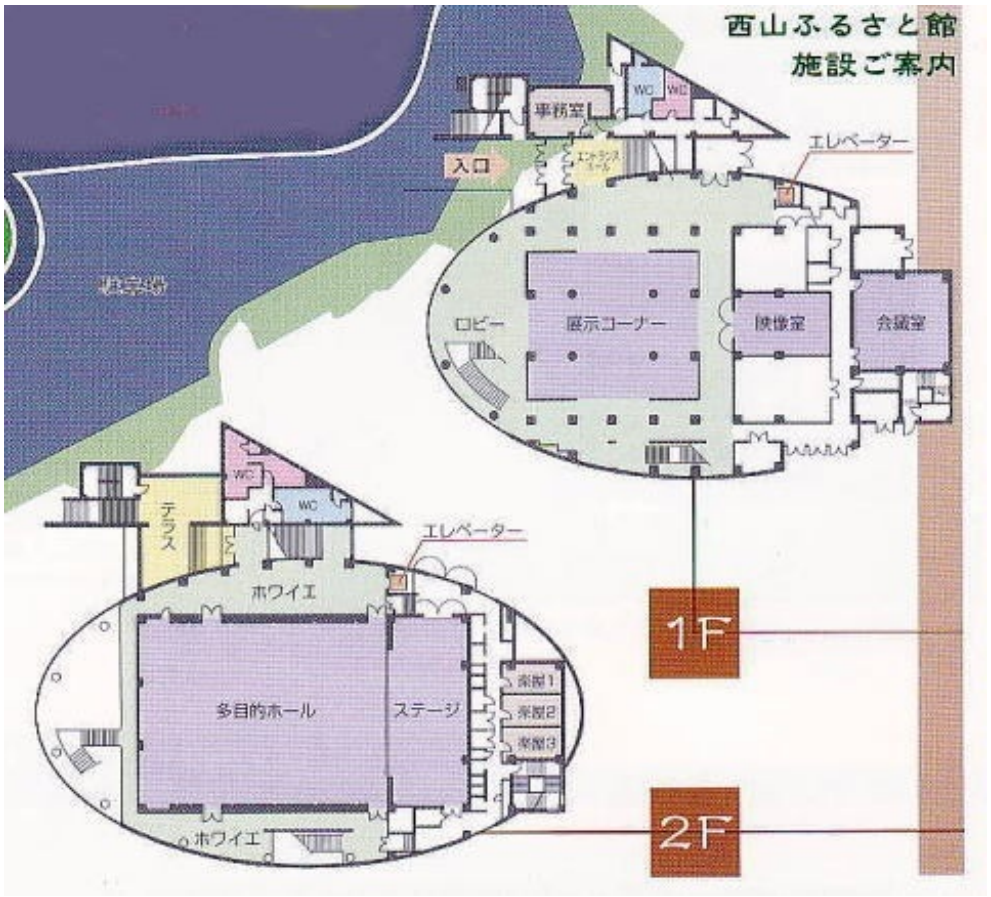
三蔵法師と孫悟空、猪八戒、沙悟浄の一行ですね。
そういえば、今回の旅の最初に立ち寄った「道の駅漢学の里しただ」にも孫悟空の像がありましたが、これに因んだものかもしれません。

それでこの庭を“西遊園”と呼び、正面の建物は“西遊館”といいます。

そして道の駅の本体は、というと、この西遊園の右側、田中角栄記念館の裏手にあるこちらです。



これが “西山ふるさと館” で、６００席を擁する多目的ホールも備えた立派なものです。





開放的なロビーからは、隣の西遊館が見えます。
そして１階中央の展示コーナーには、中国と日本の友好を象徴するさまざまな展示があります。




音樂
楽器
楽器


祭
祭
無濾過比醇



そして祭りのコーナーには、日本の獅子舞と中国の獅子が並んで展示されていました。





こうしてみると、日本の獅子の方が迫力がありますね。

田中角栄は利益誘導型の旧時代の政治家だったかもしれないけれど、こうしてみると日中国交回復を成し遂げた功績は、高く評価すべきだと思います。



がっかり道の駅！“風の丘米山”

西山ICから再び北陸自動車道にのり、２つ目の米山ICで下りて向かったのは、
道の駅風の丘米山　です。







国道８号から鋭角に坂道を上ったところに道の駅はあるのですが、その交差点付近、とても洒落た店が並んでいます。







「左折６００ｍ　恋人岬」 といった標識も見えますから、この付近、マリンスポーツなどの拠点になっているのではないかと思われます。

この信号を右折し、坂道を上って標識の通り進みます。



いくつかの建物の横を過ぎて、一番上の駐車場に着きました。





ここでは目の前に風車が回っており、“米山山荘” と書いた建物がありました。
レストランのように見えるその建物の入口へ行ってみると・・・・・・。



閉まっています。(￣□￣;)!!

駐車場の中央付近に案内板があったので見てみました。



この右下の道路から上がってきたのですが、今通ってきたところが道の駅だったのかもしれません。

“こどもの時代館” と書いたところにも駐車場があるので、そこまで下りてみました。



この “こどもの時代館” というのは、昭和４０年代の昔懐かしいレトログッツや当時のヒーロー達のおもちゃを一同に集めた博物館です。



でも、そこもしっかりと入口のドアは閉まっていました。。(´д｀lll)
う〜ん！事前に調べたデータではここは定休日は無かったはずです。

それをもうちょっと上ると、最初見た “米山山荘” の正面玄関がありました。



この “米山山荘” は、宿泊、研修、食事、温泉などが揃った総合施設のようです。
入口を入ってみると、これを発見！



ということは、この山荘自体が道の駅ということでしょう。
でも、スタンプが見当たらないので事務所にいた男性に尋ねてみました。

そうすると、・・・・・
「駐車場の奥に休憩所がありますが、そこにスタンプは置いてありますよ！」 とのこと。

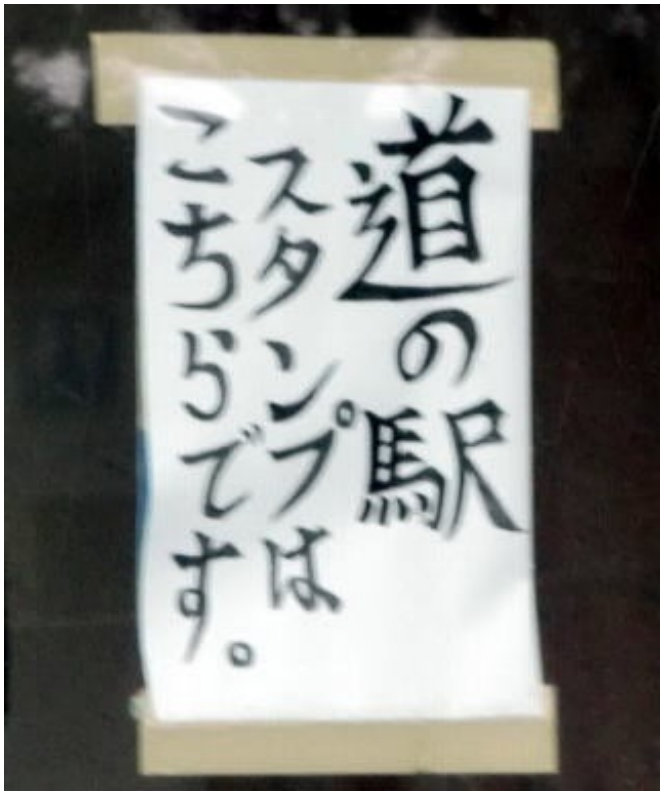
半信半疑で、再び最初に停めた駐車場の方に戻ってみました。



すると確かに奥に、トイレと思っていた小さい建物があり、「休憩所」と書いてあります。



そして入口のガラスにガムテープで貼ってあった張り紙は・・・・。

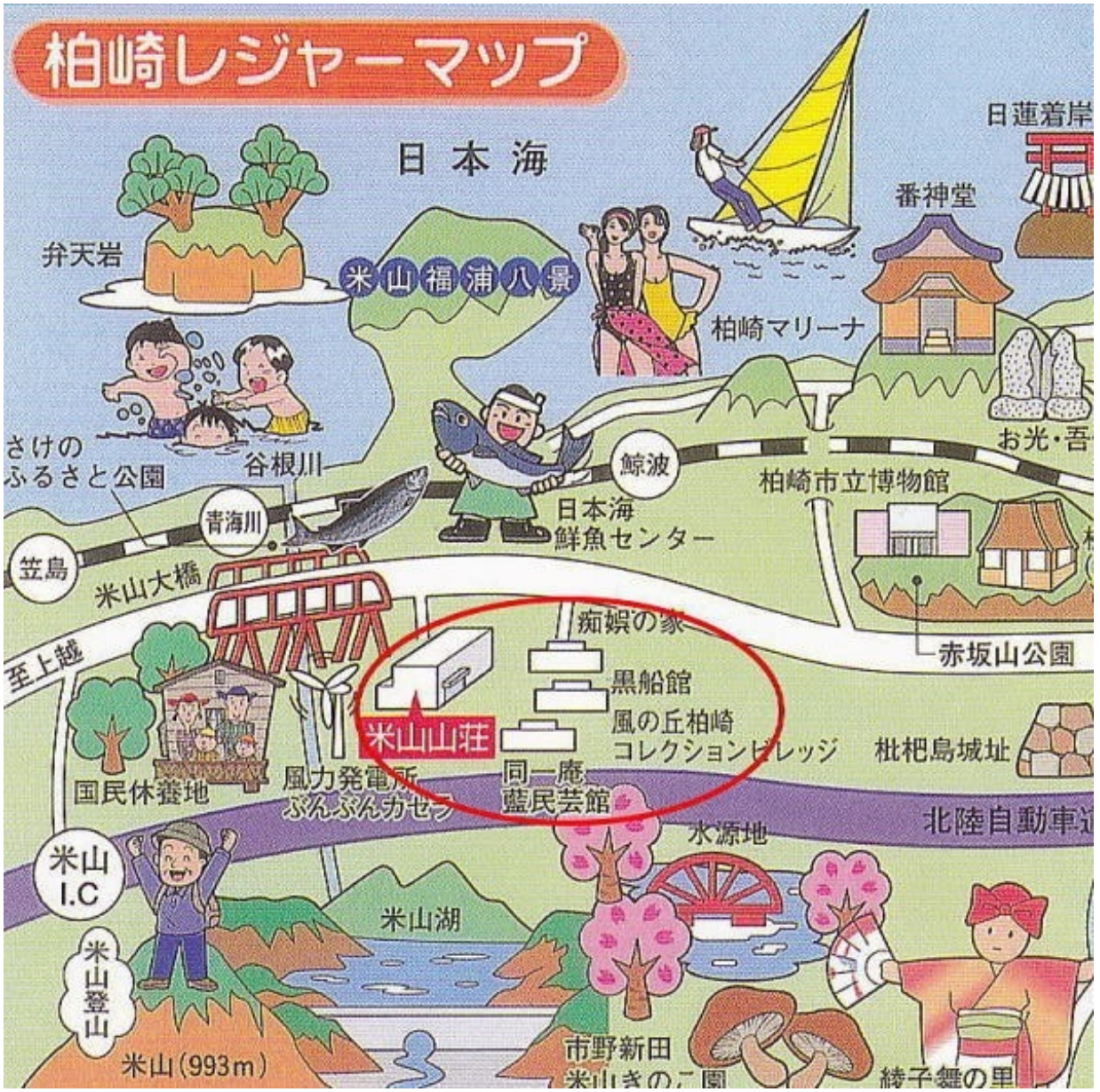


まさかこんなところにスタンプが置いてあるとは・・・・・。

中はテーブルとイスが乱雑に並んでいて、奥にある畳の上で、仕事中らしいサラリーマン風の男性が一心に漫画に読みふけっていました。
（こんな雨の日、仕事したくないよね！(;^_^A ﾜｶﾙ!ﾜｶﾙ!）

無事にスタンプは押したけど、それにしてもここは汚い！
それに、この道の駅、ただスタンプを押しただけで終わってしまいました。

道の駅風の丘米山　の名誉のために、少しだけ付け加えておきましょう。



これがこの付近のレジャーマップですが、米山山荘はこんな恵まれた立地にあるのです。
この記事の冒頭でお見せした国道８号交差点付近のお洒落な建物群は、“お魚の三十三間堂”と呼ばれる「日本海鮮魚センター」だったのです。

そして高台にあるこの米山山荘からは、正面に米山大橋があり、４２ｋｍにわたって続くという柏崎の美しい海岸線を眼下に眺め、天気が良ければ遠方に佐渡の島影が見える絶好のロケーションなのです。

そして、ご紹介した“こどもの時代館”の他に、５万点の郷土玩具を集めた“痴娯の家”、幕末から明治にかけての風物、風俗を描いた版画を集めた“黒船館”そして、藍染めやアジアの民芸品を展示した“同一庵藍民芸館”という全部で４つの博物館があるのも珍しいと言えます。

今回の私の印象は“がっかり”でしたが、天気の良い、もっと違った日に来ていれば印象は違ったかもしれません。


HOKURIKU
道の駅
ROUTE 8
風の丘米山

酒造りのふるさと！“よしかわ杜氏の郷”

雨脚が更に強まる中、次に向かったのは
道の駅よしかわ杜氏の郷（とうじのさと）　です。





激しい雨の中ですから、標識もこれが一番まともに撮れた写真なんです。
あとのは、文字も読めない・・・・。(￣Д￣；；


よしかわ
杜氏の郷
道の駅
P


観光
酒蔵
入館
無料
清酒・アイスクリーム製造・販売



ここにはいくつかの建物がありますが、まずこちらは農産物販売所、休憩所などがあります。





雨が少し弱まったところで急いで車を出て、休憩所に飛び込みました。



さすがにお店の中もガランとしています。
とりあえず道の駅スタンプはこちらにありました。



この配置図の右下にある “休憩施設” “農産物販売所” が今いる場所なのですが、もう一つ “観光酒蔵” というのがありますから、そちらへ行ってみることにしました。





ここ “吉川町（現：上越市に合併）” は、元禄４年（１６９１年）から酒造りが始まり、３００年以上に亘って脈々と 「越後杜氏の技」 を受け継いできた酒造りの町です。

吉川町は県下最大の酒米の産地であり、酒造好適米といわれる 「五百万石」 や、肥料をほとんど使わない永田農法による 「山田錦」 を育てています。
これを原料とし、更にブナ原生林がたたえる清らかな仕込み水を使って酒造りが行われます。

吉川は “越後杜氏の隠れ里” と呼ばれますが、現在でも約２００名の酒造技術者集団がいて、全国に多くの杜氏（酒造りの責任者）を輩出しているのです。





観光酒蔵の１階はこのように売店になっていて、この吉川で造られた様々な銘酒が並んでいます。
私も実は隠れ日本酒党なので興味はあるのですが、お酒は重たいのでなるべく旅先では買わないことにしているのです。(^_^;)



１階から２階にあがるスロープには、このように杜氏の人たちが着る法被というのでしょうか、それが展示されていました。
そして２階が、酒造りに関する資料館のようです。

もう一つ、１階の売り場の中にこんなものもありました。



これって “足湯” なんです。
店内に足湯があるなんて、随分珍しいと思います。



ただ、この通り土・日・祝日だけ入れるようですね。

ここで少し腹ごしらえをして次に向かおうとしたのですが、大きな問題が起きてしまいました。
予定では、このあと高速で一気に新潟県の最南端まで走り、“親不知ピアパーク” と “越後市振の関” の道の駅を回り、少し戻りながら最終的に上越市内に宿泊するはずでした。

ところが、この大雨で高速道路が通行止めになってしまったのです。
一般道で検索してみると、すごい時間がかかってしまいます。
実は後で知ったのですが、この時一般道も通れなくなっていたのです。



色々考えてみたけれど方法はなく、この二つの道の駅は今回断念せざるを得ないという結論に至りました。
明日以降行ける時間の余裕もなく、高速が通れるようになる見通しも不明なので、残念ながら今回目指した 「北陸全駅制覇」 はこの時点で不可能となりました。。(´д｀lll)

悔しいけれど、とりあえず行けそうな２か所と、明日予定していた１か所を加えて、今日は残り３ヶ所を回ることにしました。



海辺のリゾート！“うみてらす名立”

豪雨で通行止めとなった２か所の道の駅を諦め
道の駅うみてらす名立（なだち）　にやってきました。



ここと、もう一つ先の“能生”までは行けますが、その先が高速も一般道も通行止めになっています。
実はこの翌日、この通行止めの範囲は「上越ＩＣ」まで拡大しましたから、この日に行っていなければ、少なくとも４か所が回れなかったことになります。



この道の駅は新潟県の３４番目ですから、県内でもっとも新しく登録された道の駅です。
住所は 「上越市名立区」 となりますが、日本海に面した “名立漁港” に隣接します。





かなり大きな施設で、中央に市場や食事処への玄関がありますが、向かって右端（すぐ上の写真）には “光鱗” という看板があり、これは宿泊施設になっています。



正面の玄関から入るとそこが休憩所兼情報コーナーになっていて、スタンプもここに置いてありました。



天井や壁にはこの通りお魚さんがいっぱい！

そしてそこから左へ行くと “海の楽市” という鮮魚市場なのです。





ずらりと並んだ鮮魚コーナーにはさすが漁港のそばだけあって新鮮な魚介類がいっぱい！
でも、この大雨の中ではお客さんの姿はありません。

更に進むと少しホールがあって、“うまいもの横町” という飲食街があります。



そしてその奥が “土産物コーナー” です。
でも、こんなに人がいないと、私たちもおりづらくなります。

今回は昨日、今日とガランとした道の駅が多かったのですが、平日でこの激しい雨の中ですから仕方がないですね。
普段は賑わっていることだと思います。

そういうことで私たちも早々に引きあげてしまったのですが、実はここ、こんな大きな施設なのです。



私たちが見て回ったのはほんの一部で、中央の中庭には “シンボルガーデン” があって、海水を引き入れた２種類のプールがあります。

そしてその奥の部分は、“ゆらら” という名のリラックスゾーンで、プール、大浴場、展望露天風呂、大広間や整体ルームまであります。



天気の良い日にオーシャンビューを楽しみ、旨い海鮮料理を食べ、温泉に浸かってゆっくり過ごすには最適なリゾートだと思います。


食べる・遊ぶ・買う
泊まる・くつろぐ
うみてらす名立
道の駅
うみてらす名立
Umiterasu Nadachi
新潟県
上越市 西の玄関口
海の上のパノラマリゾート

かにや横町！“能生”

うみてらす名立からわずか１０ｋｍの距離の
道の駅能生（のう）　へやってきました。







ここは “新潟県糸魚川市（いといがわし）” ですが、もう少し先の糸魚川市街からは国道１４８号が長野県に通じています。
そういえばこの付近、長野県にも富山県にも接しているのですね。

道の駅は正式名称が “海洋公園マリンドーム能生” といい、県内トップクラスの漁獲量を誇る “能生漁港” に隣接していますから、海産物の豊富なのが最大の特徴です。





正面に “鮮魚センター” があり、その両サイドには “かにや横町” が軒を並べているのです。





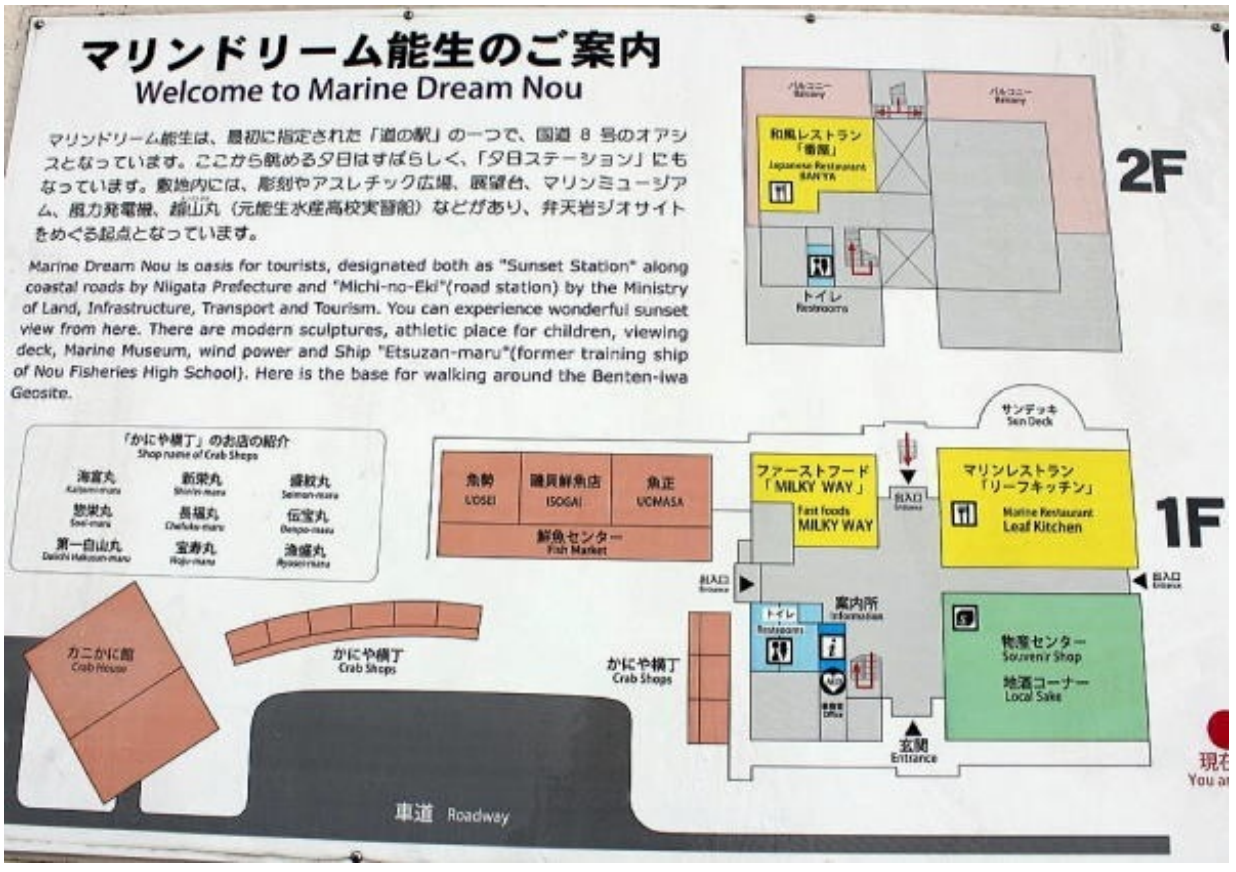
まずこれが “鮮魚センター” で、“魚正” “魚勢” “磯貝鮮魚店” という３つのお店に能生漁港で水揚げされたばかりの新鮮な魚介類が所狭しと並んでいます。



そしてこちらが “かにや横町” です。
かにや横町は２棟ありますが、“伝宝丸” ”第一白山丸” “宝寿丸”・・・・といったすべて 「●●丸」 という名前のカニ漁船の直売所が９店舗も並んでいます。

全国に知られる能生の特産品といえば “ベニズアイガニ” です。
このかにや横町ではそのベニズアイガニの試食もさせてくれます。

でも、旅の途中でどうせ買えないから、と遠慮していたら食べ損なってしまいました。（涙）
後悔することしきり！（ｉДｉ）



今、紹介したのはこの案内図の左半分です。
一番左に “カニかに館” というのがありますが、ここではかにや横町で買ったカニをここで食べることもできるのだそうです。





こちらが右半分の建物で、物産センターやレストランが入っています。



正面にあったオブジェはイルカの群れです。



そしてマットに描かれたこのイラストは、能生のマスコットである“ベニィ”くんです。
もちろん「ベニズワイガニ」からとった名前ですね。





中央がホールになっていて、まわりにいくつものお店があります。

ここには観光バスも何台か停まっていましたが、周囲には日本海を見下ろす展望台や、アスレチック広場、キャンプ場もあって、いろんな楽しみ方のできるプレイスポットだといえます。


食べる！楽しむ！海のプレイ
光海風
日本海「夕日ステーション」
日本海夕日ラインの「夕日ステーション」に指定されている能生海洋公園マリンドリーム能生は「道の駅」に認定され、国道8号のオアシスとして利用されています。広い敷地内には個性あふれる近代彫刻やアスレチック広場、展望台、海の資料館などがあり、能生の魅力を再認識させてくれます。
能生マリンホール
展望台
観光物産センター
鮮魚センター
かにや横丁
かにや横丁
アスレチック広場
青い海と温泉のまち 能生
カニ、食べようよ！
ようこそ、能生へ!! 海に食に遊びに能生を満喫してください。

（パンフレットより）


道の駅
能生
マリンドリーム
能生
日本海夕日ステーション


道の駅
能生
マリンドリーム
能生
日本海夕日ステーション

１７店舗の集う街！“あらい”

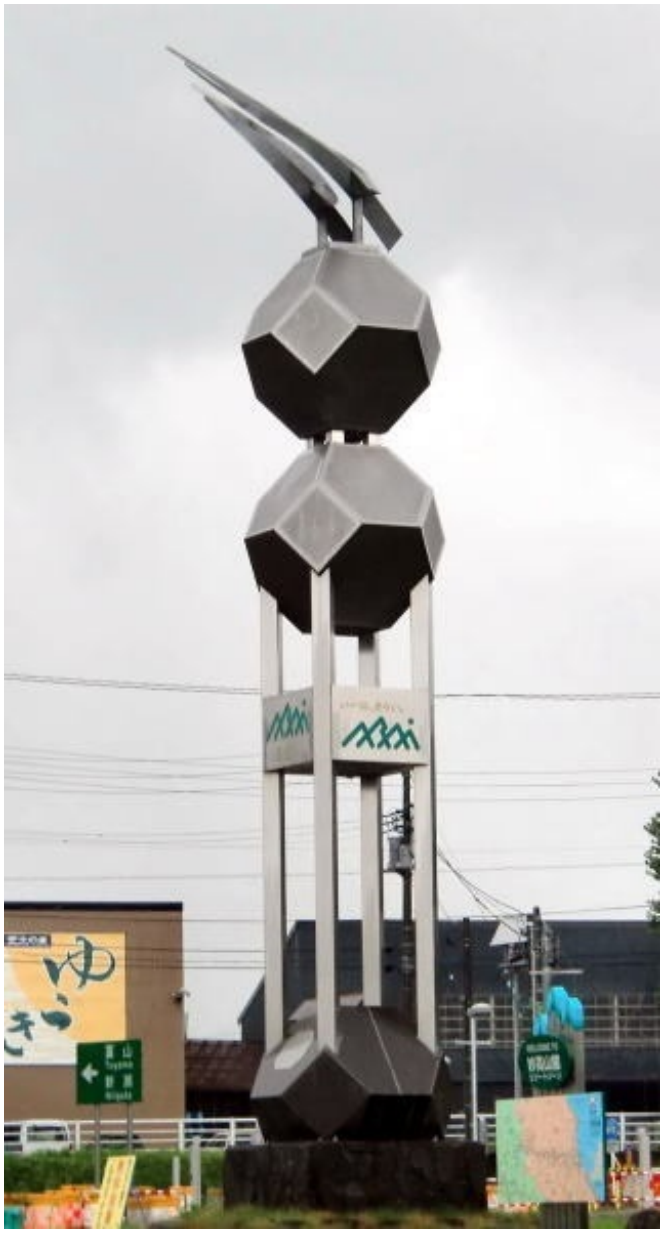
既にお話したように糸魚川から先は高速道路も一般道も大雨の為に通行止めになっています。

その先の２か所に行けないので本来ならこれで今日の予定は終わりなのですが、少し時間が空いたので明日行く予定の中の１か所、

道の駅あらい　を今日のうちに回っておくことにしました。







２日目の今日の宿泊は北陸自動車道と上信越自動車道が分岐する 「上越市内」 なのですが、道の駅あらいは上信越自動車道の “新井パーキングエリア” に隣接した場所にあります。

“新井ＰＡ” は、ＥＴＣのみに対応したスマートＩＣになっているので、本当は高速をそのまま走れば良かったのですが、ナビの指示に従った結果、上越ＩＣで下りで一般道を走りました。



ここは一般道からも高速からもどちらからでも利用できる道の駅ですが、このようにたくさんの建物が並んで、一つの “街”を形成しています。

ですから、最初に全体図を見て頂いた方が分かりやすいと思います。



あまりに広いので分かりづらいと思いますが、私たちが車を停めたのは「⑥番」の “日本海鮮魚センター” の前です。



そしてこの並びの右側がこちらです。



手前から、「⑧ラーメンと定食の店 “よしきゅう”」「⑨カフェレストラン “哲学の森”」（とんがり屋根です）　「⑩定食の “一膳めしや”」「⑪味噌ラーメンの “食堂ミサ”」「⑫新鮮野菜、果物の “大地”」と続き、一番奥に⑬の“スーパーホテル” があります。





車を停めた日本海鮮魚センターの、道路を挟んだ向かい側には、⑭の “麺屋吉祥” と ⑮の 野菜・果物を売る “あらいの里” があります。

このようにここは、全部で１７の店舗で構成されているのです。
ただ道の駅の本体がどこか分からないので、今度はパーキングエリアに近い逆方向に歩いてみました。



“きときと寿司” の前を過ぎて更に進むと、一段大きな建物が見えます。



この左端の “くびき野情報館” がどうもそれらしいので行ってみました。



ここは情報提供と休憩スペースを兼ねた、やはり道の駅の中心施設になっていました。



道の駅スタンプもここで見つけてとりあえず目的達成！
売店があり、館内ではイベントなども行われます。



店内にはこんな可愛いお地蔵さんも！

さて、再びいろんな店舗を覗きながら車の方へ戻ります。
きときと寿司の隣にあった“カンパーナあらい”へ入ってみると、ここは大きなお土産センターでした。





ここでひとしきり土産を買い込み、最後にソフトクリームを味わって、２日目の道の駅巡りを締めくくりました。

２日目の宿泊は上越ＩＣにほど近い、「ホテルルートイン上越」 です。
ホテル内の居酒屋で、雨の中を走り回った今日一日の疲れを癒しました。



雪むろで貯蔵！“雪のふるさとやすづか”

新潟の旅３日目の、まず１か所目は
道の駅雪のふるさとやすづか　へ向かいます。



３日目の行程は、内陸部を辿って再び新潟市内に戻るルートです。
残念ながらこの日も空はどんよりしていて、時折雨が降ってきます。

上越IC近くのホテルを出て、一般道を４０分弱で到着しました。



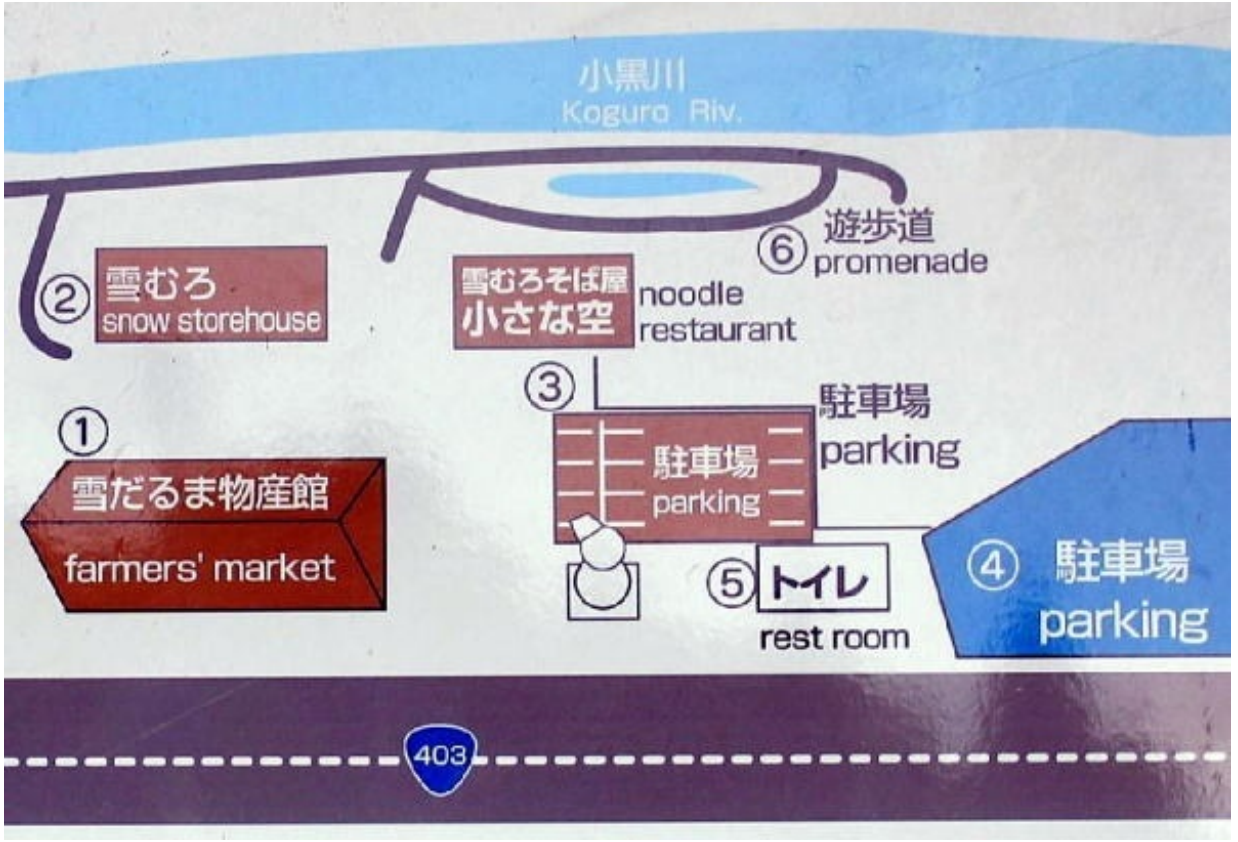


“安塚町（現：上越市安塚区）”は、標高６０m～４５０ｍに集落が点在する純粋な農村地帯で、日本海側特有の重たい雪が平地で２ｍ、山間部で４ｍも積もる豪雪地帯です。

上杉謙信の時代は関東と結ぶ三国街道の重要地点として発展しましたが、現在はご多分に漏れず人口流出が続いています。
そこで町では“全町公園化構想”のもとに、スキー場や温泉などを整備し、観光を中心とした町づくりに取り組んでいます。



ここで私たちを出迎えたのが、この巨大な雪だるまくんです。
そういえばここへ来る途中の道路にも、雪だるまのオブジェがいくつもあったように思います。



ここには、３つの建物があります。



先程雪だるまくんのうしろにあったのが、この “雪だるま物産館” です。

そして、駐車場の正面にあるのが “雪むろそば屋「小さな空」” です。

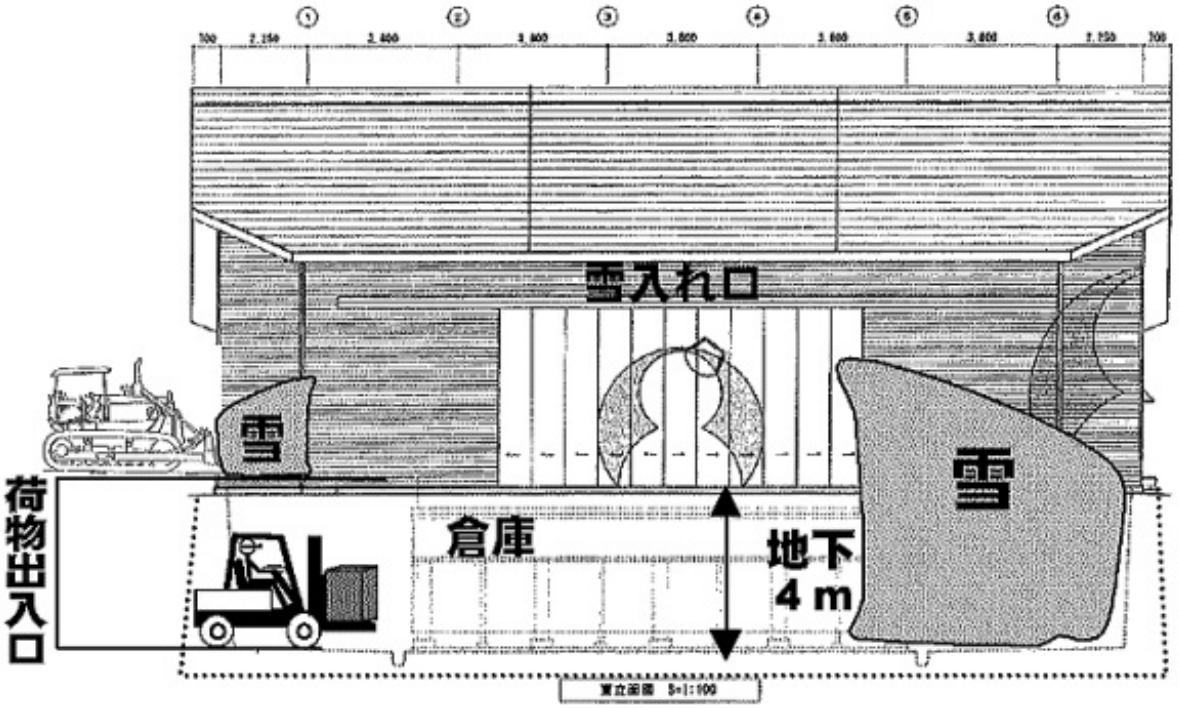


これらの施設は９時のオープンですが、到着したのは８：５０ですから、１０分ほど時間があります。
もう一つの建物 “雪むろ” を見に行きました。





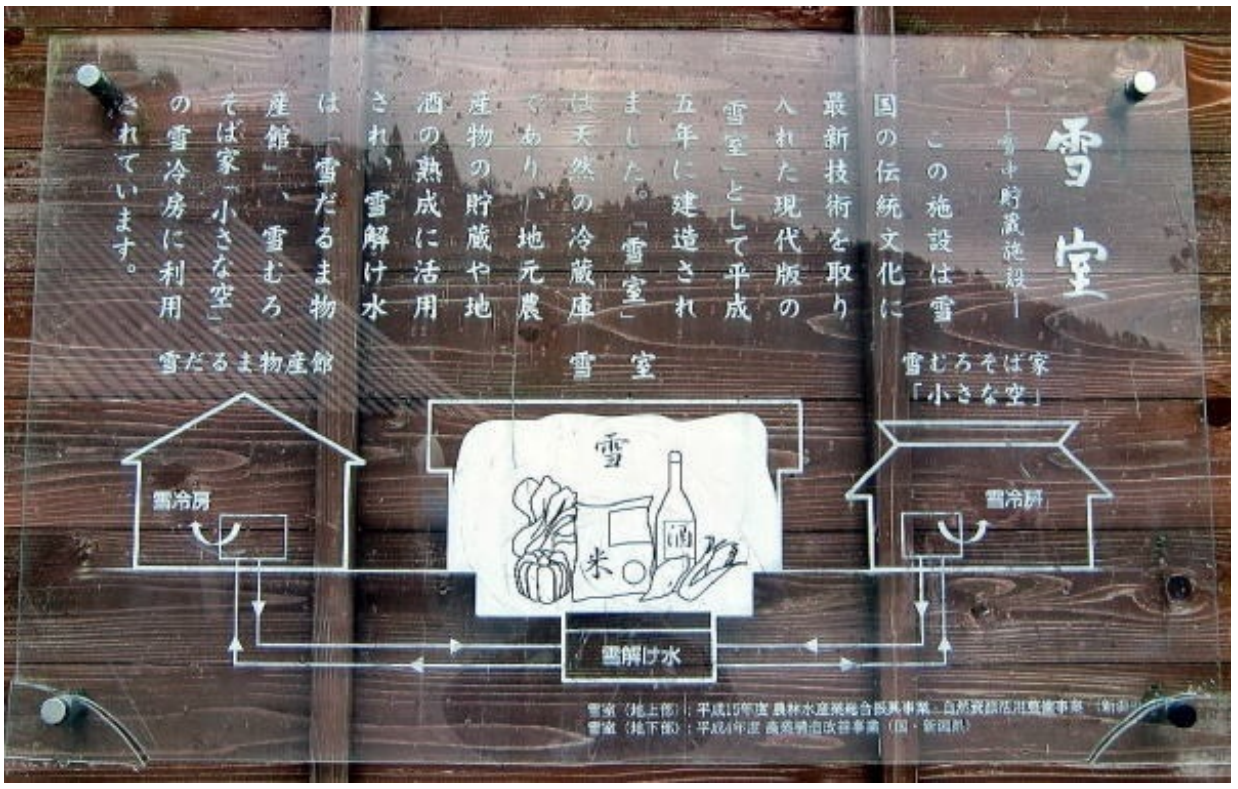
一番奥に建っていたこれが、雪国ならではの施設 “雪むろ” です。
ここに冬場に積もった雪を保存し、これを食品などの貯蔵に使います。



（ＨＰより借用）

この図面のように地下４ｍが貯蔵庫になっていて、その上に１０００トンもの雪を貯蔵します。
そうすると、だいたい９月頃までは貯蔵庫の気温は０度、それを過ぎても１０度以下なのだそうです。

そして地下に貯まった雪解け水は、“雪だるま物産館” や “小さな空” の冷房に使われるのです。
まさに “雪冷房” を使った究極のエコとも言えますね。





雪むろの側壁にはこのような“のぞき窓”がいくつかありますが、ガラスが曇って全然中は見えませんでした。
冷たくて気持ちが良いのでしょうか、カエルがくっついてじっとしていました。（笑）

それで、雪入れ口の大きなドアの隙間から覗いてみると　・・・・・・。



キャ～汚い～！((((((ﾉﾟ⊿ﾟ)ﾉ
まあ、冬から９月の今まで頑張ったのだから汚れるのは仕方がないですね。

さて、９時を回ったので雪だるま物産館に入ってみました。





この施設は農業生産者を組合員とした “手づくり百人協同組合” が運営しています。
ですから、農家の人たちの農作物や手作りの食材などが毎朝持ち込まれて販売されています。

ちょうど商品を持ち込んでいたおばさんに早速 「〇〇円に負けるから買わない！」 と声をかけられました。




かきもち
210円
かきもち



スタンプも無事にゲット！
そして、私たちが買ったのはこちらです。



懐かしいかきもちです。
“魚沼産もち米１００％使用” という言葉に惹かれました。

そしてこれは、本当に旨かった。
ちょっと堅いけど、食べ始めたら止まらなくなりました。(;^_^A


道の駅
雪のふるさと
やすづか

棚田のアート！“まつだいふるさと会館”

「雪のふるさとやすづか」 から40分弱で
道の駅まつだいふるさと会館 へやってきました。






253
道の駅





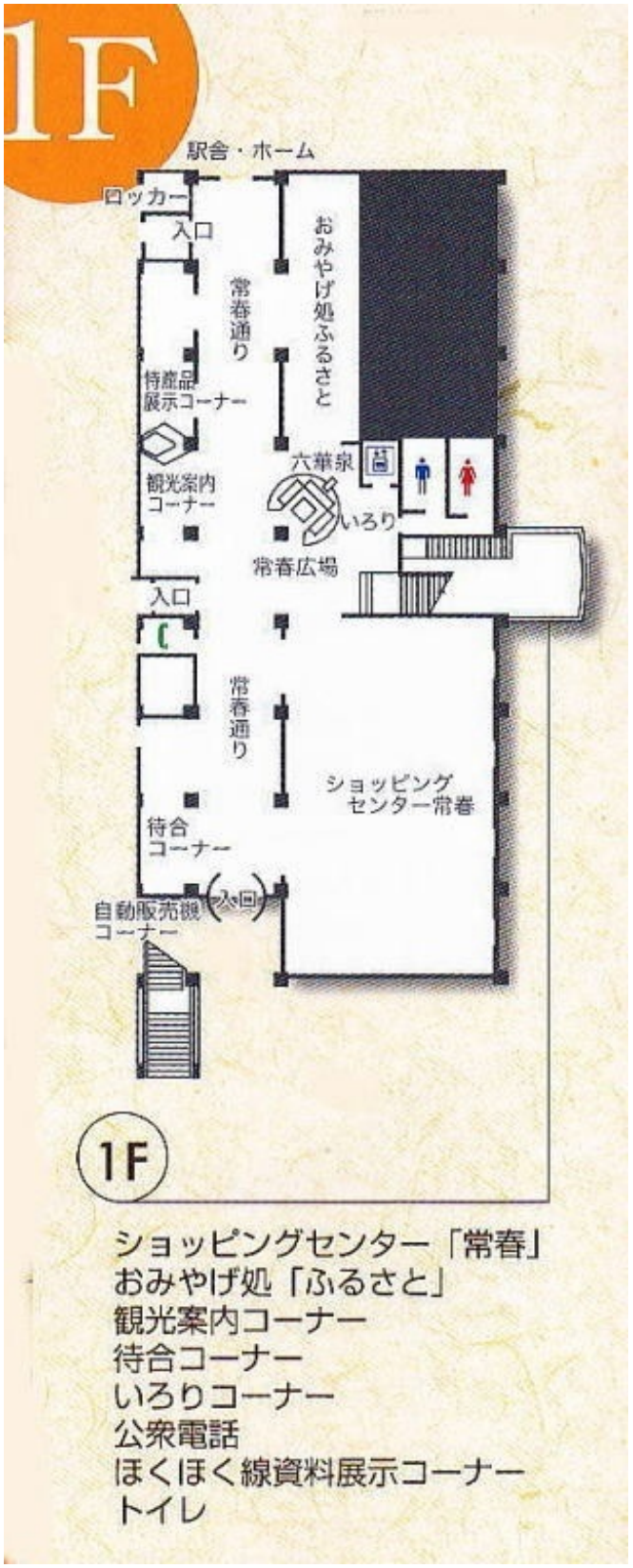
ここは “ほくほく線” の “まつだい駅” に併設された道の駅です。
“ほくほく線” とは、南魚沼市の六日町駅と上越市の犀潟駅を結ぶ路線のことをいいます。



なぜかここがその発祥の地という碑が建っていました。
ですからこのふるさと会館が待合所を兼ねており、列車のホームに繋がっています。



ホームには三脚を立てて写真を撮っている方が見えますね。



建物は3階建てで、1階はこのようにショッピングセンターが入っています。
２階、３階は食事処、大会議室やホールがあって、町のいろんな催し物などが行われるようです。





中央部分にはこんな洒落た “いろり” の休憩所がありました。







無事にスタンプもゲットして、お店を見て回るといくつか面白いのを見つけました。



“こしひかり越後ビール”
ビールは “麦” ではなかったのかな？

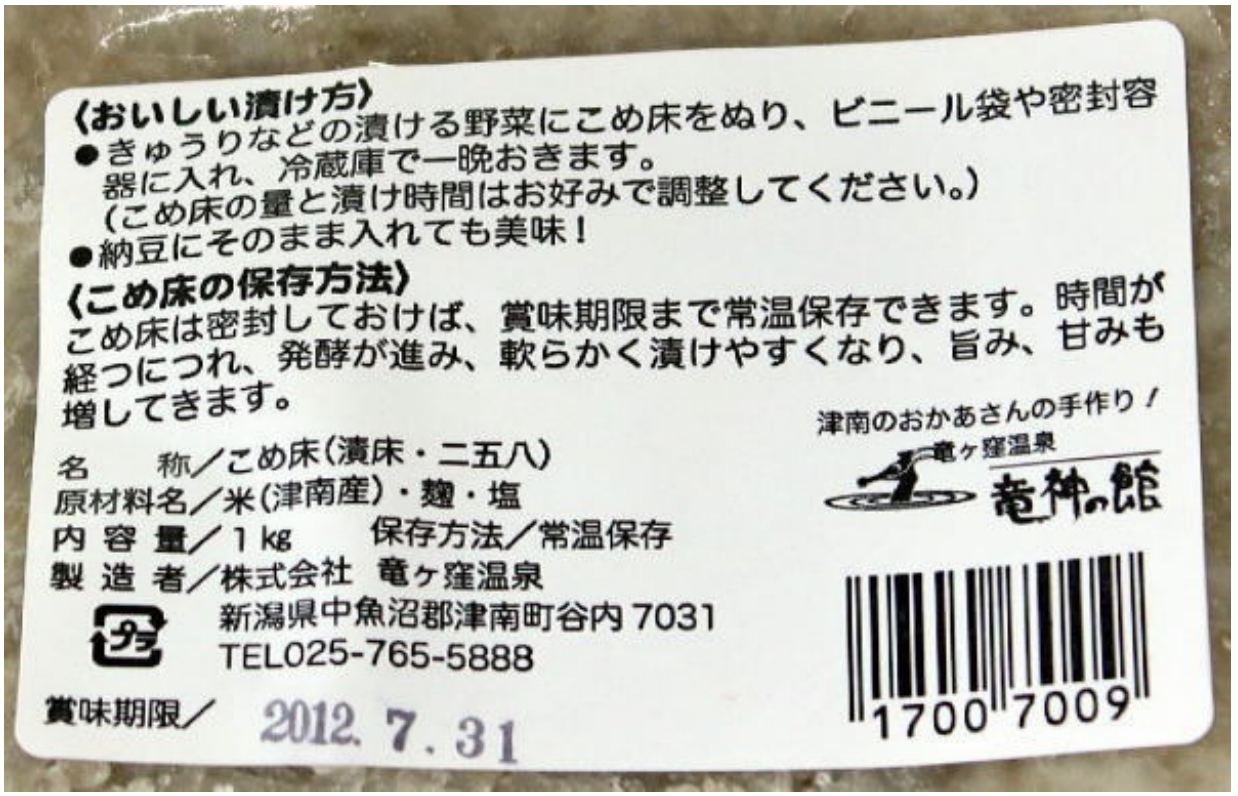


“いなごの佃煮”
これは他の道の駅でも見かけました。
形を見るとこれは食えない・・・・・・！（汗）



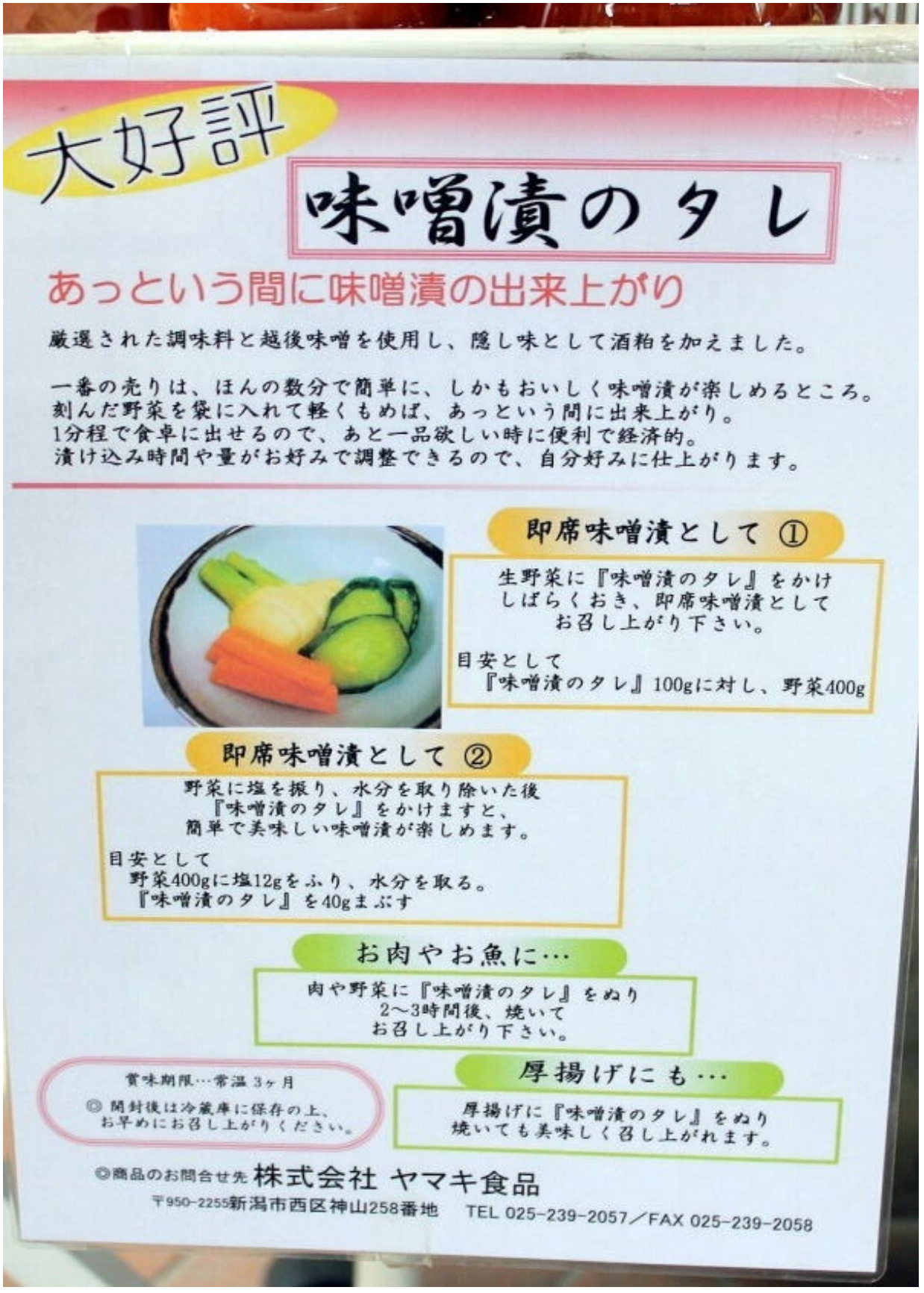


そして我が家が買ったのはこのふたつです。
まず上の方の、“こめ床”　・・・・・
これを見て頂くましょう！



以前、宮崎の道の駅で買った 「じゃがいも床」 を紹介したことがありますが、それと同じように簡単に漬けものが作れるのですね。

そしてもう一つが “味噌漬のタレ” です。



どちらも現在、我が家で大活躍をしております。(*^▽^*)

さて、“松代町（現：十日町市松代）”といえば忘れてならないものが“棚田”の風景です。
この地域にはたくさんの美しい棚田があって、プロやアマのカメラマンが集まってくる場所なのですが、このホームの線路の向こう側もその一つです。





下からの写真なので棚田というのが少しわかり難いと思いますが、何か立っていますね！
拡大したものがこちらです。









一番下の写真は 「花咲ける妻有」 という題名がついたオブジェです。
何を現わしていつのかさっぱり分かりませんけど・・・。（汗）



そして棚田のすぐ横にあるこの田んぼに降り立った宇宙船のような建物は、“まつだい雪国農耕文化村センター” です。

実はここでは、三年に一回 “大地の芸術祭” というのが開催され、国内外のアーティスト、地元住民、各界の専門家、全国のサポーターが協働で、この里山を舞台にアートの祭典を展開するのです。

これらは、その時の作品の一部ということです。

棚田を観光資源の一つにしている地域は全国各地で見ましたが、これをキャンバスにして芸術にまで高めようという試みは、とても新鮮な印象を受けました。


棚田の里
道の駅
253
まつだい
ふるさと会館

地域振興大型施設！“クロス10十日町”

次は同じ十日町市内にある
道の駅クロス10十日町　へやってきました。





いつもの道路標識がここには無かったので、入口の看板で代用です。



ここは中央の駐車場兼イベント広場を挟んで、左右にでっかい施設があります。
ただこの駐車場は満杯で、ずっと奥のはるか彼方の駐車場に停めざるを得ませんでした。



まず左側にある建物がこちらの“クロステン”です。



右側の “キナーレ” はこちらの建物です。

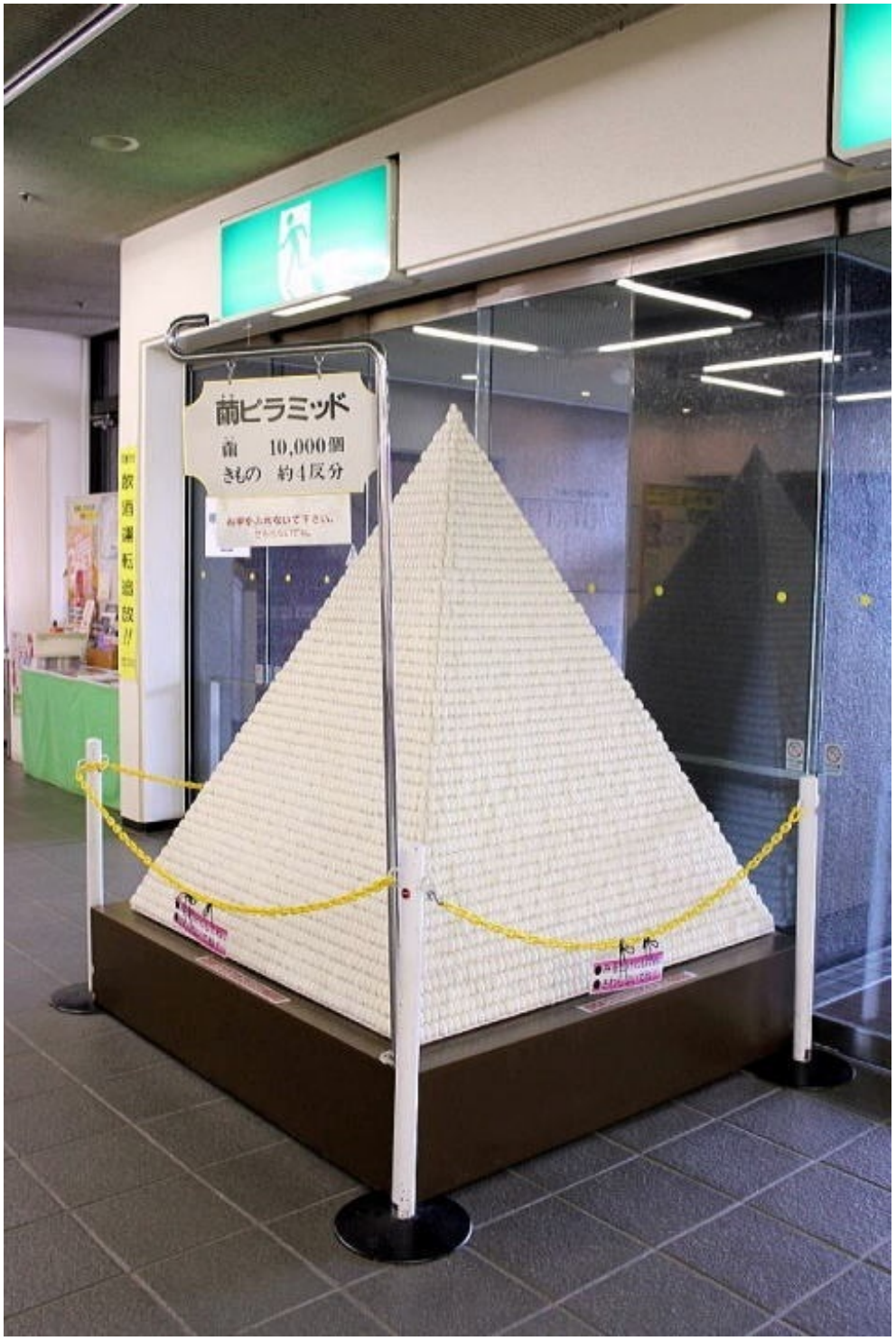


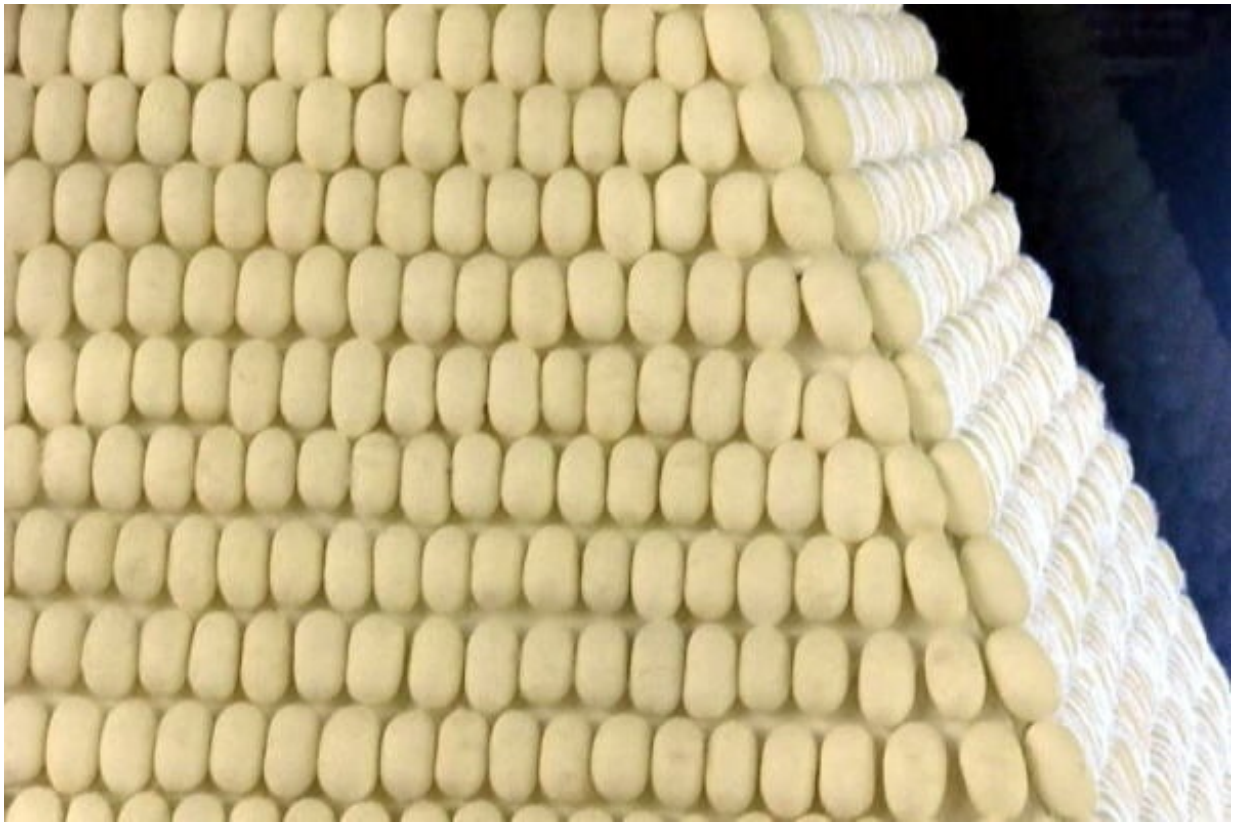
ちょっと趣の違うふたつの巨大な施設で構成されています。
まず “クロステン” の方から入ってみましょう。





何か重々しい雰囲気で、送迎バスまで備えています。
“十日町地域地場産業振興センター” というこれも重々しい名前が正式名称のようです。


着物ピラミッド
着物　10,000個
きもの　約4反分



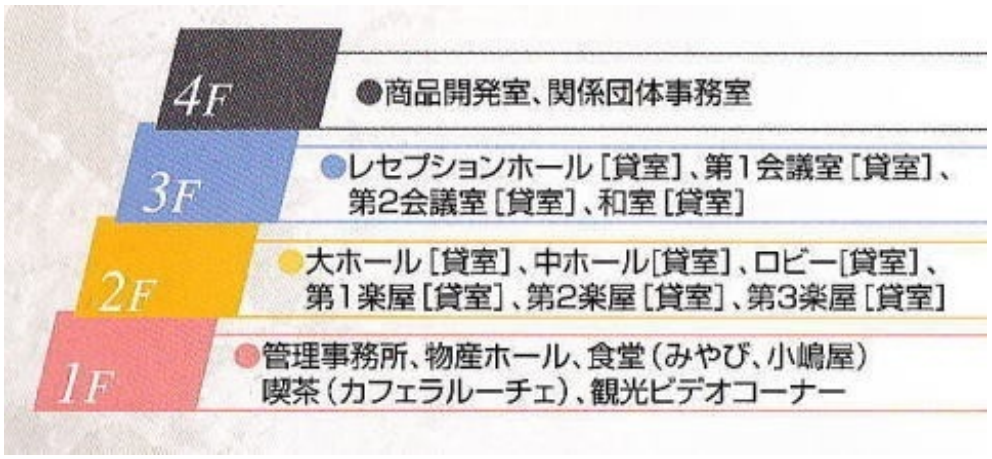
玄関でまず目につくのが１万個の繭を使った巨大な “繭ピラミッド” です。
十日町は、絹織物の産地でもあるのですね。

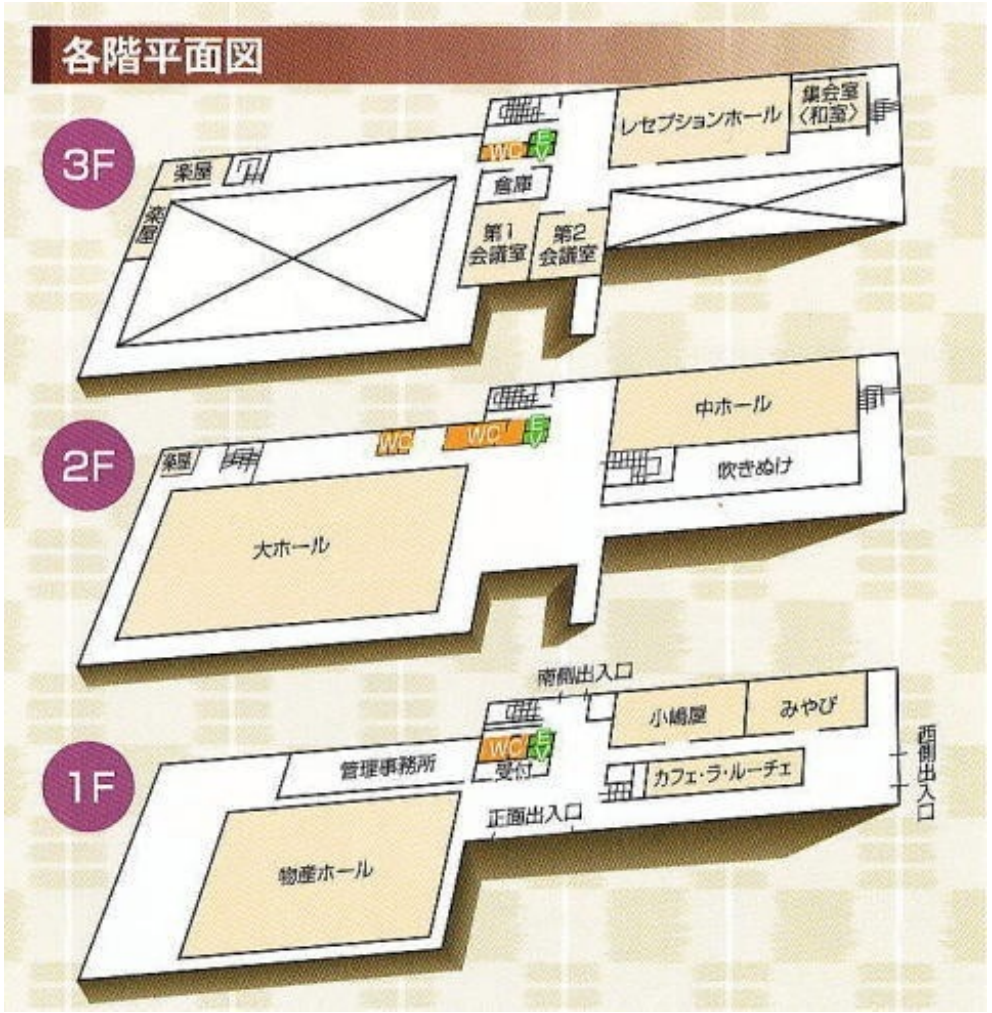


ここには、物産ホールやインフォメーションがありました。
道の駅スタンプも置いてあって、無事にスタンプゲット！



うちの嫁は必ずこの登録証の写真を撮るのですが、この写真、左右に “手” が見えますか？
インフォメーションカウンターにあった認定証を撮らしてくれと頼んだら、受付のおねえさんがわざわざ持ってきてくれたんです。（＾ー＾）





ここは４階建てで２階から上には大小のホールがあります。
この日も何かイベントがあっていたらしく、駐車場にすごくたくさんの車があったのもそのせいだったようです。





１階にはこのようなカフェがあり、その通路にはキルトの展示がされていました。



さて、今度は隣の “キナーレ” の方へ行ってみます。



実はこの時大雨が降っていたのですが、傘を車の中に置いてきた私たちは、ちょっと弱まるのを待って、エイヤッ！で渡りました。





こちらもすごく大きな施設で、四角に囲まれた中央が広場になっています。
そしてそこには、写真では分かり難いかもしれませんが満杯の水がたたえられています。



最初、この大雨で水が溜ったのかな？と思いました。
付近にいた人に尋ねてみると、その時のイベントによってここは水を溜めたり、あるいは水を抜いて普通の広場にしたりできる装置があるのだそうです。

この日は水を張っていた、ということですね。





ここには “明石の湯” という温泉施設があり、様々な体験教室も開かれています。
“クロステン” とあわせて、十日町地域の交流の場になっているのだと思います。

“十日町市” とその南にある “津南町” を合わせた地域を “越後妻有（つまり）” と呼びます。
前回の 「まつだいふるさと会館」 で紹介した棚田の中のオブジェも “花咲ける妻有” という名前でしたね。

一般に “妻有（つまり）” という言葉は、奥まったところ、どんづまりを意味するのだそうです。
妻有地区は全国有数の豪雪地帯ですが、ここには約４５００年前の縄文時代から人が住みつき、“火焔土器” という国宝を残しています。



（笹山遺跡出土：十日町博物館にある国宝）

遠い昔から、雪国ならではの文化を築いてきたのだと思います。



渋海川の水辺！“瀬替えの郷せんだ”

本日４か所目の目的地は
道の駅瀬替えの郷せんだ　です。







旧仙田村（現：十日町市中仙田）は、標高１５０ｍ～５００ｍの起伏に富んだ地形で、この一帯を “仙田郷” といいます。

仙田郷を南北に流れる一級河川 “渋海川（しぶみがわ）” は蛇行し頻繁に洪水をおこす為、中世から近代にかけての先人たちは川の流れを真っ直ぐに変え、屈曲部を埋め立てて耕地に変えるという究極の土地利用に取り組んできました。

このことを “瀬替え” といい、この道の駅の名前 “瀬替えの郷” の由来となっています。






300m
130m
230m
せせらぎ水路
東屋
渋海川
河童の吊橋
水辺歩道
散策路
駐車場
水辺歩道
ステージ
階段
階段
階段
雪室
(地下)
階段
散策路
渋海川
トイレ
キラリ
現在地
駐車場
案内表示
区間距離
N
渋海橋
国道252号線
至十日町

ここはその “渋海川” の蛇行部分に作られた道の駅ですが、建物の裏は水辺の公園になっていて水辺歩道があり、更に山手には散策路が整備されています。

でも、道の駅自体はごくシンプルです。



建物の前にテントがあって、ここが野菜などを直売する “楽楽市場” になっています。



正面の玄関からはいってみました。





そこには受付カウンターがあり、食事処がありました。



道の駅の登録証はあったけどスタンプが見当たらないので再び外へ出てみると・・・・。





左隣にあったトイレの前に、“スタンプ” と書いた矢印があります。
その矢印の先にあるのは・・・・・。



何かビニールのカーテンのようなものが下がった入口です。
その中を覗くと・・・・・。

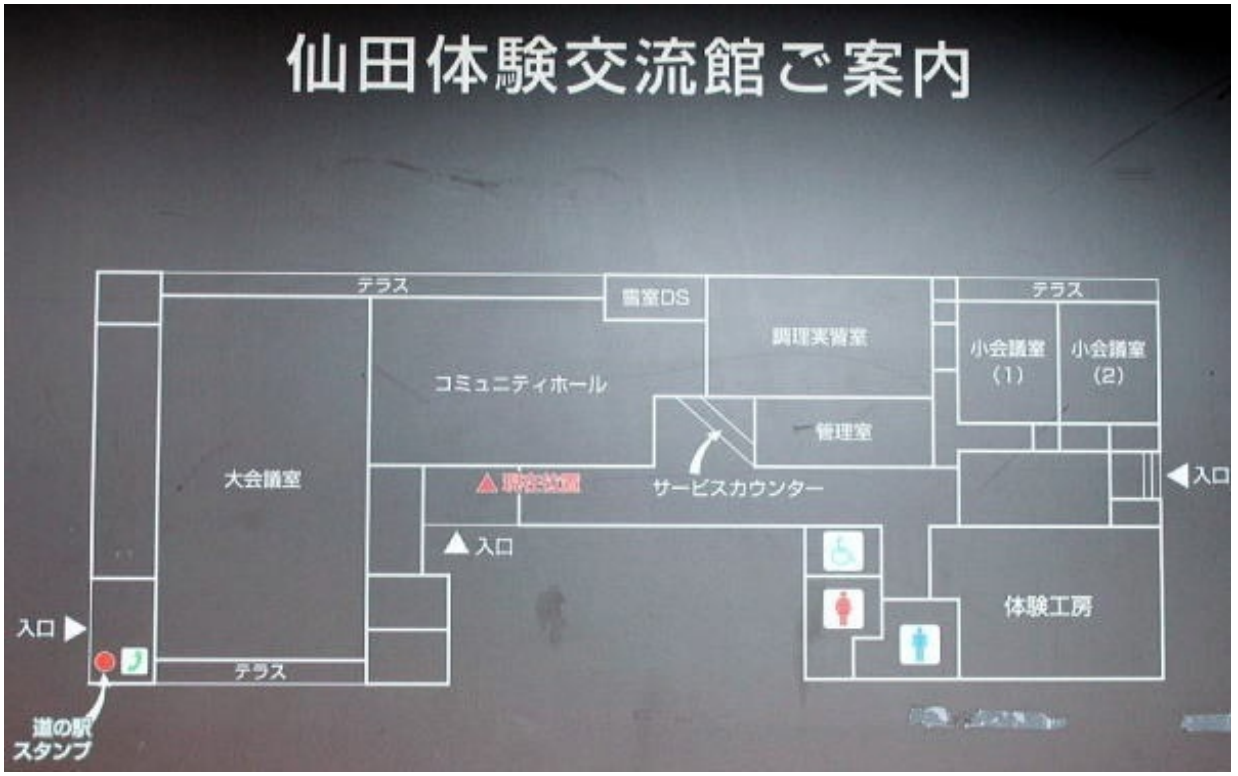


また矢印があって・・・・・。



狭い空間の隅っこに肩身が狭そうに置いてありました。

確かにここだと２４時間押せるのだろうけど、もう少し日のあたる場所（笑）に置いて欲しいな～(^▽^;)

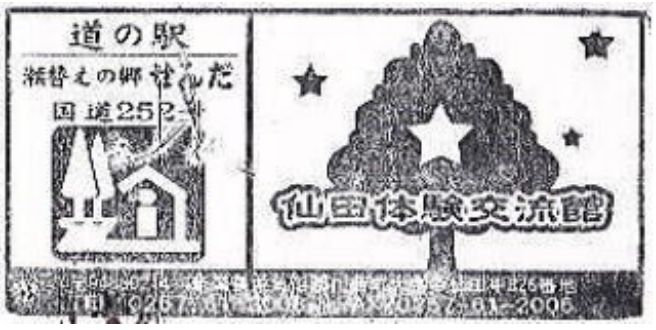


この道の駅、売店もなにもありません。
この案内図の “コミュニティホール” と書いてある部分が食事処です。

ですから、大小の会議室、それに体験工房がメインの建物のようです。
“体験交流館” と名付けられたこの施設は、農村の交流、集会、展示、実習などを通じて農村の活性化を目的に作られたものです。

地域の交流の場ではあっても、道の駅としてはちょっと物足りなさを感じました。




道の駅
新替えの郷 せんだ
国道252号
仙田体験交流館

ゆったりのんびり！“じょんのびの里高柳”

次は１０分少々で、
道の駅じょんのびの里高柳　へやってきました。





ここも道の駅看板が見つからなかったので、これで代用です。

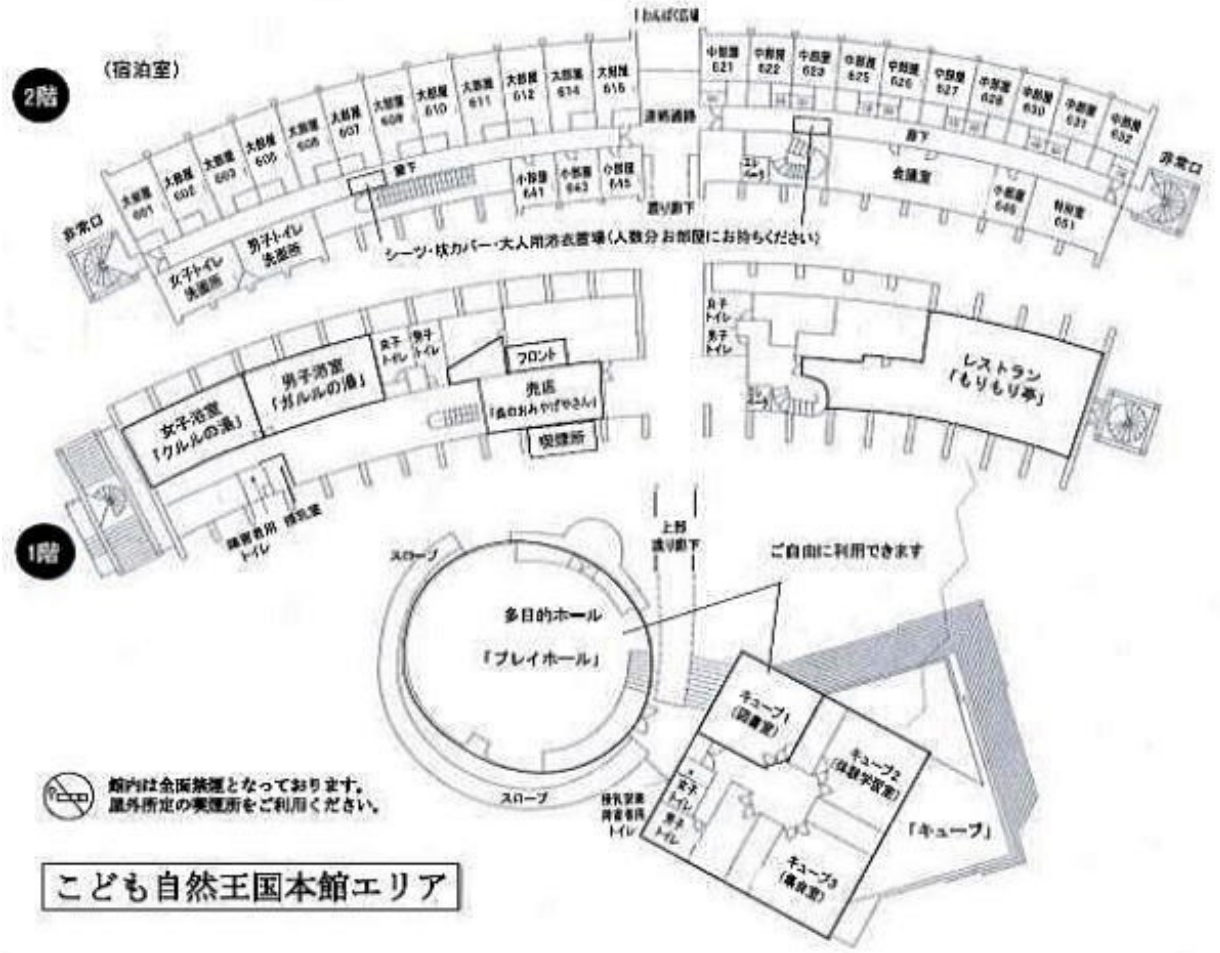
“じょんのび”というのは、「ゆったりのんびりとした芯から気持ちのいい」というニュアンスをもったこの地方の方言です。
高柳町は起伏の激しい山に囲まれた小さな町ですが、「住んでよし訪れてよし」の町づくりを目指し、滞在型交流観光施設としてこの道の駅を作りました。



駐車場に停めて最初に目についたのはこの建物で、“萬歳楽” といいます。
そしてもう一つその左手に目立つ建物が見えます。



同じ敷地内にあるこちらは “新潟県立こども自然王国” といって、児童が宿泊をしながら自然の中で多くのことを学ぶために作られた大型児童館です。



道の駅と直接には関係なさそうですが、学校や団体単位でここに宿泊し遊びを通じて協調性・創造性・忍耐力などを身につけるのが目的のようです。



施設の全体図をみると、キャンプ場や子供広場も周辺にあるようです。



建物部分だけ拡大したのがこちらです。
まず “萬歳楽” へ入ってみます。

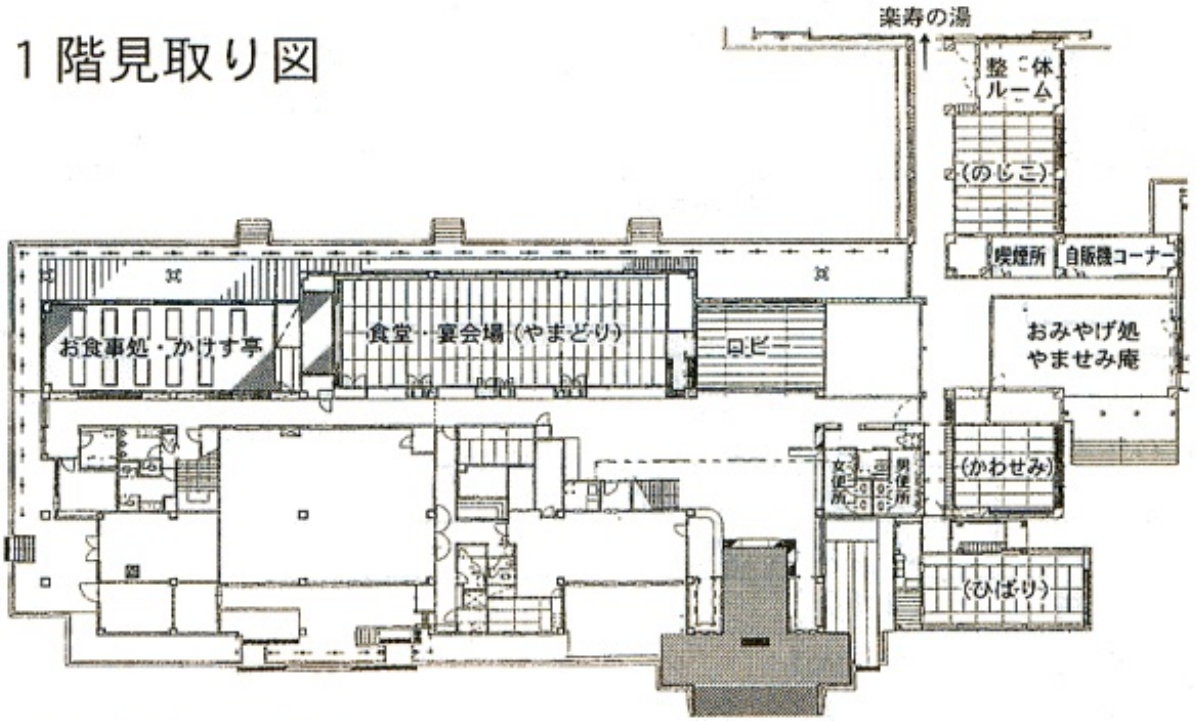




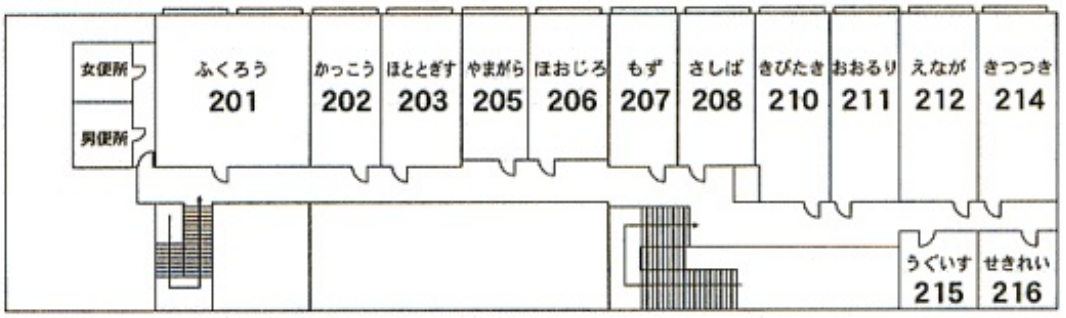
久しぶりに青空が見えるのですが、残念ながら長続きはしませんでした。

二重ドアの手前を入ったところに道の駅スタンプは置いてありました。
ここは、宿泊、食事、そして温泉を備えたくつろぎの場所です。

1階見取り図



2階見取り図



玄関は温泉、宿泊の受付カウンターなのでどうも入り難く、外に出て裏に回ってみました。



こちらは農作物などを直売している “百菜館” です。



そしてこちらは萬歳楽と並んで立っている “銀兵衛” という食事処ですが、左手に階段があってお店らしい入口が見えたので行ってみました。





ここは “萬歳楽” の土産物店でした。
萬歳楽からも入れるのですが、逆にこちらから萬歳楽へは入れなくなっています。

こちらでは飲み物だけを買いました。
ここは自然環境も良く、温泉に浸かって食事を楽しんでのんびりするには最適の場所だと思います。
“じょんのび” という言葉の意味がなんとなく分かる気がしました。



日帰り温泉施設！“ちぢみの里おぢや”

次は35ｋｍほど走って、小千谷市にある
道の駅ちぢみの里おぢや　へやってきました。





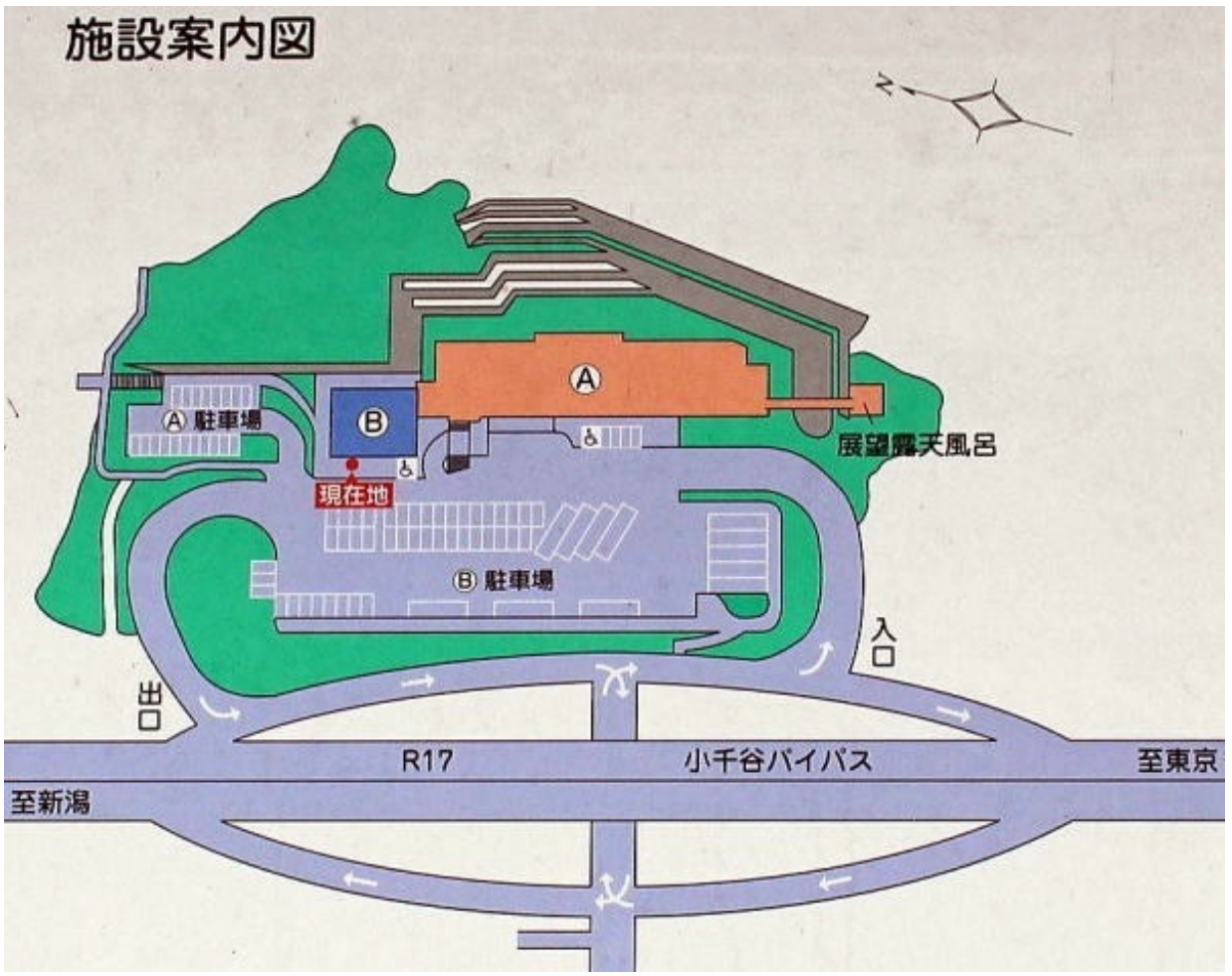


“小千谷” は千数百年の伝統を誇る織物の産地で、特に “おぢや縮（ちぢみ）” は、全国的に有名です。
かつては江戸や大阪から多くの商人が仕入れにきて賑わったのだそうです。

ここの道の駅の名前 “ちぢみの里” はこのことから名づけられています。







メインとなる建物は一つだけですから、比較的シンプルです。





玄関を入ったところが売店ですが、あんまり広くはありません。
そしてここから、一段あがったところに温泉の受付カウンターがあります。



ここには天然温泉を使った露天風呂、洋風温泉、岩風呂、そして岩盤浴も備わっています。
日帰り温泉で宿泊はできませんが、大小の広間や休憩室があって心と体のリフレッシュができます。



展望露天風呂はこんな通路を上って、小千谷市を一望できる高台にあります。



駐車場の壁に小千谷市を代表する写真が貼ってありました。







小千谷では2月下旬に “風船一揆” というイベントがあり、これは一面の銀世界の中をカラフルな熱気球が舞う、というものです。

2番目の写真は9月に行われる世界一の４尺玉花火が夜空を彩る “片貝まつり” です。
花火といえば “長岡” が有名ですが、小千谷市とは隣同士になります。

最後の写真は5月から11月にかけて行われる “牛の角突き” の様子です。

また、写真はありませんが “錦鯉” が伝統産業の一つであり、小千谷は “錦鯉発祥の地” ともいわれています。

こうして旅をしていると色んな地にそれぞれの文化や伝統行事が脈々と受け継がれていることを感じます。


道の駅
ちちみの里 おぢや


ROUTE 17
おぢやの里

あぐりの里！“越後川口”

ちぢみの里おぢやからわずか５ｋｍで
道の駅越後川口　にやってきました。









ここも前回の “おぢや” と同じく国道１７号沿いにあります。

歩道沿いには奇麗な花が咲き乱れていました。

今回の旅も３日目ですが、相変わらずの雨が降っています。

ここ “長岡市川口” には信濃川と魚野川が流れており、ここから車で５分ほどの “川口やな場” では、１００年を超す伝統漁法でアユなどを獲っており、そのやなの規模は全国一といわれています。





明るい色どりの三角屋根の道の駅ですが、一見普通の町なかにあるスーパーマーケットのようです。





中に入ってみると、そこはまさにスーパーマーケット、地元の人たちが野菜などの買い物をしています。



かろうじてこの認定証とスタンプ、それに小さなスペースの情報コーナーで道の駅とわかります。

売り場には、ここでもこれが・・・・・・。



こしひかりの田んぼで育った栄養満点のいなごってところでしょうか？
どこかで “貴重なタンパク源” って書いてあったけど、やっぱり私には無理です・・(^_^;)

ここで “おやっ！” と思ったのがこの売り場です。



“全国道の駅交流商品” のコーナーです。

今まで、例えば能登半島の “桜峠” の道の駅にこういった交流商品を売っていたり、四国の道の駅で、沖縄の道の駅から来た珍しい果物を並べていたケースを見かけましたが、こんな大々的なものは初めてです。

そしてこの地域が多岐にわたっていて東北や静岡、九州まであります。

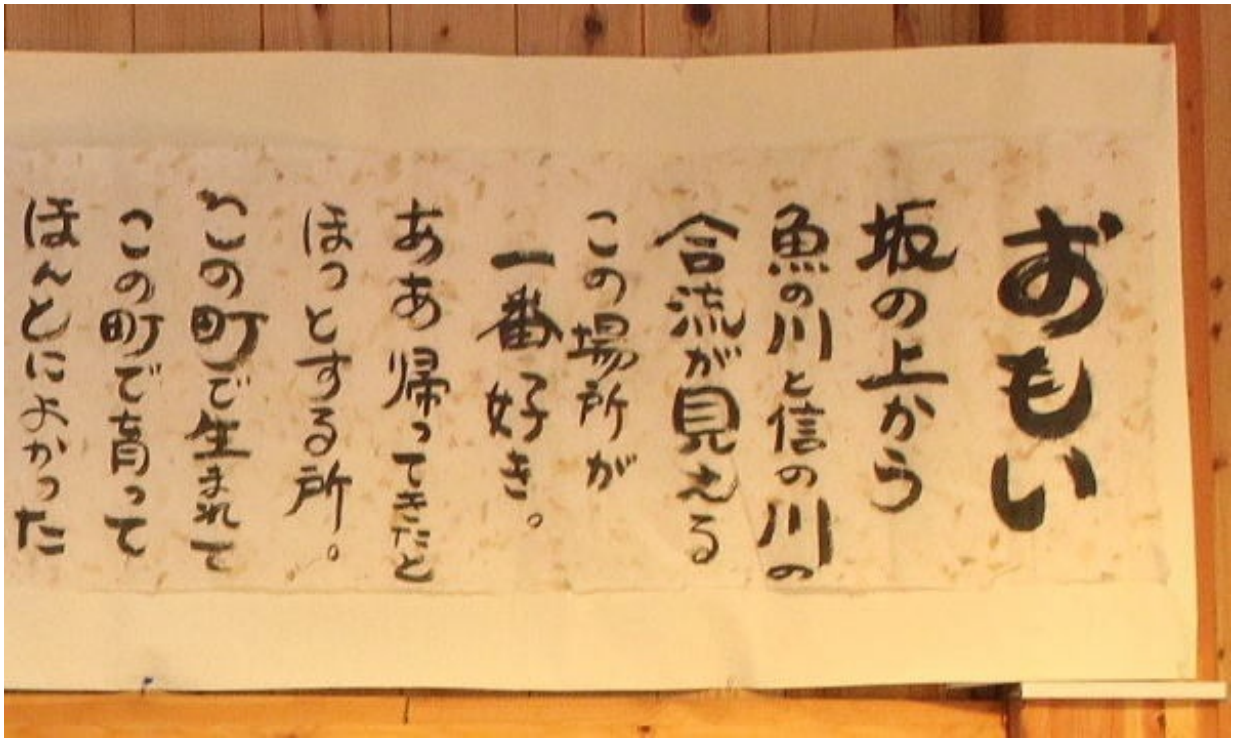


これは我が九州、鹿児島の道の駅から来た特産品です。
この新潟で鹿児島のお菓子に出会うとは思いませんでした。

こういった試みは道の駅を活気づけることにもつながりますね。

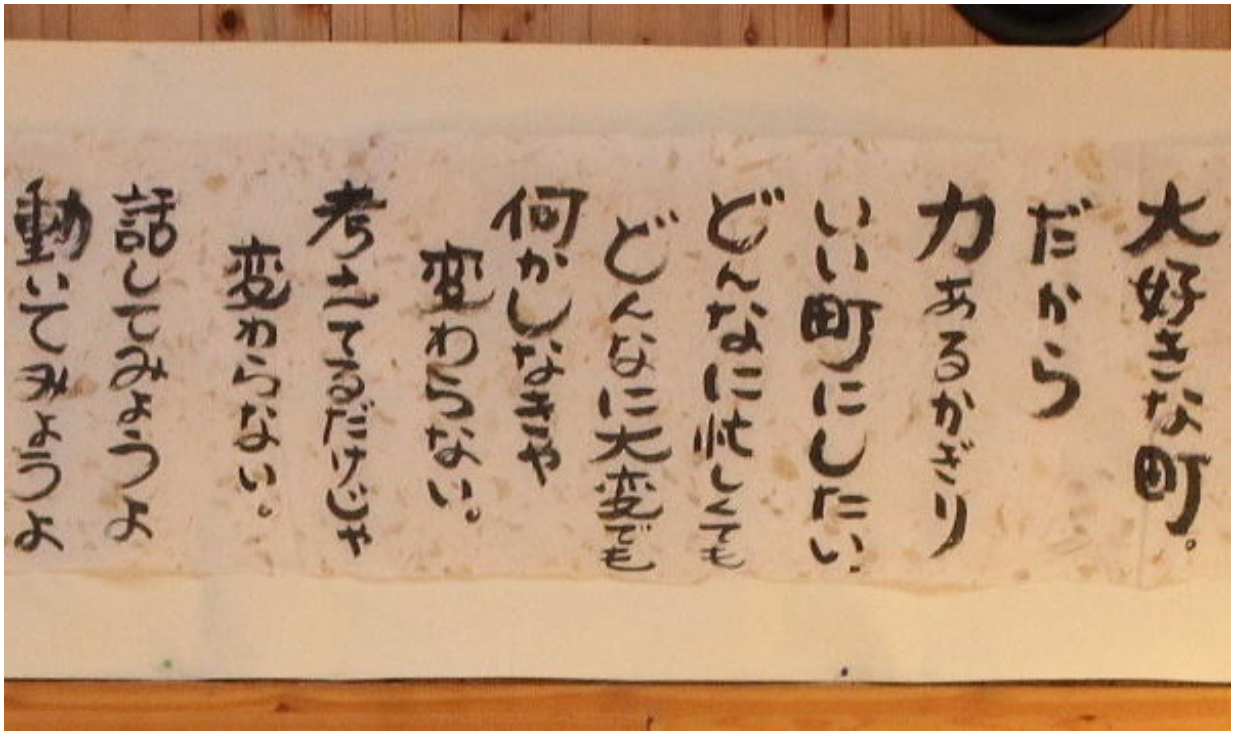


もうひとつ紹介したいのが、この壁に貼ったあった “詩” です。
小さくて読めないと思うので、分割してみますね！

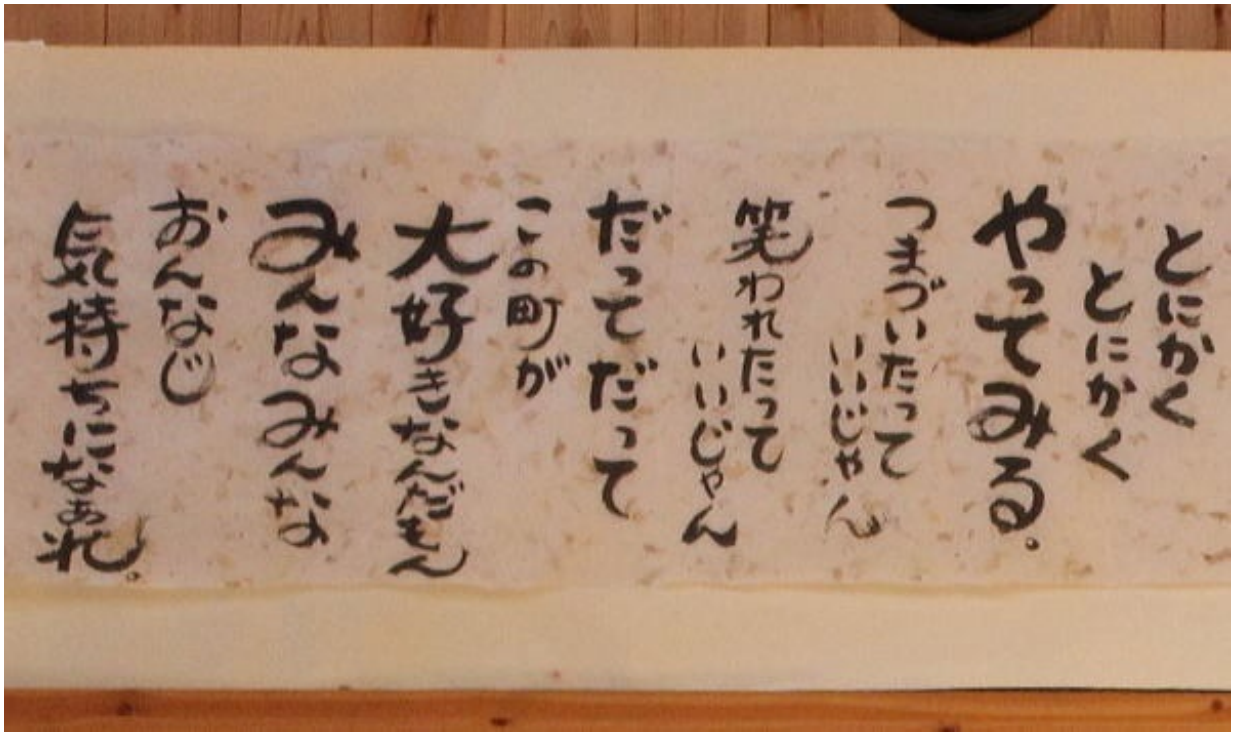


おもい

坂の上から
魚の川と信の川の
合流が見える
この場所が
一番好き。
ああ帰ってきた
ほっとする所。
この町で生まれて
この町で育って
ほんとによかった



大好きな町。
だから
力あるかぎり
いい町にしたい。
どんなに忙しくても
どんなに大変でも
何かしなきゃ
変わらない。
考えてるだけじゃ
変わらない。
話してみようよ
動いてみようよ



だれにでも故郷があると思いますが、その故郷を想う気持ちが良く表現されています。
故郷を愛する若い世代の想いによって、地方の活性化がなされてゆくのだと思います。

この道の駅、一見普通のスーパーですが、色々工夫をした運営がなされていると思いました。



日本一の米どころ！“ゆのたに”

次は魚沼市にはいって
道の駅ゆのたに　へやってきました。






Welcome
道の駅
ゆのたに
YUNOTANI
Welcome



“魚沼市” は平成１６年に周辺の町村が合併してでき、その総面積は新潟県の７．５％を占めます。
福島県と群馬県に接する山あいの市ですが、盆地なので夏は高温多湿、冬は積雪が３mにもなる豪雪地帯です。

作家 “山岡荘八” の出身地でもありますね。

そして何より、魚沼を全国に知らしめているのは、日本一のブランド “魚沼産こしひかり” でしょう。



道の駅は “深雪の里” という特産品販売所が中心ですが、玄関前にはいくつかの露店もならび、天気が悪いにも拘わらず多くのお客さんで賑わっていました。

平日でもこのくらいお客が多いといいですね。
特産品販売所もなかなか奇麗な店舗です。

ここでは、魚沼産こしひかりを原料としたお菓子を土産に買いました。
そして・・・・・

ちゃんとお米の直売コーナーがあります。
魚沼産こしひかりで握ったおむすびを別の道の駅で食べましたが、さすがの味がしました。

お米を買って帰りたいけど荷物になるから断念！(´__｀。)

魚沼市には二つの道の駅があり、次に行くところも魚沼です。
ここへ来る途中、あるいは次の道の駅への道筋にこしひかりだろうと思える田園地帯が広がっていました。

ただ、この数日の台風や大雨の影響でしょうか、稲穂がほとんど倒れていたのが気になりました。

金の女神がたたずむ！“いりひろせ”

前回と同じ魚沼市にある
道の駅いりひろせ　へやってきました。

ここ “旧：入広瀬村” は魚沼市の中心部を外れた静かな山あいにあります。

先程までの雨があがって青空が見えてきました。
やっと雨から解放されたかな、と期待しましたがそれもつかの間で、新潟市内に戻る時は激しい雷雨に見舞われることになります。（ｉДｉ）

上の写真が道の駅のメインの建物になりますが、もう一つ横に食事処の建物があります。

こちらの建物、写真でお分かりでしょうか？
池の上に建っているのです。

その床下を覗くと　・・・・・・

アヒルのボートがあり　・・・・・

本物のアヒルも泳いでいました。(^▽^)

ここは全体がこのように、池を囲んだ公園になっています。
ですから、この食事処は “湖上レストラン” なんですね。

池の周辺を歩いてみると、林の中に何か光るものが立っています。

近くに寄ってみると、それは金色の女神の像です。

実は先程アヒルが泳いでいた池は、“鏡が池” といいます。

そのむかし、ここには小さな清水が湧いていたのですが、近くに住む女神が毎日ここへ来ては大切な鏡を出して、自分の長い髪をとかしていました。
ある時、手元が滑って大事な鏡をその清水の中に落としてしまったのです。

女神は必死に周りを掘ったのですが、鏡は見つかりません。
やがて池は広がり水が奇麗に澄んでくると、女神の姿がその水面に映るようになりました。
それを見た女神は満足し、やっと鏡を探すことをやめ、今の鏡が池ができたのです。

ですから、池に石をなげて水面を汚したりすると、女神が怒って雨が降るのだそうです。(;^_^A

さて、道の駅本体へ戻ります。

□

□

無事にスタンプもゲット！

□

□

□

窓が大きいので周りの景色が溶け込んで、とても雰囲気に良い道の駅でした。

さて、時間は４時になりました。
これから本日３日目の最後の道の駅へ向かいます。

□

□

ジャンボあぶらげ！“Ｒ２９０とちお”

３日目の最終目的地
道の駅Ｒ２９０とちお　へやってきました。

ここは “長岡市栃尾（旧：栃尾市）” にあり、名前の通り国道２９０号沿いです。
“栃尾” は “上杉謙信” が春日山城主になる前の青年期を過ごした場所で、「義の心を悟った地」 といわれています。

戦乱の世、仏道と悲惨な戦との狭間で苦悩し、葛藤の末に義のこころを悟り、名将へと成長してゆきます。
栃尾は “義の心発祥の地” として上杉謙信にまつわる史跡も多く残されています。

道の駅はこの様に、“は～もに～物産館” と　“産業交流センターおりなす” があります。

まずこれが道の駅本体である、“は～もに～物産館” です。

そしてこちらが “産業交流センターおりなす” の建物ですが、写真の右下に何かモニュメントが立っています。

これは以前　「クロス１０十日町」 の道の駅でも出てきました 「火焔土器」 です。

火焔土器についての説明は、こちらを見てもらった方が早いですね。

さて、今度は物産館の方にはいってみましょう。

栃尾といえば最も有名な食べ物は “ジャンボあぶらげ” です。
全国に知られる長さ２０ｃｍ、幅６ｃｍ、厚さ３ｃｍの栃尾油揚げは２５０年の歴史があり、低温と高温でじっくり揚げる二度揚げがその美味しさの秘密だと言われます。

店内にはいると正面のレストランの前に軽食コーナーがありました。

早速注文！
注文を受けてから揚げますから、しばらく待つと・・・・これが出てきました。

厚揚げと間違いそうですが、中身は普通の揚げです。
ショウガやネギがトッピングしてあり、酢醤油（？）で頂きます。

素朴だけど、すごく旨いのです。
油揚げのお店は栃尾に１６店ほどあるそうですが、それぞれに工夫があって全部味が違うと言われます。
これは又食べたいな、と思いました。

店内を見て回っていると、“栃尾てまり” がありました。
これも栃尾の伝統工芸品の一つです。

私のところは母親が趣味で作っていましたので、とても親しみを覚えました。

さて、これで３日目のすべての予定を終わり、新潟駅前のホテルに戻ります。
ここから新潟駅前までは距離にして７１ｋｍ、途中高速を使いますが、それでも１時間４０分もかかってしまいました。

新潟に近付くに従って空模様が再び怪しくなり、最後は激しい雨と雷に見舞われました。
ホテルに戻っても結局この日は外に出ず、ホテル内のレストランで食事を済ませました。

道の駅発祥の地？“豊栄”

４日目の今日は、新潟市内から北部方面を回ります。

その１か所目が
道の駅豊栄（とよさか）　です。

新潟市は２００７年４月に政令指定都市になりましたから、７つの“区”があります。
ここは、新潟市北区ですが、以前は“豊栄市（とよさかし）”といいました。

道の駅は国道７号新バイパスにある、いわゆるサービスエリアとしてできたものです。

ご覧のように、この日は抜けるような青空です。
５日間の旅のうち、３日間降り続いた雨からようやく解放されました。

宿泊した新潟駅前のホテルから２５分ほどで着きましたから、現在８時４０分少し前です。
ここの開店は９時ですから、しばらく散策することにしました。

周辺は公園になっていて気持ちの良い場所なのですが、最後の写真にちょっと気になるものが写っています。

“道の駅発祥の地”という石碑が建っています。

ここは１９８８年１１月に一般道のパーキングエリアとして当時の建設省が作った施設ですが、“発祥の地”というのは実は今までに何カ所も見てきたのです。(;^_^A

ざっと覚えているだけでも以下の通り。

■道の駅阿武（あぶ）（山口県）

ここには“発祥交流館”まで作られています。

■道の駅掛合の里（かけやのさと）　（島根県）

これは文字が小さくて読めないと思うので、雲南市のＨＰもつけておきましょう。

ちゃんと “道の駅発祥の地” と書いてますね。

■道の駅大栄　（鳥取県）

この石碑にもしっかりと “道の駅登録全国第一号” と書いてあります。

そして今回の “豊栄” ですから、私が覚えているだけでも４カ所の発祥の地がある・・・・・。(-。ー；)

道の駅は１９９３年２月に登録制度ができ、その年４月に第１回目として１０３駅が登録されたそうです。

山口県の道の駅阿武の場合、１９９０年１月に 「中国・地域づくり交流会」 で、山口県阿武町のある牧場の社長から、「鉄道に駅があるように、道路に駅があってもよいではないか」 という発言があったと記録されていますから、どうもこれが信憑性があるような気がします。

道の駅の情報コーナーはしっかりと閉まっているけど、コンビニをはじめとするお店が開いているので見て回っていると、こんなものを見つけました。

「ダチョウ」 がいるそうな　・・・・・・・
早速裏へまわってみると・・・・・・

おっと！用心しなきゃ！

そうこうしているうちに、ようやく９時を回りました。

なかなか立派です。
そしてようやくスタンプをゲット!

そのスタンプには　・・・・・・・

□

やっぱりここが本物の発祥の地なのでしょうか？（笑）

□

北緯３８度線が通過する！“加治川”

今週の突然のＮＨＫ出演騒ぎも収まったので今日から新潟の旅、再開しますね！

旅の４日目、２か所目に向かったのは
道の駅加治川　です。

このお天気、嬉しいですね～
これが初日から続いていればなあ　・・・・・・・・・(´__｀。)

“新発田市（しばたし）”（旧：加治川村）は桜が有名です。
新発田市には日本一小さな“櫛形山脈”というのが走っていて、自然自生の山桜が群生しており国の天然記念物に指定されています。

他にも数多くの桜の名所があって、この道の駅にもやはりたくさん桜の木がありますから、“さくらの里”という別名がついていますね。

そしてもう一つのこの道の駅の特徴がこのモニュメントです。
道の駅加治川は国道７号と北緯３８度線が交わる場所にあるのです。

北緯３８度といえばご存知、朝鮮半島の軍事境界ライン！
韓国と北朝鮮の間には国境がありませんから、１９５３年７月に発効した休戦協定により「軍事境界線」が決められ、南北それぞれ２ｋｍ（両方で４ｋｍ）が非武装中立地帯になっています。
これがほぼ北緯３８度ラインにあるのです。

このモニュメントは「無限の大地」と名付けられていますが、地球をイメージした球体を３８度のラインが横切ります。
そしてその横の高さ４ｍの角柱は上昇する力を表し、台座には“和”を象徴するサークルが彫ってあります。

ちょっと珍しい電話ボックスがあったので撮ってみました。
四隅は桜の木ですね。

この道の駅、施設としてはシンプルです。

こちらが“ふれあいセンター桜館”という物産館兼食事処です。

スタンプなどもここにありました。

蔵元のコーナーが大きくとってありました。
地酒が有名なのかな？

そして隣にあるのが“やまざくら”ですが、ここは農産物の直売所です。

敷地内の桜の花が一斉に咲くころにもう一度来れば素晴らしいだろうと思いました。

青銅日本一の胎内観音！“胎内”

本日の３か所目に向かったのは
道の駅胎内（たいない）　です。

道の駅胎内は国道７号から少し山側に入り込んだ胎内川沿いにありますが、すぐ横に神社が建っています。

この立派な山門のある神社、屋根の左上の所にある観音さまが見えますか？

これが “胎内観音” なのですが、これでは観音様に失礼なので、ホームページからお姿をお借りしますね！

（新潟県のHPより借用）

胎内観音様は、この山門を入り、石段を上ったところに建っておられますが写真は手抜きしてしまいました。（汗）
これは昭和４２年に起きた羽越大水害での被災者の冥福を祈願して建てられたもので、総丈７ｍ、重量４トンの、青銅製としては日本一の大きさなのだそうです。

胎内市にはこの青銅日本一の　“胎内観音立像”、日本最古の油田　“シンクルイーン記念公園”　などの観光スポットがありますが、道の駅胎内はこの胎内観音と、“樽ヶ橋遊園” に隣接しています。

“樽ヶ橋遊園” というのはゴーカートやメリーゴーランドの設備があり、鹿や小動物が飼われているようですが、正直寂れてしまっています。

でも、その横を流れる “胎内川” とその河原にある公園はとても景色が良いのです。
芝生を走り回る子供の姿が、すごく平和に見えました。

道の駅は可愛らしい形の “胎内市観光交流センター「たるが橋」” と、その横のプレハブ作りの特産品のお店の二つだけで、ごくシンプルです。

それに道の駅の看板もありません。

中も情報コーナーと軽食程度です。

ここでちょっと目についたのが天井に飾ってあった、この大きなしめ縄です。

これは正式には “笹口浜七五三縄” といい、毎年１２月３１日の夜に集落を一周した後須賀神社に奉納します。

江戸時代末期に海上安全と集落の繁栄を祈願したのが起源で、毎年１１月初めから毎晩２時間、述べ３３０人の人手を要し、重量

５０ｋｇ、使用するわらが大束で１５束だそうです。

どんな地域にも、百年を超す年月、脈々と受け継がれた伝統、催しが残っているものだな、と思います。

穂波の里！“神林”

再び国道７号に戻り、
道の駅神林（かみはやし）　へやってきました。

“村上市” は、新潟県の最北部にあり、北と東で山形県に接しています。
海岸線が５０ｋｍにも及び、総面積では新潟県の９．３％を占めます。

“神林地区” は、平成２０年４月に神林村から村上市に合併になりました。
肥沃な水田に恵まれ、岩船米という良質なお米が生産される田園地帯です。

道の駅には二つの憩いの広場が整備されています。
そこにはお星さまのモニュメントが・・・・。
おそらく空気の澄みきった夜空に、奇麗なお星さまが輝くからではないでしょうか？

これが施設の配置ですが、向かって左から、トイレ、情報ステーション、物産館、食事処と並びます。

これがトイレと情報ステーションの建物です。

“情報ステーション” に入ってみます。

道路状況のモニターも並んだなかなか立派な施設です。
道の駅スタンプもここでゲット！

そしてこちらが、“穂波の里物産館” で、路上にもいくつかのお店が並んでいます。
店内に入ってみます。

店内は古民家風の太い柱や梁があって、なかなか趣があります。

一番右端にあるのが、和風レストランの “穂菜味亭” です。
この建物は、旧村上藩の旧家尾崎邸を再現したものだそうです。

この道の駅、国道７号沿いと立地も良く、次々に車が入ってきて賑わっていました。
なかなか元気のある道の駅だと思います。

みどりの里！“朝日”

国道７号を更に北上して
道の駅朝日　へやってきました。

あれだけ晴天だった空ですが、この付近急に雲が出てちょっとだけ雨がふりましたので、地面が濡れています。
この写真が道の駅のメインとなる “トイレ・情報センター” です。

情報センターに貼ってあった大きな地図を見ながら、年配のおじさんが 「関川を通って山形に抜けたいけどどの道が早いかな～」 と私に聞いてきました。
“関川” というのは、このあと２か所目に行く道の駅がある場所なので、 「高速ではなくて、この交差点からこちらへ曲がったが良いですよ！」 と教えてあげました。

こんなところで道を尋ねられるとは思わなかったけど、九州から初めて新潟にやってきたよそ者に教えて貰ったと知ったらこのおじさん、さぞや驚くことでしょうね。(笑）

この道の駅、実はとっても大きいのです。
この航空写真でたくさんの建物がありますが、右側に小さな家がいくつも見えるのは、宿泊施設のコテージなのです。

こちらの方がもう少し見やすいと思いますが、この “①” のところが、今いる “情報センター” です。

情報センターから少し階段を上ったところに “②～⑨” の建物群があるのですが、まずこの一番手前が “朝日みどりの里食堂” その先が、“朝日みどりの里物産会館” です。

これが物産会館ですね。

物産会館の更に先には、“日本玩具歴史館” などがあり、全国から収集した約３万点の郷土玩具が展示されています。

さて、もう一度駐車場の方へ戻ってみます。

駐車場の先にあるのがこれ、“まほろば温泉” です。
配置図で言うと “⑫” で、正式には 「朝日まほろばふれあいセンター」 といいます。

地下１３００ｍから湧き出る温泉は湯量も豊富で、様々な効用があります。

更にその手前にあったのがこれ・・・・・。

“温泉スタンド” があって、ポリタンクなどで持ち帰りができるんです。

最後に、駐車場で見たこのクルマ　・・・・・・

□

こんなでっかいのが２台も　・・・・・　。
中に一体何が入っているのだろう？

□

名勝天然記念物！“笹川流れ”

国道7号を少し戻り、進路を海岸線沿いの国道３４５号に変えて北上し
道の駅笹川流れ に向かいました。

道の駅朝日から３７分で到着しました。
ここが今回の旅で最も北に位置します。

この日は土曜日、翌日の日曜にこのルートでトライアスロンが行われるらしく、「バイク何キロ地点」 といった案内が道路沿いに一定間隔で設置してあり、練習中の自転車を何台も見掛けました。
ということは、もし明日来ていたら通れなかったかもしれないですね。

この道の駅、すごく景色の良い場所にあります。

“笹川流れ” というのはこの海岸１１ｋｍ程をいいますが、日本海の荒波に浸食された奇岩や洞窟が数多く点在し、名勝天然記念物に指定されています。

笹川流れという名前は、岩の間を盛り上がるように流れる潮流を、中心地笹川集落の名前にちなんで名付けられたのだそうです。

この道の駅のもう少し先に遊覧船の乗り場があり、４０分ほどのクルーズを楽しむことができます。

奇岩にはそれぞれ名前がついていますが、かつて源義経が奥州落ちの際に小船で海路を北に逃げ延びたと伝えられていることから、義経ゆかりの名前が多いそうです。

例えば上の略図の中に “ニタリ岩” というのがありますが、義経がこの岩を見てニタリと笑ったことからついているそうで・・・・・。(-。ー；)

これが道の駅の建物ですが、これは “夕日会館” といって羽越本線 “ＪＲ桑川駅” と一緒になっています。

この写真が “民宿街” で、食堂なども並んでいます。

こちらがＪＲ駅の入口で、同じ建物の中にあります。

さて、店内に入ってみましょう。
建物の中はこんな構造です。

売り場は海産物なども豊富で、なかなか感じの良い店舗です。

□

ここのスタンプ台、ちゃんと“９月１５日にインクの補充をしました”と書いてあるのに感心しました。

そして、その近くに展示してあったのは　・・・・・。

□

歴代のスタンプを、平成**年からいつまで使用、といった具合に書いてありました。

さて、２階にあがるとそこには“サンセットブリッジ”があります。

□

天気も良く、すごく素敵なロケーションです。

レストランもこの２階にありますが、お昼時とあって満席！
でも、このポスターが　・・・・・。

□

日本海の青い海の色を表していますね。
ということで早速注文！

□

笹川流れの海岸を楽しみながらいただきました。

□

１８世紀の栄華を残す！“関川”

一旦南へ戻り、進路を山形方面の国道１１３号にとって
道の駅関川　へやってきました。

“関川村” は山形県との県境に近く、かつては新発田城下と米沢城下を結ぶ “米沢街道” の要所として栄えた村です。
国指定の重要文化財である “渡邉邸” をはじめとする１８世紀の町並みの面影を残しています。

ここもまた、すごく規模の大きな道の駅です。

最初に全体図をお見せしました。

まずこちらが “桂の関温泉「ゆ～む」” と “農村交流センター「の～む」” の建物です。
なかなか面白いネーミングです。

そしてこれは直売所である “あいさい市” と “ちぐら” です。
ここにはたくさんのお客さんが集まっていました。

アユの塩焼きや玉こんにゃくが美味しそうです。（じゅるる！）

でもスタンプはここにはないので次へ移動！

こちらの建物は、右側が “せきかわ観光情報センター” そして左隣は 「桂館」 というお食事処と、「アチェーロ」 というダイニングキッチンがはいっています。

観光情報センターにはいってみます。

登録証とスタンプはここにありました。
そして、関川村の産業、文化、イベントを紹介する様々な展示が並んでいました。

この関川町のビッグイベントの一つに “大したもん蛇まつり” というのがあります。

長さ８２．８ｍの竹とわらで作った大蛇を５００人の担ぎ手が担いで練り歩くもので、この大蛇の長さはギネスに登録されているのだそうです。
それにしてもこの大蛇、ちょっとリアルすぎますね。

そしてこれは “せきかわ歴史とみちの館” で、旧米沢街道や江戸時代の町並みを紹介する体験型の施設になります。

更にその先にあるのが、国指定重要文化財の “渡邉邸” です。

渡邉家は酒造業で財を成した豪農ですが、１０００ｈａの山林と７００ｈａの水田を所有していたといいます。
その館は３０００坪の敷地に塀と堀を巡らし、切妻造りの５００坪の建物が建ち、京都から庭師を呼んで造らせたという豪華な回遊式庭園など、贅を尽くした屋敷です。

そしてここは、ＮＨＫドラマの宮尾登美子原作 「蔵」 の撮影現場にもなっています。

この道の駅、全部見て回るには随分時間をとらなければならないと思います。

山形へ立ち寄り！“白い森おぐに”

「道の駅関川」 は山形県との県境に最も近い道の駅です。
今回、そのまま山形県との県境を越え、昨年訪問したことのある
道の駅白い森おぐに に立ち寄りました。

道の駅関川から約２０ｋｍで山形県の “白い森おぐに” へ到着です。
なぜ一度来たことのある山形県に再び立ち寄ったかというと、理由はこれです。

昨年東北の日本海側３県を回った際、“東北スタンプラリータ日ライン賞” で、運良く道の駅の商品券２５００円分（５００円券５枚）が当たったのです。

元々今年は太平洋側３県を回るつもりだったのですが震災で行けなくなり、北陸に切り替えたのです。
この商品券、有効期限が 「2012年2月29日まで」 ということで、今使わないと紙切れに・・・！(￣□￣;)!!

ということで新潟から一番近い “白い森おぐに” へ足を伸ばしたという次第です。

この道の駅へ来たのが昨年の9月21日ですから、ほぼ1年ぶりです。
ここはスキー場と一体化しており、すぐ裏山が冬場はゲレンデになります。

目的は2500円を使い切ることですから、売り場をうろうろ・・・・・。
でも、なかなか決まらず、結局 “芋煮” を中心に土産を買うことに・・・。

ちょっと計算違いをして、余分に買ってしまった！(Ｔ▽Ｔ;)
でもとりあえず商品券を使い切って一安心！（笑）

山形といえば芋煮と玉こんにゃく！
ここでは玉こんにゃくを頂いて一息つき、再び新潟に戻ります。

予定より時間が余りそうなので、初日に時間切れでよく見れなかった “新潟ふるさと村” へこれから行くことにしました。

ということで今日の記事はごく短編です。(^▽^;)

昨年の “白い森おぐに” の記事はこちらから　→ 山形の旅：スキー場と一体！“白い森おぐに”

一日中遊べる！“新潟ふるさと村”

山形から一気に新潟市内に戻り
道の駅新潟ふるさと村　へやってきました。

ここは現在 “新潟市西区” ですが、合併前は “黒埼町” といいました。
ですから道の駅自体も平成13年1月に “道の駅黒埼” から今の名前に変更になったものです。

今回の旅の初日にここへ立ち寄った時は台風の最中で、もっとも風が強かった時です。
ほとんど人影もなく、しかも閉店間際だったので、とりあえずスタンプだけ押して退散したのですが、今日は打って変わって上天気です。

ここは敷地面積が６．４ｈａあって、とにかく広いのです。

ご覧のようにここには、イベント広場やお花畑、ふるさと庭園、遊園地まであります。
この案内図には載っていませんが、すぐ裏が信濃川のリバーサイドパークになっていて、そこからは水上バスも運行しています。

そしてこの施設を代表する建物として、“アピール館” と “バザール館” があります。

まず “アピール館” はこちらです。

実はこのアピール館、営業時間が 「17：00」 までです。
道の駅へ到着したのが16：40、もうちょっと時間があるはずだけど入口には 「本日の受付は終了しました」 との表示が・・・・・。

でもみんな入ってゆくので私たちもついてゆきます。

はいって正面にあったのが、３台の巨大なディスプレー。
新潟の名所、風景が映し出されています。

奥へ入ってみると、中央が３階までの吹き抜けになっています。

実はこのアピール館はこの様に３階構造になっていて、まずエレベーターで３階まで上がり、そこからスロープを順路に沿って下りてくれば明治、大正、昭和と順序良く見て来れるようになっています。

そのエレベーターが既に終わっていたので、残念ながら全部を見ることはできませんでした。

本来なら３階の “ふるさとシアター” で、２００インチの大型スクリーンによる新潟の四季などの映像を見ます。

そして２階に下りてくるとそこには “雪国体験コーナー” というのもあり、人工降雪により雪国の暮らしが体験できます。

今回時間に間に合わなかったのが、実に残念です。

さて次が “バザール館” です。
ここは 「17：30」 までなので、まだ間に合います。

ここは１階が “おみやげ名品販売街” で、２階が “レストラン街” になっており、やはり中央は吹き抜けです。

まずは鮮魚コーナーですが、ここも活気にあふれています。
そして奥の名品コーナーへ行くと・・・・。

これは～広い！
海の幸、山の幸、特産品、伝統工芸品、なんでも揃っています。

新潟といえば全国に名だたる地酒王国、様々な銘柄が並んでいます。
試飲ができるらしいけど、車なのが残念！

ここでも最後の土産としてあれこれ買い込んでしまいましたが、朝から来て一日中見て回っても飽きないだろうと思います。

まさに新潟県民の誇りともいえる道の駅でした。

そして宿泊は “新潟東急イン” に連泊！
この日はやっと雨から解放されたので街に出て居酒屋で食事をしました。

いよいよ明日１日になりました。
明日は佐渡へ渡って、最後の１か所へ向かう予定です。

朱鷺の飛ぶ佐渡へ！“芸能とトキの里”

いよいよ新潟の旅の最終回です。

５日目は佐渡に渡り
道の駅芸能とトキの里　に向かいます。

佐渡はご存知の通り離島としては日本最大の島で、面積が８５４．６平方ｋｍと東京２３区の１．４倍の広さがあります。

佐渡沖を流れる対馬海流の影響により冬は本土より１～２度気温が高く、夏は逆に２度ほど涼しいのが気候の特徴です。
冬場でも平野部ではそれ程の降雪もないとのことです。

JR新潟駅の前のホテルを出て新潟港まで距離にして３km、わずか５分位で佐渡汽船のターミナルに到着しました。
周辺には大きな立体駐車場や広い屋外駐車場が完備されており、２４時間以内なら８００円で停められます。

予約はしてあるので乗船手続きをして待合室でしばらく待ちます。
日曜ということで、かなりの乗客がいます。

今回乗るのは “ジェットフォイル” で、新潟港と両津港の間を６０分で結びます。

朝１０時、定刻通り出港です。
航行中は指定された椅子に座ってシートベルトをしなければならないので、船内をうろうろ見て回るわけにはゆきません。

このジェットフォイル、時速約８０ｋｍで航行しますから、高速道路並みの速度ということになります。

船内にはこのように現在のスピードが表示されます。
この写真は帰りに撮ったので、時間が違っていますが　・・・・　(^_^;)

佐渡の両津港に到着すると、出口まですらりと土産店が並んでいます。
土産は帰りに物色することにして、とりあえず外に出てみました。

初めての佐渡で、おけさ人形がお出迎え！

目的の道の駅までは、両津港からわずか５ｋｍほどしか離れていません。
最初はレンタカーを考えていたのですが、バス路線もあるということで、行きはタクシー、帰りはバスを使うことにしました。

タクシーに目的地を告げ、道の駅に向かいます。
バスも通る幹線道路なので広い道かと思ったら、結構狭い道が続きます。

やがて道の駅へ到着しました。

でも、なにか様子が変！

運転手さん：「あれっ！閉まってませんか？ちょっと私が見てきましょう」
戻ってきた運転手さん曰く！「ここ、閉鎖になっているみたいですよ！」

そんな馬鹿な！　道の駅がなくなってたらわざわざ佐渡まで渡ってきた意味がない！
慌て見に行きました。

すると、こんな“おしらせ”が　・・・・・・　。

どうやら今年の４月から、運営が学校法人に変わっていたようです。
運転手さんの話によると、元々ここは“ロボット能”といってロボットによる能の舞が売り物だったそうですが、経営がうまくゆかなかったようです。

道の駅の管理主体は佐渡市ですが、ＪＡ佐渡と佐渡汽船が大スポンサーになっており、その佐渡汽船がいろんな問題で手を引くことになり、最終的に行き詰まったということのようです。

インフォメーションは残っているようなので、ひと気のない建物に入ってみました。

すると　・・・　あった！　道の駅スタンプは置いてありました。
それにしても、ただスタンプだけ押す為に佐渡まで渡ってきたかと思うとショックです！

奥には何か写真を展示しているコーナーがありました。

隣にあるＪＡ佐渡による“ミルク工房”は営業しているようです。

ロボット能の時代の名残でしょう。

それにしても、この建物の周囲は雑草が伸び放題でまるで廃墟です。
本当にがっかりしました。

さて、このまま帰るのも悔しいので、ここからあまり遠くない距離にある“トキの森公園”まで行ってもらうことにしました。

佐渡は“朱鷺と暮らす郷”という銘柄の極上のコシヒカリが生産されます。
でも、収穫を控えた田んぼの稲穂はほとんどすべてが完全に倒れていました。

台風ですか？と聞くと、いや今度の雨でやられたのです、と運転手さんは説明してくれました。

“トキの森公園”に到着！
タクシー代は２８１０円になってしまったので、もし往復タクシーだったらレンタカーとあまり変わらなかったかもしれません。

まず最初に、帰りの足を確認！
駐車場脇にバス停を見つけました。

１時間に１本なのですが、良く見るとこの路線バス、“土・日・祝のみ運行” と書いてある！
今日は日曜日なので大丈夫だけど、最初の計画通り初日に来ていたら帰れなかったかも！

この “トキの森公園” は“佐渡トキ保護センター” と隣接しています。
保護センターは２００円で見学できます。

建物に入るとまず朱鷺のはく製や骨格が展示されていて、その生態や保護の歴史などが説明されています。

その先に “観察回廊” があり、ガラス越しに実際のトキが飼育されている繁殖ケージを見ることができます。

でも遠く離れているうえに金網越しなので、望遠でもこの程度しか写りません。

“キン” というのは日本の野生最後のトキで、２００３年に３６歳で亡くなりました。

この保護センターの努力と中国との交流により、現在日本には２３４羽のトキが生息し、内１８８羽が飼育、４６羽が野生だそうです。

売店でソフトクリームを食べながら待つと、やがてバスがやってきました。

このバス、ペインティングは素敵なのですがかなり旧式のようで、走っている間ずっとギシギシ大きな音を立てていました。

そして、途中でひとりだけ乗ってきたものの、それ以外は私たち二人の貸し切り！
料金は３００円でした。

こうして佐渡の旅も終了！
新潟港からは新潟空港へ直行。

新潟空港を１８時に離陸し、福岡空港には１９時４５分に到着しました。

“新潟の旅シリーズ” 最後までご覧いただき有難うございました。

２年前のリベンジ！“越後市振の関”

２日目になりました。
最初に向かうのは、富山県との県境に近い
道の駅越後市振の関　です。

新潟県は２０１１年９月に回ったのですが、その時は台風の余波による大雨で、糸魚川以西が高速道路、一般道路ともに通行止めとなり、無念の思いで２か所の道の駅を諦めたのです。
ですから、今回は２年ぶりにそのリベンジを果たすことになります。

宿泊した糸魚川市内のホテルを出て最初に遠いほうの道の駅を目指しました。
これは、開店時間が “越後市振の関” は８時なのに、近いほうの “親不知ピアパーク” は９時半だったからです。

地図でお分かりのように、この道の駅の所在地は新潟県の最も西の端です。
富山県との県境から、わずか８００ｍの位置に道の駅はあります。

この写真では少し分かりづらいかもしれませんが、道の駅の背後に大きな山が迫ってきています。
そして反対側は日本海の海原です。
つまりこの地は、“北アルプスの北端が日本海に切れ落ちる場所” なのです。

かつて “北陸街道最大の難所” といわれ、ここには関所がおかれました。
“加賀街道市振の関所跡” が残っており、この道の駅の名前 “市振の関” もそれに由来しています。

ここには早朝にも拘わらす、大型トラックが何台も停まっていました。
上の写真は、トイレと情報ターミナルです。
でも、スタンプはここにはありません。

案内図右端の “食堂・物産館” と書いた建物はこちらです。

でもこれって、“ヤマザキ” のコンビニです。
コンビニが道の駅のはずはないと、半信半疑で近付いてみると・・・・・・

玄関ドアのガラス戸にちゃんと “道の駅・市振の関” と書いてあります。

中は、普通のコンビニです。
店員さんに尋ねてみると、“スタンプはあそこの週刊誌が並んでいるところの前にありますよ！” と教えてくれました。

無事にスタンプと、登録証の写真をゲット！
コンビニを併設した道の駅はたくさんありますが、コンビニ自体が道の駅というのは初めてでした。
でも、富山県に近いこともあり、売場には “ほたるいか” の佃煮などが売っていました。
店員さんにどれが人気があるか教えて貰って、いくつかを土産に買いました。
長野、新潟の旅行で富山の土産っていうのもちょっと変ですけどね！（笑）

再び同じ道を引き返して “親不知ピアパーク” に向かう途中、“親不知記念広場” という展望台がありました。
そこから、市振方面を振り返ったのがこの写真です。

北アルプスの北端が、日本海に大きく落ち込んでいるのがわかりますね。

この展望台は、国道８号の一次改良の完成を記念して作られたもので、往来する人たちの安全の祈りをこめて建てられた母子像もあります。
１８０度以上広がる日本海の眺望が素晴らしい場所でした。

橋げた空間の道の駅！“親不知ピアパーク”

新潟県の最西端 「市振の関」 から今来た道を９ｋｍほど戻り、
道の駅親不知ピアパーク　へやってきました。

“親不知（おやしらず）” は北陸道最大の難所、“天下の険” といわれた場所です。
今でも国道は切り立った崖を縫うように走り、高速道路も大半がトンネルで繋がっています。
かつて断崖絶壁と日本海の荒波が旅人の行く手を拒み、わずかな波打ち際を駆け抜ける時には、“親は子を忘れ、子は親をかえり見るいとまが無かった” ということからこの地を、“親知らず、子知らず” と呼ばれるようになったといわれています。

地名の由来にはもう一つの説があります。
平清盛の弟 「頼盛」 が越後へ退避するのを追って夫人がこの地を通りかかり、誤って２歳の愛児を波にさらわれてしまいます。

> 親知らず
> 子はこの浦の波まくら
> 越後の磯のあわと消えゆく

と、夫人が悲嘆にくれて詠んだ歌が “親不知” の由来になったともいわれます。

この道路が国道８号です。
左手の高架が “北陸自動車道” ですが、道の駅はこの先の信号を左折し、この高架橋の橋げたの下にあるのです。
このすぐ手前が “親不知ＩＣ” で、インターからは２～３分で到着します。

ご覧のようにそれぞれの橋げたの間に、一つづつ建物があります。
道の駅の名前、“親不知ピアパーク” の “ピア（Ｐｉｅｒ）” は、“橋桁” を意味します。

ここへ到着したのが９時１９分です。

オープンは９時半なので、しばらく付近を散策します。

道の駅の真下が県内外を問わず人気のある “親不知海水浴場” で、海の家がありました。
階段を伝って、砂浜へ下りてみました。

休日には大勢の海水浴客で賑わうことだと思います。

海岸から見た北陸自動車道がこれです。
“親不知ＩＣ” は、全国初の “海上インターチェンジ” なのです。
１９８８年７月に北陸自動車道の全線開通を記念して “親不知ピアパーク” がオープンし、２０００年８月に道の駅として登録されました。
高速道路下の橋桁を利用した道の駅というのも、おそらく全国でここだけではないでしょうか？

海上に浮かぶこの小さな島は、“投げ岩と鬼蹴り岩” といいます。
その昔、大国主命と赤鬼が岩を投げて力比べをした時、ミコトの投げた岩が 「投げ岩」 で、勝負に負けて怒った赤鬼が蹴飛ばしたのが、「鬼蹴り岩」 と呼ばれ、鬼蹴り岩には今でも鬼の足跡が残っているそうです。

そろそろオープンの時間になったのでお店の方へ行ってみました。

こちらが売店・食堂・休憩所のある “レストピア” です。
スタンプもここにありました。

オープンしたばかりですから、誰もお客さんはいませんね。

そしてこちらが隣にある “親不知おさかなセンター” です。
右手正面の橋桁に、壁画が描かれています。
他の写真は撮ってないのですが、ほぼ全部の橋桁にこのような壁画があります。
これは、世界的なグラフィックデザイナーである “粟津潔氏” による大陶壁画で、宇宙と自然をテーマにメルヘンタッチで描かれているのです。

おさかなセンターでは、水揚げされたばかりの活きのいい蟹や魚などの魚介類を並べている最中でした。
さて、もう一度外に出て付近を回っていると、こんなものがありました。

巨大なカメです。
右手奥の建物は、“お食事処 漁火” です。

この海亀 “ミリオン” は全長６ｍ、重量５トンもある世界一のブロンズ製海亀像で、この広場のシンボルになっています。

更にこの広場には、“翡翠ふるさと館” というのがあります。
この付近を “越後ヒスイ海道” とも呼びますが、糸魚川は質、量ともに日本随一のヒスイの産地です。
今回、中には入らなかったので、パンフレットからお借りした写真を掲載しておきます。

下の写真がここに展示されている、重さ１０２トンのヒスイ原石で、屋内展示としては世界最大級だそうです。
この道の駅、何かと話題の多い、印象に残る道の駅だったと思います。

新潟の新しい道の駅！“南魚沼”

せっかく長野と新潟の県境まで来たのですから、新潟県に新しくできた
道の駅南魚沼　も訪問することにしました。

長野県との県境にある信越さかえの道の駅から距離は３３ｋｍしかないのですが、山越えが多かったからでしょうか、約１時間もかかってしまいました。
新潟県の道の駅を回ったのは２年前ですが、その時にはまだここはできていなかったのです。
魚沼市の道の駅には行きましたが、ここ “南魚沼市” を訪れるのは今回が初めてです。

“南魚沼市” は、“八海山（１７７８ｍ）” “越後駒ケ岳（２００３ｍ）” “中ノ岳（２０８５ｍ）” の、“越後三山”を始めとする名山に囲まれた魚沼盆地に位置します。
これらの山々を源とする多くの渓流や清流が流れ、その肥沃な水田では、日本で最も名前の知れたブランド米である、“南魚沼産コシヒカリ” が育ちます。

戦国の世に愛と義を貫いた武将として名高い “直江兼続” と “上杉景勝” 主従の生誕地であり、その少年期、青年期を過ごしたのもここ南魚沼です。

道の駅南魚沼は、雪国ならではの 「食・美術・歴史・自然」 をテーマに観光交流を促進する施設として、“雪あかり” を愛称に、２０１２年７月８日にオープンしました。
ここは、 「今泉記念館」 「四季味わい館」 「憩いの広場」 の３つの施設で構成されています。

最初に配置図をお見せした方が分かり易いかと思います。

まず最初が、国道から入って手前にある “四季味わい館” です。
ここには、産直野菜の直売所と、食事処 「たっぽ家」 があります。

食事処たっぽ家では、南魚沼産コシヒカリを使った郷土料理などがありますが、相変わらず時間に追われている私たちは直売所でおにぎりを買い、一番奥にある “休憩交流室” で頂きました。

でも、これが実に美味しかった！
結構お米の味にはうるさいことを自任する私なのですが、九州だと新米の発売時期にたまにしか味わうことのできない、一番美味しいごはんの味だったと思います。

この、四季味わい館の裏側に見えるでっかい建物が、“今泉記念館” です。
その今泉記念館から振り返って、裏側から見た四季味わい館がこちらです。

味わい館のすぐ右側に見えるのがトイレの建物で、右端は先程おにぎりを食べた休憩交流館です。

“今泉記念館” は、ご覧の通り１階が “雪国交流館” で入場無料、２階は “アートステーション” で、こちらは入場料が必要です。
２階のアートステーションには、“棟方志功” の作品が常時展示されているほか、日本や海外の美術品の数々を鑑賞することができます。

道の駅の登録証はこちらの建物にありました。

昔からの雪国で使われた生活用品も展示されており、また、屋外の休憩所にはいくつかの彫刻が飾ってあります。
“今泉記念館” という名前ですが、これは郷土が生んだ偉人 “今泉隆平翁” に因んだものです。

道の駅南魚沼の３つの施設の最後、“憩いの広場”はこちらです。

明るい芝生公園に遊具があり、子供たちが元気いっぱいに遊んでいます。
「食・美術・歴史・自然」 のテーマが、きちんと実現された道の駅だと思いました。

これでようやく新潟県の道の駅を全部回り終えた　・・・・・・
と思ったら、９月２３日に新たに“道の駅パティオにいがた”がオープンしました。

あと２カ月早くオープンしてくれていれば行けたのに・・・・。（涙）
完全制覇は永久にできそうにないですね！

新潟の新しい道の駅①！“みつまた”

群馬県から県境を越えて新潟県に入り、新しくオープンした
道の駅みつまた　にやってきました。

水上ＩＣから再び関越自動車道に乗り、谷川岳を貫通する “関越トンネル” を走ります。
関越トンネルは全長が約１１ｋｍあり、道路のトンネルとしては現在日本最長、世界１１番目に長いトンネルです。
でも、２０１４年度完成予定の首都高速中央環状品川線のトンネル部が、連続する中央環状新宿線のトンネル部と合計して約１９ｋｍになる予定なので、いずれ王座を譲り渡すことになりそうです。

トンネルを抜けて最初のインターチェンジ “湯沢” を下りると残りは８ｋｍ程です。
湯沢の街に入ると、さすがにスキーリゾートのメッカらしく、リゾートマンションが立ち並んでいました。

ここは “新潟県南魚沼郡湯沢町大字三俣” が住所で、東京と新潟を結ぶ、旧三国街道沿いにあります。
ここの位置を、パンフレットからお借りしました。

湯沢ＩＣからは約１０分、苗場スキー場から約１５分、そして “みつまた・かぐらスキー場” のすぐそばになります。

ここがオープンしたのは昨年（2013年）11月23日です。
敷地がそれほど広いわけではなく、建物だけをみるとこじんまりとした印象を受けます。

この建物は、三国街道をイメージして作られているのだそうです。

外側からの印象に反し、中に入ってびっくりしました。
すごくセンスのある店内で、ディスプレーに工夫がされていてとっても綺麗なんです。

特に驚いたのは、こちらの施設です。

これ、店内にある “足湯” なのです。
冬場は雪に閉ざされる雪国ですから、こうやって外の景色をガラス越しに眺めながら入れる足湯はありがたいですね。

そして、こんな細やかな心遣いも気に入りました。

こういった、小さなメッセージが店内にいくつもあります。
これを読むだけで、従業員さんに親しみが湧いてくるものです。

何か買ってやらなきゃ、って思います。（笑）

（パンフレットより借用）

これが店内の配置図です。
他の道の駅では見かけない珍しいものとしては、“アウトドア用品コーナー” があります。
ここは日本百名山の “苗場山” の麓です。
また、“谷川岳連峰” への登山やトレッキングの玄関口の一つでもあります。

写真を撮ってなかったのですが、本格的な登山道具も並んでいました。

一番奥がレストランです。

この道の駅、規模は小さくても工夫次第で、ピリッとした特徴が出せる、ということを教えてく

れました。

新潟の新しい道の駅②！“パティオにいがた”

最後に訪れたのは
道の駅パティオにいがた　で、ここも最近できた新しい道の駅です。

湯沢ＩＣから再び関越自動車道に乗り、長岡ＪＣＴで北陸自動車道に乗り換え、“中之島見附ＩＣ”を下りて５分程度で到着しました。
みつまたの道の駅からは１０２ｋｍ、１時間２６分かかりました。

この道の駅がオープンしたのは昨年（２０１３年）の８月２４日です。
オープンの１か月ほど前のテレビ番組で、開店に向けて農家や業者を説得して回って商品を確保する様子などが放映されましたので、以前から興味を持っていました。

この日は日曜日ということもあってか、広い駐車場でようやく駐車スペースを見つけるほどの賑わいでした。

道の駅の全体としてはご覧のとおりです。

建物の裏手には広大な“多目的広場”や“デイキャンプ場”があります。
その周囲には散策路があり、ウォーキングやサイクリングロードまであります。

二つの建物があってそれを通路で繋がれており、そこが玄関口です。
玄関を入ると、その先に、先ほど紹介した多目的広場があります。

とにかく広くて、走り回ったりボール遊びをしている子供たちの姿が小さくしか見えません。
買い物や食事、休憩だけでなく、ファミリーの憩いの場になっているようです。

建物部分を拡大したのがこの配置図で、丸い “農産物直売所” と、四角い、“休憩スペース、レストラン” の二つの建物で構成されています。

これが丸い方の農産物直売所で、“健幸めっけ” といいます。
“健康” を、“健幸” すなわち健やかで幸せ、としたところがなかなか良いですね。(^▽^)

これらが、“健幸めっけ”の内部ですが、壁面に大きな “凧” が飾ってあるのにお気づきでしょうか？
休憩スペースの陳列棚にもこんなものがありました。

ここは “新潟県見附市” です。
この大凧は３５０年の歴史をもつ “六角凧” で、毎年６月の第一土曜からの３日間、刈谷田川堤防で豪壮な “大凧合戦” が行われます。

「越後今町、男の盛り、凧のいくさは、意気でやる」 と凧民謡で唄われており、隣町の “長岡市中之島” の若者たちと、川を挟んだ両岸で戦うのです。

もう一方の建物が、“インフォメーション” “交流・休憩スペース” です。
そしてその奥に、“農家レストラン「もみの樹」” があります。
私たちはここで食事をとるつもりで来たのですが、すごい順番待ちで、休憩スペースに座っている人の大半は順番を待っている方たちです。

ここでの食事は諦め、新潟空港までのサービスエリアで食べることにしました。

この休憩スペースの壁には、パネルが張ってあります。

パネルにはイラストなどが描いてありますが、一部分を拡大してみましょう。

このパネルの一番左側には、「日本一健幸なまちをめざして」と書いてあり、その健康で幸せな生活を送るための心構えみたいなものがイラスト入りで描かれているのです。
詳細は省きますが、なかなか楽しいものです。

このパネルの裏側がトイレなのですが、これがまた、とっても綺麗です。
写真を撮りたくてしばらくトイレの中にいたのですが、人が途切れないので諦めました。(^^;)

新しい道の駅は内容がより充実してきている、とかねてから思っていましたが、ここも例外ではなく、一日いても楽しめるだろうと思います。

さて、最後の道の駅を終え、途中のサービスエリアで食事をして、新潟空港には15：40に到着しました。
新潟から福岡へは、夕方の直行便があるので便利です。

今回の５日間では、１２００ｋｍ以上を走り、４０カ所の道の駅を回りました。
関東エリアはやはりスケールの大きい道の駅が多い、と実感した旅でした。

霊峰白山に抱かれる！“めぐみ白山”

１泊２日の駆け足で、北陸と岐阜を回ってきました。

道の駅めぐみ白山（はくさん）　が最初に訪れた道の駅です。

福岡空港を７時３５分に離陸し、石川県の小松空港に到着したのが８時５０分です。

送迎車でレンタカー会社に移動し、手続きを済ませて出発したのは９時２０分でした。
地方空港の場合、実際のスタートまでにあまり時間がかからないのは助かります。

今回の相棒は、日産の“ノート”でした。
ノートに乗るのは初めてですが、この車、まだ５００ｋｍほどしか走っていない新車です。
ラッキー！(^ε^)♪

最初に向かう“道の駅めぐみ白山”は小松市と金沢市の中間地点の国道８号沿いにあります。
空港から２５分前後で到着しました。

この道の駅がオープンしたのは、今年（２０１８年）４月２７日です。
真新しい建物が晴れた空にとっても映えています。

ここの所在地は“石川県白山市”で、その名のとおり、“霊峰白山”の麓に位置します。

白山は、富士山、立山と並ぶ“日本三名山”の一つであり、“日本三霊山”のひとつでもあります。
白山には３つの頂があり、その最高峰は２７０２ｍです。

その裾野は石川・福井・岐阜・富山の４つの県に跨ります。
以前この地を回った時は真っ白い山々が見えたのですが、この日は晴天なのに空は霞んでいるらしく、残念ながらその姿は全く見ることができませんでした。

道の駅の全体はご覧のような配置です。
“く” の字型に曲がった奥に情報コーナーがあるので、最初に入ってみました。

情報コーナーはかなり広いスペースがあり、壁にでっかい “北陸新幹線” の車両の写真があります。
この新幹線車両は実物大なのだそうです。

そこには 「鉄道のまち　白山」 の文字も！

ここ白山市には、３つの鉄道車両基地があります。
「ＪＲ西日本白山総合車両所」　「ＪＲ西日本金沢総合車両所松任本所」　「北陸鉄道鶴來車両工場」　の３か所であり、新幹線をはじめとする車両の清掃、検査、整備などを行っています。

この情報コーナーでもうひとつ特筆するものは、この大型スクリーンです。

このパノラマスクリーンは、縦２．７ｍ、幅１１．４ｍもあります。
白山市の観光スポット、観光情報別にボタンがあり、選んだ映像がこの大スクリーンに映されます。

これはかなりの迫力がありました。

もう一点、最近の新しい道の駅でいつも感心するのは、トイレの豪華さです。

たまたま誰もいなかったので写真を撮ってきたのですが、このゆったりとしたスペースがあり、ガラスの向こうには美しい中庭が広がっています。

もちろん授乳室や多目的トイレも備わっています。

情報センターの隣りが “地場産品売場” です。

まだ１カ所目なので、ここではペットボトルのお茶だけ買いました。

この日も、３４度を超える暑さです。
こまめに水分を補給しなければなりませんからね！

そして一番端が “レストラン風土ぴあ” です。
まだ朝早いので、オープン前でした。

さて次は、海岸線を 1 時間以上走って、私が楽しみにしていた道の駅に向かいます。

なぎさドライブウェイを走る！“のと千里浜”

初日2カ所目の目的地は
道の駅のと千里浜（ちりはま）　です。

1カ所目の“道の駅めぐみ白山”を出てしばらく北上すると、『のと里山海道』と呼ぶ、金沢と能登半島を直結する自動車専用道路に出ます。

ほぼ日本海の海岸線に沿って走るこのシーサイドラインは、その景色の美しさから“日本の道百選”にも選ばれています。

目的の道の駅はこのラインの“千里浜ＩＣ”を下りてすぐのところにあるのですが、私たちはその前に立ち寄りたいところがあって、手前の“今浜ＩＣ”で下りました。

私が立ち寄りたかったのは、この“千里浜なぎさドライブウェイ”なのです。
羽咋市の観光パンフレットにあった写真をまずはご覧いただきましょう。

テレビなどでご覧になったことのある方も多いと思いますが、ここは日本で唯一、“車で砂浜を快走できる自然のドライブウェイ”なのです。

今浜ＩＣを下りて案内表示の通りに進んでゆくと、海水浴場のような砂浜に下りてきました。
このドライブウェイは全長が８ｋｍもあるのですが、ここには“千里浜ドライブウェイ終点”と書かれた看板がありました。

道の駅のある“千里浜ＩＣ”あたりが始点のようですから、ほぼ全線を走ることができそうです。

ここがそのスタート地点ですが、水遊びをする家族連れや、釣りをする人たちがいました。
この先で工事をしているらしく、最初の区間は右手にちょっとだけ迂回します。

この２枚は走りながら嫁が撮った写真ですが、制限時速３０ｋｍ/ｈなのでゆっくり走ります。
途中、砂浜に車を停めて下りてみました。

波打ち際に沿ってロープが張ってあり、それより海岸線には近づけないようになっています。
所々に 【駐車可】の標識がありますが、道路との区別がちょっと分かりづらい気がします。

四輪駆動でもない一般の乗用車やバイクがなぜ砂浜を走れるのかというと、その砂の質にあります。

千里浜の砂は粒子が小さくて粒が揃っており、角ばった形をしているので、水分を含むと固く引き締まって、タイヤが砂にめり込むことがないのだそうです。

このように砂地を車で走れる道路は世界的にも珍しく、アメリカのデイトナビーチ、ニュージーランドのワイタレレビーチ、それにこの場所の３カ所だけ、と言われています。

快適に砂地を走り抜け、道の駅のと千里浜にやってきました。

ここはなぎさドライブウェイのそばにあるだけあって、道の駅に “タイヤシャワー” なる設備があります。
２４時間無料で使え、６０秒程度で砂にまみれたタイヤがきれいになるのです。

更に “ＲＶパーク” が併設されており、４台分のスペースで宿泊ができます。

“石川県羽咋市千里浜町” にあるこの道の駅は、昨年（２０１７年）７月にオープンしました。
白を基調とした真新しい建物がとっても綺麗です。

ここにはこんなものもありました。

奥の建物が “足湯” で、手前にあるのは 砂で作った像です。

これは大黒様かな？

千里浜では、毎年５月から１１月まで “千里浜砂像（サンドアート）” のイベントが開催されます。
細かくて硬くなる千里浜の砂は、サンドアートの制作に合っているのです。

こちらが足湯で、“だいこん足の湯” という名前です。
もちろん源泉かけ流しです。

さて、建物の中に入ってみましょう。

パンフレットによると、道の駅の中はご覧のような配置です。

これは左から、「道の駅登録証」　「重点道の駅候補　選定証」　そして右端は「ＲＶパーク認定証」です。
ＲＶパークには認定基準があり、それをクリアして一般社団法人日本ＲＶ協会から認定を受けるのです。

新しい道の駅は施設が充実していて気持ちが良いものです。
その中でも私が気に入ったスペースはこちらです。

情報・休憩スペースなのですが、隣りのレスンの間は、ご覧のように稲穂で区切られています。
里山を演出する、なかなかのセンスがあります。

ここにはご覧のように大型スクリーンが２台ありますが、右側のディスプレイは“千里浜ドライブウェイ”のライブ映像を常時流しています。

ここにはいくつかのテナントがありましたが、その中のベーカリーのパンが美味しそうだったので、ここで昼食をいただくことにしました。

このパンが、我が家のお昼ご飯です。(^ ～ ^)
羽咋米の玄米粉を使ったパンだそうで、美味しくいただきました。

花嫁のれんの町！“織姫の里なかのと”

次は20分ほど走って

道の駅織姫の里なかのと　にやってきました。

ここの所在地は “石川県鹿島郡中能登町” になり、能登半島のほぼ中央付近に位置します。
道の駅としてオープンしたのが２０１４年４月ですから、もう４年以上経ちますが初めての訪問です。

“中能登町” は、東側に “石動山”　西側に “眉丈山” と二つの山に挟まれており、平野部は東西に広がっています。
豊かな自然に恵まれ、昔ながらの里山風景が残っていることから、２０１１年６月には、能登半島に広がる 「能登の里山里海」 が “世界農業遺産” に認定されています。

“織姫の里” という名前のとおり、中能登町は “能登上布” を始めとする織物が盛んな街です。
ここには “能登国織姫伝説” といういくつかの伝説が残されています。

能登で織物といえば、まず思い浮かぶのは “花嫁のれん” だと思います。

幕末から明治にかけて能登・加賀・越中ではじまり、今なお続いている婚礼の風習です。
花嫁は婚礼の際、実家の紋を入れた “花嫁のれん” を嫁ぎ先の仏間の入口にかけ、これをくぐってご先祖にお参りしてから結婚式が始まります。

きらびやかな花嫁のれんも、時代ごとに色や柄が変わるそうですが、これも織姫の里ならではでしょう。

さてこの道の駅、概要は次のようになっています。

上が敷地全体の案内図であり、下が建物の中の配置です。
下の配置図は、道の駅のパンフレットからお借りしました。

建物中央にある玄関をはいると広いロビーがあり、その奥に情報コーナーがあります。
ここには中能登を紹介する資料やディスプレイがあり、総合案内もあります。

ここにいるキャラクターが、中能登町のゆるきゃらである “おりひめ” です。
そして、玄関から入って左手が “産直館　織姫市場” であり、右手が “織姫ダイニング” です。

これらが織姫市場ですが、とっても明るくてきれいですね。
能登の生産者が丹精を込めて育てた朝採れ野菜を始めとする産直品が並んでいます。

これがフードコートである “織姫ダイニング” です。
この時間、お客さんは少ないですが、明るい雰囲気のレストランです。

あとでパンフレットを見て知ったのですが、ここのトイレもしゃれているようです。

（パンフレットより画像借用）

残念ながら入っていないのですが、ここも中庭が見えるトイレになっているようです。
トイレをお洒落にする、というのは新しい道の駅に共通していることの様に思います。

敷地内にはご覧のように遊具や、それに大型犬、小型犬別に “ドッグラン” もあります。
なかなか充実した道の駅だと思います。

のと鉄道 終着駅に併設！“あなみず”

次は能登半島を更に北上し

道の駅あなみず　にやってきました。

ここは “のと鉄道” の終着駅 “穴水駅” に併設した道の駅で、２０１５年１２月にオープンしました。
所在地は “石川県鳳珠（ほうす）郡穴水町” になります。

駐車場も穴水駅と一緒になっていますが、最初は入り口が分からず通り過ぎてしまいました。
駐車台数は７０台となっていますが、駅前はかなり狭く感じました。
もしかすると、他の場所にも駐車場があったのかもしれません。

ご覧の写真の、左手の白い部分がのと鉄道の穴水駅、そしてその右手にある和風の建物が、観光物産館になっていて、それが道の駅の本体です。

駐車場に相撲の幟がたくさん立ち並んでいます。
最初不思議に思ったのですが、実はこの穴水町は追手風部屋所属の小結 “遠藤関” の故郷なのです。

道の駅全体の配置を、パンフレットからお借りしてまずご紹介しておきましょう。

ご覧のように、駐車場と道路を挟んで、“のと鉄道 穴水駅”　と　“穴水町観光物産館四季彩々”　そして　“さわやか交流館プルート” の３つが道の駅の構成施設になっています。

従って、線路やホームを除く、穴水駅の駅舎も道の駅の一部なのです。

穴水駅の道路を挟んだ向かい側にある、“さわやか交流館プルート” というのは、次のような建物です。

ここはいわゆる町民の交流施設で、ギャラリーや図書館などがはいっています。
その１階には、こんな施設もあります。

先ほどお話しした、穴水町出身の力士　“遠藤関” の資料展示室です。

では、駅の方に戻りましょう。

ここが “のと鉄道” の終着駅である “穴水駅” の駅舎です。

かつては “輪島” 迄鉄道が繋がっていましたが、２００１年４月に 穴水-輪島間 は廃止されました。
旧輪島駅は現在バスターミナルになっており、これもまた “道の駅輪島” が併設されています。

ちなみに道路でいうと、“のと里山海道” の “穴水ＩＣ” が近くにあり、その一つ先の “のと里山空港ＩＣ” が最終地点です。
この、“のと里山空港” も、空港自体が “道の駅のと里山空港” になっています。

つまり、ごく近い範囲で、鉄道駅併設の道の駅が２か所、空港併設の道の駅が1か所あることになりますから、かなり珍しい地区ということですね。

これが駅舎の隣りにある “観光物産館” で、駅舎とは中で繋がっています。
早速入ってみましょう。

入口を入ると、真横に “遠藤関” がいました。(*^o^*)
その後ろに、番付表と、遠藤関の経歴などを書いたパネルがあります。

店内の配置を先ほどのパンフレットからお借りします。

①のところに、“遠藤コーナー” というのがありますね！

遠藤関グッツが並んでいました。

穴水町が誇るヒーローなのでしょう。
更にもっと上を目指して欲しいものです。

リニューアル移転していた！“氷見”

道の駅あなみずから反転して能登半島を南下し
道の駅氷見（ひみ）　を目指しました。

石川県から県境を越えて富山県に入ります。

ここは初めての道の駅ではないのですが、新しい “雨晴” への途中にあり、魅力的な道の駅なのでもう一度立ち寄ってみようと思ったのです。

道の駅の標識に写真があるように、本来なら付近の海岸線から “立山連峰” の絶景が見えるはずなのですが、この日は空が霞んでいて、何も見えません。

お天気は良いのですが、空気の澄み具合とはまた別物なのですね。

ナビの案内と道の駅の標識に従って道の駅に到着したのですが、何か変です。
以前来た時とは、場所が違うのです。

それに建物もやっぱり前回来た時と違っています。

あとで道の駅の案内所で尋ねると、「昨年が５周年でしたから、移転して多分６年になると思います」と教えて頂きました。

私が前回来たのは２０１１年の６月です。
当時は氷見漁港のすぐそばにあって、「氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館」 と言っていました。

この写真が、以前の道の駅の建物です。（2011/6/23撮影）

氷見市内の地図ですが 「比美乃江大橋」 という綺麗な橋があり、その右手に現在の道の駅があります。
以前は橋の左手の漁港に隣接した場所にあったのですが、現在は “氷見沖クルージング” の発着場になっていま

した。

私が前回来た時の翌年、２０１２年１０月に現在の場所にリニューアル移転し、「氷見漁港場外市場ひみ番屋街」と名前も変えたのです。

これが道の駅の全体の施設図です。
「ひみ番屋街」と、「総湯」という温泉施設で構成されています。

“富山県氷見市”と言えば、「氷見の寒ブリ」が最も有名です。

以前の道の駅も、寒ブリを始めとする様々な魚介類を販売するお店がずらりと並び、それらを味わう、大きなレストランなどもあって非常に魅力的でした。
今回はリニューアル移転により、それをはるかにバージョンアップしていました。

これは海側の“芝生公園”から見た道の駅の建物群です。

左手に、白い大きな橋の橋桁が見えると思います。
これが“比美乃江大橋”で、その渡った先に元も道の駅はありました。

芝生広場には、ご覧の“足湯”も備わっています。
空が澄んでいれば、足湯に浸かりながら富山湾の先に立山連峰を眺めることができます。

そしてこの芝生広場で発見したのがこれ！

氷見の寒ブリを小脇に抱えたこの“ひみぼうず”くん、これは以前の道の駅の敷地内にありました。
彼の頭をなでると幸せになるそうで、新しい道の駅に一緒に移ってきたのですね！

では、新しい道の駅の中に入ってみましょう。

まずはその広さにびっくり！

“ひみ番屋街” の名前の通り、まさに “街” を構成しています。
“番屋” というのは漁師の作業小屋のことですね。
かつて氷見の海岸線に立ち並んでいた番屋をイメージして道の駅は作られています。

これが番屋街全体の配置図です。
大きな２棟の長屋と、あといくつかの建物群が繋がっています。

それぞれに、「東の番屋①～②」　「西の番屋①～③」　「北の番屋【回転ずし】」　「南の番屋【物産】」
といった具合に地名がついています。

そこに案内所まで含めると　“３５店舗” が入っているのです。
まさに食材が何でも揃う、商店街です。

そして建物の間にあるのがこの、“オープンテラス” です。
すっごく暑い日でしたから、さすがに外に人はいませんね！

ここが南の番屋にある、観光案内所です。

道の駅のスタンプはここにあったのですが、何故か何十枚もスタンプを押し続けるおじさんがいて、しばらく待たされました。
さすがに終わりそうにないので声をかけて押させていただきましたが・・・・・・。

案内所のお姉さんと、九州から来たこと、道の駅が移転していたのでびっくりしたことなど、ひとしきり話をして、この魅力を倍増させた氷見の道の駅をあとにしました。

義経伝説の海岸！“雨晴”

この日最後の目的地である

道の駅雨晴（あまはらし）　にやってきました。

道の駅氷見からは南に１０ｋｍ、１８分で到着しました。
ここは“富山県高岡市”にあり、今年（２０１８年）４月２５日にオープンした新しい道の駅です。

建物は真っ白い豪華客船のように見えました。

駐車台数が大型車４台、小型車３４台とやや狭いのが難点ですね。
土日祝日などは臨時駐車場ができるようです。

道の駅は3階建てなのですが、次のような配置になっています。

下から１階、２階、３階を表わしていますが、まず１階部分は情報コーナーとトイレがあるだけです。

入口を入ると、ご覧のようにパンレットやディスプレイの置かれた情報コーナーがあるだけです。
通常玄関を入ると特産品などの販売コーナーが最初にあることが多いので、あれっ！と思いました。

この日はおられませんでしたが、通常は奥のカウンターにコンシェルジュが常駐されています。
２階へあがる階段やエレベーターも奥まったところにあるので、ちょっと戸惑いました。

２階に上がると、フロアの４分の１ほどのスペースが、“スーベニアショップ”になっています。
ここはその名の通り“土産コーナー”で、高岡市の銅器や漆器などの工芸品、それに地元銘菓や水産加工食品などが並んでいます。

そのお隣が “カフェテラス” なのですが、ご覧のようにほとんどの椅子が窓側を向いています。
ガラス越しに富山湾の絶景を眺められるような配置です。

この道の駅の最大の特徴は、“展望デッキ” が広いことです。
先ほどの配置図の、２階部分をもう一度見てみましょう。

この２階部分のほぼ半分近くが “展望デッキ” になっていますね！

これが２階の展望デッキです。
ここへは、先ほどの１階を通らすに、この写真の一番奥に階段があって直接上がってくることもできます。

更に３階に上がると、そこには屋根付きの “展望デッキ” があります。

では、そこからの展望をご覧いただきましょう。

道の駅の前には国道４１５号と線路があり、目の前にはこんもりと樹が茂った岩山、そして富山湾の右手には小さな島が見えると思います。

まず最初に手前の岩山をズームアップしてみましょう。

この岩山を “義経岩” と言います。

源義経が奥州に落ち延びる途中、ここでにわか雨の晴れるのを待ったという言い伝えが残っており、これが、“雨晴（あまはらし）” という地名の由来になっています。

手前に鳥居がありますが、ここは “義経社” として義経が祀られています。

この小さな島は “女岩（めいわ）” です。

周囲に小さな岩が点在しており、これが母親とたくさんの子供にみえることからこの名がつきました。
周囲は約８０ｍ、面積は４００㎡あるそうです。

実はここの展望、お天気によってはもっと素晴らしい絶景が見れるのです。
観光案内のパンフレットにある写真をお借りしましょう。

この写真では右手に義経岩、左手に女岩がありますね。
そして富山湾の背後には、３千メートル級の “立山連峰” の雄姿があります。

私もこの絶景を大いに期待してこの道の駅を目指したのですが、残念ながら空が霞んでいて山の姿は影も形も見ることができませんでした。
富士山でもそうですが、天気が晴れていることと遠くの山が見えることは別物で、その日、空気がどれだけ澄み切っているかによります。

以前富山県に来た時も全く出会いませんでしたから、こういった絶景には見放されているようです。

さて、展望デッキで写真を撮っていると、ちょうど列車がやってきました。

これは “ＪＲ氷見線” の列車です。
このもうちょっと先に、“雨晴駅” があります。

そしてその付近が “雨晴海岸” です。
雨晴海岸は、万葉集の歌人大伴家持や、奥の細道の松尾芭蕉にも詠まれた白砂青松の景勝地で、“日本の渚百選” にも選ばれています。

これらは道の駅の２階にあったそれらの歌碑です。
ちなみに大伴家持は、越中国守として５年間この地に在任しており、市内には大伴神社があります。

さて、これでこの日の予定は回り終えました。
まだ少し時間があったので、カフェに入って、これを頂きました。

“雨晴サンデー　マンゴー（けあらしバージョン）”　といいます。
旨かった～　:*:・(￣∀￣)・:*:

初日に走ったルート（**google map**　による自動記録）

食品サンプルが作れる！“清流の里しろとり”

2日目にはいり、一気に岐阜県まで走って
道の駅清流の里しろとり　を目指しました。

宿泊したのは富山ＩＣのそぐそばにあるルートイン富山インターです。

ここを朝8時に出発して、すぐに高速に乗り、岐阜県の白鳥ＩＣまで１時間５０分ほどかかりました。
この高速、つらいのは大半の区間が片側１車線、対面通行で、しかもトンネルの連続だということです。

極めつけが “飛騨トンネル” です。
これは白川郷を過ぎて飛騨河合までの区間、全長１０，７１０ｍあり、山手トンネル、関越トンネルに次ぐ、日本国内第３位、世界でも１２番目の長さです。

これが “対面” なのですから、あんまり良い気持ちはしません。

やっと１０ｋｍを走り切った、と思ったら空が見えたのはほんの一瞬！
すぐにまた次のトンネルが連続し、おもわず 「ハァ！」 とため息！

ようやく白鳥ＩＣで高速を下りると、そこから５分ほどで道の駅に到着しました。

道の駅からは、大きなループ橋や高架橋が見えます。
これは北陸自動車道の白鳥ＩＣから直接繋がった、“油坂道路” 及び、それの取り付き道路です。

油坂道路は、福井県に繋がる自動車専用道路で、最初の一部だけ無料区間として開通しています。

この道の駅は約２年前の２０１６年８月にオープンしました。
所在地は “岐阜県郡上市白鳥町” です。

この白鳥町には、３つの道の駅があり、それぞれは１０分～１５分の距離です。
- 道の駅清流の里しろとり
- 道の駅白尾ふれあいパーク

・道の駅白山文化の里永滝（2018/6/2に道の駅白鳥から名称変更）

この３か所はいずれも 「株式会社しろとり」 という同じ会社が経営してます。
あとの２か所は２０１３年５月に既に訪問済です。

今回の道の駅巡りは元々 “能登半島” が目的だったのですが、岐阜県にポツンと残ったこの道の駅、なかなか訪問する機会がないので、２日目をまるまる使ってでも制覇しておこうと考えたのです。

道の駅の案内図やパンフレットが何もなかったので、ＨＰより画像をお借りしました。
右端の大きな建物が、地元農産物や木製品を扱う “木遊館” です。

元々ここは “物産センター” としてスタートしたものが、“清流の里しろとり” と名前を変えてリニューアルオープンし、その後、道の駅に登録されたものです。

そしてその反対側にあるのが、道の駅のメインとなる “土産物コーナー” の建物です。

道の駅の登録証やスタンプもここにあります。
久々に、道の駅の駅長帽子も飾ってありました。

この道の駅、ひとつ特徴があります。

この町は、食品サンプル造りが盛んです。
道の駅の２階には、その食品サンプルの体験コーナーがあるのです。

体験は事前予約が必要なのですが、サンプル工房を見学することはできます。
かつては食品サンプルといえば 「蝋」 を使っていましたが、現在は 「ビニール樹脂」 が原料で、すべて手作業によるのだそうです。

上の写真の階段の横に、“体験メニュー” として食品サンプルが飾ってあります。
そのすぐ下の床に、誰かがコーヒーをこぼしていました。

もちろん、これもサンプルです。（笑）

□

これがお土産コーナーですが、手前のテーブルにも！！

□

やっぱり偽物です！（笑）

□

かごに入った松茸やパフェ、アイスなどがありますが、これらもすべてサンプルです。
その下には、ストラップやキーホルダーになった小さなサンプルが・・・・

お寿司だとかお肉だとか面白いものがいっぱいです。

お土産コーナーで、少し買い物をしました。
この売り場にはこんなものが！

□

郡上市というと、清流長良川の鮎が有名なので、それの加工食品が多いです。
そして、岐阜や長野にくると必ず売っているのがこれ・・・！

□

蜂の子ごはん：炊きたての白米にのせて、少しむらしてから召し上がってネ！　って書いてあります。
食べたら１万円くれる！って言われても私はやっぱり食べたくないです！(^_^;)

□

テラノザウルスが吠える！“九頭竜”

今回の旅の帰途、小松空港へ向かう途中で
道の駅九頭竜（くずりゅう）　に立ち寄りました。

前回訪問した “道の駅清流の里しろとり” からまっすぐ西に向かうとまもなく福井県に入ります。
帰りの空港も来た時と同じ小松空港ですから、福井県を横断したあと北上して石川県に向かいます。

“道の駅九頭竜” はその途中、白鳥からは30分ほどの距離にあるのです。

その付近の拡大地図ですが、福井県に入るとまもなく、“九頭竜湖” “九頭竜ダム” があります。

国道１５８号はその九頭竜湖に沿って走っており、時折視界が開けて雄大な湖面が広がります。
九頭竜湖周辺にはキャンプ地が多く、テントサイト、コテージ、ログハウス、オートキャンプ場などのアウトドア施設が整備されています。

九頭竜湖が途切れた付近に、道の駅九頭竜はあります。
ここには前回２０１１年４月に来ていますが、是非もう一度立ち寄りたかったのです。

正面に大きな看板がありますが、ここに書かれている様に、国道１５８号のこの付近は、『恐竜街道』　と呼ばれています。
福井県は日本で最も多くの恐竜の化石が見つかった地域なのです。

福井の恐竜時代は今から約１億２０００万年前になりますが、特に５体の新種の恐竜化石が発見されており、それらには例えば 「フクイザウルス」　「フクイラプトル」　「フクイベナートル」 といったように名前の頭に “フクイ” が冠されています。

ここからもう少し行った勝山市に “福井県立恐竜博物館” があります。
そこには４０体以上の恐竜骨格が展示されていますが、例えばその中の 「カマラザウルス」 は、全身骨格の９割以上が実物の骨の化石なのだそうです。

この写真は “ＪＲ越美北線” の終着駅である “九頭竜湖駅” です。
道の駅はこのＪＲ駅と一体化しているのです。

“ＪＲ越美北線”　というのは元々福井駅から岐阜県の美濃太田駅を結ぶ“ＪＲ越美線”の一部として１９７２年に開業したのですが、その後の工事が中止されたのでここが終着駅になりました。

“九頭竜湖駅”は、行ってみたい終着駅として全国に知られており、多くの鉄道ファンが訪れます。

全体の配置図がパンフレットにも載っていなかったので、ＨＰから画像をお借りしました。

ご覧のように、先ほど紹介した“ＪＲ九頭竜湖駅”　それに“ふれあい会館”“直売所”“食事処”　などから構成されています。

食事処、直売所の建物の前には広場があり、ここには天幕が張ってあって、そこのテーブル、椅子に座って皆さん休憩や食事をされています。

天幕の向こう側に何やら見えましたね！
そうです、この広場には“テラノザウルス”の親子がいるのです。

全長が１２ｍ、重量は親恐竜だけで４トンにもなる巨大なものです。
この親子、１５分ごとに動き出し、“ガオ～”　と唸り声をあげます。

動画でお見せできないのが残念ですが、動きがリアルで、なかなかの迫力があります。
ところで、恐竜って前足がとっても小さいですね！

それは「二本足で立つ」　というのが恐竜の特徴だそうで、そういう意味では、“鳥”が恐竜の子孫にあたるのだそうです。
そういえば、恐竜も卵から生まれるし、ジュラシックパークの映画でも、恐竜はみんな二本足で走り回っていますね！

親の恐竜は迫力ある低い声で吠えますが、子供の恐竜は甲高い声を出します。

ちなみにこの恐竜の親子、冬場は積雪から損傷を防ぐために倉庫に格納されます。
この付近、冬場は２ｍ近い積雪だそうですから、やむを得ませんね。

最後に “ふれあい会館” を紹介しておきましょう。

ここが道の駅の本体ともいえる建物で、登録証や道の駅スタンプ、そして観光案内所もあります。

土産物などもここにありますが、ご覧のようにやっぱり恐竜グッツがたくさんです。
休憩コーナーのほかに、コンサートホールや会議室なども備わっており、地域住民の交流の場としても活用されています。

さて、ここからはまっすぐ空港のある石川県に向かいます。
１時間４５分ほどを走って小松空港に近い “道の駅こまつ木場潟” に立ち寄り、ここで昼食と時間調整を行い、
１５時５５分に小松空港を離陸、無事に福岡への帰途につきました。

１泊２日の短い旅は今回が最終回です。

次の旅は、９月下旬に北海道を予定しています。
それまでは、“絶景道の駅全国５０選” の続きを再開したいと思います。

２日目に走ったルート（**google map**　による自動記録）

３万㎡の庭園が迎える！“庭園の郷保内”

今回より10/19～22で巡った新潟＆北関東のレポートを開始します。
最初に訪れたのは新潟県の
道の駅庭園の郷保内　です。

今回の記事のテーマを “新潟＆北関東の旅” と名付けましたが、正確にいうと “新潟＆福島＆栃木＆群馬＆長野の旅” となります。(^_^;)
長すぎるので “新潟” を除き、まとめて北関東にしてしまいました。（福島は東北だけどごめんなさい！）

福岡空港を朝８時に離陸し、新潟空港に９時５０分に到着しました。
レンタカー窓口で手続きをして実際に走り出したのは１０時２０分です。

今回の相棒も先月の北海道と同じく “フィット” だけど、今度のが少し年式が古いかな？

実は今回、レンタカーを予約するのをすっかり忘れていて、４～５日前に気がついて慌てました。
だから贅沢は言えない！(;'∀')

ナンバー（1574）からいつも名前を付けるのだけど、最初に思いついた “いいこと無し” はちょっとまずいので、果物の “イチゴと梨” と覚えることにしました。(;^_^A

新潟空港ＩＣから三条燕ＩＣまで高速に乗り、１時間ちょっとで目的地に到着しました。

所在地は “新潟県三条市下保内” で、昨年（２０１７年）３月２５日のオープンですから、既に１年半経過したことになります。

保内地区は江戸時代の昔から “造園・庭木の産地” として知られ、発展してきた地域です。
地域には現在でも５０を超える植木業者が集積しています。

道の駅はその地域の特性を活かし、約３万平方メートルもの敷地に約６００種の庭木からなる、様々なタイプの庭園が造られています。

（パンフレットより全体配置図借用）

これが道の駅の全体ですが、レストランはその緑に囲まれた庭園の中にあります。
道の駅本体は、この案内図の左上 “庭園生活館” の部分です。

道の駅の玄関付近もガーデニングがなされています。
では、中に入ってみましょう。

店内で圧倒的に目につくのはたくさんの切り花や鉢植え、苗木、それにガーデニング用品です。
店舗の一角には、資材専用の広いコーナーもあります。

ロビーの裏手に広いテラスがありますが、ここも様々な苗木や用品が売られています。

開放的なテラスでは庭園を眺めながらゆっくりくつろぐことができます。
そしてここには、冒頭で紹介したように３万平方メートルにも及ぶ庭園が広がります。

中央の舗装された部分は “交流広場” といい、その左右に植木等の見本園があります。

写真にはありませんが、更に奥へ行くと “和風庭園” “ユニバーサルガーデン” “どんぐりに森” といった、本格的な庭園があります。

そしてこの交流広場には、様々なテーマによるミニガーデンが作られています。

このように模型のような小さな庭がたくさんあって、一つ一つ見てゆくのも楽しいものです。
この日は、おそらく農業高校の生徒かな？と思える１０数人の人たちが先生から指導を受けていました。

ここではプロの植木職人による「庭造りのこつ」などのセミナーや、寄せ植え体験などの様々なワークショップが開催されており、園芸やガーデニングを楽しむ最適な道の駅だと思います。

ここにはこんなスタンプも！！

マンホールスタンプと書いてありましたが、初めて見たので押してきました。

道の駅らしくない！“燕三条地場産センター”

次に向かったのは１０ｋｍほどしか離れていない
道の駅燕三条地場産センター　です。

“庭園の郷保内” からは２０分強で到着しましたが、最初入り口が良くわからずうろうろしました。

ここは、“新潟県三条市” の市街地にあります。
商工会議所などがある広い駐車場の片隅に停めたのですが、どれが道の駅かさっぱり分かりません。

いくつかのビルの一つに “地場産センター” という文字を見つけ、そちらに行ってみました。

この、普通のオフィスビルのような建物に “燕三条地場産業振興センター” と書いてありますから、おそらくここに違いありません。

入口に道の駅の看板を見つけて一安心！

この看板によるとこの建物は “メッセピア” と呼ぶらしく、同じ敷地内には “三条商工会議所” や “リサーチコア” というビルも建っています。

道の駅には、物産館、レストラン、情報コーナー、休憩コーナーなどの表記があります。

看板の左側にある裸の子供（？）の像は何だろう？？

矢印に沿って進んでゆくと玄関がありました。
道の駅の表記はあるけれど、道の駅らしくない入り口です。

中に入ると広いロビーになっており、その一角に 「ご案内」 インフォメーションのコーナーがありました。
ここに、道の駅登録証や道の駅スタンプ、それにパンフレット類があります。

案内所のお姉さんに話を聞いてみたかったけど、先客のおじさんがずっと独り占めにして割り込めず！

ここ “燕三条” というのは、燕市と三条市の地域のことで、この道の駅は三条市にあります。

燕市と三条市は隣同士ですが、いずれも共通するのは “ものづくりのまち” ということです。
“燕” は 「金属洋食器」 で全国の生産量額の９５％を占め、世界各国に輸出される一大産地です。

この洋食器は、江戸時代初期に農村の副業として “和釘” の生産技術を取り入れたことがはじまりと言われています。

片や “三条” は、刃物の町として全国にその名が知られています。
寛永２年、出雲崎代官だった 「大谷清兵衛」 が河川の氾濫に苦しむ農民を救済するため、江戸から鍛冶職人を招き、農家の副業として製造法を指導・推奨したのが始まりです。

この奥にそれら燕三条の特産品を展示、販売する物産館があります。
その物産館に入る手前に、こんなパネルがありました。

そこにあったのは、“下町ロケット” の巨大パネル！

私は池井戸潤さんの小説が好きでほとんど読んでいますし、このドラマも毎週欠かさず見ています。
下町ロケットの主人公の会社 「佃製作所」 の所在地は東京の大田区のはず！

なぜこれがここ新潟県にあるかというと、立川談春演じる経理部長殿村の実家が新潟県で、それが今回の舞台の一つになっているからです。
ロケ地となった殿村の実家である農家は、正確には “弥彦村山岸” の農村なのですが、ここは燕市の隣り町なので、燕三条が舞台といっても間違いではないのです。

それに、佃製作所が追及する “究極の高品質” は燕三条の職人魂に共通するものがありますね！

普通の道の駅の物産館とは違って、ここに並んでいる商品は、職人技術の粋を極めた高級品、といったイメージがあります。
農産物はもちろん置いていないし、食品や土産物もメインではないように思います。

これがパンフレットにあった配置図で、右端がこの物産館です。
私たちの知っている一般的な郊外の道の駅とは、少し違ったタイプのようでした。

さて、いよいよこれから福島県に向かいますが、これは遠かった・・・・・。

尾瀬湿原への玄関口！“尾瀬檜枝岐”

次は一気に県境を越えて奥会津に入り

道の駅尾瀬檜枝岐（おぜ ひのえまた）　を目指します。

前回の燕三条の道の駅でナビに目的地を設定したところ、私が想定していたものと全く違うルートが表示されました。
私が自宅のＰＣで確認していたのは、北陸自動車道を小出ＩＣまで走り、そこから一般道のルートです。

色々と条件を変えてみても小出ＩＣルートは出てこないので、ナビの指示に従うことにしました。
どのルートを辿るにせよ県境は山越えであり、かなりの距離を走らねばなりません。

途中いくつかの知っている道の駅のそばを通過し、大きなダム湖の横を山越えし、距離にして１４６ｋｍ、約３時間を費やしてようやく到着しました。

ここ“福島県檜枝岐村（ひのえまたむら）”は福島県の西南部“奥会津”に位置します。

いわゆる“奥会津”には７つの町村がありますが、その中でも最も西南に位置し、新潟県魚沼市、群馬県片品村、栃木県日光市という３つの県に隣接しています。

奥会津を構成する７つの町村の中で、「只見町」を除く６つの町村すべてにそれぞれ道の駅があります。

桧枝岐村のパンフレットから道の駅の航空写真と付近図をお借りしました。
ご覧のように道の駅には４つの施設があり、国道３５２号を挟んだ向かい側にはスキー場があります。

これがスキー場のセンターハウスです。

桧枝岐村は、日本有数の“特別豪雪地帯”です。
東北最高峰の“燧ケ岳（ひうちがたけ）”（２３５６ｍ）や、“会津駒ケ岳”（２１３３ｍ）に囲まれ、村の面積の９８％を林野が占めます。

人口は５７１人（2018/10/1）と福島県内で最も少なく、“日本一人口密度の低い市町村”でもあります。
この村には平家の落人伝説が残り、村民の姓はほとんど「星」「平野」「橘」で占められます。

この村の最大の特徴は、“尾瀬国立公園” の玄関口だということです。

“尾瀬” への入山ルートは３つあって、ここ “桧枝岐村”、“新潟県魚沼市”、“群馬県片品村” です。
この道の駅から尾瀬に入るには、まず “御池” の駐車場まで車で３０分、そこでシャトルバスに乗り換えて “沼山峠” まで行き、そこから徒歩５０分で “大江湿原” に着きます。

尾瀬の山開きは、この３つの市町村が持ち回りで式典を行うのだそうです。

駐車場に停めると、まず正面にあるのがこの “アルザ尾瀬の郷” という温泉施設です。
ここには温泉ゾーンとプールゾーンがあり、温泉ゾーンには、木々に囲まれた大露天風呂もあります。

檜枝岐村は温泉にも恵まれていて、ここの他にも、“駒の湯” “燧の湯” などで日帰り温泉を楽しむことができます。

そして右手にあるのが “尾瀬の郷交流センター” です。
ここには食事処とお土産店、そしてその奥は，体育館になっています。

この道の駅がオープンしたのは２０１７年８月３０日なのですが、今紹介した２つの施設、それに今回写真を撮り漏れましたが “木工展示販売館” は以前からある既存の施設です。

唯一、新規に作られたのが次の建物です。

この “尾瀬檜枝岐 山旅案内所” という建物だけが、道の駅に登録されるにあたって新築されました。
ここには２４時間利用可能なトイレもあり、桧枝岐村や尾瀬の観光情報を紹介する拠点になっています。

道の駅の登録証に並んで、“日本遺産” の認定証がありました。
前にいくつものヘルメットが並んでいましたが、貸し出しをしているのでしょうか？

ふんだんに木を使ったログハウス的な建物で、新築だけあって気持ちが良いです。
熊の剥製も！

ここは、桧枝岐村を紹介するパンフレットが充実しているのに感心しました。
Ａ４サイズで綺麗な写真をふんだんに使った観光案内の冊子がいくつもあります。

尾瀬の観光に限らず、湿原、名瀑、沼や湖、それに渓流釣りも楽しめ、観光資源が豊かです。

ご覧のようなレンタサイクルがあり、ハイキングなどで使う「ノルディックポール」もレンタルされます。

人口が６百人にも満たない、典型的な過疎地ですが、素晴らしい自然環境を持ち、それを様々な方法で発信して観光客を呼ぶ、その熱意を感じました。

あまり時間の余裕が無いのでここには２０分位の滞在で出発しました。
この日の宿泊は栃木県日光市のビジネスホテルである「ホテル村上」です。

距離は１０５ｋｍ、栃木県に入る頃には暗くなり、雨まで降ってきたので走りづらくさすがに疲れました。
ホテルは“道の駅日光”から歩いて行ける距離にあり、２食付きでひとり７千円ほどでしたから、観光地日光にしては実にリーズナブルでした。

明日はまず、いろは坂を通って、華厳の滝へ行ってみることにします。

１日目に走ったルート（**google map**　による自動記録）　走行距離：３１６ｋｍ

日本三名爆を間近で見る！“華厳の滝”

２日目の今日は１か所の道の駅を除いてあとは観光がメインです。

華厳の滝　（けごんのたき）　が、まず最初に訪れたスポットです。

宿泊した ホテル村上 は “道の駅日光” からわずか２００ｍの距離で、歩いても２～３分ほどです。
でも、昨夜は到着が遅かったし、今朝は出発が開店前なので立ち寄りませんでした。

日光へは昨年（２０１７年）３月に来ており、その時には平成の大修理で蘇ったばかりの “日光東照宮” などを見て回りました。
その時にいろは坂の頂上 “明智平展望台” から中禅寺湖と華厳の滝を見下りしたのですが、その時の写真がこちらです。

（2017/3/18 明智平展望台から撮影）

（2017/3/18 明智平展望台から３００ｍｍ望遠で撮影）

３月ですから、滝の途中が凍っています。
今回はこの華厳の滝を目の前から見てみたいと思ったのです。

これがこの周辺の案内図です。

日光市街方面から中禅寺湖方面へは “第２いろは坂” を上ります。
下りは “第１いろは坂” とそれぞれ一方通行なので、細くてかなり曲がりくねってはいるものの、対向車がいない分、快適に上って行けます。

“いろは坂” という名前の通り、カーブごとに、「い」　「ろ」　「は」　・・・　と順番に標識があるのです。
この日は土曜日で、しかも昨夜の雨が嘘のように晴れわたっているので、頂上付近にある明智平の駐車場には、ずらりと長い渋滞が連なっていました。

「華厳第１駐車場」 に車を停め、案内標識に従ってしばらく歩きます。

お店などが並んだ場所があり、そこから少し下がって行くと華厳の滝の目の前に出ます。

滝の正面ではあるけれど、少し離れていますね。

ここへ歩いてくる途中、“華厳の滝エレベーター” というのがあるのに気がつきました。
これに乗ると、滝を目の前で見ることができると書いてあります。

これがその “華厳滝エレベーター” の乗り場です。
このエレベーター、定員３０名が２基あるのですが、岩盤の中を１００メートル一気に下りてゆき、所要時間はわずか１分です。

下りと上りの往復で５５０円です。
エレベーターを降り、ちょっと歩けば “観爆台” に着きます。

なるほど、これは先ほどの上から見たものとは迫力が違います。

観爆台は上下２段になっていて、すぐのところに滝壺がありますから、爆音と水しぶきで実に豪快です。
これはエレベーター代を払っても十分に価値があると思います。

華厳の滝は “中禅寺湖” から地表を流れる唯一の流出口である “大谷川” の水が、高さ９７ｍの岩盤を一気に流れ落ちるものです。

華厳の滝は “日本三名爆” のひとつに数えられ、あとの２か所は和歌山県の “那智の滝” と、茨城県大子町の “袋田の滝” になります。

写真を撮りながらしばらく眺めていると、“虹” がでてきたのに気がつきました。

はっきりと虹が架かっていますね！
しばらくすると消えてしまったので、実にタイミングが良かったといえます。

鉄骨で作られた観爆台の真下を、大谷川が豪快に流れてゆきます。
この下流を、“華厳渓谷” というそうです。

そしてこの付近、滝と共に周囲の岩盤も特徴があります。

これが観爆台の真横の岩盤ですが、たくさんの柱でできている様に見えますね。

これは “柱状節理（ちゅうじょうせつり）” といい、火山活動で噴出したマグマが冷えて固まる時に収縮してこのような形になります。

そういえば “中禅寺湖” も “男体山” （２４８６ｍ） の噴火で堰き止められてできた湖ですから、かつては火山活動が活発だったのでしょう。

いつまでも名残惜しい気がしましたが、約１時間の滞在で次の目的地へ出発しました。
次の群馬県片品村へ向かうため、中善寺湖畔を走りましたが、お天気も良く、素晴らしい景色でした。

尾瀬の群馬側玄関口！“尾瀬かたしな”

栃木県から群馬県に県境を越え、新しくオープンした
道の駅尾瀬かたしな　にやってきました。

華厳の滝を出て中禅寺湖に沿って走り、そのあと“戦場ヶ原”　“丸沼高原”といった奥日光の絶景スポットを走り抜けてゆきます。
さすがに海抜の高い場所ですから、見事な紅葉のトンネルを楽しむことができました。

上の地図をご覧いただくと、目的の道の駅の少し北側に、昨日の最後に訪れた“道の駅尾瀬檜枝岐”があるのがお分かりと思います。

この２つの道の駅は、直線距離ではおそらく３５ｋｍ前後しか離れていないと思います。
ただ、この檜枝岐村（福島県）と片品村（群馬県）との間には“尾瀬国立公園”があるために歩道以外は作れず、南会津町、日光市と大きく東側を迂回しなければなりません。

私の場合、檜枝岐から日光市までが１０５ｋｍ、日光市から片品村までが７０ｋｍと、あわせて１７５ｋｍも遠回りをしたことになります。

“群馬県片品村”のほぼ中央を沼田市に向かう国道１２０号が走っていますが、その途中、片品村役場の隣りに、この道の駅はあります。
ここは今年（２０１８年）７月２１日にオープンしたばかりですが、ナビは「片品村役場」を指定することで、迷いもなくちゃんと目的地に誘導してくれました。

この日は土曜日だからでしょうか、“道の駅キャラバン２０１８”というイベントが開かれており、たくさんのテントが並んでいて大勢の人たちで賑わっています。

駐車スペースもいっぱいで、私たちはガードマンの誘導で片品村役場の駐車場に停めました。

“尾瀬国立公園”は、２００７年８月に“日光国立公園”から分離して誕生しました。

“尾瀬” は本州最大級の高層湿原である “尾瀬ヶ原” や、燧ケ岳の噴火によって川が堰き止められてできた “尾瀬沼” を始め、すばらしい自然があり、国の特別天然記念物にも指定されています。

特にミズバショウやニッコウキスゲが咲き誇る湿地帯が有名です。

その尾瀬への玄関口は前回も触れたように３カ所あり、福島県側は “檜枝岐村” で、群馬県側はここ “片品村” です。
その両側に、“尾瀬” を冠した道の駅が誕生したことになります。

道の駅はご覧のように円弧を描いた建物になっています。
中央付近に “農産物直売所” があり、左手には “かたしな食堂”　“村民キッチン” という２つのフードコートがあります。

道の駅のスタンプなどは建物の左端、“村民キッチン” の奥にあるので、まず行ってみました。

尾瀬を紹介するコーナーがあり、ご覧のように湿原の写真や昔の茅葺屋根の模型などがあります。

“村民キッチン” というのは、片品村の農家の主婦など村民が料理人となり、週替わりで片品村ならではの家庭料理、郷土料理を提供するものです。
この日は朝早い為にまだ開店前でした。

手前の丸い部分は子供の遊び場です。

店内には素晴らしい尾瀬湿原の写真があります。
正面の山は日本百名山の “至仏山（２２８１ｍ）” で、手前にはミズバショウが咲き誇っています。

片品村を代表する景色と言えます。

これは農産物直売所の様子です。
そして、建物の裏手に回って見ました。

農産物直売所のすぐ裏に、ご覧のように源泉かけ流しの “足湯” がありました。
更に、その先に展望テラスがあります。

展望テラスからはご覧のような眺望です。
この案内板によると、ここから見えるのが尾瀬国立公園の山々やアヤメ平なのだそうです。

片品村は関東地方で唯一の “特別豪雪地帯” であり、冬になるとスキー客で賑わいます。
他にもキャンプ、カヌー、キャニオリング、ツリーアドベンチャーなど様々なアクティビティが楽しめます。

人口が４４００人前後のこの片品村は、素晴らしい観光資源に恵まれた美しい村だと思います。

（このマークは「片品」の漢字をデザイン化したものです）

もうひとつの東洋のナイアガラ！“吹割の滝”

道の駅尾瀬かたしなを出て10分ほどで

吹割の滝（ふきわれのたき）　に立ち寄りました。

２日目のこの日は、道の駅を訪問するのは “尾瀬かたしな” だけで、あとはすべて観光です。
尾瀬かたしなは “片品村” で、この吹割の滝は “沼田市” ですが、距離はわずか９ｋｍ程です。

これは道の駅のパンフレットに掲載されていた地図ですが、すぐ近いのがわかりますね。
関東で人気ナンバーワンの “道の駅田園プラザ川場” もすぐ近くですが、今回は立ち寄りません。

“吹割の滝” は独特の形をしているのを以前ネットで見て、一度来たいと思っていました。
このあと長野県方面へ行くルート上にあったので、計画に組み込んだものです。

タイトルに “もうひとつの東洋のナイアガラ” としたのは、我が九州の大分県に東洋のナイアガラと称される　“原尻の滝” があり、この吹割の滝も同じく “東洋のナイアガラ” と呼ばれているからです。

（沼田市役所ＨＰより案内図借用）

走ってきた 「国道１２０号」 は “日本ロマンチック街道” の一部です。
日本ロマンチック街道は長野県上田市から栃木県日光市までの約３２０ｋｍの区間の事を言い、沿線には上信越高原国立公園、軽井沢、草津温泉、日光国立公園などの国際的な観光地があります。

吹割の滝もその観光スポットの一つですが、近くに来ると土産物店などがたくさん並んでいます。
土産物店の前に 「駐車無料」 という看板があったので入ったのですが、停めるとすぐにおじさんがやってきて、土産店の割引券をくれました。

おじさんに道順を聞き、道路脇から長い階段を下りてゆきます。
片品川の川床に着き、細い遊歩道を進むと、川が大きく割れたようになり、そこが吹割の滝です。

もう一つのナイアガラの滝である “原尻の滝” や　今朝見てきたばかりの “華厳の滝” といった普段私たちが見慣れている滝とは、まるで違う形をしています。

河床が大きくひび割れて、そこに周囲から滝が流れ落ちている、といった印象です。

川の上流に吊り橋が見えると思います。
川の真ん中に “浮島” という小さな島があり、そこに “浮島橋”　“吹割橋” という２つの吊橋が架かってて、橋の上から滝を見下ろすことができますが少し遠いですね。

やはり目の前で見た方が迫力があると思います。

吹割の滝は高さが７ｍ、幅が３０ｍの岩盤の裂け目に滝が流れ落ちるもので、その裂け目は１万年もの年月が創りあげたのだそうです。
河床を割るように流れ、そこから水しぶきを噴き上げる様子から吹割の滝という名前がつきました。

９００万年前の噴火で流れ出た火砕流が固まり、それを片品川の流れが浸食し、この地形ができたのですが、その浸食は今も続いています。
これだけの水量と激しい流れにより、１年間に７ｃｍも浸食され上流に向かって遡行しているそうです。

割れ目のすぐそばに少し広い場所があり、大勢のカメラマンが三脚を並べて撮影しています。

水の浸食の凄さを表わすように、周囲の岩盤は “奇岩” の連続です。
遊歩道はぐるっと一周していて、帰りは別ルートを辿ります。

帰りに通ったこちらのルートは激しい流れの渓谷沿いの細い道をゆくので、なかなかスリルがあります。
珍しい風景を堪能することができました。

駐車場に戻り、せっかく割引券をもらったので、いくつか土産を買ってから出発しました。

軽井沢でちょっとだけ観光！

群馬県から長野県へ移動し
軽井沢　でちょっとだけ観光を楽しみました。

群馬県の吹割の滝を出発し、国道１２０号を経由して “沼田ＩＣ” から “関越自動車道” に乗ります。
これを南下し、“藤岡ＪＣＴ” で “上信越自動車道” に進路を変え、長野県を目指します。

明日は長野県を回るので、今夜の宿泊は上田市の予定です。

群馬県から長野県に入る県境付近に軽井沢はありますが、今まで一度も行ったことがなかったのです。
ですから今回立ち寄ってみようと思ったのですが、軽井沢といっても随分広いです。

事前にネットで調べてみて、とりあえず今回は “旧軽井沢” と “軽井沢白糸の滝” に行くことにしました。

“軽井沢” というとお金持ちの別荘が立ち並ぶ、私達庶民とは無縁の場所のようなイメージがあります。
町に入ると、見たことの無いような高級外車ばかりが目に付く気がしました。(^_^;)

軽井沢は当然ながら歩いて散策することになります。
旧軽井沢が近づいて最初に目についた有料駐車場に停めることにしました。

駐車場のおばさんに、どっちへ行ったらよいか尋ねると、地図を出してきて詳しく教えてくれました。

私たちが駐車したのは、あとで調べてみると “軽井沢本通り” というようです。

駐車場のおばさんに教えて頂いた “旧軽井沢銀座通り” までは２０分ほどかかりました。
落ち着いた街並みにお洒落なお店が点在するので、それを覗きながら歩きます。

旧軽井沢の通りに到着すると、雰囲気は一変しました。
道路の両側にびっしりとお店が並び、たくさんの人々が行き交います。

この雰囲気、どこかで見たと思ったのですが、大分県の湯布院の街並みに似ています。

若い人たちが好むような、お洒落なお店が多いので、私達は外から眺めるだけ！(^_^;)

軽井沢はかつては中山道の宿場町のひとつでした。
中山道最大の難所である “碓氷峠” のすぐ西側にあり、浅間山を望む景勝地としても栄えました。

明治に入ると交通事情は変化し、参勤交代も無くなったので他の宿場町と同じく寂れてゆきます。
しかしその後、外国人の避暑地として脚光を浴びるようになり、更に戦後には大規模な別荘開発やレジャー施設開発が相次ぎ、軽井沢は日本有数のリゾート地として発展を遂げてゆきます。

明治２１年に鉄道が通り軽井沢駅ができるとその周辺が新たな交通の中心となり、この付近を　「新軽井沢」　と呼び、これに対し昔からの軽井沢宿の界隈を　「旧軽井沢」　というのです。

こんな面白いものを発見！
これって、自転車ですよね！？

１時間ほど歩き回ったあと、次は “白糸の滝” へ向かいました。
“白糸の滝” って、全国にいくつもあって特に有名なのは富士山の伏流水が流れる富士宮市ですね。

軽井沢の白糸の滝は、旧軽井沢からは２０分ほどの距離にありました。

旧軽井沢を北上すると “白糸ハイランドウェイ” という森の中を走り抜ける爽快な道路があり、その道路脇に白糸の滝見学用の広い無料駐車スペースがあります。

“白糸の滝” の案内板に従って３～４分も歩くと滝にでます。

富士宮市の白糸の滝と較べるとはるかにスケールは小さいですが、幅は７０ｍ、高さは３ｍあります。
上流に川は無く、浅間山の伏流水が岩盤の間から湧き出して滝になっています。

滝の最上部を拡大してみると、確かに岩盤から水が湧き出しているのが分かります。
とっても美しいと思いました。

この日は、華厳の滝、吹割の滝、白糸の滝と、それぞれ特徴のある３つの滝を堪能したことになります。
そして軽井沢は、そのほんの一部分をちょこっと見ただけですが、これで「軽井沢に行ったことがある」と人に話せるようになりました。（笑）

さて、ここから今夜の宿泊地である上田市“ルートイン上田”まで１時間１０分ほどです。
このルート、このあと嬬恋村（つまごいむら）を通ります。
日本の原風景というのはまさにこれだな、と思いました。

２日目に走ったルート（**google map**　による自動記録）　走行距離：２６９ｋｍ

健康長寿都市！“ヘルシーテラス佐久南”

３日目を迎え、最初に目指したのは
道の駅ヘルシーテラス佐久南　です。

3日目の今日は上田市のホテルルートイン上田に連泊します。
そして訪問する道の駅はわずか３か所です。

朝８時２０分にホテルを出て “上信越自動車道” に乗り、佐久方面へ南下します。
途中ジャンクションで分岐して、“中部横断自動車道” に進路をとり、３つ目の “佐久南” まで走ります。

佐久の町が近づくと、不思議な光景が目に入ってきました。

車の中から撮った写真ですが、白い雲が地表近くに漂っています。
もう少し近くに行くと・・・・・・

正面の電光掲示板には 「キリ注意！」 が出ていますが、こんなにもはっきりした霧は珍しいです。
まもなく雲に突入したように、周りは真っ白になってしまいました。

でも、局地的に雲が下りてきていたようで、道の駅に到着した時は嘘のように晴れていました。

到着したのが開店の５～６分前だったので、しばらく周辺の写真を撮ります。
ここからの眺めがとっても綺麗だったからです。

正面の白い雲は形から見て、先ほどまで地上に漂っていた、あの雲のように思えます。
少し地上から離れたのでお天気が良くなったのかもしれません。

その先の山の名前は分かりませんが、頂上付近には雪が積もっていますね。
まだ１０月ですから、かなり標高が高いのではないでしょうか？

敷地内にはご覧のような遊具もあります。

この道の駅がオープンしたのは２０１７年７月８日です。
このブログを書いている時点で１年半が経過しますが、１２月２日で来場者が５０万人を突破しました。

開店時間の９時になると、待っていたたくさんのお客さんがどっと入って行きました。

“ヘルシーテラス” という名前の由来ですが、実はここ “長野県佐久市” は全国有数の “健康長寿都市”と言われています。

元々長野県は全国トップクラスの長寿県で、男女ともずっと日本一を続けていたのですが、厚生労働省が昨年発表したランキングでは、男性だけ滋賀県に抜かれてしまいました。

その長寿県のなかでも特に佐久市は健康長寿の町であり、市立浅間総合病院、佐久総合病院といった、全国にも名が知れた充実した医療環境が整っているからだそうです。

“重点「道の駅」” の選定証もありました。

ここの選定理由は 「全国有数の健康長寿都市を活かして、安全安心な健康長寿野菜や健康長寿食の提供、免疫力など健康指標の情報発信など健康長寿をテーマとした取り組み」 が評価されたものです。

開店したばかりというのにこの賑わいです。
そして健康長寿を支える、さまざまな高原野菜が並びます。

市の中心部を千曲川が流れ、浅間山、八ヶ岳、蓼科山、荒船山などに囲まれた高原都市です。
標高が高いために朝晩と日中の寒暖差が大きく、更に全国でも指折りの晴天率が高い都市なので作物が良く育ちます。

健康長寿も、このような恵まれた環境が関係しているのかもしれません。

これが道の駅の全体図です。
最初に紹介した遊具などは、この “ふれあいパーク” にあります。

佐久市の “健康長寿都市” について、最後にもう少し補足しておきましょう。
２０１７年度の主な数値は以下の通りです。

■平均寿命　　【男性】　　【女性】
全国平均　　７８．８歳　　８５．８歳
長野県　　７９．４歳　　８６．５歳
佐久市　　７９．９歳　　８６．１歳

■１００歳以上の人口（１０万人あたり）
全国平均　　３１．７人
長野県　　４１．５人
佐久市　　４４．６人

これ以外にも、
・合計特殊出産率が、全国平均１．３４に対し佐久市は１．５８
・乳児死亡率が全国平均２．６に対し佐久市は１．２と半分以下

更に、
・一人当たりの医療費が全国平均２８．７万円に対し２４．９万円と低い
・後期高齢者医療費も全国平均を大幅に下回っている

など、様々な指標が全国平均から抜きんでています。
これは最初に紹介したような地域の医療機関が行政と一体になり、「自分の健康は自分で作る」 をスローガンに、「住民の疾病予防」 に先進的な取り組みを永年続けてきたからです。

それが　「地域医療の先進エリア」 と呼ばれ、モデルとして全国から注目されているのです。

信州の東の玄関口！“女神の里たてしな”

次にやってきたのは

道の駅女神の里たてしな　です。

ここは前回の “ヘリシーテラス佐久南” から１４ｋｍ、２０分ほどの距離にあります。
オープンしたのは２０１７年１２月です。

さぞ新しい建物が建っているのかと思っていたら、そうでもないようです。

どうやらここは、以前からあった “農産物直売所” がリニューアルして道の駅に登録されたようです。
唯一、トイレの建物だけが新築です。

これがそのトイレで、手前の方に狭いですが情報コーナーのようなものがあります。
スタンプやパンフレットなどもそこに置いてありました。

これが道の駅にあったリーフレットですが、どこにも道の駅と書いていないので、以前からのでしょう。

ここ “立科町” は長野県の東部に位置し、人口は７２００人程です。
東西に９．９ｋｍ、南北に２６．４ｋｍと細長い形をしています。

これが町のパンフレットからお借りした “立科町” の地図ですが、面白い形ですね！
まるでひょうたんを引き延ばしたようで、一番狭い部分はわずか５３ｍしかないそうです。(@_@)

真ん中の細い部分を挟んで大きく２つに分かれますが、北が “里山エリア” で、南は “高原エリア” といい、道の駅は里山エリアになります。

南のエリアは、“蓼科山”（標高２５３１ｍ） を中心に周辺には “女神湖” “白樺湖” “蓼科牧場” などを有する、誰もが知っている一大リゾート地です。

“女神の里” という道の駅の名称はこの湖の名前からとったのだと思います。

道の駅の配置図がどこにも見当たらなかったのですが、この写真にあるように、食事処の “のんき亭”と、農産物直売所の “農ん喜村” の二つです。

中を覗いてみましょう。

地元に密着した商店のようなイメージです。
農産物は、建物から一部増築したようなスペースに置かれており、中で繋がっています。

立科町は標高が６００～７００ｍの地帯です。
寒暖の差が大きいことから、美味しい米や高原野菜が育ちます。

直売所にはそれらが所狭しと並んでいました。

ところで “たてしな” の漢字には、“立科” と “蓼科” があります。
山は “蓼科山” で、日本百名山のひとつです。

昭和３０年に周辺の３つの村が合併して立科町が発足する時、“蓼科町” も検討されたのだけど、「蓼」　の文字が当用漢字になかったのでこのようになったのだそうです。

さて、次はいよいよ本日のお目当ての “美ヶ原高原” に向かいます。

雲上のアートリゾート！“美ヶ原高原”その１

今回私が一番楽しみにしていた
道の駅美ヶ原高原　にやってきました。

ここは以前は “道の駅美ヶ原高原美術館” という名前でしたが、現在は “美術館” が外れて今の名称になっています。
いつも写真を撮っている道の駅標識は、今回撮り漏らしました。

ここへは、前回は５年前の２０１３年７月に来ました。
その眺望の美しさに感動したのですが、途中から雨が降り出し、見学も中途半端になり、なによりも満足ゆく写真が撮れなかったのが残念で、今回リベンジしたものです。

前回の “道の駅女神の里たてしな” からは、約３０ｋｍの距離です。
途中から山道に入ってぐんぐん高度を上げ、更に “ビーナスライン” の美しい高原の中を走って、１１時前には到着しました。

３日目のこの日は、このあと終日ここで過ごすつもりで、その為に上田市に連泊をしたものです。
従ってこのあと約５時間、ここに滞在しました。

前回と違ってこの日は晴天に恵まれたのでたくさんの写真も撮れ、この “美ヶ原高原” は本日以降３回に分けてお伝えすることに致します。

この道の駅の最大の特徴は、“雲上の道の駅” と呼ばれるように、標高２０００ｍという、日本で最も高い場所にある道の駅だということです。

しかもここは３６０度の方向に、展望が開けています。
駐車場から見えるこの方向は、東から北にかけてですが、次回以降では反対側もお見せします。

眼下には、佐久方面でしょうか、田園風景や町並みも見えます。

道の駅を回ってることを人に話すと、必ず聞かれる質問は 「どこが一番良かったですか？」 です。
一番というのはなかなか決められませんが、私はこの美ヶ原高原は、間違いなく全国の絶景道の駅の中の５本の指に入ると思っています。

眺望が素晴らしいだけでなく、もう一つの特徴は “屋外美術館” があるということです。

広大な駐車場の向こう側の丘陵地に４万坪もの屋外展示場があり、そこには３５０点あまりの現代彫刻が展示されています。

今回はじっくりと見て回る時間がありましたから、２回目以降でたっぷり紹介します。

これが道の駅本体の建物です。
１階がショッピングゾーンで、２階はレストランです。

この写真の建物左手の方に、“展望テラス” があります。
ここがとっても素敵なので、その写真をご覧いただきましょう。

ここでは、名産のおやきを始め、ソフトクリームや飲み物など軽食を頂くことができます。

前回 “山賊焼き” というのを食べてとっても美味しかったので楽しみにしていたのですが、屋外美術館などを先に見て回ってから来てみたら、売り切れてしまっていました。(ノД`)ｶﾞｯｸﾘ!

この日は日曜日ともあって、８００台収容できる駐車場はほぼいっぱいになっていました。
ツーリングの皆さんも大勢来られています。

最初に触れたようにここへ来るには “ビーナスライン” を通ります。
ビーナスラインは冬場は通行止めになる為、道の駅も同じく閉鎖されます。

今年の場合は、１１月１１日（日）で営業が終了し、来年のオープンは２０１９年４月２５日が予定されていますので、この記事を書いている１２月は残念ながら閉鎖されていることになります。

建物の中の配置は以下の通りです。

１階は先ほど紹介した展望テラスの他に、広いショッピングモールがあります。
ここでは長野県の土産が何でも揃います。

私たちも土産などたくさん試食をし、たくさん買い物をしました。

２階には和食の食事処と、レストランコンポートがあります。
雄大な景色を見下ろしながらの食事も素晴らしいと思います。

そしてこの２階から、屋外美術館に繋がっています。
それは次回でたっぷり紹介します。

雲上のアートリゾート！“美ヶ原高原”その２

前回に引き続き

道の駅美ヶ原高原　のご紹介です。

道の駅の建物の２階から、“美ヶ原高原美術館” に繋がっています。
入場料１０００円を払って中に入ります。

この写真の正面の建物が道の駅の本体ですが、この橋を渡って屋外美術館に入ります。

建物の右上にマークがあるように、ここは “フジサンケイグループ” の経営です。
ここは１９８１年６月に “箱根・彫刻の森美術館” の姉妹館として開館しました。

北アルプスを始めとする周囲３６０度の展望がある丘陵地４万坪に、内外の芸術家による約３５０点もの現代彫刻が屋外展示されています。

正に、“雲上のアートリゾート” という言葉がぴったりです。

これは先ほどの橋の上から撮った写真ですが、これは美術館のほんの一部に過ぎません。
標高約２０００ｍの “牛伏山” 東側斜面に広がっていますから、結構上り下りを歩き回ります。

写真をたくさん撮ってきたので、今回の “その２” は実際の作品を中心に紹介します。
次回の “その３” は、周囲の展望や風景を主に紹介することに致します。

このゲートが正式な入り口なのでしょう。

中央には “親指” の像があります。
高さは３０８センチもあり、セザールという作者自身の右手親指の型をとり、正確に拡大したそうです。

これは前回来た時に私が最も気に入った作品のひとつで、“愛のモニュメント” といいます。
６本の白い柱の上で、それぞれ何かの運動を表現しているのだと思います。

これは “Ｗｉｎｄ　Ｄａｎｃｅｒ” といいます。
スカートの部分が風を受け、向きを変えるのです。

こういった面白い作品もありますね。
動物を表わした作品も多いですが、たとえばこんなものも！

このシマウマは、頭も足も無く胴体部分だけです。
でも、下の駐車場から見上げると、立派にシマウマの群れに見えます。(*^_^*)

それぞれの作品の前には、そのタイトルと何を表わしているかの簡単な説明書きがあります。
慣れてくると、この作品はこういう意味だろう、と勝手に想像して読んでみるのですが、ほぼ１００％間違っていました。(;^_^A

この作品は “解体された柱” といいます。
高さが１０ｍ、重さが１０トンもあり、意味は良く分かりませんが何か引き付けられるものがあります。

この美術館は、このような “巨大” なものが多いのも特徴だろうと思います。

このオレンジ色の巨大なものは、どうやら大砲らしいです。
作品名は “スズメヲウツノニタイホーヲモチダス” というそうで、１９７０年の大阪万博に出品されました。

これも私が気になった作品です。
これ、全部人間なんです。

８１体の男性像をダイヤモンドの分子構造に置き換えたという、私には理解できない説明でしたが、何となく引き付けられるものがあります。

□

□

□

□

これらは、３５０点もの作品の中のほんの一部を紹介したに過ぎません。
そして最後にもう一つ！

□

これは“ビーナスの城”といいますが、内部には“ミロのビーナス”を始めとする８体の大理石像が展示されています。

そして何より、この屋上はこの美術館で最も高い位置にあるのでその展望が素晴らしいのです。
これら、美ヶ原高原からの展望を中心に、次回３回目はご紹介したいと思います。

信州の北端！“FARMUS木島平”

最終日である４日目はまず

道の駅FARMUS木島平（ファームス　キジマダイラ）　へ向かいました。

上田市内のホテルを８時に出て、“豊田飯山ＩＣ”まで上信越自動車道を走り、到着したのは９時１０分過ぎになりました。

ここは長野県の最北部に近く、信州の北端に位置します。
“木島平村”は人口が４６００人程で近くには木島平スキー場があり、観光と農業が主な産業です。

この道の駅がオープンしたのは２０１５年ですからそれほど新しいわけではないのですが、私がなかなかこの方面に来る機会が無かったのです。

道の駅に入る門のところには、じょうごやハンマー、移植ごてなどが飾られていて面白いです。

かなり広い敷地なのですが、朝早いとはいえ駐車場はがらんとしていてちょっと寂し気です。
その理由は、まもなく分かりました。

なんと、まだお店は閉まっています。

あわてて資料を見直したけど開店時間は『９：００～１７：３０』であり、既に９時１０分を過ぎています。
周囲をうろうろ回ってみると、トイレと情報コーナーは開いていました。

この、２つの建物を繋ぐ通路のところが情報コーナーです。
道の駅の登録証やスタンプはここに置いてあります。

これがここに貼ってあった道の駅の配置図です。
この貼り紙の、左下の小さな文字をみて、がっくり！

なんと！開館時間の『９：00』の上に紙が貼ってあって、『１０：００』　に訂正されている！(￣口￣|||)

まあ、開店時間がかわったり定休日が変わっていて泣かされた経験は今までに何度もありますが、これは文句を言っても仕方がありませんね。
といっても、１０時までここで待っていては先が厳しくなるので、外側からだけ写真を撮ることにしました。

ここは元々トマト工場だったところを再生し、道の駅に生まれ変わった建物です。
なかなか洒落た外観なのですが、それもそのはず２０１５年に『ＧＯＯＤ ＤＥＳＩＧＮ ＡＷＡＲＤ』で金賞をとった建物なのだそうです。

さきほどの案合図にもありましたが、左側の大きな建物が“マルシェホール”で、右側に少し小さめの、“交流ホール”があり、そこにはいくつかの飲食店がはいっています。

これはその交流ホールにある“ＣＡＦＥ ＲＥＶＥ”というお店です。
もちろんまだ開店前ですが、手作りジェラートやコーヒー、軽食がいただけます。

その隣のこちらは、“そば処 「村」”です。
閉まっていると、そば屋さんには見えませんね！

道の駅の回りをぐるりと一周し、帰る前にトイレを借りようと先ほどの情報コーナーへ行くと、従業員さんの何人かが出勤されたらしく、裏口のドアが開いていました。

せっかくなので店内を覗き込んで、写真をパチリ！

建物の中央部はマルシェホールといって、１２個のテントブースが常設されており、いろんなお店が借りて出展するような仕組みになっているようです。
屋内なので、いわゆる全天候型の出展ブースということのようです。

左手に“農産物直売所”という看板が見えますが、これは独立して区切ってあるようです。
他に、総合案内所や農産物加工所、多目的スタジオなどの施設がこの中にあります。

ちゃんと営業しているところを見れず残念ですが、あと３０分をここで待つわけにもゆかず、出発することにしました。

童謡の生まれた町！“ふるさと豊田”

木島平の道の駅から高速のインターチェンジに戻る途中
道の駅ふるさと豊田　があったので立ち寄りました。

上信越自動車道の “豊田飯山ＩＣ” で乗り下りするのですが、そのすぐ近くにこの道の駅はありました。
当初は予定に入れてなかったのですが、ＦＡＲＭＵＳ木島平が開店前で空振りだったこともあり、急遽立ち寄ることにしたものです。

ここはＦＡＲＭＵＳ木島平からは15分ほどですが、隣り町となる “中野市” になります。
ふるさと豊田の “豊田” というのは、合併前にこの地が “豊田村” だったためです。

（中野市のパンフレットより地図画像借用）

木島平村との位置関係はご覧の通りです。
中野市は人口が４万３千人ほどの中核市ですが、音楽家の 『中山晋平』 や 『高野辰之』 の出身地としてそれぞれの記念館が建っています。

『中山晋平』 は “シャボン玉” “背くらべ” などの童謡を始め、３０００曲ものメロディを生んだ作曲家であり、『高野辰之』 は、“ふるさと” “春の小川” “もみじ” など誰でも知っている唱歌を生んでいます。

これらの唱歌は、ここ中野市の原風景を唄ったものだと思います。

この道の駅は１９９７年にできていますから建物としてはやや古いですが、いかにも地域に溶け込んだ道の駅といった雰囲気があります。

道の駅の配置図はありませんが、特産物の販売コーナーと食事処が両端にあり、その中間が情報コーナーと休憩所になっているイメージです。

ここにはわずかな時間しか滞在せず、再び高速道路に乗って新潟を目指しました。

スタンプも年季が入っています。(;^_^A

良寛さん生誕地！“越後出雲崎天領の里”

再び新潟県に戻り、２か所の道の駅に立ち寄りましたが
道の駅越後出雲崎天領の里　が、その１か所目です。

豊田飯山ＩＣから高速に乗り、上信越自動車道、北陸自動車道を辿って西山ＩＣで下ります。
この間、高速道路だけで１時間１５分、全部で１時間３５分かかりました。

“新潟県三島郡出雲崎町” にあるこの道の駅、前回は２０１１年９月に訪れました。
その時は雨模様だったので、晴れた日にもう一度見たいと思って立ち寄ったものです。

“天領の里” というのは、ここがかつて江戸幕府の直轄地だったためです。
ここは “佐渡金山” からの金銀の荷揚げ港であり、幕府の財政を支える重要地だったのです。

これが道の駅のメインの建物ですが、１階が物産館で、２階は “陣や” というレストランです。
建物の内部は後ほど紹介するとして、私が楽しみにしていたのは裏手の海岸です。

２つの案内図を並べましたが、ここは日本海に面しており、隣りにイベント広場があります。
その広場から、海に向かって “観光ブリッジ　夕凪の橋” があるのです。

私が見たかったのは、晴れた日のこの景色です。
そして前回できなかった “夕凪の橋” を先端まで歩きたかったのです。

この木橋は日本海にまっすぐ伸びていて、全長が１０２ｍあります。
この周辺を “日本海夕日公園” と言いますから、特に夕暮れだと美しいだろうと思います。

橋の先端部分には、ご覧のようにいくつもの “鍵” が掛かっています。
恋人たちが互いの愛を誓って結んだのだと思います。

この鍵はそのままだと錆びるので、１年に1回、別の場所に移されます。
それが、次の写真です。

これは “愛の鍵箱”といい、 二人の愛が永遠に育むことを願って毎年ここに移され大事に保管されます。
さて、再びイベント広場に戻ると、こんなものがあります。

この子供の像ですが、裏側に 「子供の頃の良寛さん」 と書いてあります。

アニメなどでも知られる “良寛さん” は、ここ出雲崎の橘屋山本家という名主の家に生まれました。
父の跡継ぎとして名主見習いを始めたのですが、人々の争い、罪人の処罰などに疑問を持ち、１８歳の時に突然出家して修行を始めます。

そして数々の逸話が残る、誰からも愛され尊敬される名僧になられたのです。

こちらの像は奥の細道で知られる、“松尾芭蕉” です。
ここ出雲崎では、『荒海や佐渡によこたふ天河』 という有名な句を詠んでいます。

さて、建物の方に戻りましょう。

これは “天領出雲崎時代館” と “出雲崎石油記念館” の入口です。
ここは有料なので入りませんでしたが・・・・(;^_^A

時代館には天領地として栄華を誇った時代が再現してあり、千両箱を持ち上げて重さを当てるコーナーもあるそうです。
石油記念館というのは、出雲崎が “石油産業発祥の地” だからです。
日本において石油掘削の機械方式を最初に用いて成功したのが、ここ出雲崎だそうです。

物産館は、いろんな土産物や日本海の海産物が揃った、センスの良い店舗でした。
では、もう一カ所の私の好きな道の駅へ向かうことにします。

新たな発見！“新潟ふるさと村”

今回の旅で最後に訪れたのは

道の駅新潟ふるさと村　です。

ここは北陸方面で私のお気に入りの道の駅のひとつです。
新潟空港に近いこともあり、最後の時間調整の意味もあって立ち寄ったのです。

出雲崎の道の駅からは再び北陸自動車道にのり、“新潟西ＩＣ”で下り1時間10分で到着しました。

この道の駅には前回２０１１年９月に訪れました。

ご覧のように、とても近代的、近未来的なデザインの建物です。
ここは主に、“アピール館”　と　“バザール館”という二つの施設がメインです。

こちらが“アピール館”です。
先ほどの写真の近未来的な建物ですが、正面入り口はわりと普通ですね。(^_^;)

中は後ほど紹介しますが、“歴史・文化・観光”などの情報発信基地になっています。

そしてこちらが、アピール館と向かい合わせに建つ“バザール館”です。
こちらは特産品、伝統工芸品などのショッピングモールがあり、２階はレストラン街になっています。

前回来た時はこの２つの施設だけを見て感激したのですが、実はもっと広かったのです。

これはパンフレットから画像をお借りしたものです。

建物の裏手には、広大なイベント広場や花畑、それにふるさと庭園などが広がっています。
前回はこれらを知らず、全く見ていなかったのです。

これがその花畑の入口です。
遠くに、展望台のようなものも見えます。

まさに “お花畑” と呼ぶのに相応しい、色とりどりの花々が咲き乱れます。
バックの建物群ともよくマッチしていますね。

そしてこれとは対照的な、日本庭園も隣接しているのです。

この池は ”錦鯉池” といい、その対岸に見える建物は “ふるさとの家” と “ふるさとお休み処” です。

更に先ほどの花畑の展望台からは、裏手にある信濃川の水上バス乗り場に繋がっています。
これでようやく、この道の駅の全貌を見て回ることができました。

では次に、アピール館の建物の中をご覧いただきましょう。

これがアピール館の正面入り口ですが、大型スクリーンに映し出された新潟の観光スポットなどの写真は実にインパクトがあります。

この、１階のイベントホールにある大凧は、“白根大凧合戦” で使われるものです。
巨大な大凧を間近で見ると実に迫力があります。

通常このアピール館の見学は、まずエレベーターで最上階まで上がります。
そこからスロープを下りるに従って、明治・大正・昭和・平成と時代が新しくなってゆきます。
その途中には、目玉である “雪国体験” などの部屋もあります。

この日はまず食事をしなければならないので、上には上がらずもう一つのバザール館に向かいました。

“バザール館” に入ると最初に鮮魚コーナーがあり、それは活気ある魚市場の雰囲気です。
更に進むとでっかいショッピングモールになり、新潟の酒や米、特産品などのテナントが並びます。

２階はぐるりとレストラン街があり、１階にもいくつかの飲食店があります。
そのひとつで昼食を頂きました。

この道の駅、スケールが大く施設が充実しているだけでなく、市民が終日憩える都市公園でもあります。
美しいお花畑や庭園など、前回は気がつかなかった新しい発見をしました。

ここから新潟空港まで約３０分です。
新潟、福島、栃木、群馬、長野の５つの県を回った今回の旅を終え、１６時３５分発の福岡空港行きで帰途につきました。

４日目に走ったルート（**google map**　による自動記録）　走行距離：２７９ｋｍ
４日間で走った合計：９９２ｋｍ、意外に少なかった！

奥付

全国の“道の駅”完全制覇の旅　[北陸編]

http://p.booklog.jp/book/31052

著者：よしだやすお
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/rs-trip/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/31052

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/31052

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.